

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 748 集

ひろ おもて

# 広表遺跡発掘調査報告書

北上工業団地整備事業関連遺跡発掘調査

2025

(公財) 岩手県文化振興事業団



# 広表遺跡発掘調査報告書

北上工業団地整備事業関連遺跡発掘調査



## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことができない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、北上工業団地整備事業に関連して、令和5年に発掘調査を実施した広表遺跡の成果をまとめたものです。調査の結果、縄文時代・平安時代の遺構、遺物が主に出土し、貴重な資料を得ることができました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査並びに報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました北上市商工部、北市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

令和7年3月

公益財団法人岩手県文化振興事業団  
理 事 長 石田 知子

## 例　　言

- 1 本報告書は、北上市村崎野21地割地内に所在する広表遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、北上工業団地整備事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は北上市商工部企業立地課と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課との協議を経て、北上市商工部企業立地課の委託を受けた公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡台帳における遺跡コードと今回の調査における遺跡略号は以下のとおりである。

　　遺跡コード：ME 46 - 1130

　　遺跡略号：H R O - 23

- 4 発掘調査期間・面積・担当者は以下のとおりである。

　　調査期間：令和5年4月10日～10月31日

　　調査面積：15,226m<sup>2</sup>

　　担当者：溜浩二郎・村木敬・須原拓・八木勝枝・村田淳・富川悟

- 5 室内整理期間・担当者は以下のとおりである。

　　整理期間：令和5年4月3日～令和6年3月29日

　　担当者：溜浩二郎・須原拓・富川悟・村木敬・八木勝枝

- 6 本報告書の執筆分担は、次のとおりである。

　　I：北上市商工部企業立地課　II・III：溜　IV：溜：須原

　　V：(株)火山灰考古学研究所・(株)加速器分析研究所　VI：溜

- 7 各種委託業務は次の機関に委託した。

　　石材・石質鑑定：花崗岩研究会

　　基準点測量：有限会社先先測量設計

　　航空写真撮影：有限会社渡邊測量事務所

　　火山灰分析：株式会社火山灰考古学研究所

　　年代測定：株式会社加速器分析研究所

　　土器・石器実測：株式会社ラング

- 8 調査で出土した遺物と諸記録は、全て岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

- 9 これまでに、調査成果の一部を当埋蔵文化財センターのホームページ、調査概報等で公表しているが、本書の記載内容を正式なものとする。

## 凡 例

- 1 遺構図中で記載した座標値は平面直角座標第X系（世界測地系）に基づく。
- 2 遺構図等の方位は真北を表示している。
- 3 遺構図の縮尺は、竪穴建物：1／40・1／60（炉・カマド：1／20・1／30）、焼土遺構：1／40、土坑：1／40・1／50、陥し穴状遺構：1／50を基本とする。
- 4 遺構内の土器はP、石器はS、倒木などの木痕はWで示した。
- 5 層位名として、基本層序にはローマ数字を、遺構の覆土にはアラビア数字を使用している。
- 6 土層の記載には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。
- 7 遺物実測図の縮尺は、土器：1／3、石器：1／4～2／3、土・石製品1／2を基本とする。
- 8 遺構図版及び遺物図版内に網掛けは、下記の図のとおりである。
- 9 国土地理院発行地形図を編集掲載したものには、図中に図幅名と縮尺を付した。

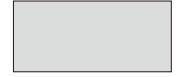
### 〔遺構〕



焼土



炭化物



陥し穴状遺構底面  
施設における杭跡  
検出範囲



断面図地山



火山灰

### 〔遺物〕



須恵器断面



内面黒色処理 (土師器)



磨痕



敲打痕



炭化物 (コゲ) 付着



被熱痕

## 目 次

I 調査に到る経緯	1	(3) 揭載図	16
II 立地と環境	1	(4) 写真撮影と整理	16
1 遺跡の位置と立地	1		
2 周辺の地形	1		
3 周辺の遺跡	5		
4 基本層序	10		
III 野外調査・室内整理	11		
1 野外調査	11		
(1) 野外調査の経緯と経過	11		
(2) グリッド設定	11		
(3) 基準点の設定	11		
(4) 粗掘りと遺構検出	11		
(5) 遺構の名称	13		
(6) 遺構の精査と実測	16		
(7) 写真撮影	16		
2 室内整理	16		
(1) 遺構図面の整理	16		
(2) 遺物の整理	16		
IV 調査内容	17		
1 調査の概要	17		
2 検出遺構と出土遺物	17		
(1) 壺穴建物	17		
(2) 焼土遺構	47		
(3) 土坑	48		
(4) 陥し穴状遺構	62		
(5) 柱穴状土坑	102		
(6) 遺構外出土遺物	103		
V 自然科学分析	152		
1 放射性炭素年代(AMS測定)	152		
2 火山灰分析	157		
VI 総括	166		
1 繩文～弥生時代	166		
2 古代	166		
報告書抄録	235		

## 図版目次

第1図 遺跡位置図	2	第18図 2号壺穴建物3、出土遺物1	28
第2図 地形分類図	3	第19図 2号壺穴建物出土遺物2	29
第3図 調査区と周辺の地形	4	第20図 2号壺穴建物出土遺物3	30
第4図 周辺の遺跡	7	第21図 2号壺穴建物出土遺物4	31
第5図 基本層序	10	第22図 2号壺穴建物出土遺物5	32
第6図 グリッド・遺構配置図	12	第23図 3号壺穴建物1	33
第7図 遺構配置図1(調査区西側)	14	第24図 3号壺穴建物2、出土遺物1	34
第8図 遺構配置図2(調査区東側)	15	第25図 3号壺穴建物出土遺物2	35
第9図 1号壺穴建物1	18	第26図 3号壺穴建物出土遺物3	36
第10図 1号壺穴建物2	19	第27図 4号壺穴建物	38
第11図 1号壺穴建物3	20	第28図 4号壺穴建物出土遺物	39
第12図 1号壺穴建物出土遺物1	21	第29図 5号壺穴建物1	41
第13図 1号壺穴建物出土遺物2	22	第30図 5号壺穴建物2、出土遺物	42
第14図 1号壺穴建物出土遺物3	23	第31図 6号壺穴建物1	44
第15図 1号壺穴建物出土遺物4	24	第32図 6号壺穴建物2	45
第16図 2号壺穴建物1	26	第33図 6号壺穴建物出土遺物	46
第17図 2号壺穴建物2	27	第34図 1・2号焼土遺構	47

第35図	3号焼土遺構	48	第64図	56~59号陥し穴状遺構	100
第36図	1~3号土坑	51	第65図	60・61号陥し穴状遺構	101
第37図	4~7号土坑	52	第66図	遺構出土遺物1	106
第38図	8~12号土坑	53	第67図	遺構出土遺物2	107
第39図	13~18号土坑	54	第68図	遺構出土遺物3	108
第40図	19~22号土坑	55	第69図	遺構出土遺物4	109
第41図	23~28号土坑	56	第70図	遺構出土遺物5	110
第42図	土坑内出土遺物1	57	第71図	遺構出土遺物6	111
第43図	土坑内出土遺物2	58	第72図	遺構出土遺物7	112
第44図	土坑内出土遺物3	59	第73図	遺構出土遺物8	113
第45図	土坑内出土遺物4	60	第74図	遺構出土遺物9	114
第46図	土坑内出土遺物5	61	第75図	遺構出土遺物10	115
第47図	1~3号陥し穴状遺構	83	第76図	遺構出土遺物11	116
第48図	4~6号陥し穴状遺構	84	第77図	遺構出土遺物12	117
第49図	7~10号陥し穴状遺構	85	第78図	遺構出土遺物13	118
第50図	11~14号陥し穴状遺構	86	第79図	遺構出土遺物14	119
第51図	15~17号陥し穴状遺構	87	第80図	遺構出土遺物15	120
第52図	18~21号陥し穴状遺構	88	第81図	遺構出土遺物16	121
第53図	22~25号陥し穴状遺構	89	第82図	遺構出土遺物17	122
第54図	26~28号陥し穴状遺構	90	第83図	遺構出土遺物18	123
第55図	29~31号陥し穴状遺構	91	第84図	遺構出土遺物19	124
第56図	32~34号陥し穴状遺構	92	第85図	遺構出土遺物20	125
第57図	35~37号陥し穴状遺構	93	第86図	遺構出土遺物21	126
第58図	38~40号陥し穴状遺構	94	第87図	遺構出土遺物22	127
第59図	41・42号陥し穴状遺構	95	第88図	遺構出土遺物23	128
第60図	43・44号陥し穴状遺構	96	第89図	遺構出土遺物24	129
第61図	45~47号陥し穴状遺構	97	第90図	遺構出土遺物25	130
第62図	48~51号陥し穴状遺構	98	第91図	遺構出土遺物26	131
第63図	52~55号陥し穴状遺構	99	第92図	遺構出土遺物27	132

## 表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧	8・9	第6表	柱穴状土坑一覧	102
第2表	遺構一覧	13	第7表	遺物観察表（土器）	133~145
第3表	土坑一覧	50	第8表	遺物観察表（土製品）	145
第4表	陥し穴状遺構一覧	79・80	第9表	遺物観察表（粘土塊）	145
第5表	陥し穴状遺構の底面施設一覧	81・82	第10表	遺物観察表（石器・石製品）	146~151

## 写真図版目次

写真図版1	航空写真1	169	写真図版34	37・38号陥し穴状遺構	202
写真図版2	航空写真2、調査区	170	写真図版35	39・40号陥し穴状遺構	203
写真図版3	基本層序	171	写真図版36	41・42号陥し穴状遺構	204
写真図版4	1号竪穴建物1	172	写真図版37	43～45号陥し穴状遺構	205
写真図版5	1号竪穴建物2	173	写真図版38	46～49号陥し穴状遺構	206
写真図版6	2号竪穴建物	174	写真図版39	50～53号陥し穴状遺構	207
写真図版7	3号竪穴建物	175	写真図版40	54～57号陥し穴状遺構	208
写真図版8	4号竪穴建物	176	写真図版41	58～61号陥し穴状遺構	209
写真図版9	5号竪穴建物	177	写真図版42	出土遺物1	210
写真図版10	6号竪穴建物	178	写真図版43	出土遺物2	211
写真図版11	1～3号焼土遺構、1号土坑	179	写真図版44	出土遺物3	212
写真図版12	1～3号土坑	180	写真図版45	出土遺物4	213
写真図版13	4～6号土坑	181	写真図版46	出土遺物5	214
写真図版14	7～10号土坑	182	写真図版47	出土遺物6	215
写真図版15	11～14号土坑	183	写真図版48	出土遺物7	216
写真図版16	15～18号土坑	184	写真図版49	出土遺物8	217
写真図版17	19・20号土坑	185	写真図版50	出土遺物9	218
写真図版18	21～24号土坑	186	写真図版51	出土遺物10	219
写真図版19	25～28号土坑	187	写真図版52	出土遺物11	220
写真図版20	1～3号陥し穴状遺構	188	写真図版53	出土遺物12	221
写真図版21	4～6号陥し穴状遺構	189	写真図版54	出土遺物13	222
写真図版22	7～9号陥し穴状遺構	190	写真図版55	出土遺物14	223
写真図版23	10～12号陥し穴状遺構	191	写真図版56	出土遺物15	224
写真図版24	13～15号陥し穴状遺構	192	写真図版57	出土遺物16	225
写真図版25	16～18号陥し穴状遺構	193	写真図版58	出土遺物17	226
写真図版26	19～21号陥し穴状遺構	194	写真図版59	出土遺物18	227
写真図版27	21～23号陥し穴状遺構	195	写真図版60	出土遺物19	228
写真図版28	24・25号陥し穴状遺構	196	写真図版61	出土遺物20	229
写真図版29	26～28号陥し穴状遺構	197	写真図版62	出土遺物21	230
写真図版30	28～30号陥し穴状遺構	198	写真図版63	出土遺物22	231
写真図版31	31・32号陥し穴状遺構	199	写真図版64	出土遺物23	232
写真図版32	33・34号陥し穴状遺構	200	写真図版65	出土遺物24	233
写真図版33	35・36号陥し穴状遺構	201	写真図版66	出土遺物25	234

## I 調査に至る経緯

広表遺跡は、北上工業団地整備事業における団地拡張範囲に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

北上工業団地は、半導体大手キオクシア岩手株式会社及び関連企業の北上市進出に伴い整備済みの分譲地はすべて売却となり、第2製造棟の建設も進んでいることから団地需要は引き続き高く推移すると見込まれているため、北西部に隣接する約16haを拡張整備するものである。

整備範囲の一部は、令和4年5月10日付4北企第49号で北上市教育部文化財課に照会したところ、令和4年5月10日付4北教文第158号において、地形的な特徴から未発見の遺跡が所在する可能性があることが示された。同課における試掘調査の結果、埋蔵文化財が確認され、令和4年11月10日付4北教文第798号において、広表遺跡として結果報告がされた。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、令和5年3月10日付北企第365号において、岩手県教育委員会宛に埋蔵文化財発掘の通知を行い、岩手県教育委員会及び北上市教育委員会と協議を行った結果、公益財団法人岩手県文化振興事業団と発掘調査の委託契約を締結することとなった。発掘調査は令和5年3月27日付4北企第380号により、北上市長から公益財団法人岩手県文化振興事業団宛に発掘調査を依頼し、令和5年4月1日付で同団と委託契約を締結し、発掘調査を実施した。

(北上市役所商工部企業立地課)

## II 立地と環境

### 1 遺跡の位置と立地

広表遺跡は、JR東北本線村崎野駅の北約2.1kmに位置し、北緯39°20'32"、東経141°7'11"付近に位置し、地図上では、国土地理院発行5万分の1地形図「花巻」N J -54-13-16、2万5千分の1地形図「土沢」N J -54-13-16-2に含まれる。

### 2 周辺の地形

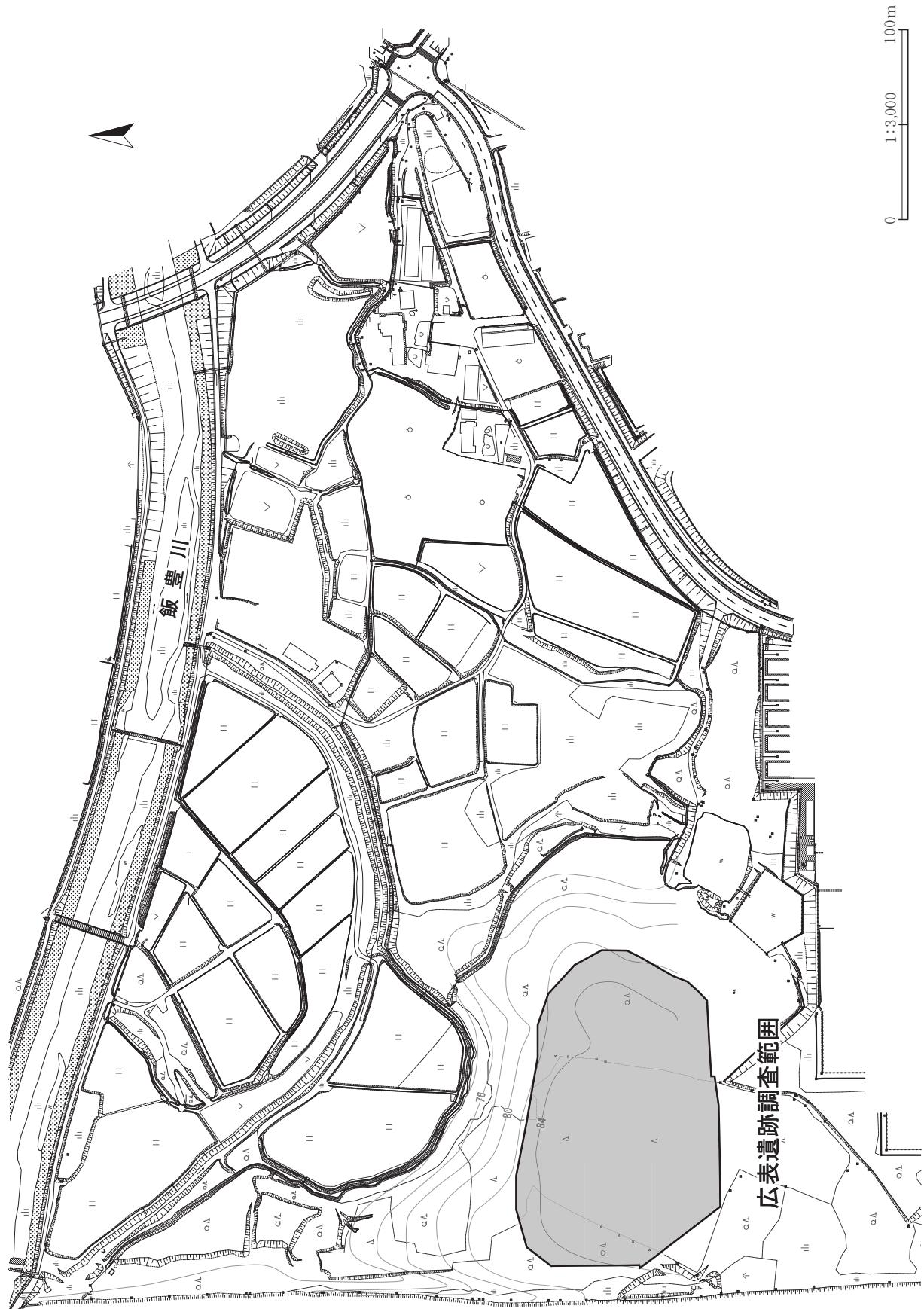
広表遺跡が所在する北上市周辺の地形は、北上川を境として、西部の扇状地性の台地群と東部の小起伏山地を含む丘陵地帯の二つに区分され、西部の台地群は高位のものから順に西根段丘・村崎野段丘・金ヶ崎段丘に区分される。本遺跡は北上川の支流である飯豊川右岸の砂礫段丘上に立地し、地形的には村崎野段丘に相当する。この段丘の構成層である粘土および砂混じりの小・中礫堆積物、その上位に黒沢尻火山灰である村崎野浮石が表層より下位に堆積している。また、遺跡の北～東側にはこの飯豊川によって村崎野段丘が開析されて形成した沖積地が広がっている。



第1図 遺跡位置図



第2図 地形分類図



第3図 調査区と周辺の地形図

### 3 周辺の遺跡（第4図、第1表）

令和5年7月現在、岩手県内における周知の遺跡は12,976箇所が登録され、広表遺跡の所在する北上市には601遺跡がある。このうち、本遺跡を中心とする近隣の66遺跡を「いわて遺跡地図（令和4年1月作成）」より抽出したものが第4図である。ここでは、図に示した遺跡の中で過去に調査が実施された遺跡を中心に各時代を概観する。

本遺跡の立地する飯豊川上流の飯豊地区には唐戸崎遺跡（11）、唐戸崎II遺跡（12）、飯豊遺跡（13）があり、いずれも縄文時代と平安時代の複合遺跡で、唐戸崎遺跡は平成9年の調査で縄文時代前～中期の土坑10基、平安時代の竪穴住居2棟、同年の北上市教委の調査で縄文時代中期の竪穴住居跡1棟、土坑3基、平安時代の竪穴住居跡3棟、土坑1基、平成28年の調査で平安時代の竪穴住居跡1棟が検出されるなど縄文中期と平安時代の集落跡として周知されている。

飯豊川右岸の下流域、本遺跡の東側に位置する成田地区には、成田遺跡（20）、成田岩田堂館（21）、奥州街道・成田道（22）などがある。成田遺跡は本遺跡から東に約400mの位置にあり、縄文時代後期及び平安時代の集落跡・窯跡として周知されている遺跡で、昭和63年に試掘調査、平成2・3年に発掘調査が行われ、縄文時代中～後期の竪穴住居3棟、他に土坑、陥し穴が検出されている。また遺物は縄文～弥生・平安時代の土器が出土している。成田岩田堂館（21）は平成19年以降、複数回にわたり調査が実施され、中世城館として掘立柱建物・堀・土塁・墓壙等の遺構が見つかっているが、中世以前においては縄文時代中期の竪穴住居や多数の陥し穴が検出されており、小規模集落や狩猟場であったことが判明している。また平安時代については方形周溝1基、竪穴住居8棟が検出され、古代の集落及び墓域であることが明らかになった。成田岩田堂館の西で検出された溝4条は奥州街道の側溝と推定されている。

飯豊川を挟んだ対岸の段丘上にも成田長根遺跡（14）、成田一里塚（15）、下成田遺跡（16）、成田Ⅲ遺跡（17）、成田館（18）などの遺跡が存在するが、調査事例はなく詳細は不明である。成田一里塚は二子一里塚（40）とともに慶長9年（1604年）に築かれ、現存する貴重な史跡として知られている。

次に成田地区の南側に位置する二子地区の遺跡についてであるが、調査事例は多く、二子城（24）、秋子沢遺跡（25）、築館遺跡（27）、堰向II遺跡（36）、西川目遺跡（37）、尻引遺跡（55）、中村遺跡（56）、千苅遺跡（57）がその代表である。

二子城は和賀氏の居城で過去に「物見崎遺跡」、「監物館跡」、「坊館跡」の名称で報告されているものも含め、関連する調査が多数実施されており、成果等の履歴詳細については岩文埋第730集及び第734集内にてまとめて報告されている。中世以前の遺構・遺物も多岐にわたって見つかっており、複合遺跡として多くの成果が報告されている。

二子城の南西に位置する秋子沢遺跡（25）は旧「北上北中学校グランド遺跡」、旧「斎藤ガ沢北遺跡」を含む9～10世紀にかけての集落遺跡で、部分調査で竪穴住居16棟とともに出土した緑釉陶器は市指定文化財である。

北上川よりやや離れた二子地区の西側に位置する西川目遺跡では平安時代の竪穴住居9棟、掘立柱建物6棟、遺物は土錐300点が1棟の竪穴住居から出土している。堰向II遺跡では平安時代の竪穴住居46棟、掘立柱建物2棟、遺物は土師器・須恵器、緑釉陶器、硯等が出土している。

二子地区の南東にあたる北上川右岸の自然堤防上には尻引・中村・千苅遺跡が奈良～平安時代の集落遺跡が連続して立地し、尻引遺跡では竪穴住居7棟、大溝1条、千苅遺跡では竪穴住居89棟、焼

成遺構 111 基、畝間状遺構 14 箇所、他に 12 世紀後半の掘立柱建物と区画溝、縄文～弥生時代の竪穴住居等の遺構・遺物が見つかっている。また、中村遺跡では竪穴住居 136 棟、焼成遺構 73 基、畝間状遺構 7 箇所など千苅遺跡と特徴が共通する遺構・遺物が検出されていることから同じ自然堤防上に営まれた大集落と考えられる。

また、北上川の対岸に立地する黒岩宿遺跡（58）でも縄文～弥生時代の竪穴住居 26 棟、平安時代の竪穴住居跡 16 棟の他 12 世紀前半のロクロかわらけ、12 世紀後半の手づくねかわらけ、三筋壺破片が出土している。

成田地区と北上川を挟んで対岸に位置する更木地区では平成 19～21 年に経営体育成基盤整備事業に関連して当センターにより、複数の遺跡で調査が実施された。縄文時代では小川屋敷遺跡（60）・六日市遺跡（63）・野沢Ⅱ遺跡（72）・戸桜遺跡（68）で陥し穴がみつかり、狩猟場であったことが確認された。

弥生時代では野沢Ⅰ遺跡（71）で竪穴住居 1 棟、舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡（69・70）で溝跡 1 条が見つかっている。平安時代は山口遺跡（59）・小川屋敷遺跡・六日市遺跡・野沢Ⅱ遺跡・舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡など多くの遺跡で竪穴住居が見つかり、一帯に集落が存在していたことが明らかになった。また、近世では野沢Ⅱ遺跡で掘立柱建物 1 棟、井戸跡 1 基、溝 8 条、舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡で墓壙 16 基などが見つかっている。

本遺跡が所在する村崎野地区においては大堰川右岸の微高地上に立地する岡田遺跡（3）が令和 4 年度から当センターにより調査を継続中で、これまで旧石器時代石器集中地点 1 箇所、縄文時代の竪穴住居 3 棟、陥し穴 400 基以上、平安時代の竪穴住居 21 棟などの成果を得ている。

## 第Ⅱ章に関わる引用・参考文献

（公財）岩手県文化振興事業団発行

1998 『唐戸崎・唐戸崎Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 279 集

2008 『成田岩田堂館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 540 集

2008 『市のⅠ遺跡・市の川Ⅱ遺跡・山口遺跡・小川屋敷遺跡・六日市遺跡・八天北発掘調査報告書』

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 543 集

2010 『野沢Ⅰ・Ⅱ遺跡・戸桜遺跡・舟戸Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 567 集

2011 『野沢Ⅱ遺跡・舟戸Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 586 集

2016 『千苅遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 652 集

2017 『中村遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 671 集

2021 『二子城跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 730 集

2021 『成田岩田堂館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 732 集

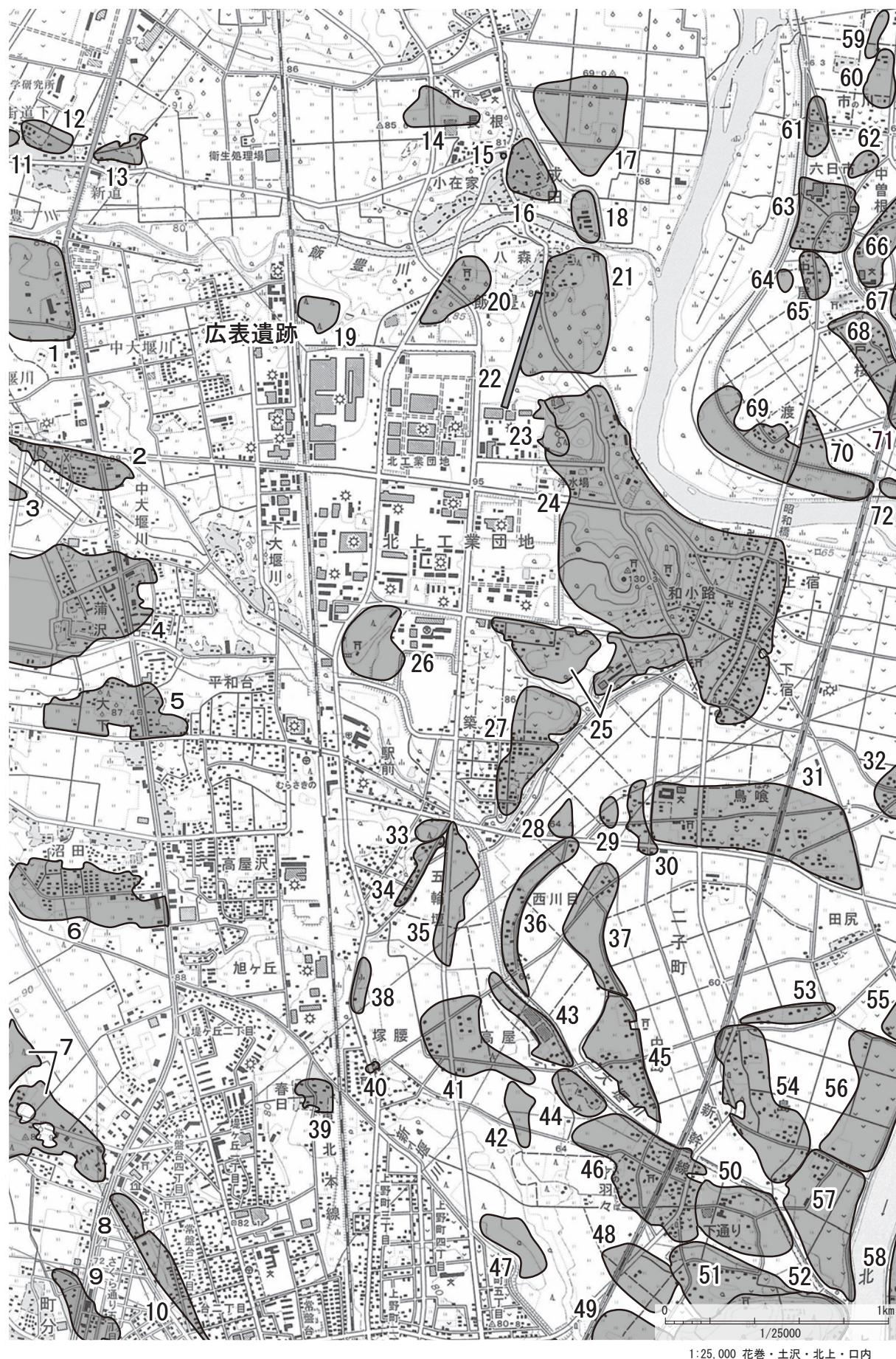
2022 『二子城跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 734 集

北上市教育委員会

1995 『成田遺跡（Ⅰ）』北上市文化財調査報告第 64 集

1996 『成田遺跡（Ⅱ）』北上市埋蔵文化財調査報告第 3 集

2018 『唐戸崎遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第 133 集



第4図 周辺の遺跡

第1表 周辺遺跡一覧(1)

No.	遺跡名	時代	種別	遺構・遺物
1	月館	平安	散布地	
2	中大堰川	縄文・平安	狩り場、散布地	溝状土坑、土師器
3	岡田	縄文		土坑、石器
4	蒲沢	縄文	散布地	縄文土器、土坑
5	大下	縄文	散布地	縄文土器、石器
6	旭ヶ岡西	縄文	散布地	縄文土器
7	藤沢	縄文・弥生・奈	集落跡	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、堅穴住居跡
8	藤沢窯跡群	平安	窯跡	須恵器
9	蒲谷地 I		散布地	
10	常盤台	平安	集落跡	土師器、須恵器、堅穴住居跡
11	唐戸崎	縄文・平安	集落跡	縄文土器（中期）、土師器、須恵器、漆紙、堅穴住居跡
12	唐戸崎 II	縄文	散布地	縄文土器、土師器
13	飯豊	縄文・平安	散布地	縄文土器、土師器
14	成田長根	平安	集落跡	土師器、須恵器、方頭太刀残欠
15	成田一里塚	近世	一里塚	一里塚 2 基
16	下成田	縄文・平安	集落跡	堅穴住居跡（縄文）、縄文土器、石器、須恵器
17	成田 III	平安・縄文・古	散布地	土師器、土偶、縄文土器、鉄刀
18	成田館	中世	城館跡	
19	広表	縄文	集落跡	縄文土器片
20	成田	古代・縄文	集落、窯跡	縄文土器、土師器、須恵器、土坑、堅穴住居跡、窯跡
21	成田岩田堂館	縄文・弥生・古	散布地、城館跡	縄文土器、石器、弥生土器、方形周溝、陶磁器、土墨
22	奥州街道・成田道	近世	街道	
23	馬場野	縄文・中世	集落	土坑、堅穴住居跡、縄文土器（晚期）、黒曜石、中世墓
24	二子城	縄文・中世	集落跡、城館跡	縄文土器、堀、帶郭、陶磁器、掘立柱建物跡、堅穴状遺構
25	秋子沢	平安	集落跡	堅穴住居跡、土師器、須恵器、綠釉陶器
26	伊勢	近世	散布地	
27	築館	平安	散布地	土師器、堅穴住居跡
28	堰向 I	縄文・古代	散布地	石匙、土師器、須恵器
29	鳥喰 III	古代	散布地	土師器
30	鳥喰 II	古代	散布地	土師器、須恵器
31	鳥喰 I	古代	集落跡	土師器、須恵器、堅穴住居跡
32	上川端 II	古代	散布地	土師器
33	五輪塙	中世	墳墓	土塙、周溝
34	南田 II	縄文	散布地	縄文土器
35	南田 I	縄文・平安	集落跡	縄文土器、土師器、須恵器、堅穴住居跡
36	堰向 II	平安・近世	集落跡	土師器、須恵器、目皿、硯、堅穴住居跡

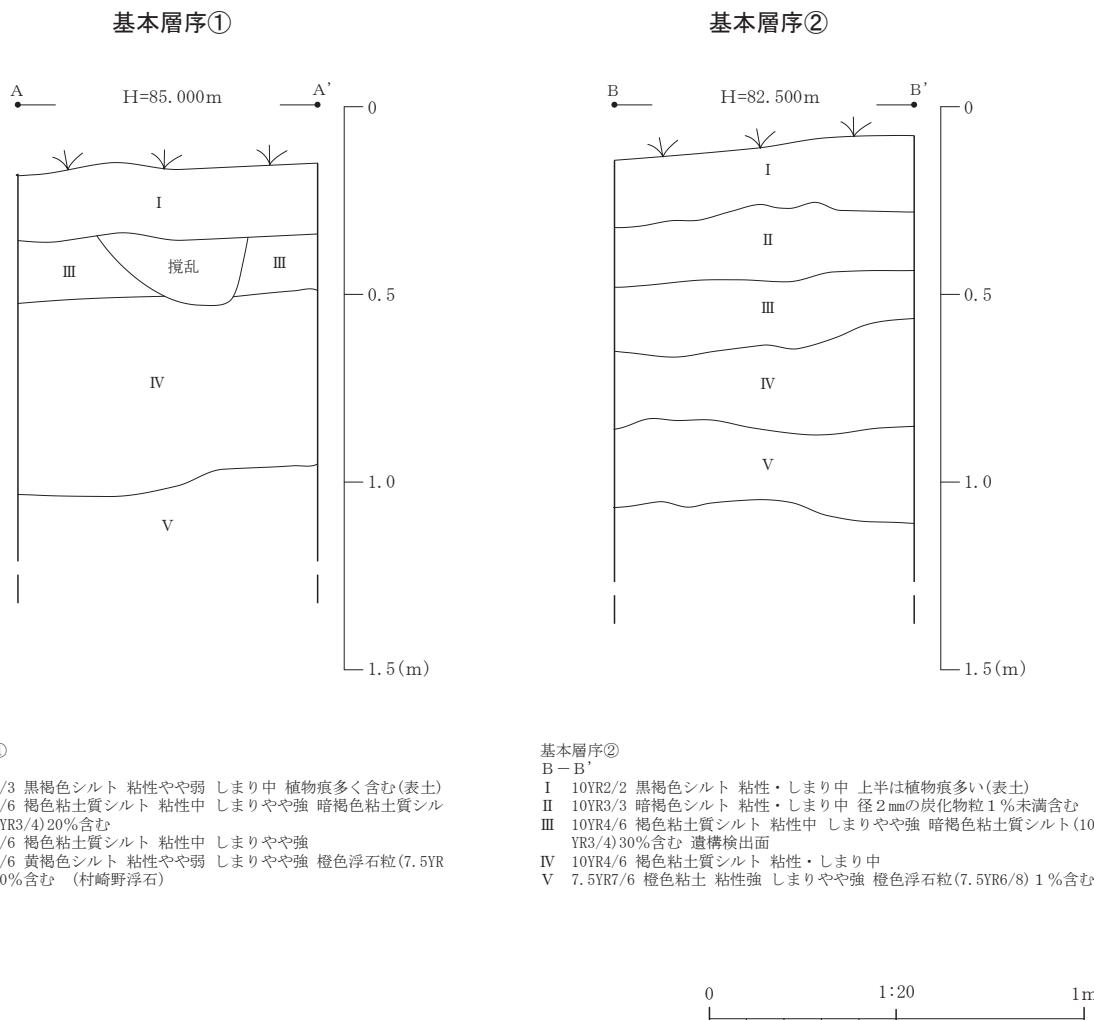
第1表 周辺遺跡一覧(2)

No.	遺跡名	時代	種別	遺構・遺物
37	西川目	平安	集落跡	土師器、須恵器、土錐、竪穴住居跡、水田跡、近世墓
38	明神Ⅰ	古代	散布地	土師器
39	下春木場	縄文	集落跡	縄文土器、竪穴住居跡
40	二子一里塚	近世	一里塚	
41	高屋Ⅰ	古代	散布地	須恵器
42	高屋Ⅱ	古代	散布地	須恵器
43	明神Ⅱ	縄文・平安	集落	縄文土器、土坑、土師器、竪穴住居跡、土師器焼成遺構
44	野田Ⅱ	縄文	散布地	フレーク
45	中島	縄文・古代	集落跡	縄文土器、土師器、竪穴住居跡
46	野田Ⅰ	縄文・弥生・平安	集落跡	縄文土器(後・晚期)、弥生土器、土師器、須恵器、竪穴住居跡
47	上野		散布地	
48	中居俵Ⅰ		散布地	
49	蟹沢	縄文・平安	散布地	縄文土器、土師器
50	中居俵Ⅲ	平安	集落跡	土師器、竪穴住居跡
51	中居俵Ⅱ	縄文・古代	集落跡	縄文土器、土師器、須恵器、竪穴住居跡
52	小鳥崎館	平安・中世	城館跡	土師器、堀、帶郭
53	相野野	古代	散布地	土師器
54	岡島	縄文・弥生・古	集落跡	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、竪穴住居跡
55	尻引	縄文・弥生・平安	集落跡	土師器、須恵器、竪穴住居跡
56	中村	平安	集落跡	縄文土器、土師器、須恵器、鋤先
57	千苅	平安	集落跡	弥生土器、土師器、須恵器、竪穴住居跡
58	黒岩宿	縄文・弥生・平安	集落跡	縄文土器、弥生土器、かわらけ、陶磁器、畝間状遺構
59	山口	平安	集落跡	土師器、竪穴住居跡、方形周溝
60	小川屋敷	縄文・平安	集落跡	陥し穴、土師器、須恵器、竪穴住居跡
61	市の川Ⅰ	平安	散布地	土師器・須恵器
62	市の川Ⅱ	平安・近世	散布地	土師器・陶磁器
63	六日市	弥生・平安・近世	集落跡	弥生土器、土師器、陶磁器、竪穴住居跡
64	中の屋敷Ⅱ	平安	散布地	土師器
65	中の屋敷Ⅰ	平安	散布地	土師器
66	中曾根	平安	集落跡	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、竪穴住居跡
67	石名畑	平安	散布地	須恵器
68	戸桜	縄文・弥生・平安	散布地	縄文土器、弥生土器、土師器、陶磁器
69	舟渡Ⅰ	縄文・弥生・平安	散布地・集落跡	縄文土器、石器、弥生土器、土師器、須恵器
70	舟渡Ⅱ	平安・近世	集落跡	縄文土器、弥生土器、竪穴住居跡、土師器、須恵器、陶磁器(美濃産)、近世墓、銭、煙管、柱穴群(屋敷跡があったとされる)
71	野沢Ⅰ	縄文・平安	集落跡	縄文土器(後期)、土師器、須恵器、竪穴住居跡
72	野沢Ⅱ	縄文・弥生・平安	集落跡	縄文土器、石匂炉、弥生土器、石鎌、竪穴住居跡、土師器、須恵器、土鈴、近世掘立柱建物、井戸、陶磁器

## 4 基本層序

平坦地で標高の高い調査区南端のⅡ B 17 mグリッド（基本層序A-A'）と斜面地で標高の低いⅡ C 11 c グリッド（基本層序B-B'）の南側壁面で層序を確認し、遺物を取り上げる際の指標とした。

A-A'、B-B'で様相がやや異なってはいるが、基本的には古代以降の堆積と推定されるⅡ層の暗褐色シルト層は斜面の一部で確認できるのみで遺跡の大部分を占める平坦地においては確認できず、Ⅲ層の暗褐色粘土質シルトを含む褐色粘土質シルト層が遺構・遺物の検出面となる。Ⅳ層以下は黒沢尻火山灰堆積層で、地点によりⅤ層に浮石粒が多く混入している。



第5図 基本層序

### III 野外調査と室内整理

#### 1 野外調査

##### (1) 野外調査の経緯と経過

- 4月10日 調査を開始。調査区南側と東側にトレーニングを設定し、試掘を行った。  
4月11日 重機2台により表土除去を開始した。  
4月13日 重機による表土除去後、調査区南側から順に人力による遺構検出および精査作業を開始した。  
4月19日 検出した遺構の精査を開始した。  
6月8日 調査区の東端部の調査区拡張について協議を行い、362m<sup>2</sup>が追加となった。  
9月7日 引き渡し予定であった調査区東側の航空写真撮影を行った。  
10月14日 現地説明会を開催した。  
10月25日 調査区全体の航空写真撮影を行った。  
10月26日 終了確認を実施した。  
10月31日 調査が全て完了した。

(\*終了確認はいずれも委託者・岩手県教育委員会・埋文センターの3者による)

##### (2) グリッド設定

調査区画のグリッド設定にあたっては、今回実施する調査区に隣接する北側および東側斜面部が追加で調査の対象となる可能性も考慮した上でこれらを含めたグリッドを作成し、使用した。平面直角座標第X系のX = -72900.000、Y = 24600.000を調査の原点とし、これを起点として、遺跡全体を一辺100 × 100 mの大区画に区割りを行い、さらに大区画を4 × 4 mの小区画に細分した。西から東側にアルファベットの大文字A～C、北から南側にローマ数字I～IIを付した。小区画は西から東側にアルファベットのa～y、北から南側に数字の1～25を与えていた。調査区の名称は、大区画と小区画の組み合わせでIA1a、IA10aというように呼称した。

##### (3) 基準点の設定

調査にあたっては3級基準点と区割付杭の打設を測量業者に委託し、これを用いた。基準点1・2と区画点1～4の平面直角座標値と杭高（標高）は以下のとおりである。

基準点1 X = -72970.748 Y = 24702.038 H = 84.615 基準点2 X = -73002.888 Y = 24790.811 H = 84.535

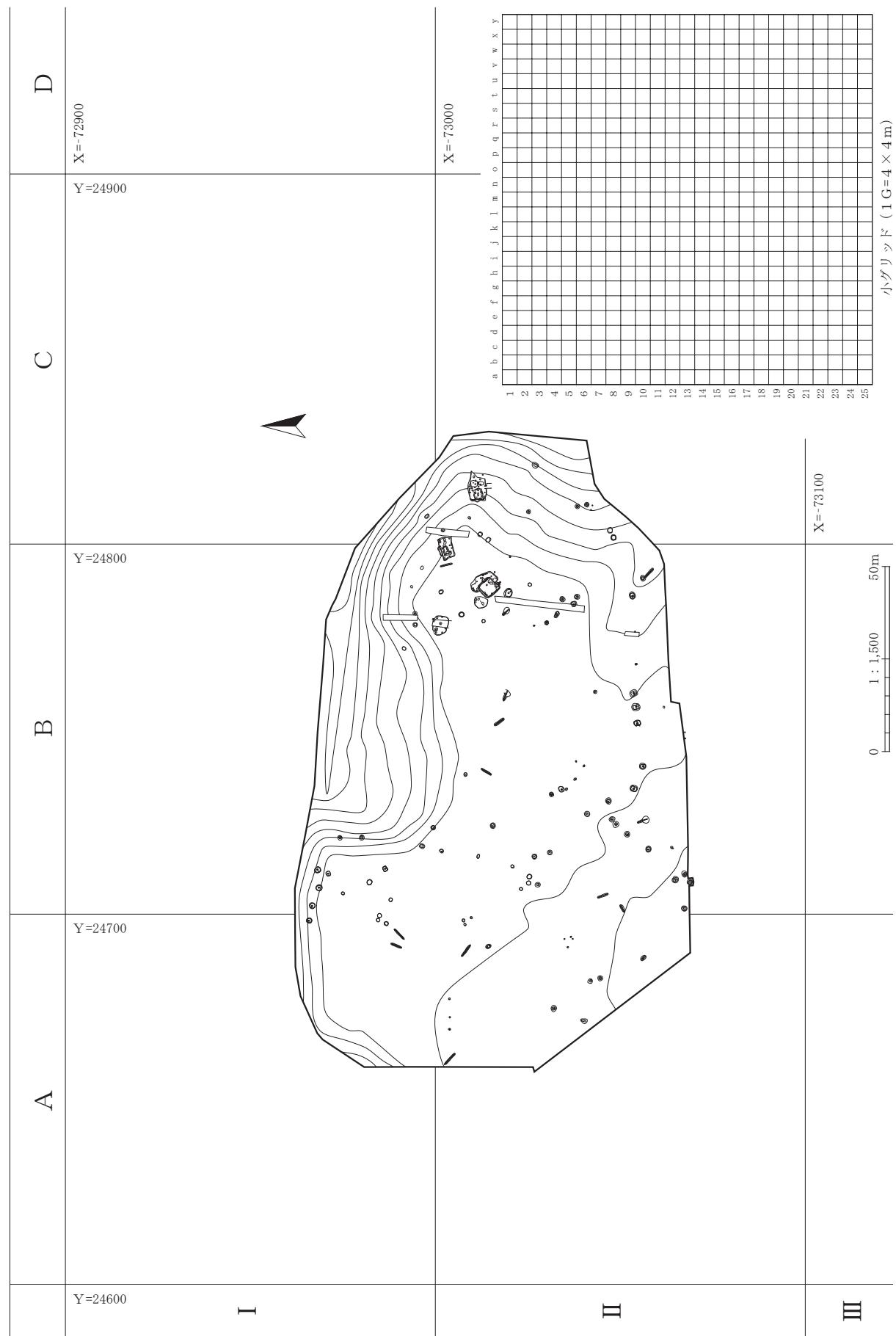
区画点1 X = -72997.918 Y = 24686.134 H = 84.880 区画点2 X = -73005.264 Y = 24822.172 H = 82.420

区画点3 X = -73060.752 Y = 24739.029 H = 84.726 区画点4 X = -73061.428 Y = 24700.990 H = 85.165

\*座標値は平面直角座標第X系（世界測地系）によるものである。

##### (4) 粗掘りと遺構検出

北上市教育委員会が実施した試掘結果に基づき、試掘掘削箇所に留意しながら調査を開始した。試掘結果を確認しながら調査区南側と優先する調査区東側から重機を使用して粗掘りを行い、表土から



第6図 グリッド・遺構配置図

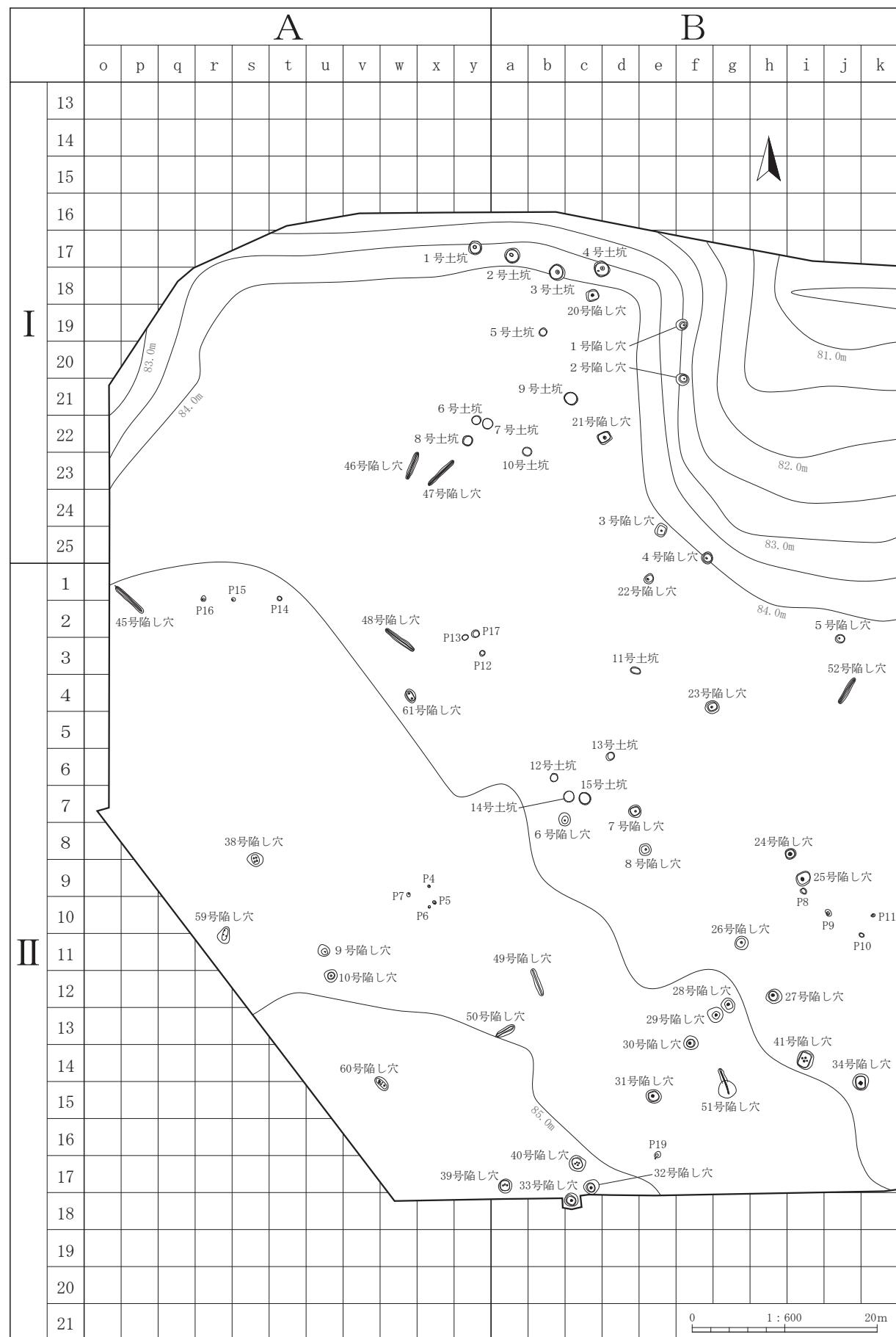
遺構検出面（第Ⅲ層）上層まで掘り下げ、その後人力で遺構検出を行った。

### （5）遺構の名称

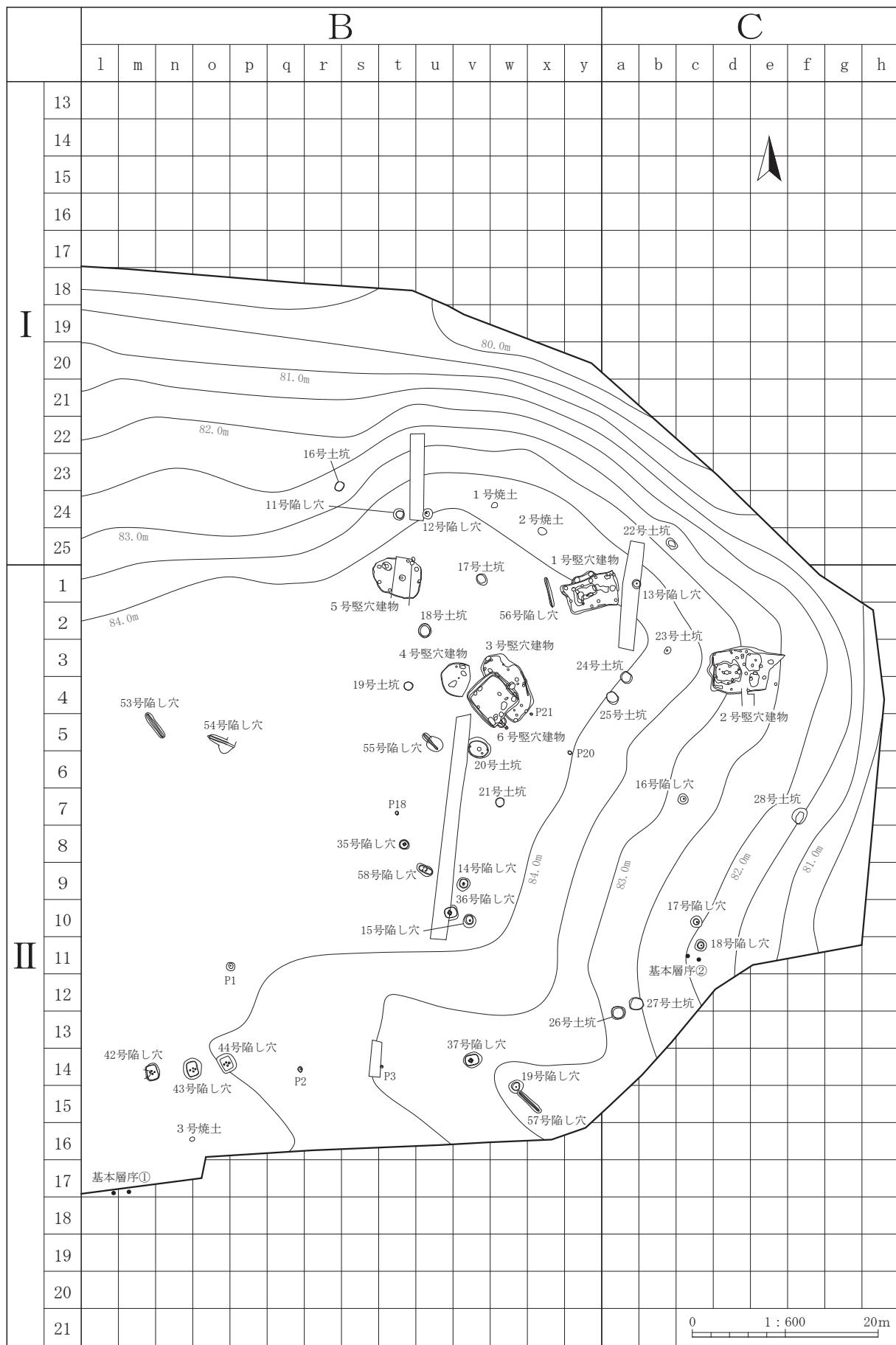
今回の調査では遺構種別ごとに竪穴建物→S I、焼土遺構→S L、土坑→S K、陥し穴状遺構→S KT、柱穴状土坑→Pなどの略号を使用したが、属性の変更や欠番（不掲載）になったものがあったため、整理段階で新たな名称をつけた（第2表参照）。

第2表 遺構一覧

報告書記載	調査時	報告書記載	調査時	報告書記載	調査時
1号竪穴建物	SI02	25号土坑	SK34	30号陥し穴状遺構	SK02
2号竪穴建物	SI05	26号土坑	SK33	31号陥し穴状遺構	SK26
3号竪穴建物	SI04	27号土坑	SK36	32号陥し穴状遺構	SK15
4号竪穴建物	SI01	28号土坑	SK67	33号陥し穴状遺構	SK19
5号竪穴建物	SI06	1号陥し穴状遺構	SK60	34号陥し穴状遺構	SK04
6号竪穴建物	SI03	2号陥し穴状遺構	SK59	35号陥し穴状遺構	SK09
1号焼土遺構	SL01	3号陥し穴状遺構	SK52	36号陥し穴状遺構	SK06
2号焼土遺構	SL02	4号陥し穴状遺構	SK65	37号陥し穴状遺構	SK38
3号焼土遺構	SL03	5号陥し穴状遺構	SK68	38号陥し穴状遺構	SK23
1号土坑	SK57	6号陥し穴状遺構	SK46	39号陥し穴状遺構	SK17
2号土坑	SK50	7号陥し穴状遺構	SK44	40号陥し穴状遺構	SK16
3号土坑	SK51	8号陥し穴状遺構	SK45	41号陥し穴状遺構	SK03
4号土坑	SK56	9号陥し穴状遺構	SK22	42号陥し穴状遺構	SK61
5号土坑	SK64	10号陥し穴状遺構	SK18	43号陥し穴状遺構	SK35
6号土坑	SK72	11号陥し穴状遺構	SK41	44号陥し穴状遺構	SK31
7号土坑	SK74	12号陥し穴状遺構	SK40	45号陥し穴状遺構	SKT11
8号土坑	SK73	13号陥し穴状遺構	SK20	46号陥し穴状遺構	SKT13
9号土坑	SK53	14号陥し穴状遺構	SK10	47号陥し穴状遺構	SKT12
10号土坑	SK63	15号陥し穴状遺構	SK12	48号陥し穴状遺構	SKT08
11号土坑	SK69	16号陥し穴状遺構	SK66	49号陥し穴状遺構	SKT05
12号土坑	SK49	17号陥し穴状遺構	SK13	50号陥し穴状遺構	SKT04
13号土坑	SK70	18号陥し穴状遺構	SK14	51号陥し穴状遺構	SKT02
14号土坑	SK47	19号陥し穴状遺構	SK42	52号陥し穴状遺構	SKT10
15号土坑	SK77	20号陥し穴状遺構	SK78	53号陥し穴状遺構	SKT09
16号土坑	SK48	21号陥し穴状遺構	SK58	54号陥し穴状遺構	SKT07
17号土坑	SK28	22号陥し穴状遺構	SK54	55号陥し穴状遺構	SKT01
18号土坑	SK29	23号陥し穴状遺構	SK55	56号陥し穴状遺構	SKT03
19号土坑	SK27	24号陥し穴状遺構	SK76	57号陥し穴状遺構	SKT06
20号土坑	SK11	25号陥し穴状遺構	SK43	58号陥し穴状遺構	SK08
21号土坑	SK05	26号陥し穴状遺構	SK39	59号陥し穴状遺構	SK25
22号土坑	SK37	27号陥し穴状遺構	SK01	60号陥し穴状遺構	SK24
23号土坑	SK80	28号陥し穴状遺構	SK30	61号陥し穴状遺構	SK75
24号土坑	SK32	29号陥し穴状遺構	SK21	P1～P21	P1～P21



第7図 遺構配置図1



第8図 遺構配置図2

#### （6）遺構の精査と実測

遺構精査は、個々に断面による埋土の堆積状況の確認→完掘の順で写真撮影と図面作成を行った。断面図は人手、平面図は電子平板（株式会社CUBICの遺構実測支援システム）によって記録を行った。遺構外の遺物はグリッドと出土層位を記録して取り上げた。

#### （7）写 真 摄 影

写真撮影はデジタル一眼レフカメラ（CanonEOS6D）1台で行った。撮影では、日付・遺構名などを記した撮影カードを写しこみ、室内整理作業に用いた。この他に調査の進捗状況に応じて令和5年9月7日と10月25日にドローンによる航空写真撮影を行った。

### 2 室 内 整 理

#### （1）遺構図面の整理

野外調査時に計測した電子平板（株キュービック「遺構くん」システム）のデータを用いて作図した平面図と、野外作業員が作図した断面図を遺構ごとに分類・点検後、デジタルによる作業を修正図（第二原図）作成→トレース→図版作成の順に行った。

#### （2）遺 物 の 整 理

出土遺物は洗浄を行い、種別毎に分類して袋に収め、袋毎に重量計測を行った。その後、遺物注記・接合作業を経て、本書掲載分と不掲載分に選別、掲載分は種別毎に仮番号を付して登録作業を行った。

その後、実測・拓本、点検・修正、トレース作業を行い、図版を作成した。仮番号は最終的に掲載番号に付け替えた。

#### （3）掲 載 図

遺物実測図の掲載縮尺は大きさに応じて土器1/3、石器は1/4～2/3、土・石製品1/2、とした。写真図版内の遺物の縮尺については不定である。

#### （4）写真撮影と整理

野外調査時の記録写真等のデジタル一眼レフカメラデータは遺構毎に個別フォルダにまとめデータを格納した。

遺物写真は、当センター写真室にて撮影技師がデジタル一眼レフカメラ（CanonEOS1Mark II）にて撮影した。撮影はRAWモードで行い、印刷段階でJPEGに変換している。

## IV 調査内容

### 1 調査の概要

遺跡は、JR 東北本線村崎野駅から北へ約 2.1km に位置し、北上川の支流である飯豊川右岸の砂礫段丘上に立地する。今回の調査は 14,900m<sup>2</sup> と東側斜面部の追加分 326m<sup>2</sup> を加えた計 15,226m<sup>2</sup> を対象としている。調査前の現況は植林による雑木林で標高は 80 ~ 85 m を測る。

### 2 検出遺構と出土遺物

検出遺構は、縄文時代の竪穴建物 5 棟、焼土遺構 3 基、土坑 27 基、陥し穴状遺構 61 基、古代が竪穴建物 1 棟、土坑 1 基で他に時期不明の柱穴状土坑 21 個である。

#### (1) 竪穴建物

##### 1号竪穴建物（第 9 ~ 15 図、写真図版 4・5）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区北東側の斜面地、Ⅱ B 1 y グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出したが、遺構の東側の一部は斜面の崩落により消失している。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞ 平面形は残存する範囲から不整な長方形と推測する。規模は (6.13) m × 4.29 m (張り出し部含む) を測る。本遺構は消失した部分を含め、長軸 7 m 以上を測る大型住居である。

＜堆積土＞ 最大で 26cm の堆積を確認した。堆積土は 6 層に分層でき、黒～暗褐色シルトを主体とし、炭化物や焼土粒が混じる。また床面直上や壁際では黄橙色シルトの堆積を確認した。地山の崩落か。

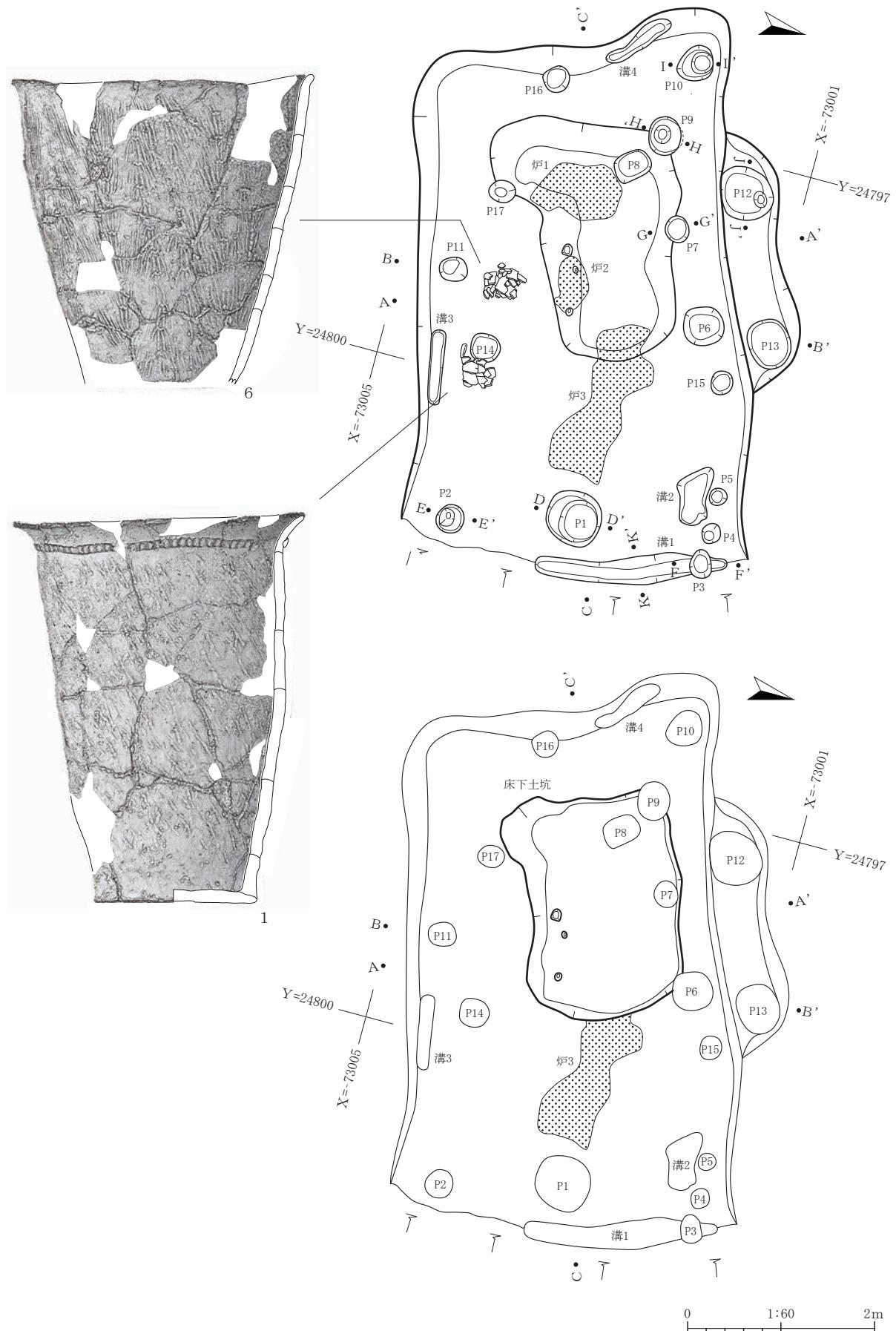
＜壁・床面＞ 壁は消失している東側を除き全周し、外へと緩やかに広がる立ち上がりを確認した。床面はほぼ平坦であるが、西側のほぼ中央が 3 ~ 5 cm 窪んでいる。この窪みは本遺構の長軸方向に沿っており、また床下土坑の直上でもある。

＜炉・焼土＞ 炉は地床炉を 3 基確認した。いずれも床面中央の長軸方向に沿って並列している。炉 1 は 94 × 64cm の歪な橢円形、炉 2 は 60 × 35cm の不整な橢円形、炉 3 は 176 × 88cm の歪な橢円形、いずれも被熱は強く、焼土は明赤褐色を呈し、床面から 6 ~ 9 cm 被熱している。

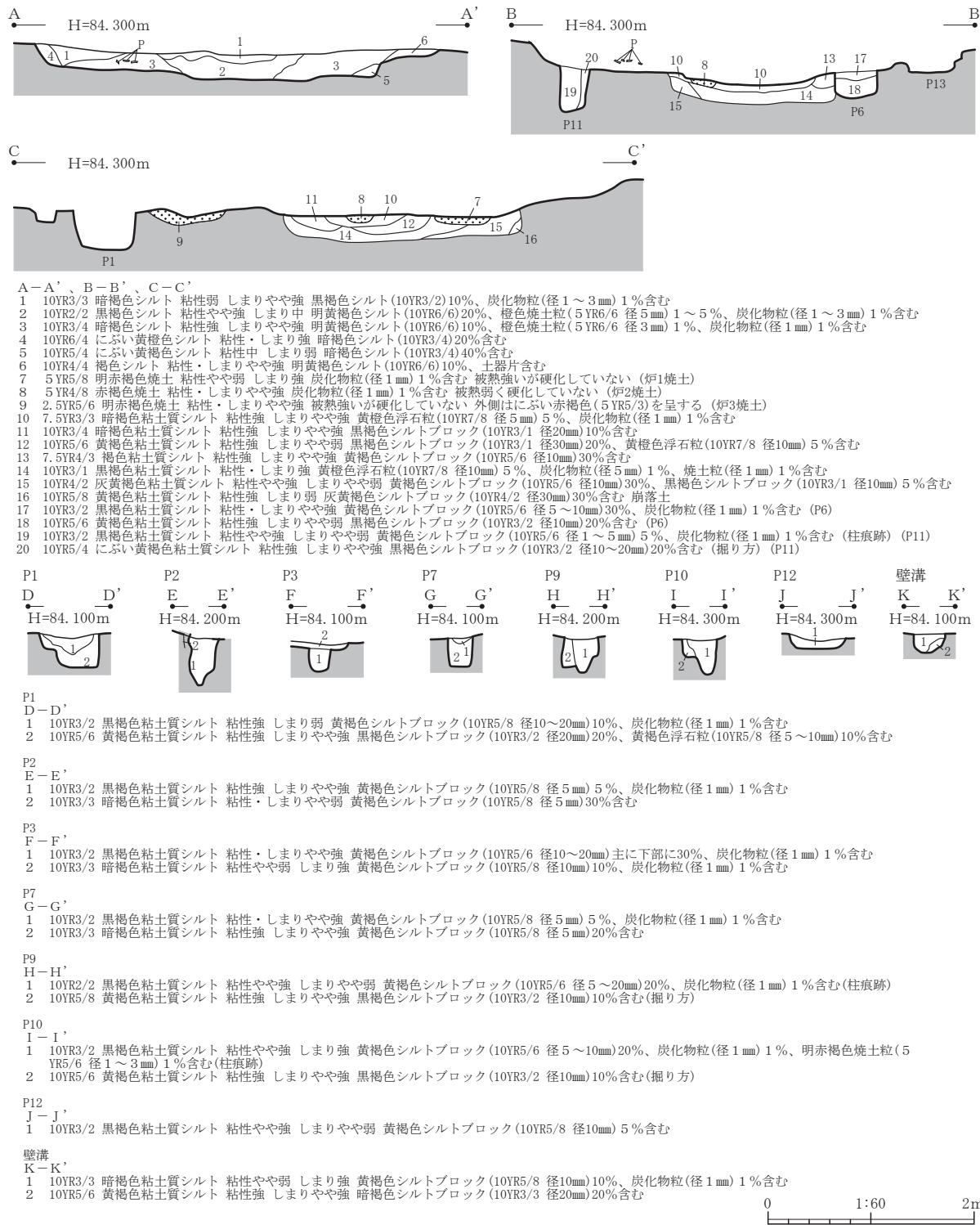
＜張り出し部＞ 北壁のほぼ中央に張り出し部が付く。規模は 2.80 × 0.65 m で北壁に平行して長い形状で、床面より 10cm 高い。張り出し部底面はほぼ平坦で、両端に径 50 ~ 60cm の柱穴 (P 12・13) が付く。張り出し部の用途は不明である。

＜床下土坑＞ 床面の西側で 1 基確認した。規模は 2.45 × 1.91 m で不整な方形を呈している。深さは床面から 25cm で、立ち上がりは直立気味である。堆積土は黒褐色シルトや黄褐色シルトを主体とし、炭化物などが混じる。堆積様相から、床下土坑を人為的に埋めてから、その上に炉 1、2 が形成されたことが分かった。床下土坑の用途は不明である。

＜柱穴＞ 床面で 14 個、張り出し部内で 2 個確認した。P 1・2・5・6・9・10・14・16・17 は主柱穴の可能性が高いが、配列はやや歪である。規模は P 1 が径 60cm と大きいが、他は径 30 ~ 40cm である。深さは 20 ~ 40cm で、P 9 ~ 11 で柱痕跡と掘り方を確認した。

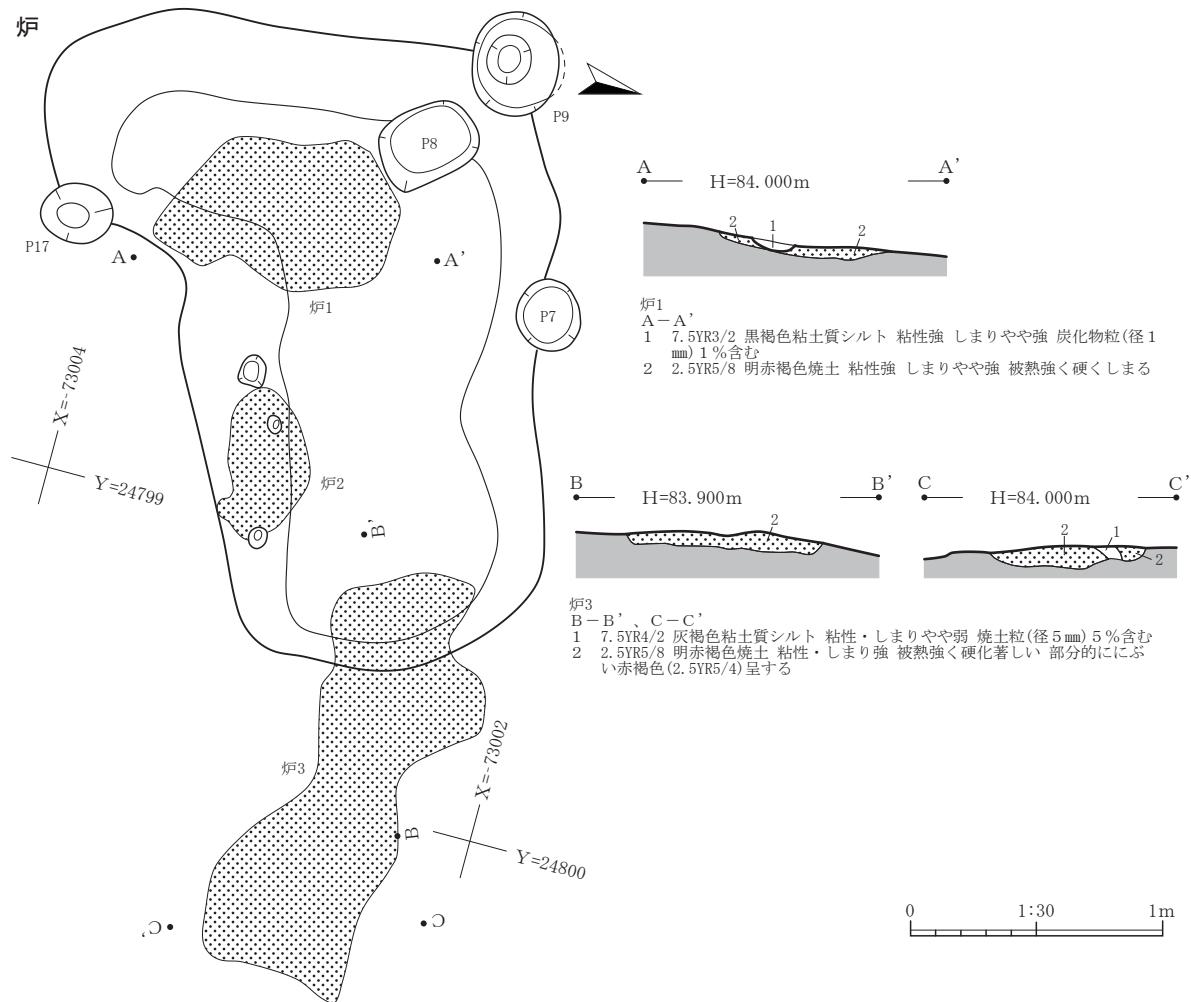


第9図 1号竪穴建物 1



第10図 1号竪穴建物 2

＜遺物＞ 繩文土器は、9143.6g 出土している。出土地点は概ね堆積土中であるが、1、6は床面上に横倒しの状態で出土した。18点掲載した。1～6は深鉢で、大木5式の範疇と捉えている。いずれも口縁部は無文で、1、4、5は押圧を施した隆帯が頸部に巡る。胴部には単軸絡条体1類が施文されるものが多いが、3は縦位の条線が器面全体に充填されている。7～18も大木5式の範疇と推測するが、小片で、不明な点がある。10は単軸絡条体1A類、11は多軸絡条体か。15は半裁竹管状工具による押引文が横位に巡る。16は深鉢の胴部下半で、底面付近まで沈線による格子文が施文さ



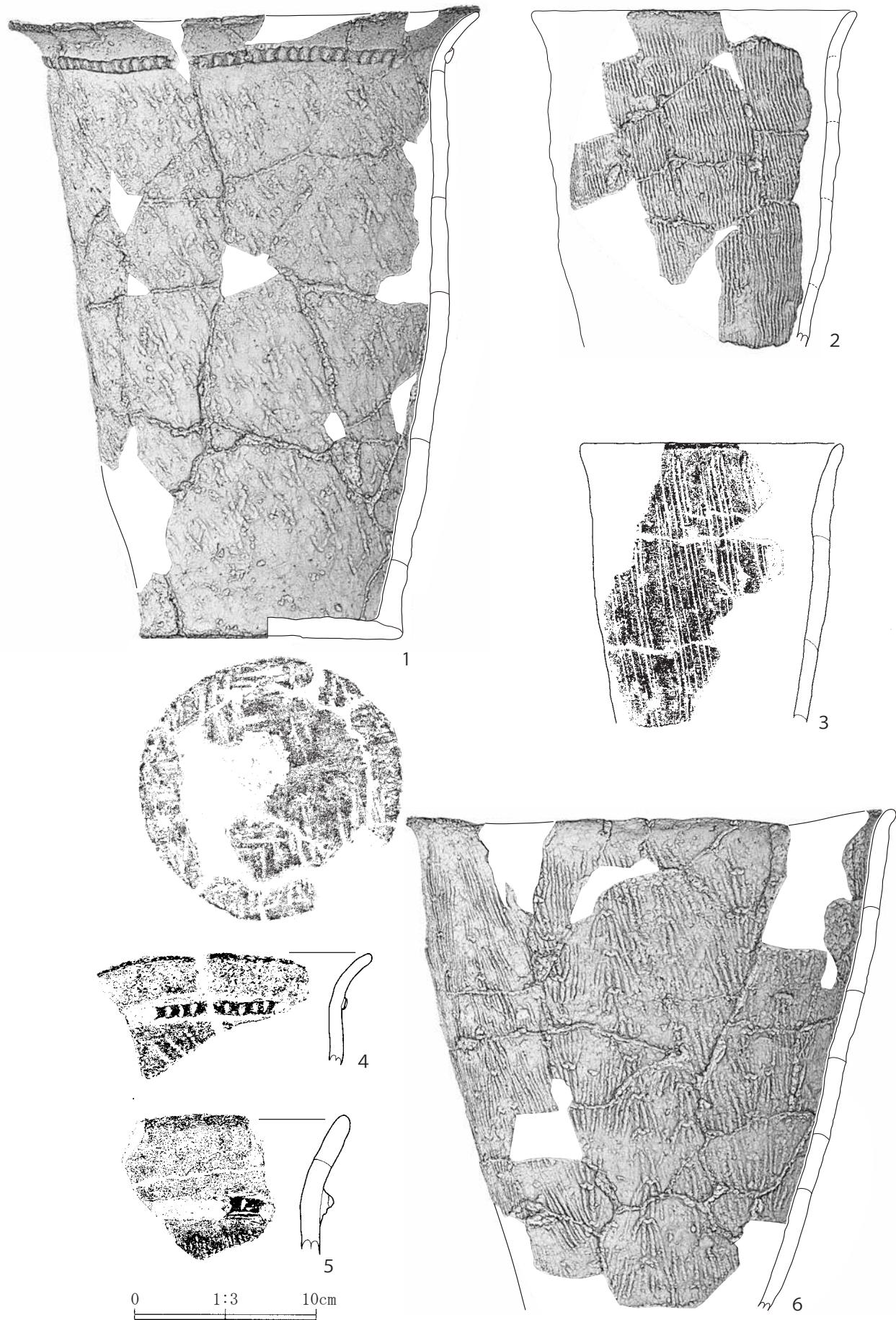
第11図 1号竖穴建物 3

れている。

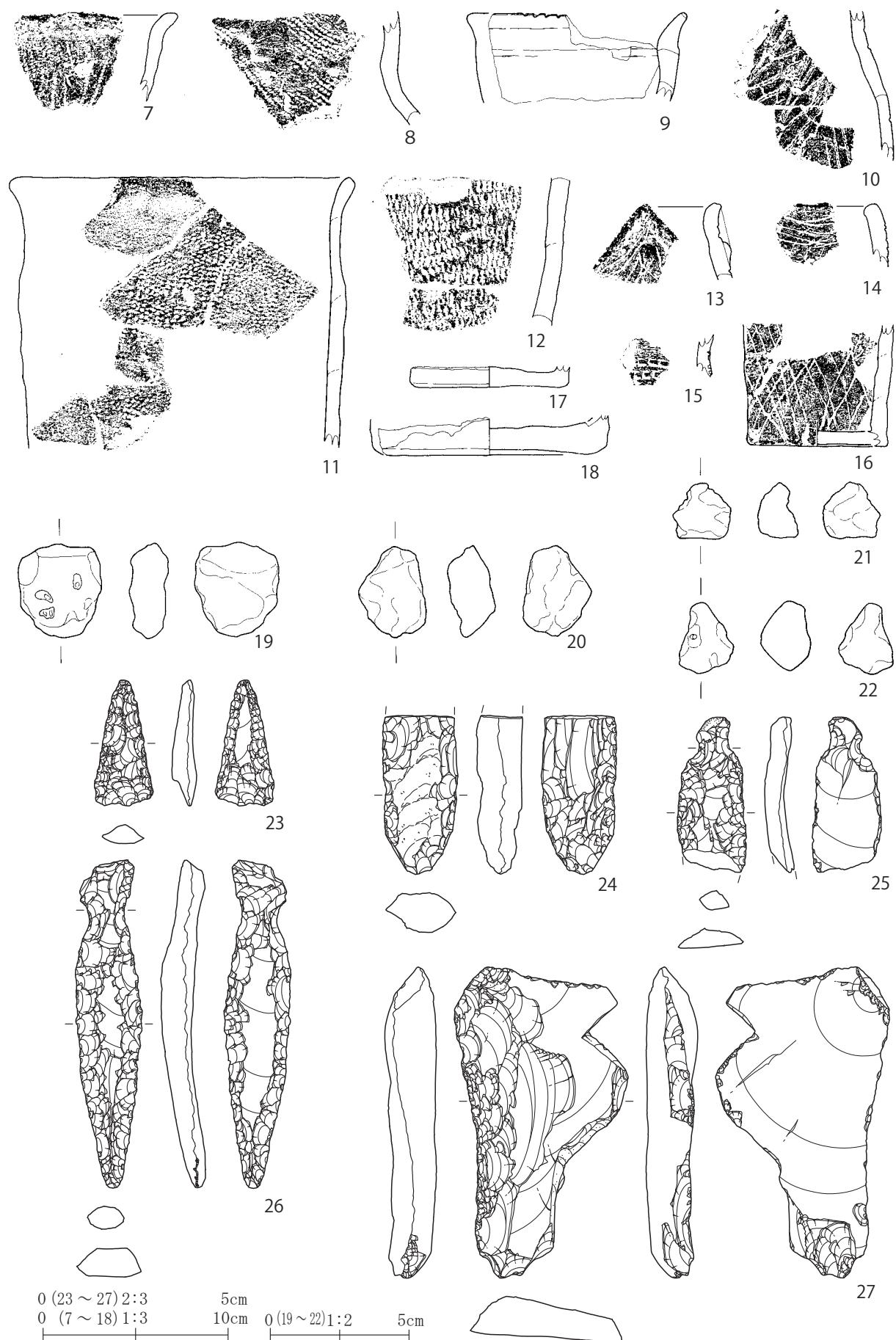
土製品は、粘土塊が39点（総重量118.6g）出土しており、1棟の竪穴建物から出土する点数としては突出している。4点掲載した。概ね指頭などにより捏ねた、あるいは整形した痕跡が見受けられる。なお19、22には小孔が見受けられるが、故意によるものかは不明である。

石器は、石鏃1点、尖頭器1点、石匙2点、楔形石器1点、不定形石器4点、礫器1点、磨製石斧2点、石錐2点、敲磨器類11点、フレイク34点が出土している。他の竪穴建物と比べ、出土する石器の器種が多彩である。21点掲載した。21は石鏃で、茎部が不整形なので未成品（失敗品）と考えている。25、26は縦型の石匙で、26は摘み部が大きい。27は不定形石器で、長辺の片側、片面のみに刃部が作出されている。28、29は磨製石斧で、両者は形態が異なる。31、32が石錐で、打ち欠けからみて横長である。30は礫器で、扁平な橢円形の礫を素材とし、側面には磨痕が、扁平な面には敲打痕が見られる。33～41は敲磨器類である。43はフレイク、44はユーズドフレイクである。石製品は2点出土した。45は石棒の未製品か。46は滑石製の玦状耳飾りである。

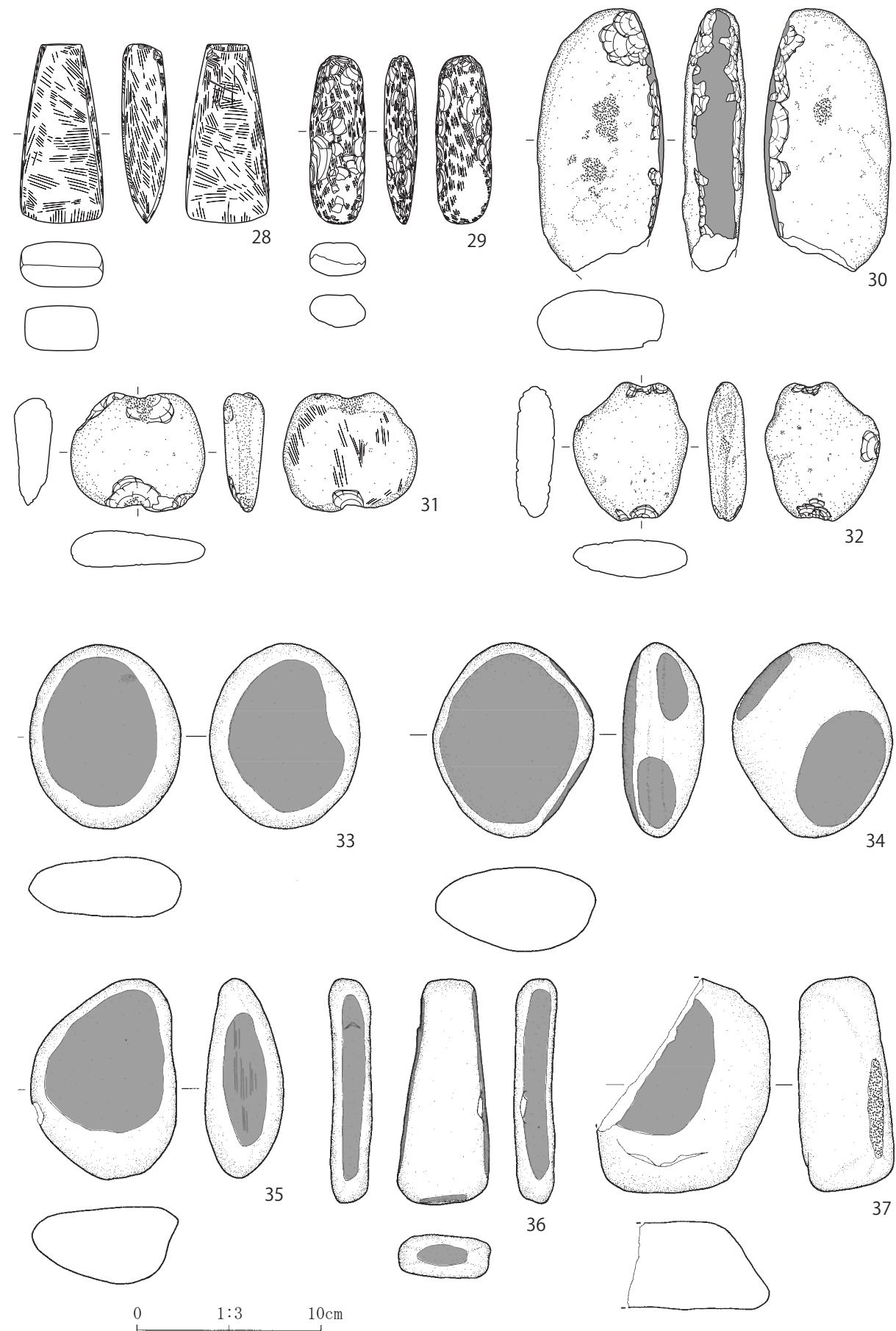
＜時期＞ 出土した土器片から縄文時代前期後葉（大木5式期）と判断した。なお、床下土坑の1層中から採取した炭化物で炭素年代測定を試み、「 $1280 \pm 20$ yrBP」との結果を得た。本遺構の時期とは大きくかけ離れているが、分析試料が近接する6号竪穴建物（平安時代）等からの流れ込みによる炭化物であった可能性が高い。



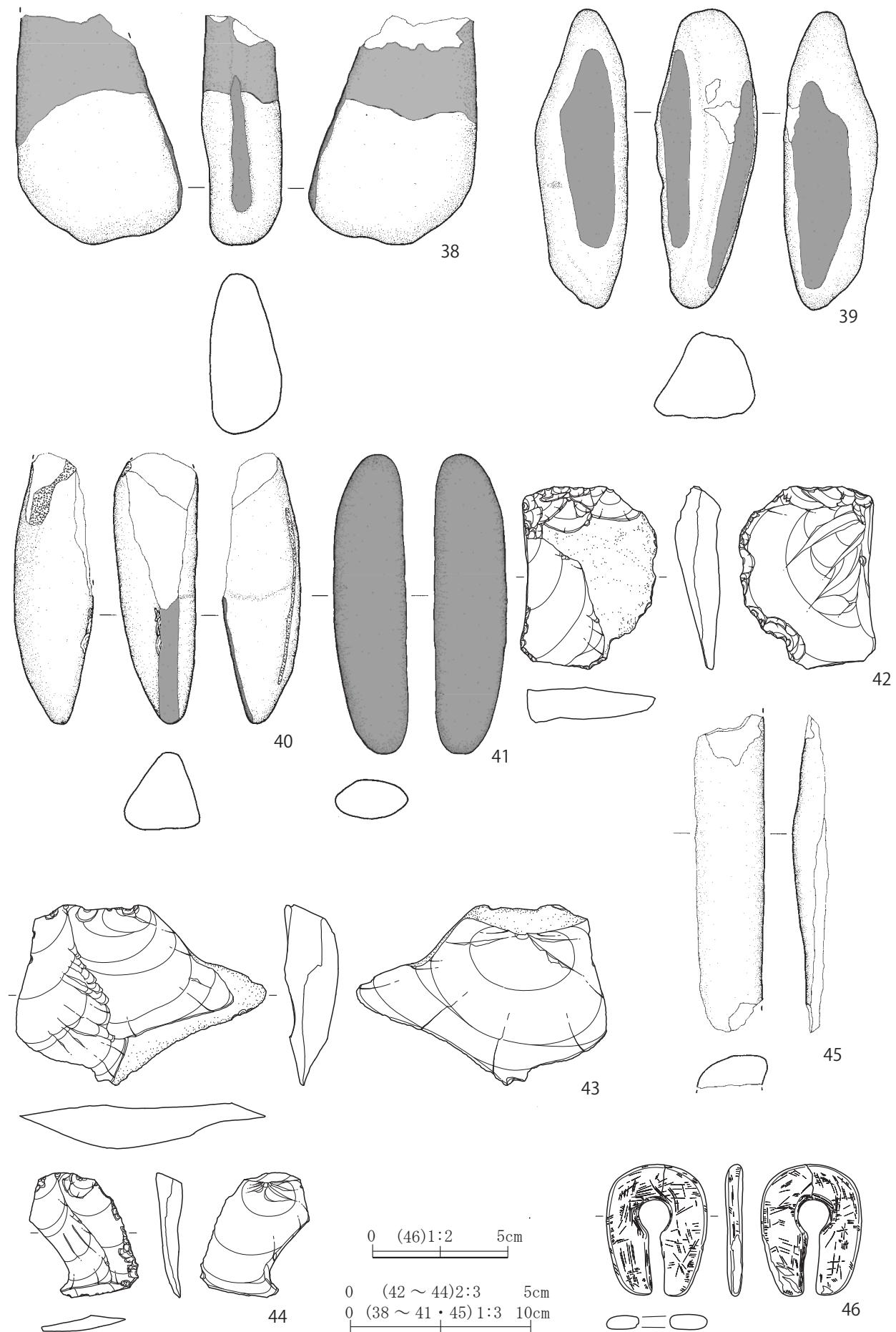
第12図 1号竪穴建物出土遺物 1



第13図 1号竪穴建物出土遺物 2



第14図 1号竪穴建物出土遺物 3



第15図 1号竪穴建物出土遺物 4

## 2号竪穴建物（第16～22図、写真図版6）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区東端の斜面地、ⅡC3dグリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出したが、遺構の東側の一部は斜面の崩落により消失している。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞ 平面形は残存する範囲から不整な長方形と推測する。残存する規模は(8.31)m × 5.02mを測る。本遺構は消失した部分を含め、長軸8.50m以上を測る大型住居である。

＜堆積土＞ 最大で59cmの堆積を確認した。堆積土は12層に分層でき、上部は黒褐色シルト、下部から床面は褐色～にぶい黄褐色シルトを主体とする。堆積土中には村崎野浮石由来と推定する黄橙色浮石粒や炭化物、焼土粒が混じる。また床面南西隅で100×40cmの焼土塊が堆積していた。

＜壁・床面＞ 壁は消失している東側を除き全周する。南北壁はほぼ直立気味で、西壁は外へと広がりながら立ち上がる。また西壁の中位には、緩やかな段が形成されている。床面はほぼ平坦であるが、西側半分のうち、炉1・2とその周辺は床面から5～8cm窪んでいる。またこの窪みは本遺構の長軸方向に沿っている。

＜炉・焼土＞ 炉は地床炉を3基確認した。いずれも床面中央に位置し、長軸方向に沿って並列している。

炉1は50×43cmの不整な楕円形、炉2は46×40cmの不整な楕円形、炉3は一部攪乱によって壊されているが42×(28)cmの不整な楕円形を呈する。被熱については、炉1・2はやや弱く、焼土は赤褐色を呈するが、炉3は比較的強く、焼土が明赤褐色を呈している。いずれも被熱は床面から4～6cm下まで及んでいる。

＜柱穴＞ 床面で32個確認した。P1・5・24・25とP2・7・31・26は、炉1～3を挟んで長軸方向に並んでいるので、主柱穴の可能性が高い。規模は径30cm前後で、深さは30～50cmを測る。またP6・13・15・32は炉1～3と同一列上に、P4・8・9・16・18・29は壁際に並んでおり、これらの柱穴は規模が径30cm前後で、深さも25cm前後と主柱穴と比べてやや小さい。

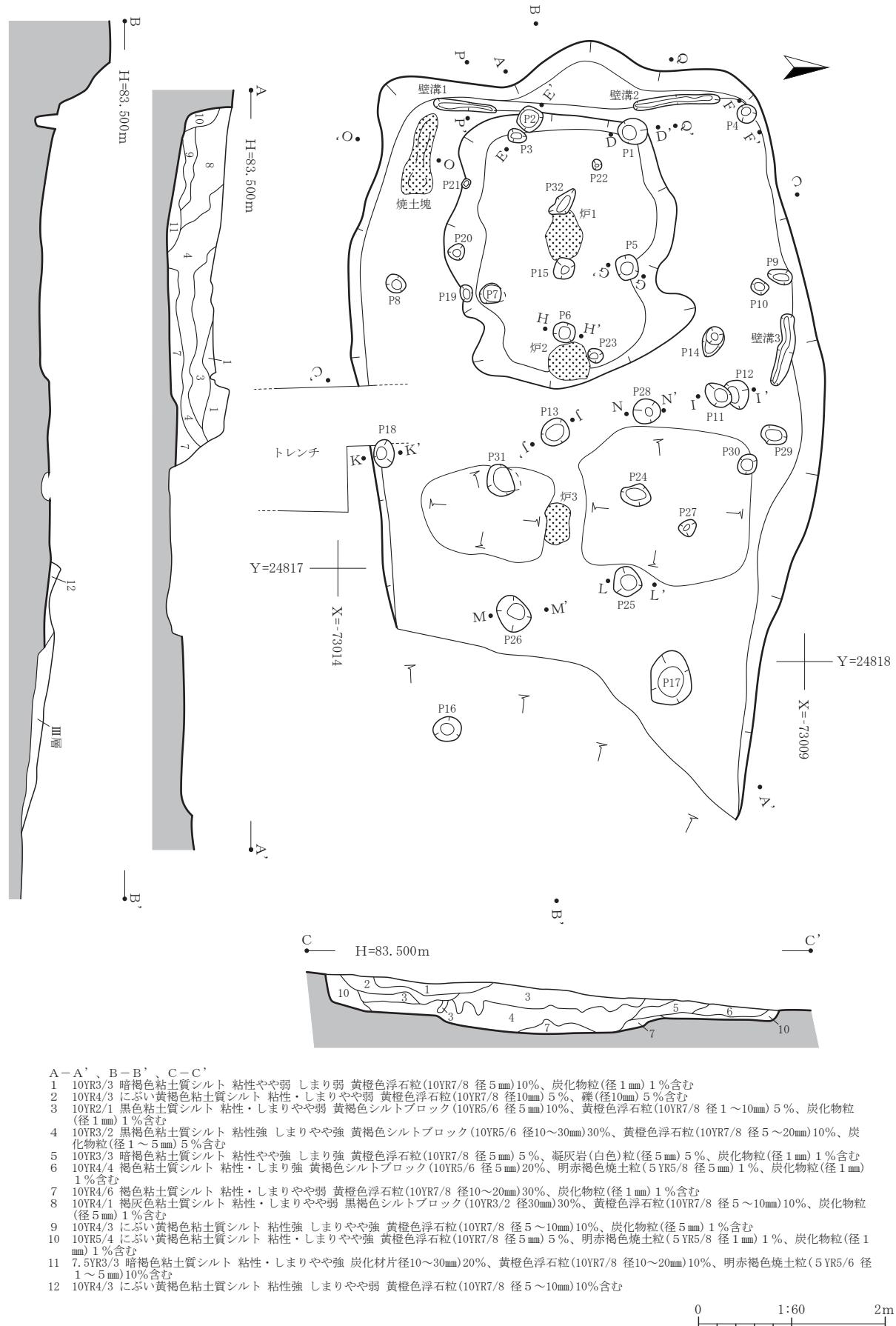
＜遺物＞ 繩文土器は、672.8g出土している。出土量が少なく、またほとんどが小片であるが、これは本遺構が削平により、遺構の大部分を消失しているためと推測する。

7点掲載した。すべて深鉢で、口縁部片や口縁部付近の胴部片である。いずれも大木5式の範疇に収まると推測しているが、隆帯などではなく、口縁部から胴部にかけ、地文となる縩文が施文されるのみである。47は単軸絡条体1類、48～50は単軸絡条体5類が施文される。51～53は半裁竹管状工具による沈線文で、57は格子状を呈する。なお52、53は同一個体と判断した。

石器は、石鏸2点、尖頭器1点、石匙4点、不定形石器1点、礫器1点、石錘1点、敲磨器類13点、フレイク6点出土している。縩文土器が少ない割に、石器は比較的豊富である。

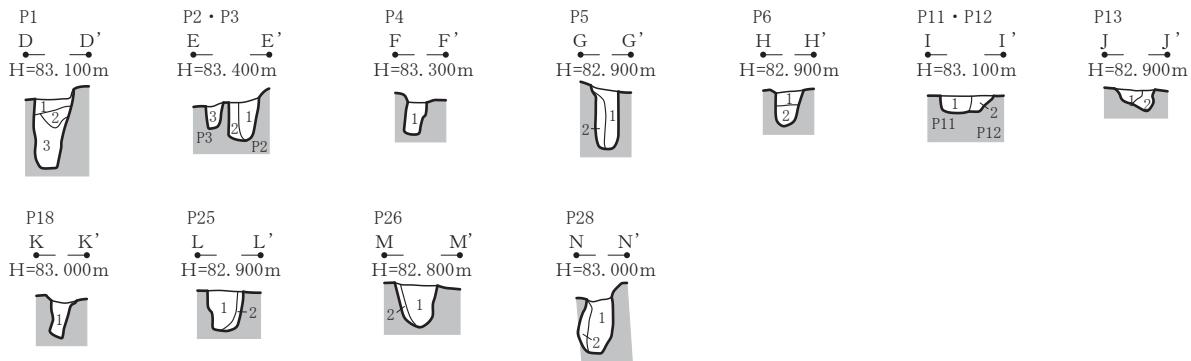
20点を掲載した。54は石鏸である。無茎鏸で、先端を欠損する。55は尖頭器としたが、比較的小型で、全体に湾曲している。56～59は石匙で、56、57は縦型、58は横型、59は斜型と様々である。61は不定形石器で、長さ13.5cmを測り、他と比べて突出して大きい。長辺の片側の片面にのみ、刃部を作出している。頁岩製。62～64はチャート製で、側面に敲打痕や磨った痕跡が見受けられ、ハンマーとして利用された可能性が高い。他の敲磨器類(65～73)も側面や縁辺部に使用痕が見受けられるものが多い。

＜時期＞ 出土した縩文土器から縩文時代前期後葉（大木5式期）と判断した。なお床面の南西隅から出土した焼土塊内で採取した炭化物で炭素年代測定を試み、「4770 ± 30yrBP」との結果を得ている。



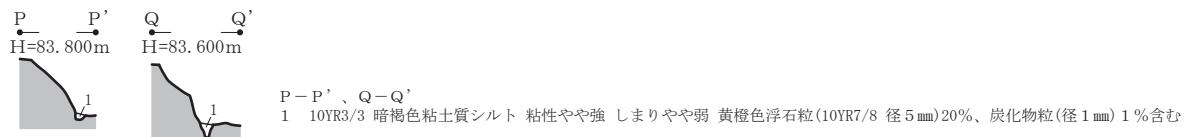
第16図 2号堅穴建物1

## 柱穴

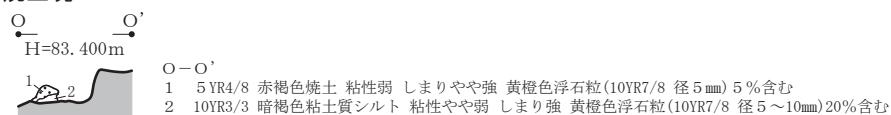


- P1  
D — D'  
1 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性・しまり弱 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5~10mm)20%、炭化物粒(径1mm)1%含む  
2 10YR4/2 灰褐色粘土質シルト 粘性・しまりやや強 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5mm)5%含む  
3 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまり弱 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径1mm)5%含む
- P2 · 3  
E — E'  
1 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや弱 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径1~5mm)5%、炭化物粒(径1mm)1%含む (P2柱痕跡)  
2 10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性強 しまりやや強 黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径5~10mm)10%含む (P2掘り方)  
3 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト 粘性強 しまりやや強 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5~10mm)5%、炭化物粒(径1~5mm)1%含む (P3)
- P4  
F — F'  
1 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性・しまりやや弱 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径1~5mm)10%、炭化物粒(径1mm)1%含む
- P5  
G — G'  
1 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト 粘性・しまりやや強 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5mm)10%、炭化物粒(径1mm)1%含む (柱痕跡)  
2 10YR4/2 灰褐色粘土質シルト 粘性やや弱 しまり弱 黑褐色シルトブロック(10YR2/2 径20~30mm)30%、黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5mm)5%含む (掘り方)
- P6  
H — H'  
1 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト 粘性弱 しまりやや弱 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径1~5mm)5%、炭化物粒(径1mm)1%含む  
2 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性やや弱 しまり弱 黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径10mm)20%、黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5mm)5%含む
- P11 · 12  
I — I'  
1 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや弱 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5mm)5%、炭化物粒(径1mm)1%含む (P11)  
2 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまりやや強 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5mm)10%含む (P12)
- P13  
J — J'  
1 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性・しまりやや強 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5mm)10%、炭化物粒(径1mm)1%含む  
2 10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや弱 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5~10mm)30%含む
- P18  
K — K'  
1 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性・しまりやや強 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5~10mm)20%、炭化物粒(径1mm)1%含む
- P25  
L — L'  
1 10YR2/2 黑褐色粘土質シルト 粘性強 しまりやや強 黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径10~20mm)20%、黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5mm)5%含む (柱痕跡)  
2 10YR3/2 黑褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまり弱 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5mm)10%含む (掘り方)
- P26  
M — M'  
1 10YR3/2 黑褐色粘土質シルト 粘性・しまりやや強 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5mm)10%、凝灰岩(白色)粒(径5mm)5%、炭化物粒(径1mm)1%含む (柱痕跡)  
2 10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性強 しまりやや弱 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径10mm)30%含む (掘り方)
- P28  
N — N'  
1 10YR3/2 黑褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや弱 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5~10mm)10%含む (柱痕跡)  
2 10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性強 しまりやや強 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5mm)5%、炭化物粒(径1mm)1%含む (掘り方)

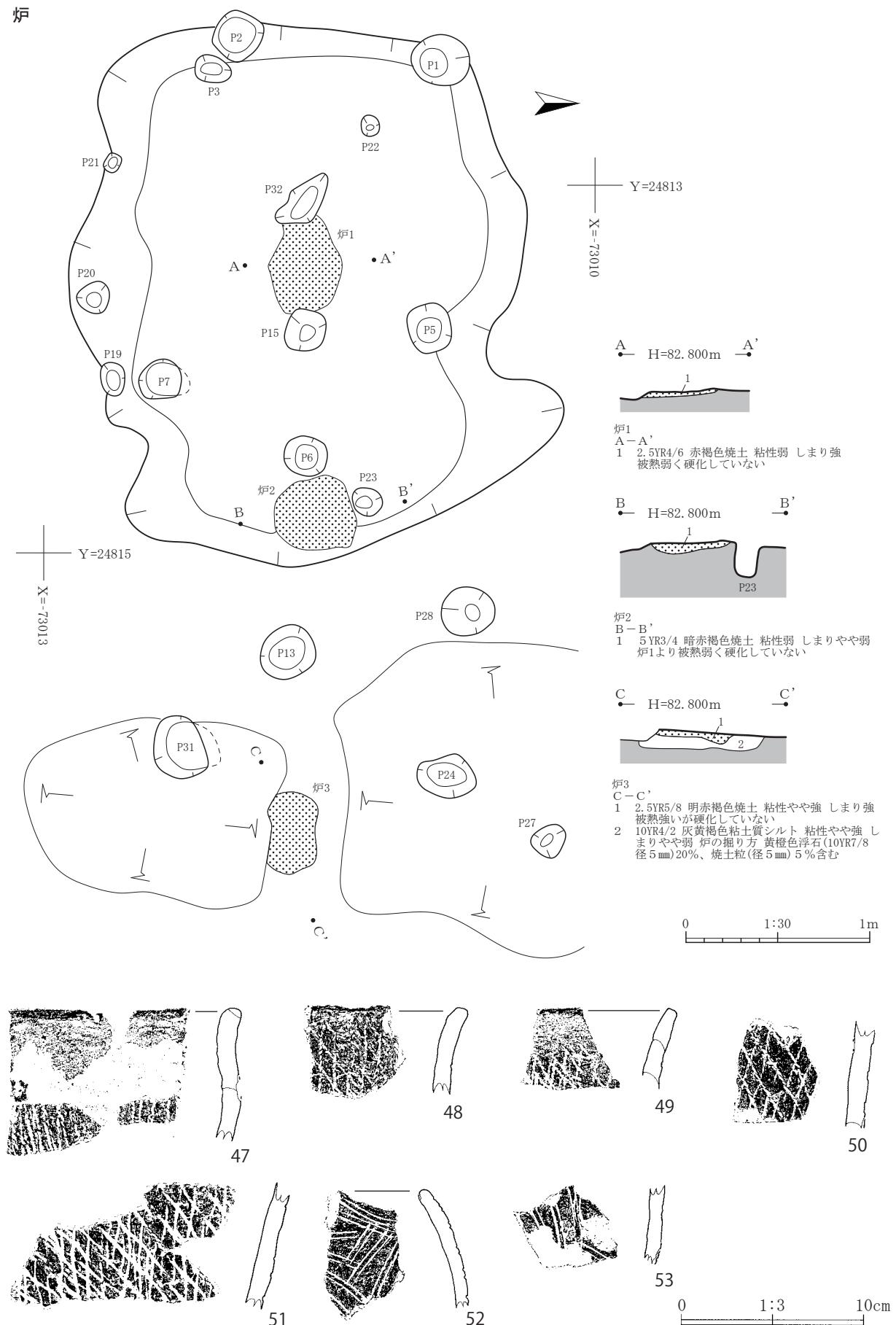
## 壁溝



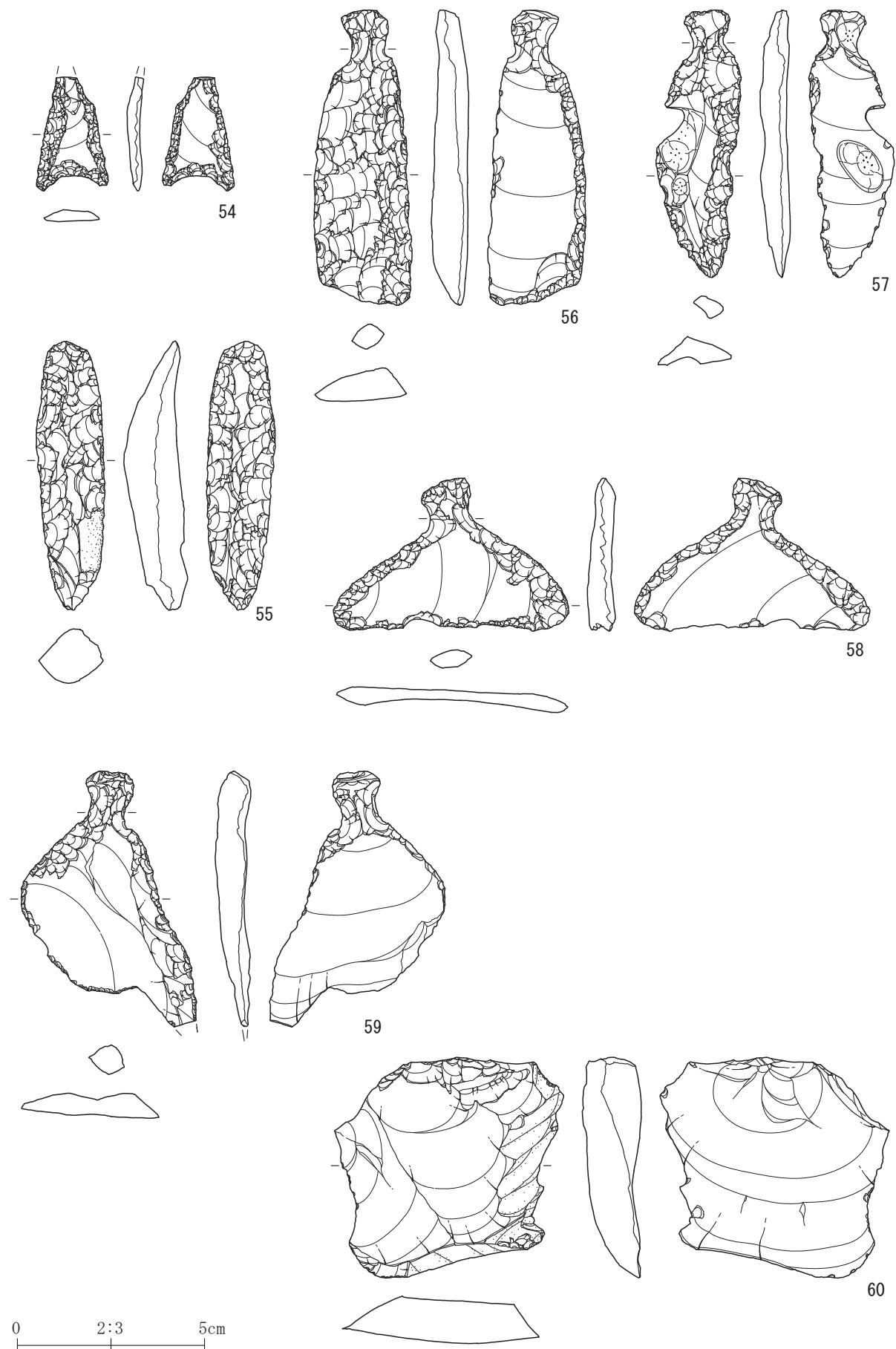
## 焼土塊



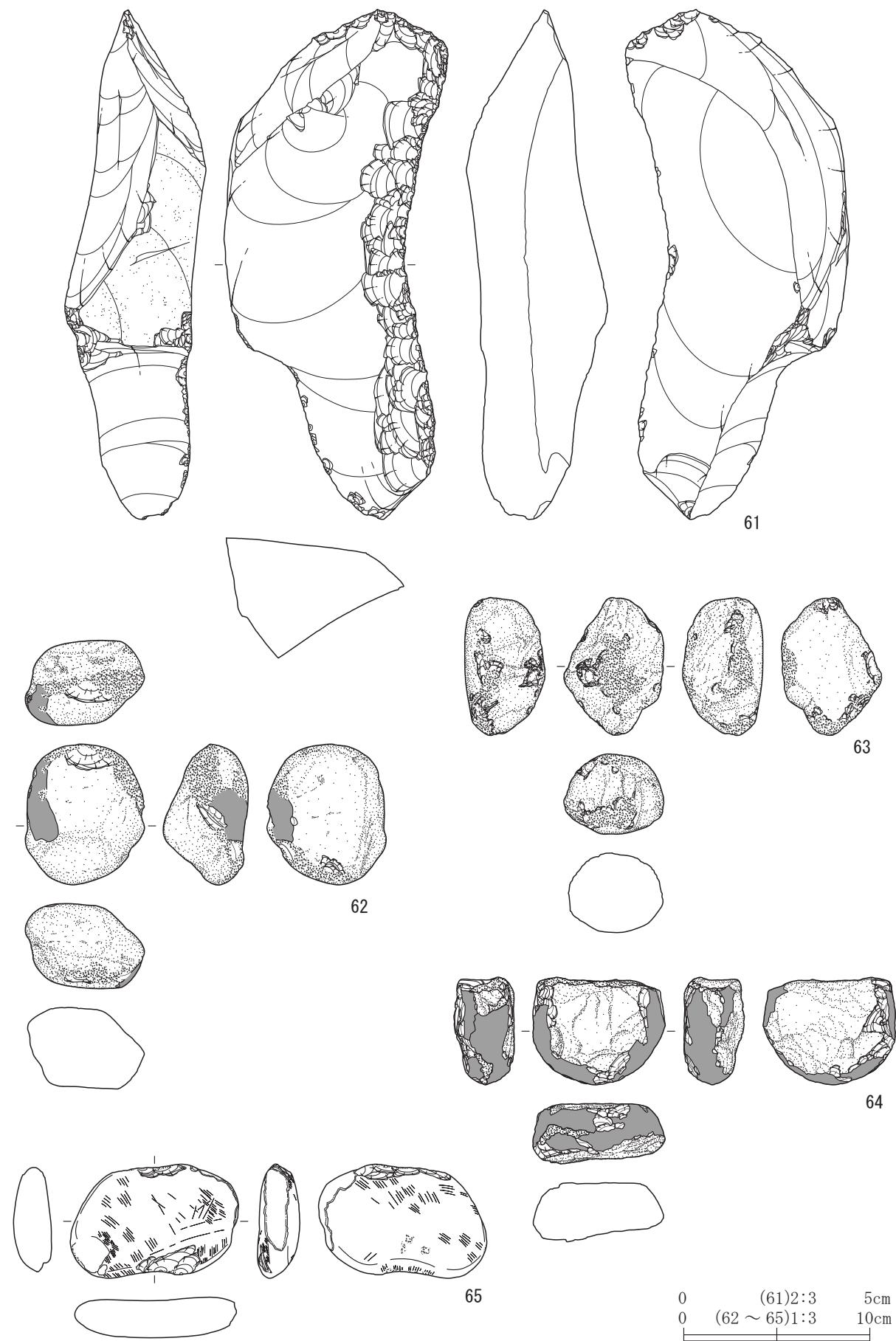
第17図 2号堅穴建物2



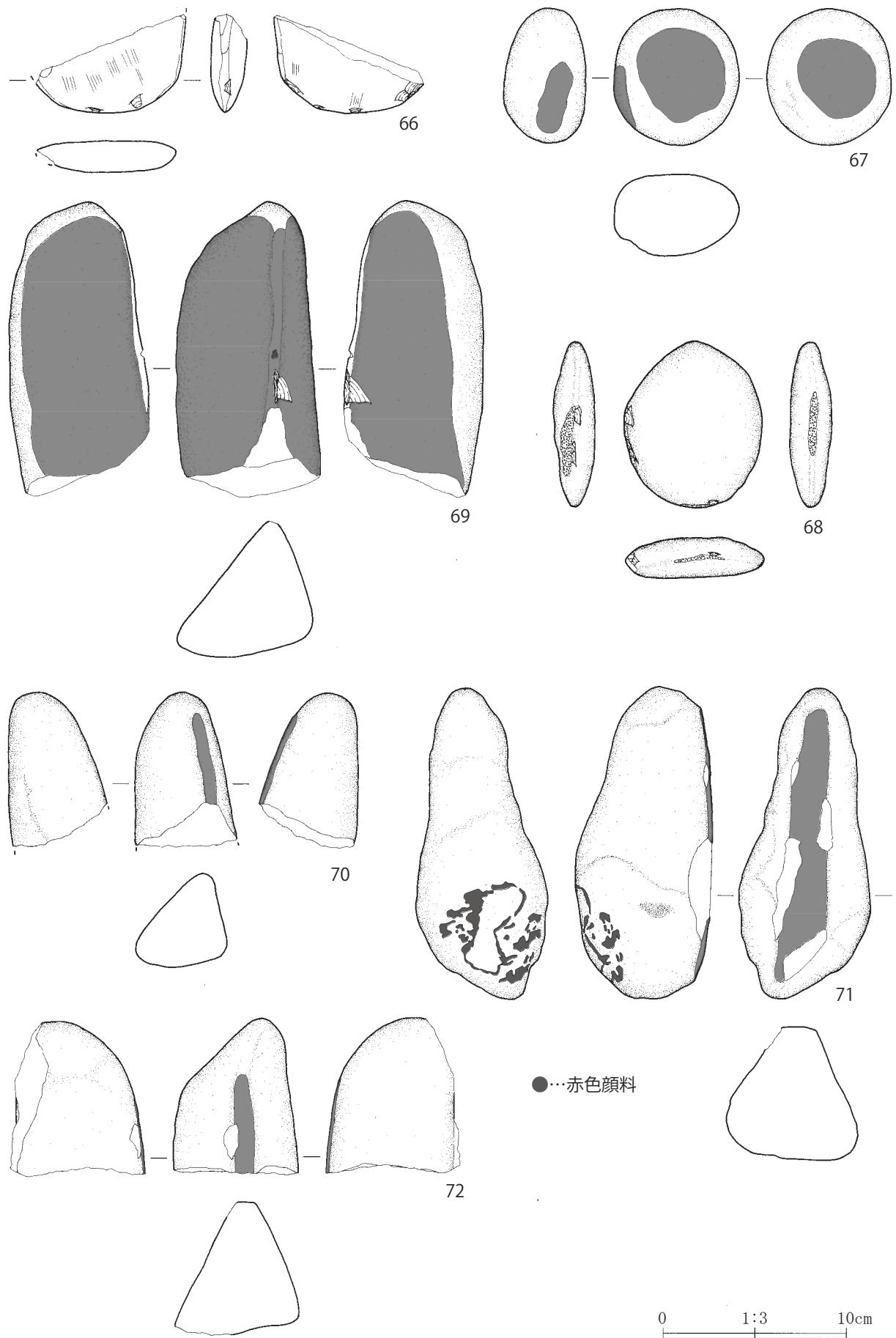
第18図 2号竖穴建物 3、出土遺物 1



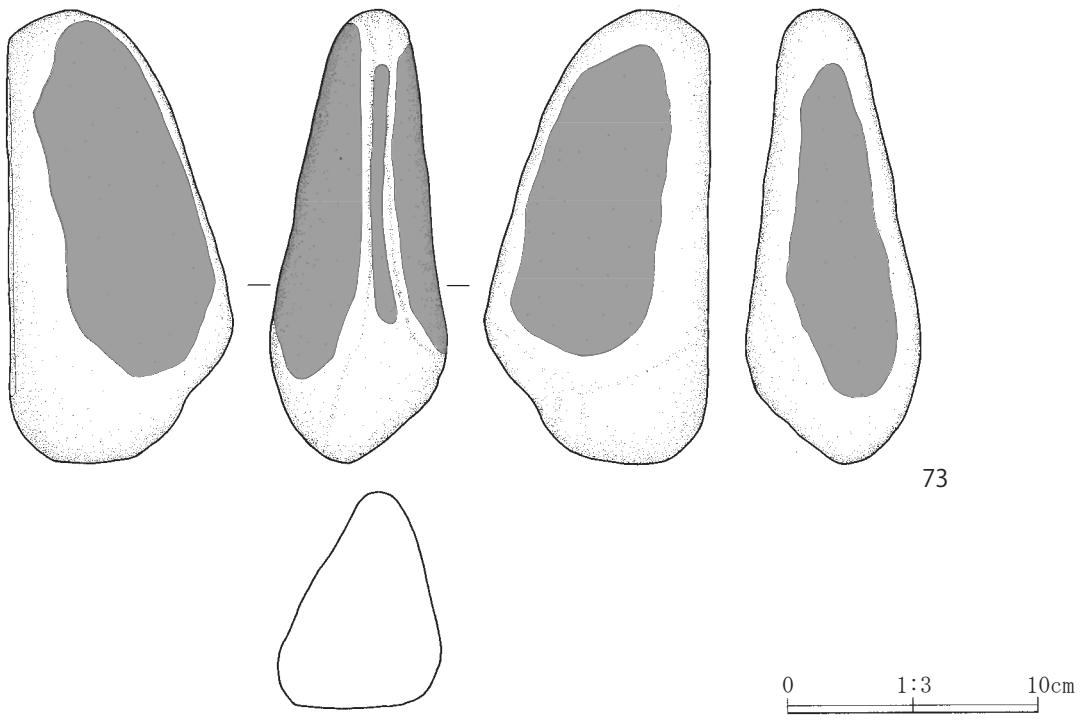
第19図 2号竖穴建物出土遺物 2



第20図 2号竖穴建物出土遺物 3



第21図 2号竖穴建物出土遺物 4



第22図 2号竪穴建物出土遺物5

## 3号竪穴建物（第23～26図、写真図版7）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区東側の平坦地、II B 3 w グリッド付近に位置する。6号竪穴建物を精査中、その東壁から続く黒色のプランを確認し、これを6号竪穴建物に付属する張り出し部と考えていたが、土層を確認したところ、6号竪穴建物とは別の竪穴建物であることがわかった。また土層から6号竪穴建物より本遺構の方が古いことを確認した。

＜平面形・規模＞ 平面形は不整な長楕円形を呈する。規模  $7.34 \times 4.40$  m を測る大型住居である。

＜堆積土＞ 上記の状況から土層断面は1箇所しか確認していないが、確認した範囲では、最大で22cmの堆積を確認した。この範囲から堆積土は4層（1～4層）に分層でき、暗褐色、褐色シルトを主体とする。堆積土中には白色の凝灰岩粒や炭化物が混じる。

＜壁・床面＞ 壁は6号竪穴建物に壊されている範囲を除き全周し、外へと広がりながら立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが北側の壁際は、わずかに高く、そのまま壁につながっていく。

＜炉・焼土＞ 炉は地床炉を4基確認した。やや不揃いだが、概ね床面中央の長軸方向に沿って並列している。なお炉2と炉4は6号竪穴建物に、炉3は攪乱に壊され、一部消失している。炉1は  $50 \times 36$  cm の楕円形、炉2は  $51 \times 37$  cm の楕円形、炉3は  $51 \times (29)$  cm の楕円形（？）、炉4は  $33 \times (24)$  cm の楕円形（？）を呈する。被熱はいずれも床面から3～6 cmに及ぶが、炉1・2は強く、焼土は赤褐色～明赤褐色を呈し、炉3・4は弱く、焼土はにぶい橙色～にぶい赤褐色を呈する。

＜柱穴・壁溝＞ 床面で15個確認したが、6号竪穴建物に壊されている柱穴もあると推測される。

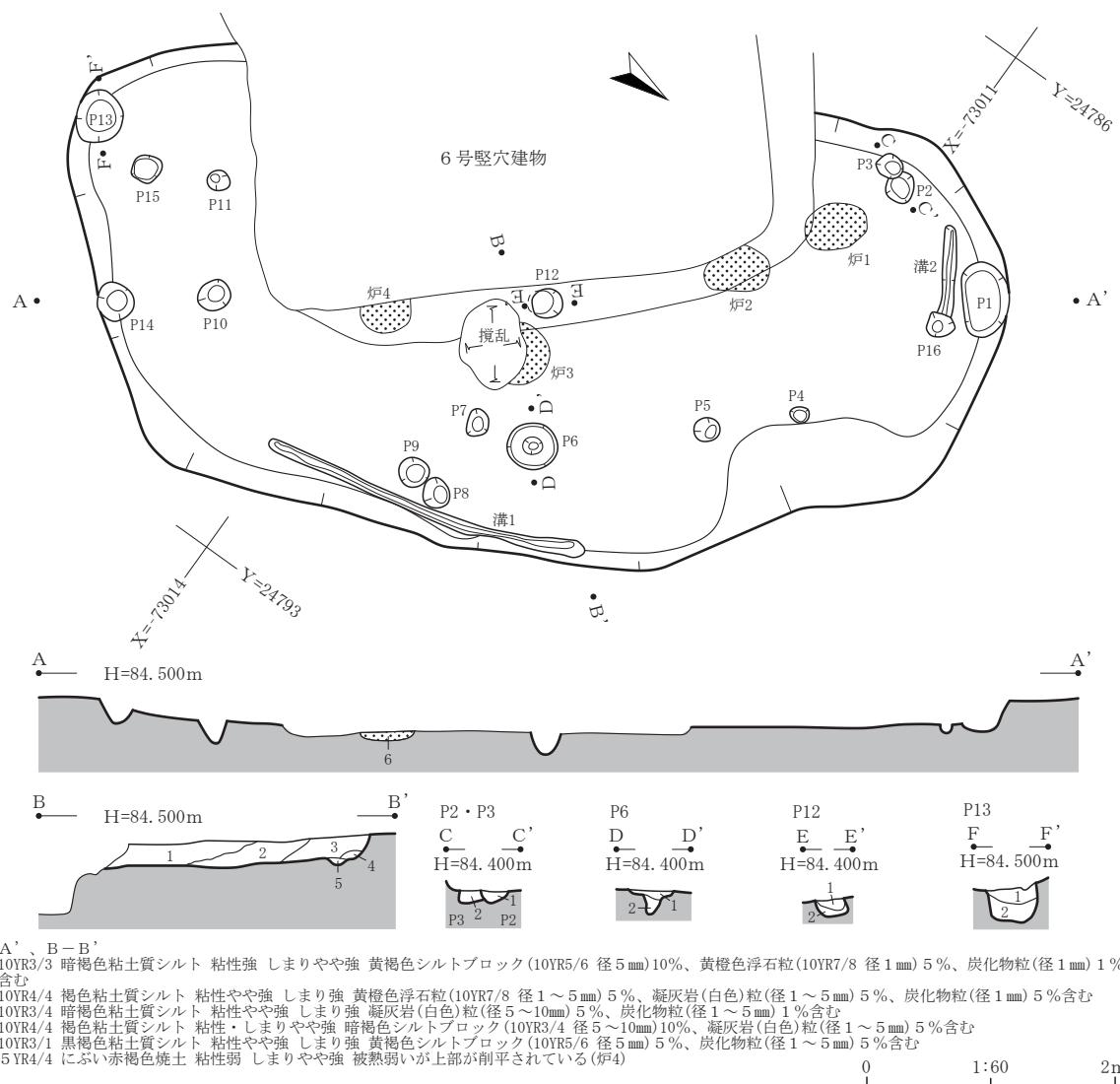
P 4～7は東壁際に長軸に沿って並んでおり、またP 1・10・12・14は炉1～4を挟んで、床面中央の長軸方向に並ぶ。規模はP 1・6・13は径40cm以上、他は径20cm前後である。深さはいずれも15～25cmを測る。壁溝は北壁際と東壁際で確認した。どちらも部分的に幅10cm、深さ10cmを測る。

＜遺物＞ 縄文土器は、350.4 g 出土している。出土量が少なく、またほとんどが小片であるが、これは本遺構が削平により、遺構の大部分を消失しているためと推測する。また流れ込みによる混入も多く、土器の帰属する時期が複数見受けられる。12点掲載した。74～76は前期前葉頃の土器と推測し、胎土には纖維が混入する。74は横位の結束羽状縄文が、75、76は単節縄文が施文される。77、78は

摩滅により文様が不明瞭だが、貝殻腹縁文にみえ、早期末葉の可能性がある。79～84は大木5式の範疇と捉えた土器群である。いずれも口縁部は無文で、79、80は頸部に隆帯が巡る。また82は頸部に縄文原体押圧文が施文される。胴部の地文には単節縄文(81)や、単軸絡条体1類(83)、単軸絡条体1A類(82)など見受けられる。84は小型の深鉢で無文で、胴部に輪積み痕が残る。85は口縁部から胴部にかけ、半裁竹管状工具による平行沈線を縦位に充填している。

石器は、石鏸2点、石匙2点、楔形石器1点、不定形石器2点、礫器1点、敲磨器類8点、フレイク30点が出土している。17点掲載した。86、87は石鏸で、無茎鏸である。88～90は石匙で、89は比較的大きく、また刃部の作出が途中であるため未成品(失敗品)と考える。91は楔形石器で、長辺の両側に階段状剥離が連続する。94～98敲磨器類で、素材となる礫は円形礫(94、95)と細長い礫(96～98)に二分できる。99は礫器とした。厚みのある頁岩を素材とし、稜線沿いに広く敲打した痕跡が見られる。100は凝灰岩製の砥石である。

＜時期＞ 出土した縄文土器から縄文時代前期前葉(大木2a式期)と判断した。なお堆積土下位から採取した炭化物を試料として炭素年代測定を試み、「 $1240 \pm 20$ yrBP」との結果を得た。これについては試料が重複する6号竪穴建物に属する炭化物であった可能性が高く、本遺構の年代とは異なる結果になったと考えている。



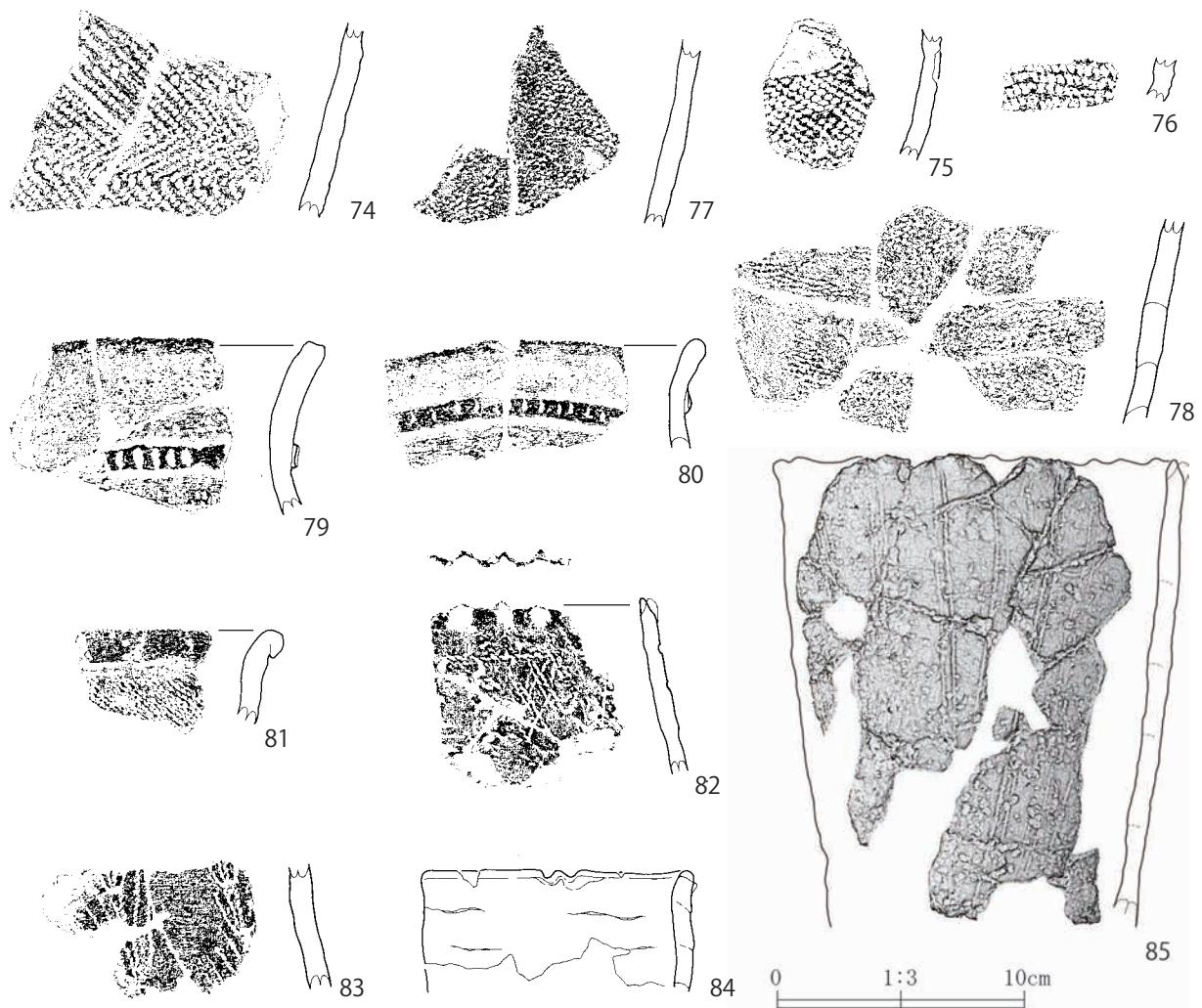
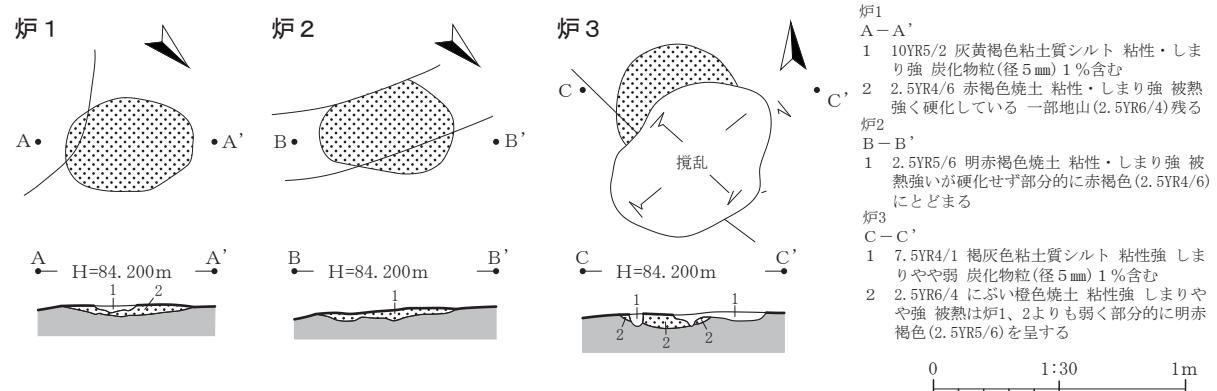
第23図 3号竪穴建物 1

P2・P3  
 C-C'  
 1 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性強 しまりやや強 黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径5mm)5%、炭化物粒(径1mm)1%含む  
 2 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまり強 黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径5mm)20%、凝灰岩(白色)粒(径5mm)1%、炭化物粒(径1mm)1%含む

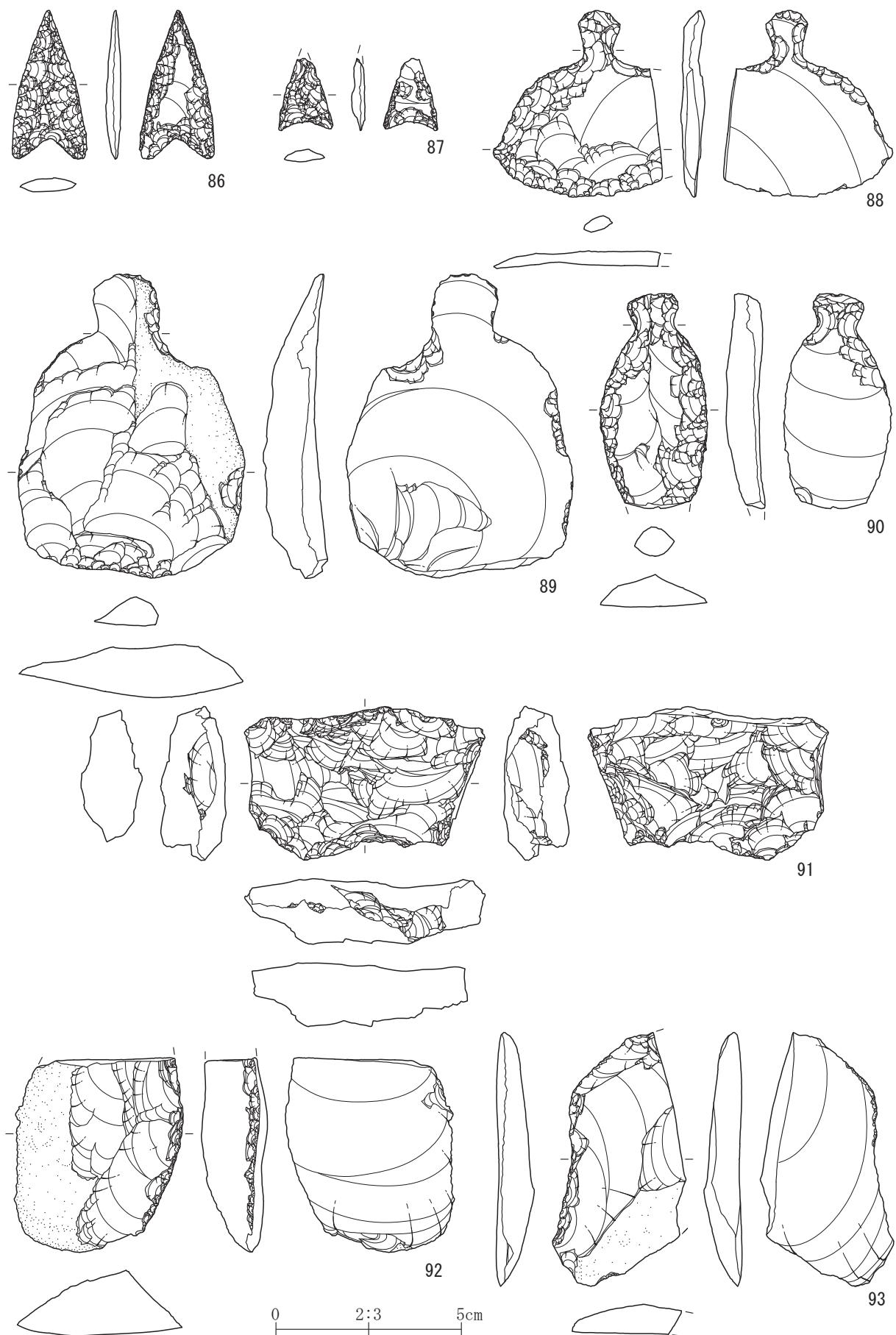
P6  
 D-D'  
 1 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性やや弱 しまりやや強 黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径5mm)10%、炭化物粒(径1~5mm)5%、橙色焼土粒(5YR6/8 径5mm)1%含む  
 2 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性強 しまりやや強 黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径5mm)10%、炭化物粒(径1mm)1%含む

P12  
 E-E'  
 1 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト 粘性・しまりやや弱 黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径5mm)10%、炭化物粒(径1mm)1%含む  
 2 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性強 しまりやや強 黑褐色シルトブロック(10YR2/2 径10mm)10%含む

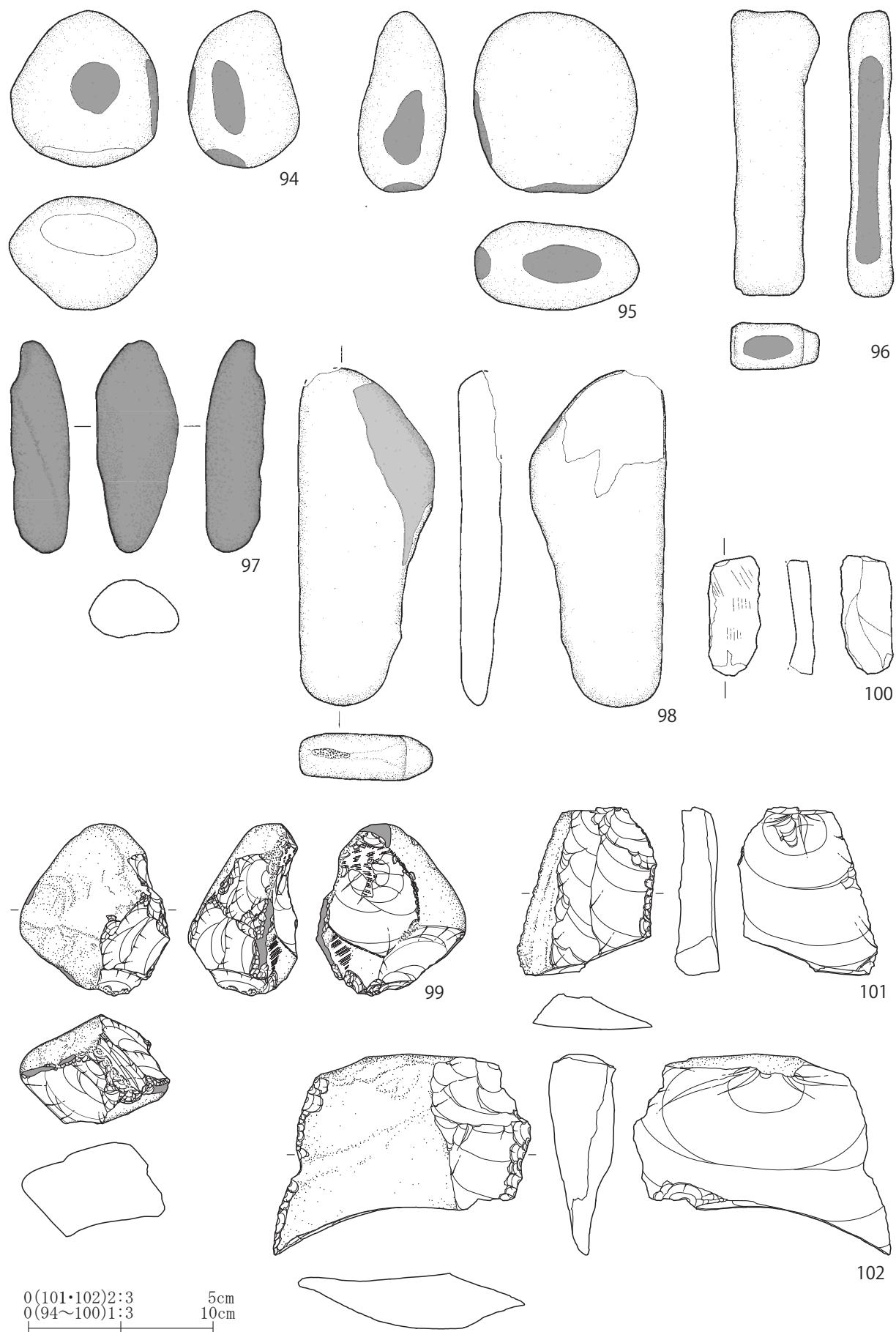
P13  
 F-F'  
 1 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性強 しまりやや強 黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径5mm)5%、炭化物粒(径5mm)1%含む  
 2 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性強 しまりやや弱 黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径20~30mm)30%、炭化物粒(径1mm)1%含む



第24図 3号竪穴建物2、出土遺物1



第25図 3号竪穴建物出土遺物 2



第26図 3号竖穴建物出土遺物 3

## 4号竪穴建物（第27・28図、写真図版8）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区東側の平坦地、ⅡB3uグリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出したが、遺構の東側約1/3は斜面の崩落により消失している。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞ 平面形は残存する範囲から不整な円形と推測する。規模は3.60×(3.16)mを測る。

＜堆積土＞ 最大で22cmの堆積を確認した。堆積土は全て黒褐色シルトで、6層に分層できるが、主体は2層である。暗褐色シルトや橙色焼土粒が混じる。

＜壁・床面＞ 本遺構は上部のほとんどを消失しているため、壁の形態・規模は不明であるが、5cm程度の壁の立ち上がりを確認している。壁は外へと緩やかに広がるものと推測する。床面は西側がやや高く、また全体的に凹凸が目立つ。

＜炉・焼土＞ 炉は地床炉で、床面の南西側で1基確認した。歪な楕円形を呈し、規模は93×55cmを測る。床面から最大で10cm下にまで及んでいる。焼土は概ね赤褐色を呈するが、部分的に明赤褐色である。

また北壁際で焼土を1箇所確認した。約半分が攪乱によって壊されている。規模は52×(25)cmで壁から床面の5cm下まで被熱する。当初、炉の可能性も考えたが、被熱が極めて弱く、また別色を呈した焼土粒が混じるので、炉とは別に何らかの理由で火を焚いた痕跡と判断した。用途は不明である。

＜土坑＞ なし。

＜柱穴＞ 3個確認した。配置に規則性はなく、3個とも床面の北側に寄っている。P1は64×43cmの楕円形で、深さ35cmを測るが、P2・3は径10～20cmの小柱穴である。

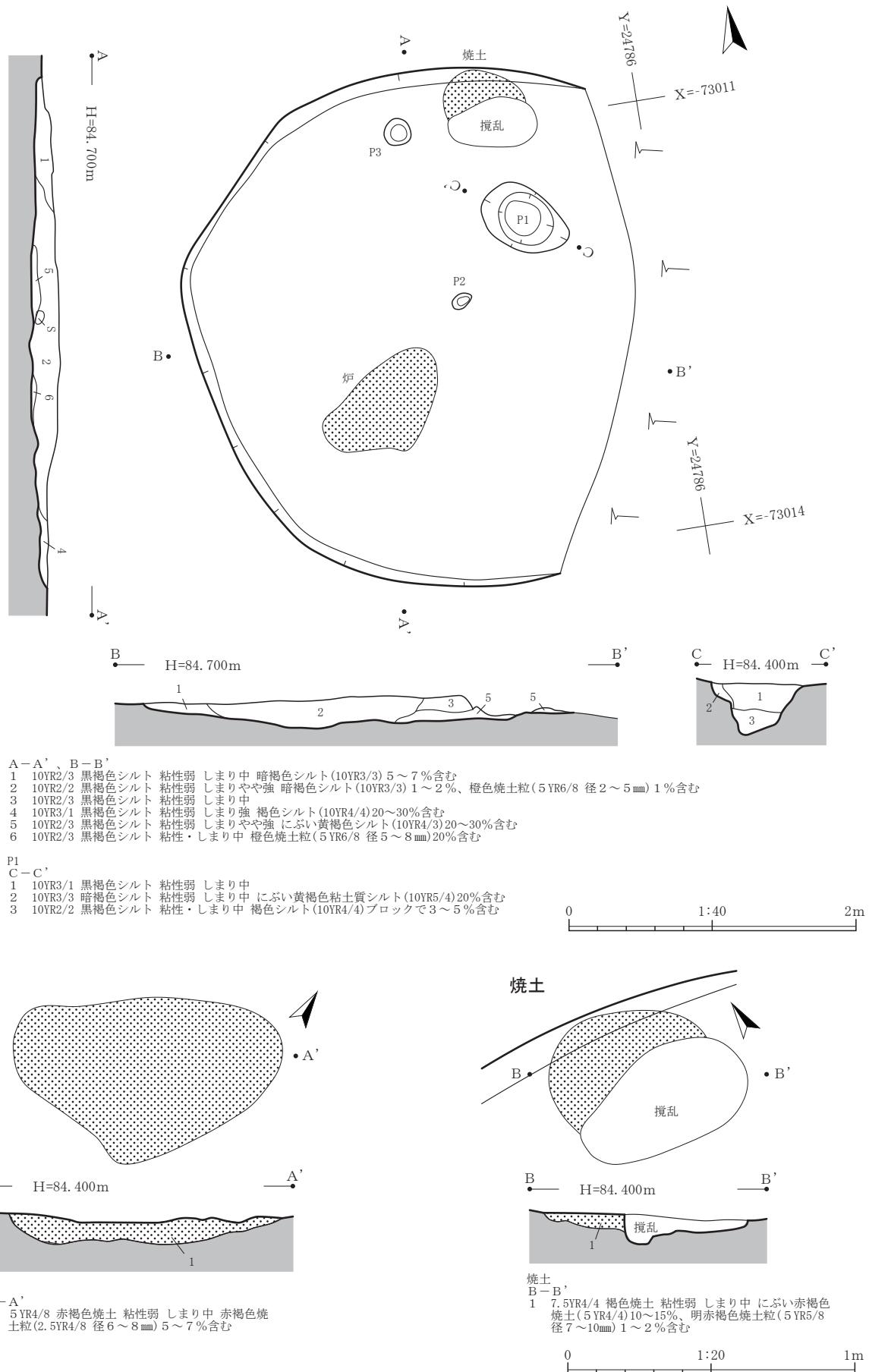
＜遺物＞ 繩文土器は、1314.4g出土している。出土量は比較的多いが、小片が多く、また帰属時期が複数見受けられることから、流れ込みによる混入が多いと推測する。

10点掲載した。103～105は小片であるが、大洞C1～C2式の鉢と推測する。いずれも口縁部に横位の沈線や刻みが巡る。また105は縦位のB突起が付く。106はミニチュア土器か。無文で、胴部下半に指頭による整形痕が見受けられる。晩期に帰属すると推測する。107～111は大木5式の範疇と捉えている。107は小型の球胴形深鉢で、頸部に半裁竹管状工具による押引文が横位に巡る。108は口唇部の形状が3号竪穴建物出土の82と同形態で、口縁部から胴部に半裁竹管状工具による縦位の平行沈線文と曲線状の文様が描かれている。109は口唇部に押圧文が施される。

土製品は、粘土塊が22点（総重量38.5g）出土している。1号竪穴建物に次いで多い出土量だが、流れ込みにより混入したものも多いと推測する。1点（112）掲載した。器面に扁平な面が多く、指頭による整形の可能性がある。

石器は、石錐1点、石匙1点、不定形石器1点、敲磨器類3点、フレイク14点出土している。6点掲載した。114は石錐で、やや扁平なフレイクを素材とし、錐部のみ作出している。115は縦型の石匙で、片面のみ二次加工を施し、刃部を作出している。116、117はユーズドフレイクである。117、118は敲磨器類で、主に側面に使用痕が残る。

＜時期＞ 出土した土器のうち、103～105を基にし、縩文時代晩期中葉（大洞C1式期）と判断した。



第27図 4号竪穴建物



第28図 4号竪穴建物出土遺物

5号竪穴建物（第29・30図、写真図版9）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央の北東側の平坦地、ⅡB1tグリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出したが、遺構の中央部分は試掘トレーニングにより削平され、また北側の一部も斜面の崩落により消失している。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞ 平面形は残存する範囲から不整な橢円形と推測する。規模は5.25×3.86mを測る。

＜堆積土＞ 最大で9cmの堆積を確認した。黒褐色、暗褐色シルトが主体で、3層に分層できる。炭化物や黄橙色浮石粒が混じる。

＜壁・床面＞ 本遺構は上部のほとんどを消失しているため、壁の形態・規模は不明であるが、5cm程度の壁の立ち上がりを確認しており、直立気味であったと推測する。床面は概ね平坦だが、東側と南側がやや高い。

＜炉・焼土＞ 炉は地床炉を2基確認した。どちらも攪乱により、部分的に削平されている。炉1はトレーニング内で確認した。床面のほぼ中央に位置し、不整な円形を呈する。規模は66×61cmを測り、床面から最大で6cmまで被熱している。炉2は床面の北西側に位置し、不整な橢円形を呈する。規模は98×75cmを測り、床面から最大で4cmまで被熱している。被熱は、炉1は強く、明赤褐色を呈し、それに比べて炉2は弱く、赤褐色を呈している。

＜土坑＞ なし。

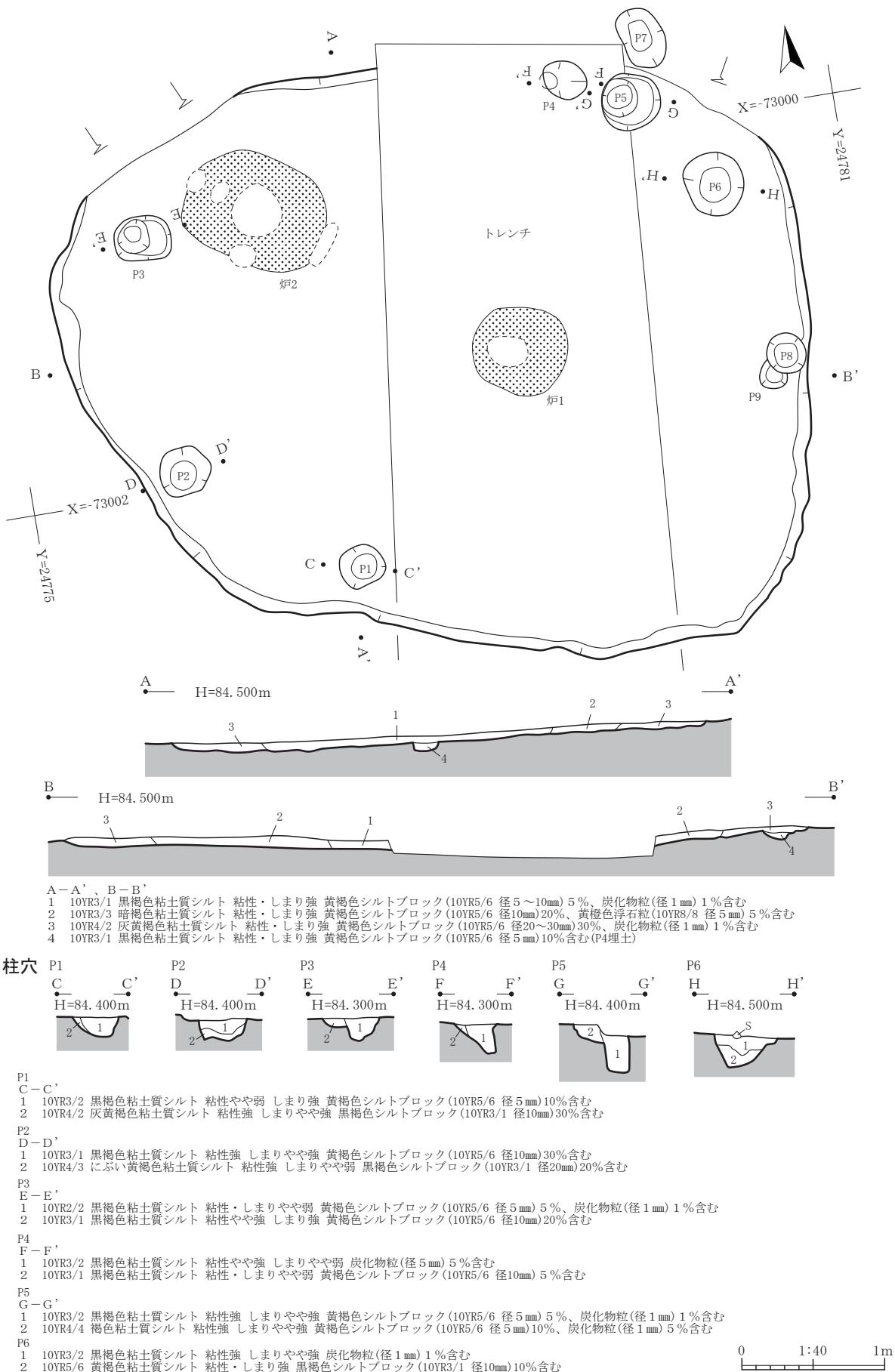
＜柱穴＞ 9個確認した。全て壁際に寄っているが、北西壁際と南東壁際では確認できなかった。規模は径30～40cmで、深さは15～30cmである。堆積土はいずれも黒褐色シルトを主体とするが、柱痕跡の残るものはない。

＜遺物＞ 土器は、315.4g出土している。出土量は少なく、また小片のみである。これは本遺構が床面とその直上のみしか残存しないため、ほとんどの遺物が消失したものと推測する。

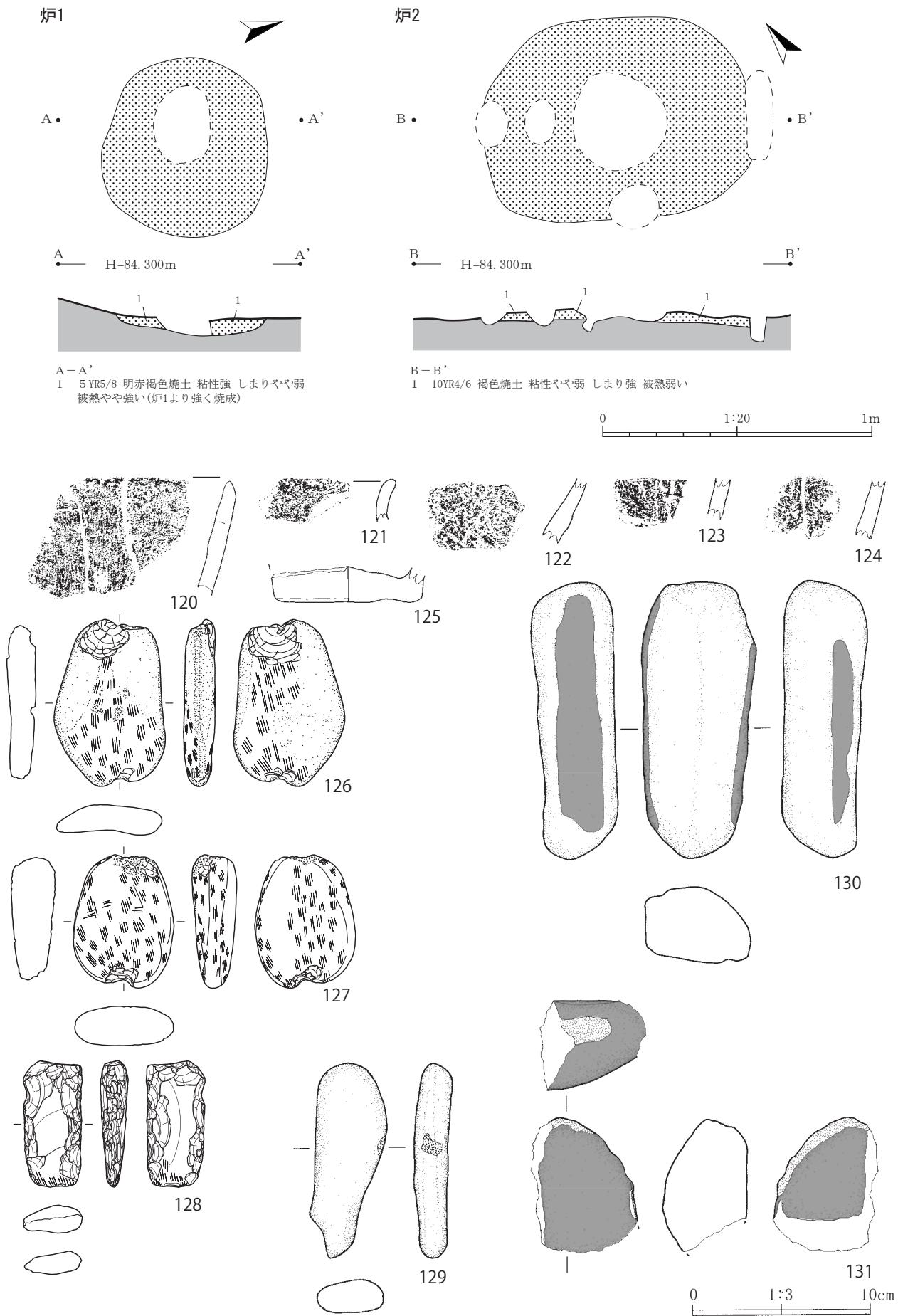
5点掲載したが、小片で、また文様に特徴がないものがほとんどである。120、121は鉢の口縁部片と推測する。どちらも無文で、比較的、厚みがある。北上市千苅遺跡などで出土した無文の鉢と類似しており、弥生土器の可能性がある。121は小型甕の口縁部か。わずかに外反する。無文。122～124も同様な器種の胴部片で、124には単節縄文が施文される。125は底部破片で小型の甕か。無文で、これも弥生土器の可能性が高い。

石器は石錐2点、磨製石斧1点、敲磨器類2点、フレイク2点出土している。概ね床面上から出土している。石錐（126、127）は打ち欠いていない方が長い「縦長」で、また体部の広い範囲に磨った痕跡が見受けられる。磨製石斧（128）は未成品で、まだ体部は剥離段階だが、端部は研磨され、刃部を形成している。

＜時期＞ 出土遺物は弥生時代前期と推定される土器が多いが、炉1上から採取した炭化物を試料とし、炭素年代測定を試みたところ、「 $2510 \pm 20$ yrBP」との結果を得た。これを基に検討し、縄文時代晩期後葉～末葉に帰属すると推測した。ただし出土遺物から弥生時代の遺構である可能性もある。



第29図 5号竖穴建物 1



第30図 5号竪穴建物2、出土遺物

## 6号竪穴建物（第31～33図、写真図版10）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区東側の平坦地、ⅡB4wグリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。3号竪穴建物と重複しており、本遺構の方が新しい。

〈平面形・規模〉 平面形は不整な正方形で、一辺が4.68～4.72mを測る（カマド煙道周辺は除く）。なおカマドが付く東壁を除き、幅35～50cmの浅い段状施設が壁際に巡っており、この施設を除いた規模は一辺4.20～4.30m、床面積は14.34m<sup>2</sup>である。

〈堆積土〉 最大で72cmの堆積を確認した。9層に分層でき、黒褐色シルトを主体とする。壁際は三角堆積を呈しており、自然堆積と推測した。堆積土中には炭化物や村崎野由来の黄橙色浮石粒などが混じり、また3層下位に灰白色火山灰のブロックが混入している。この火山灰は同定分析を試み、「十和田aテフラ（To-a）」の可能性が高いとの結果（第V章-2）を得ている。

〈壁・床面〉 壁はやや外へと開くが直立気味に立ち上がり、中位から上位は大きく開き、段状施設を形成している。段状施設の幅は15～20cmで、壁は大きく外へと広がりながら立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが、西壁際は低い。

〈カマド〉 東壁の南隅に付く。燃焼部焼土面、煙道が残存し、袖は消失している。燃焼部焼土面は壁際から45cmほど手前で確認した。柱穴（P7）に壊されている。規模は45×37cmを測る。被熱深度は10cmで、被熱は強く、焼土は明赤褐色～にぶい赤褐色を呈する。煙道は割り抜き式で東壁から77cmのびる。東壁際が最も高く、約10°傾斜し、煙出しピットへ至る。30×25cmの煙出しピットがあり、底面が煙道より25cm下がる。カマドのある箇所の東壁外側（煙道の天井部）は、半円形のスロープ状を呈する。規模は58×102cmで検出面から約35°傾斜し、東壁へと連結している。中央部がやや窪むが、それ以外の特徴がなく、用途は不明である。

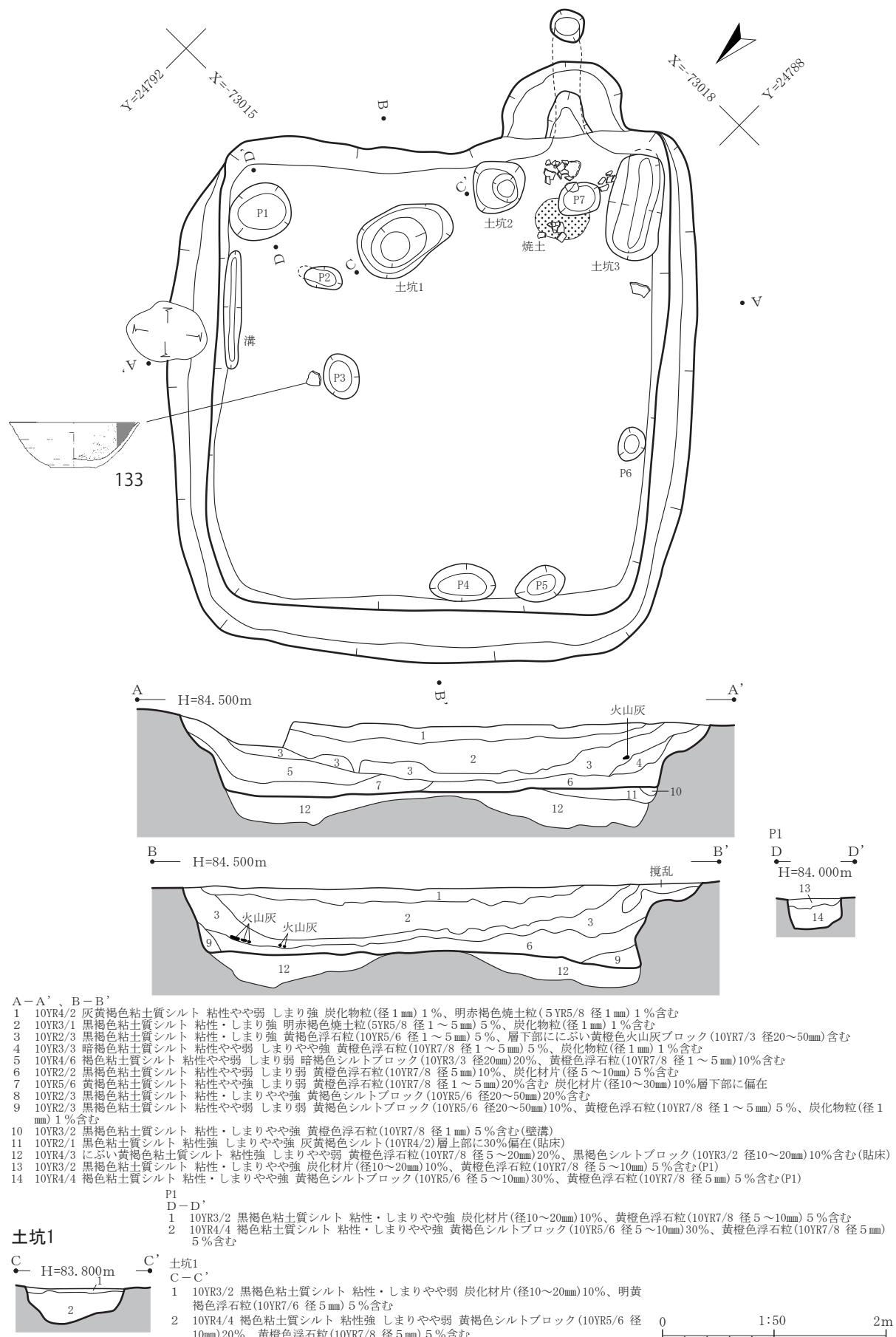
〈土坑〉 3基確認した。土坑1は東壁近くに位置し、94×58cmの楕円形で、深さ30cmを測る。用途は不明である。土坑2・3はカマドの両脇に位置するので、貯蔵穴と推測する。土坑2は50cmの歪な方形で、深さ17cm。堆積土中から土師器甕（137）が出土している。土坑3は95×45cmの楕円形を呈し、深さは45cmを測る。

〈柱穴〉 7個確認した。P2・3以外は壁際に寄るが、規則性がなく、柱配置は不明である。またP7はカマド廃絶後に構築され、カマドの燃焼部焼土面を壊している。規模は径40～60cmで深さは15～25cmである。埋土はいずれも黒褐色シルトを主体とするが、柱痕跡の残るものはない。

〈遺物〉 土器は、4879.8g出土している。主に土師器、須恵器であるが、縄文土器も多く、これは重複する3号竪穴建物の遺物が流れ込んで混入した可能性が高い。

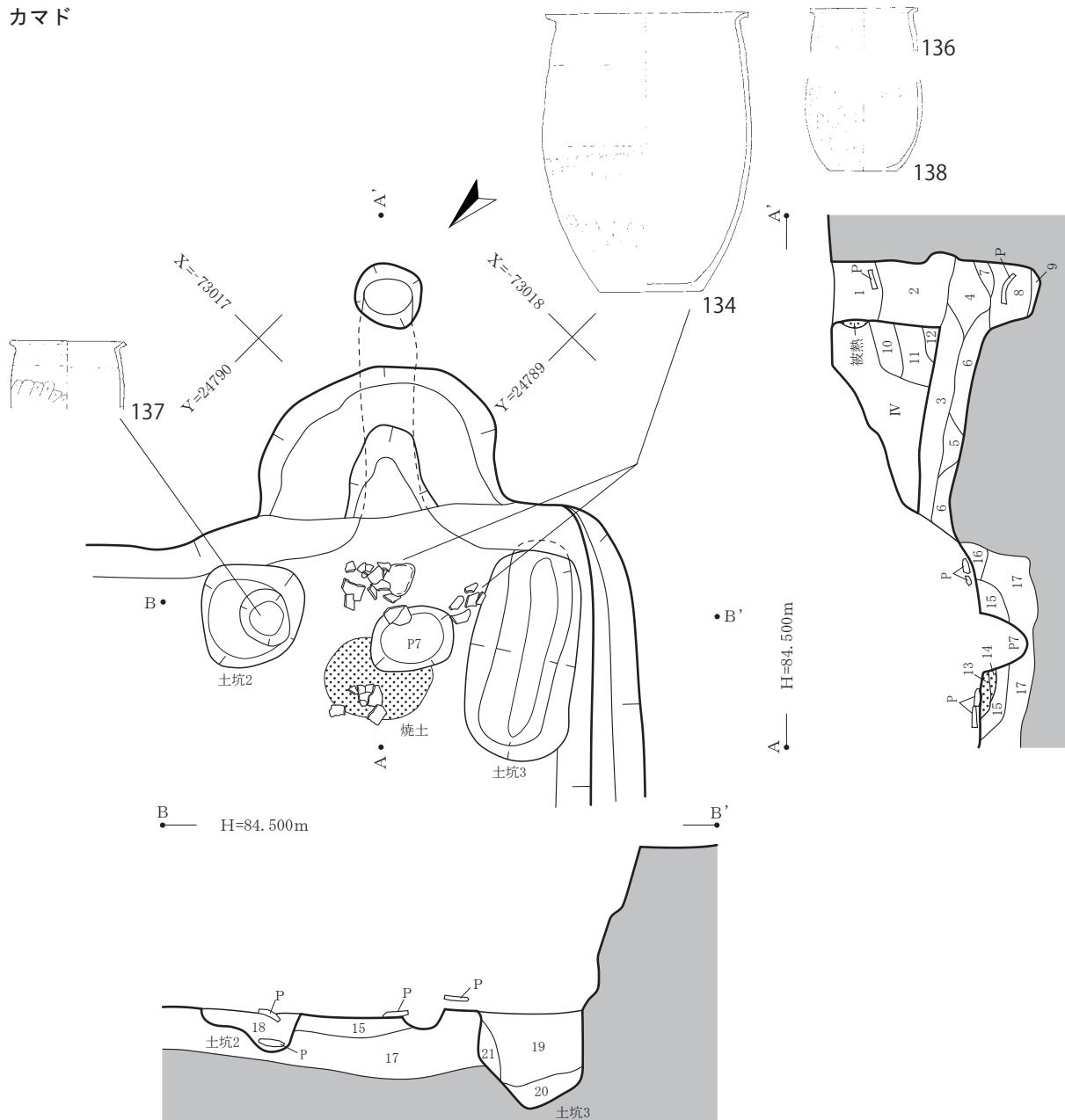
本遺構の床面上やカマド周辺、また土坑2内から出土した、土師器、須恵器11点を掲載した。132は壊で、口クロ成形、内面は非黒色処理である。底面糸切り後、整形処理が施されている。133も壊で、口クロ成形、内面は黒色処理が施される。134は甕で、カマドの燃焼部焼土面上やその周辺の床面から出土した。底面と口縁部の一部を除き概ね残存する。口クロ成形で、胴部下半はケズリにより成形されている。口縁部が大きく外反し、胴部が張る器形である。135～139も甕で、134とほぼ同様の口クロ成形で、形態も同じと推測する。140～142は須恵器大甕の胴部片で、外面はタタキメ、また内面にはナデ成形（？）が見受けられる。141、142は色調が灰白色を呈し、還元不足の可能性が高い。

〈時期〉 出土した土師器の特徴から、10世紀代前半と判断した。ただし床面上と土坑1の1層から出土した炭化物を試料とし、炭素年代測定を試みたところ、「1280±20yrBP」、「1290±20yrBP」との結果（第V章-1）を得ている。



第31図 6号堅穴建物1

## カマド

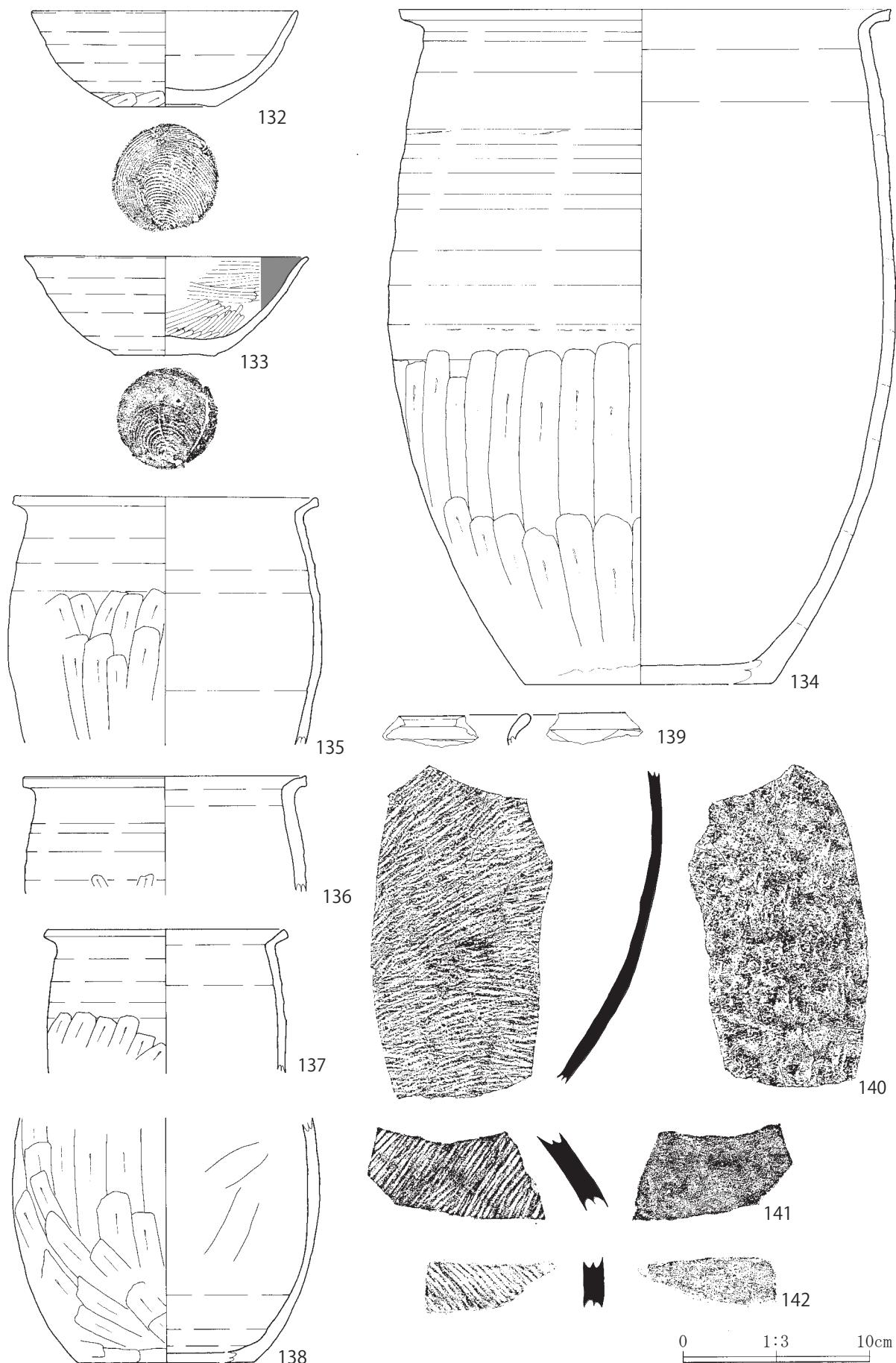


A-A'、B-B'

- 1 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性やや弱 しまりやや強 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5mm)5%、灰白色火山灰ブロック(10YR7/1 径5~15mm)下部に5%、炭化物粒(径1mm)1%含む
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質シルト(やや砂質) 粘性弱 しまり弱 黒褐色シルトブロック(10YR3/2 径10~20mm)30%含む
- 3 7.5YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性・しまり弱 にぶい赤褐色焼土ブロック(2.5YR4/3 径5mm)5%含む
- 4 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト 粘性やや弱 しまり弱 黄褐色シルトブロック(10YR5/8 径1~5mm)5%含む
- 5 7.5YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性・しまりやや強 にぶい赤褐色焼土ブロック(2.5YR4/3 径5mm)30%、炭化物粒(径1mm)5%含む
- 6 7.5YR2/1 黒色粘土質シルト 粘性やや強 しまり弱 にぶい赤褐色焼土ブロック(2.5YR4/3 径5~10mm)20%、炭化物粒(径1~5mm)5%含む
- 7 10YR5/8 黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 しまり弱 黑褐色シルトブロック(10YR3/2 径10mm)20%含む
- 8 10YR2/1 黒色粘土質シルト 粘性やや弱 しまり弱 黄褐色シルトブロック(10YR5/8 径1mm)20%、土器片含む
- 9 10YR6/4 にぶい黄橙色粘土質シルト 粘性強 しまりやや強 黑褐色シルトブロック(10YR3/1 径5mm)10%含む(地山土が崩落し堆積)
- 10 10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりやや強 にぶい赤褐色焼土ブロック(2.5YR4/3 径10~20mm)10%、黄褐色シルトブロック(10YR5/8 径1~5mm)5%含む
- 11 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性強 しまりやや強 にぶい赤褐色焼土ブロック(2.5YR4/3 径5mm)5%、暗褐色シルトブロック(10YR3/3 径10mm)5%含む
- 12 10YR5/3 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや弱 にぶい赤褐色焼土ブロック(2.5YR4/3 径5mm)5%、黒褐色シルトブロック(10YR3/1 径10mm)10%含む
- 13 2.5YR5/6 明赤褐色焼土 粘性弱 しまり強 被熱強く硬化している一部黒色(10YR2/1)を呈している
- 14 5YR5/4 にぶい赤褐色粘土質シルト 粘性・しまり強 被熱し赤みを帯びる 黄橙色浮石粒(10YR8/8 径5mm)5%含む
- 15 10YR3/2 黑褐色粘土質シルト 粘性・しまり強 カマドの掘り方か 黄橙色浮石粒(10YR8/8 径10~20mm)10%、明赤褐色焼土粒(2.5YR5/8 径5mm)5%含む
- 16 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりやや弱 黄橙色浮石粒(10YR8/8 径5mm)5%、明赤褐色焼土粒(2.5YR5/8 径10mm)1%含む
- 17 10YR4/2 褐色粘土質シルト 粘性強 しまりやや弱 貼床土 黄橙色浮石粒(10YR8/8 径10~20mm)30%含む
- 18 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりやや強 明赤褐色焼土粒(5YR5/8 径1~5mm)5%、灰白色火山灰(10YR8/1 径50mm)下部に5%、炭化物粒(径1mm)1%含む
- 19 10YR3/2 黑褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまり弱 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5mm)10%、明赤褐色焼土ブロック(5YR5/6 径10mm)5%、炭化物粒(径1mm)1%、層上面に灰白色火山灰5%含む
- 20 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性強 しまり弱 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径10~15mm)5%含む
- 21 10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性強 しまりやや弱 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径10mm)20%含む(貼床土)

0 1:30 1m

第32図 6号竪穴建物2



第33図 6号竖穴建物出土遺物

## (2) 焼土遺構

今回の調査において3基検出した。いずれも他の遺構との関連性が認められず、単独で検出したものである。

## 1号焼土遺構 (第34図、写真図版11)

〈位置・検出状況〉 調査区北東側のIB 24 wグリッドに位置し、表土下のⅢ層で検出した。

〈焼土〉 にぶい赤褐色焼土が70×59cmの範囲に広がる。検出面から焼成痕跡までの深度は3cmを測る。

〈遺物〉 出土していない。 〈時期〉 出土遺物がなく、遺構の時期は不明である。

## 2号焼土遺構 (第34図、写真図版11)

〈位置・検出状況〉 調査区北東側のIB 25 xグリッドに位置し、表土下のⅢ層で検出した。

〈焼土〉 にぶい赤褐色の焼土が95×77cmの範囲で楕円状に広がっている。検出面から焼成痕跡までの深度は9cmを測る。

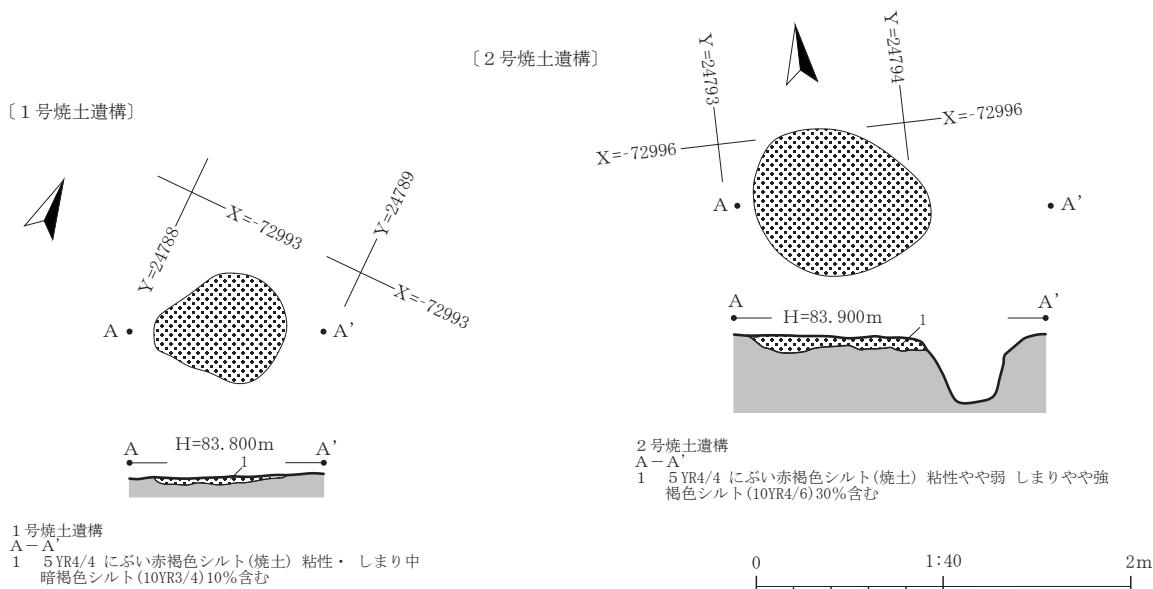
〈遺物〉 出土していない。 〈時期〉 出土遺物がなく、遺構の時期は不明である。

## 3号焼土遺構 (第35図、写真図版11)

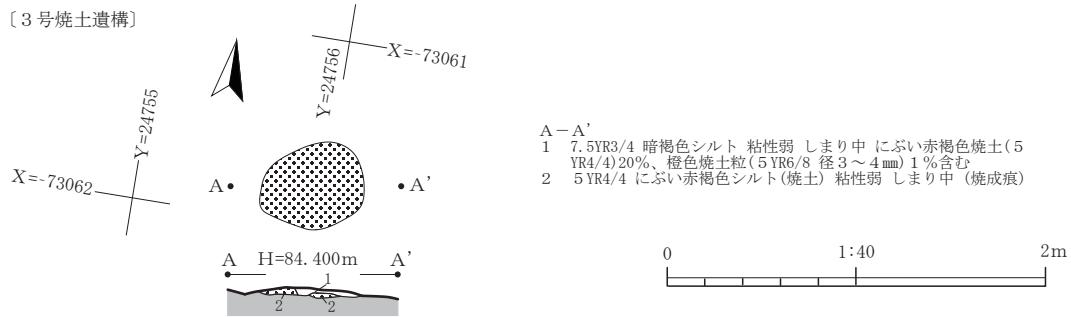
〈位置・検出状況〉 調査区南側のIB 16 n・16 oグリッドに跨がって位置し、表土下のⅢ層で検出した。

〈焼土〉 にぶい赤褐色の焼土が57×43cmの範囲で楕円状に広がっている。焼土の一部は上層の暗褐色シルトに覆われている。検出面から焼成痕跡までの深度は3cmを測る。

〈遺物〉 出土していない。 〈時期〉 出土遺物がなく、遺構の時期は不明である。



第34図 1・2号焼土遺構



第35図 3号焼土遺構

### (3) 土 坑

28基検出した。1～10号土坑が調査区北西部の平坦～斜面縁部、11～15号土坑が調査区西側平坦部、16～28号が調査区東側の竪穴建物群周辺でそれぞれまとまって検出された。形状は円形・橢円形で各土坑の詳細については第3表に記載したとおりであり、ここでは出土遺物等、特徴がある遺構を中心に概観する。

1～4号土坑はいずれも調査区北西部の斜面地において近接して検出された。遺構の規模は開口部径136～174cm、底部径115～152cm、深さ103～132cmを測り、底部中央に窪み状の副穴を1基伴う。副穴の規模は径約40cm、深さ15～17cmを測る。出土遺物はないが規模や形状・構造的要素から貯蔵穴と推定される。時期は遺物が出土していないため詳細は不明であるが、1号土坑の堆積土2層より採取した炭化物を放射性年代測定による分析を行った結果、縄文時代後期初頭～前葉頃であることが明らかとなったことから、これよりも古い時期の遺構である。

6号土坑からは土器が28.2g出土している。145、146はどちらも胴部で、同一個体と考えている。146には単節縄文が施文される。その縄文原体が細小であるので、弥生土器と判断した。弥生前期か。

7号土坑は調査区北西部の平坦地に位置し、堆積土1層下で炭化物・焼土・土器が集中して検出された。2層以下に出土遺物はなく、2層には粒径の大きい村崎野浮石粒が多く混入することから、埋め戻し土である可能性もあり、祭祀的な要素を伴った遺構の可能性も考えられる。7号土坑からは土器が839.1g出土している。147～150は、土師器の長胴甕で、器形や成形の特徴から7世紀前半に帰属すると判断した。2個体分と考えているが、どれも欠損部分が大きく、掲載図は残存部分から復元した。147は口縁部片で、接合部はなかったが、150と同一個体と考えている。口唇部直下でやや内湾する。成形痕は付着した炭化物により確認できなかったが、この外面に付着した炭化物を試料とし炭素年代測定を試みたところ、「 $1470 \pm 20$ yrBP」との結果（第V章-1）を得ている。148、149は同一個体である。内外面にはハケメ成形を施している。ただし口縁部にはヨコナデを施し、ハケメを消している。また胴部下半の内外面に、付着物（炭化物？）が付く。150は胴部のほとんどを欠損しており、全体が復元できなかった。器面全体にハケメ成形をし、その後、口縁部と頸部に横位のミガキを施している。出土した土器の特徴や付着した炭化物の年代測定の結果、6世紀後半～7世紀前半、古墳時代の遺構であることが明らかとなった。

16号土坑は調査区北東部の斜面地で検出した。遺構の大半が削平され失われていたが、出土遺物

は多く、堆積土下部を中心に縄文土器が 1565.9 g 出土している。152、153 は同一個体だが、口縁部から胴部の広い範囲を欠損し、器形全体が復元できなかった。波状口縁を呈し、口縁部は無文である。頸部に刻みを加えた隆帯が付き、胴部には多軸絡条体が施文される。大木 5 式の範疇と推測する。石器は礫器、敲磨器類、フレイク各 1 点が出土している。154、155 は敲磨器類で側面に磨痕が見受けられる。

20 号土坑は、形状は開口部・底部ともに橢円形を呈し、規模は開口部径約 266 × 215cm、底部径 216 × 171cm、深さ 81cm を測る。底面施設として柱穴状土坑 3 個と壁に沿って幅 10cm ほどの浅い溝が巡っている。また中央には炭化物が径 34 × 33cm 範囲に広がっている。底面施設から屋根を被せた施設である可能性が想定される。遺物は縄文土器が 10822.5g 出土しており、調査した遺構のなかで最も出土量が多い。特に堆積土の中位から下位にあたる 4 層で、大木 5 式の範疇に収まる土器群がまとまって出土している。ただし破片資料が多く、掲載した土器も復元して図示したものがほとんどである。157 は深鉢の口縁部片で、4 単位の波状口縁と推測する。口唇部下が肥厚し、口縁部には半裁竹管状工具による鋸歯状文が描かれている。161 も 4 単位の波状口縁の深鉢で波頂部下に球条の突起が付き、また頸部には隆帯が巡る。隆帯には細かい刻みが施されている。また胴部には単節縄文を交互に施し、格子状を呈している。土製品は粘土塊（170）が出土している。石器は石鎌、石匙、礫器各 1 点、フレイク 22 点が出土しており、フレイクの多さが目立つ、石製品は滑石製の管玉（176）が出土している。なお底面から採取した炭化物を試料として炭素年代測定を試み、「 $4850 \pm 30$  yr BP」との結果を得た（第 V 章 - 1）。

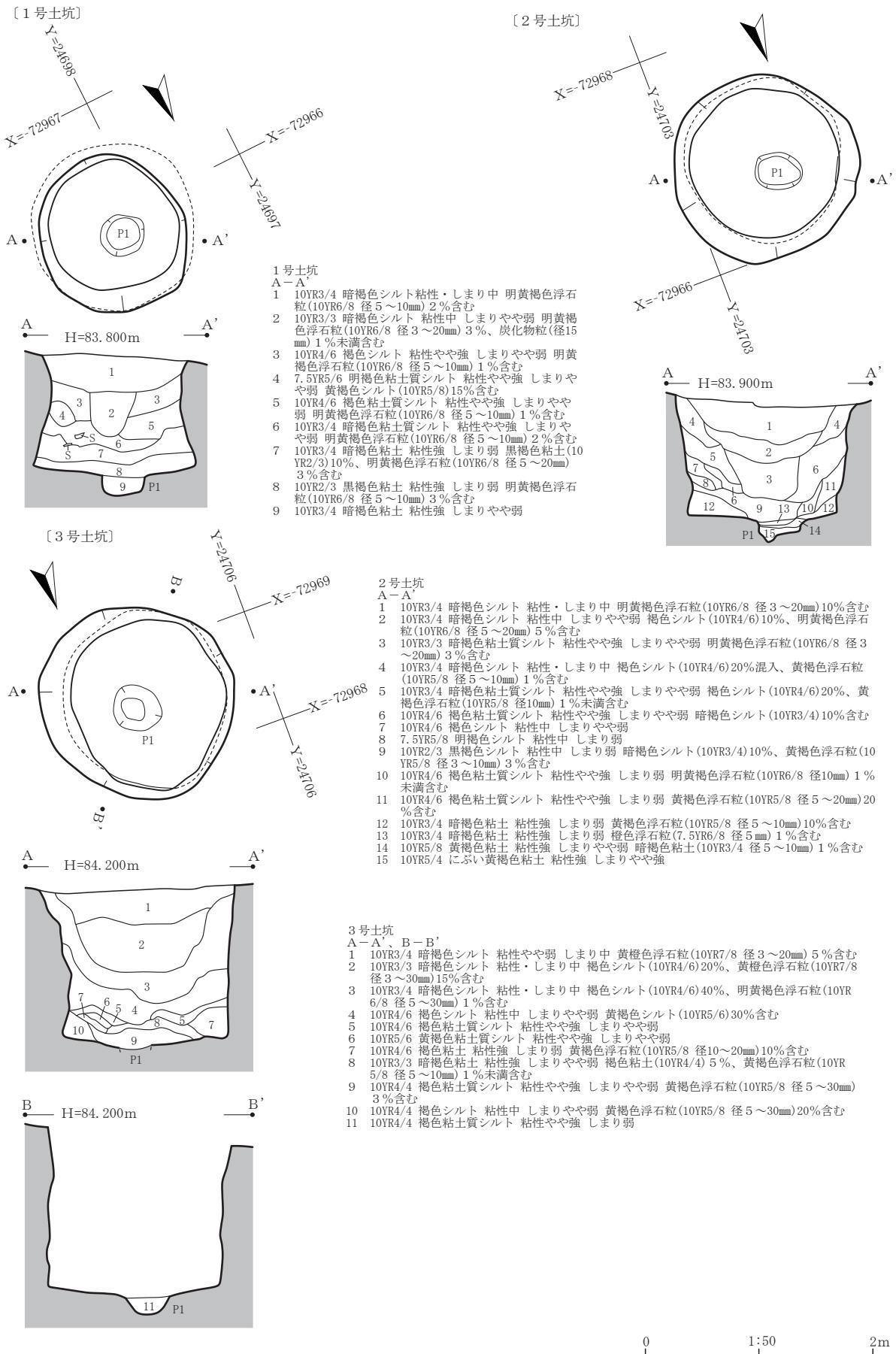
24・25 号土坑はいずれも調査区東側の斜面縁部で検出した。堆積土の上位を中心に 24 号土坑からは土器 2380.9 g、フレイク 1 点、25 号土坑からは土器 609.8 g、フレイク 1 点、粘土塊 1 点が出土している。24 号土坑から出土した 183、184 は同一個体であるが、両者には接合する部分がなく、それぞれ別に図示した。球胴形深鉢の口縁部から胴部の破片で、大きく外反する口縁部には、半裁竹管状工具による鋸歯状文が巡る。また頸部には沈線との押引文が横位に巡る、胴部には単節縄文が施文される。大木 5 式の範疇に収まる土器と推測する。25 号土坑出土した 177 も深鉢で、口縁部から胴部まで残存する。口唇部は波状口縁で、口縁部は無文、頸部には押圧を加えた隆帯が巡る。胴部には単軸絡条体 1 類が施文される。大木 5 式の範疇と捉えている。

これ以外の土坑では 14 号土坑 (3.8 g)、18 号土坑 (195.9 g)、22 号土坑 (15.3 g)、23 号土坑 (140.3 g)、28 号土坑 (9.5 g) で縄文・弥生土器が出土している。

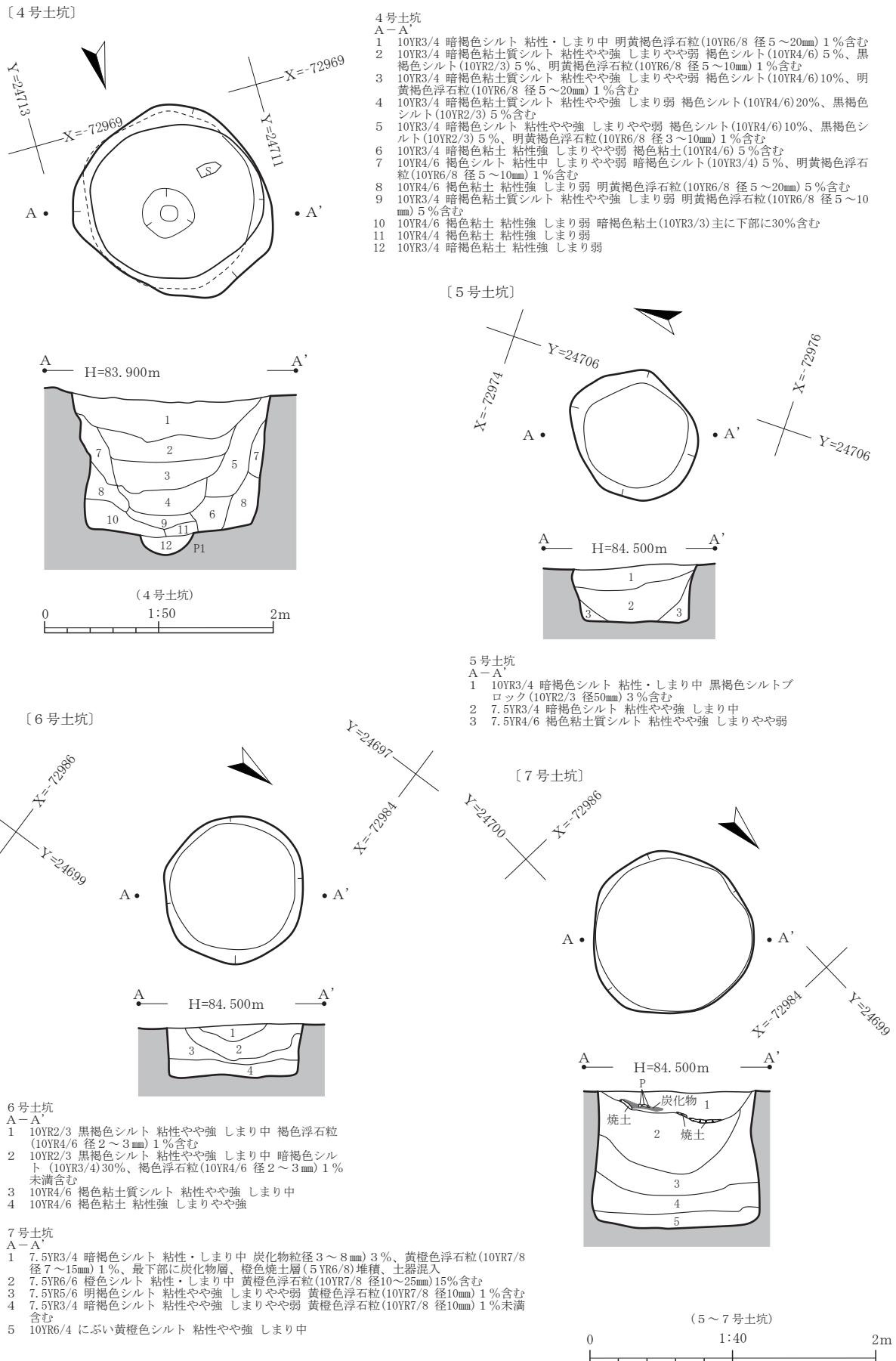
第3表 土坑一覧

遺構名	位置 (グリッド)	形状		規模(cm)			底面施設 (cm)	備考
		開口部形状	底部形状	開口部径	底部径	深さ		
1号土坑	I A17y	円形	円形	136×126	115×105	104	P1:開口部径38×35、深さ17	底面中央に土坑状の窪み1箇所あり
2号土坑	I B17a	円形	円形	163×159	130×128	103	P1:開口部径40×30、深さ17	底面中央に土坑状の窪み1箇所あり
3号土坑	I B17b・18b	円形	円形	174×170	145×131	132	P1:開口部径41×40、深さ16	底面中央に土坑状の窪み1箇所あり
4号土坑	I B17c・17d・18c・18d	歪な楕円形	円形	167×158	152×149	116	P1:開口部径42×42、深さ15	底面中央に土坑状の窪み1箇所あり
5号土坑	I B19b	楕円形	円形	93×79	72×69	40		
6号土坑	I A22y	円形	円形	104×101	85×84	36		
7号土坑	I A22y、I B22a	円形	円形	118×117	106×105	95		
8号土坑	I A22y	円形	円形	118×112	108×101	60		
9号土坑	I B21c	楕円形	楕円形	148×125	138×128	83		
10号土坑	I B22a・22b・23a・23b	円形	円形	88×78	101×98	59		
11号土坑	II B3d・3e	楕円形	楕円形	116×74	98×57	24		
12号土坑	II B6b	楕円形	円形	94×72	84×79	39		
13号土坑	II B6d	楕円形	円形	98×82	70×68	36		
14号土坑	II B7b・7c	円形	円形	110×105	120×119	71		
15号土坑	II B7c	円形	円形	125×117	133×127	68		
16号土坑	I B23r・23s	楕円形	楕円形	107×92	96×78	13		
17号土坑	II B1v	楕円形	楕円形	134×108	99×78	39		
18号土坑	II B2u	楕円形	円形	154×125	140×137	75		
19号土坑	II B4t	円形	円形	95×94	87×86	48		
20号土坑	II B5v・6v	楕円形	楕円形	266×215	216×171	81	P1:開口部径19×17、深さ45 P2:開口部径17×13 深さ15 P3:開口部径16×15、深さ17 炭化物範囲34×33	遺構の一部が事前に 行われた試掘調査に より失われている
21号土坑	II B7w	楕円形	楕円形	102×90	94×88	44		
22号土坑	I C25b・25c	楕円形	楕円形	140×93	90×56	33		
23号土坑	II C3b	楕円形	楕円形	82×60	21×15	64		
24号土坑	II C3a・4a	円形	円形	130×115	106×97	51		
25号土坑	II C4a	楕円形	楕円形	144×112	129×100	51		
26号土坑	II C12a・13a	楕円形	楕円形	159×141	140×124	100		
27号土坑	II C12a・12b	円形	円形	159×134	137×125	67		
28号土坑	II C7f	楕円形	楕円形	180×146	130×70	66		

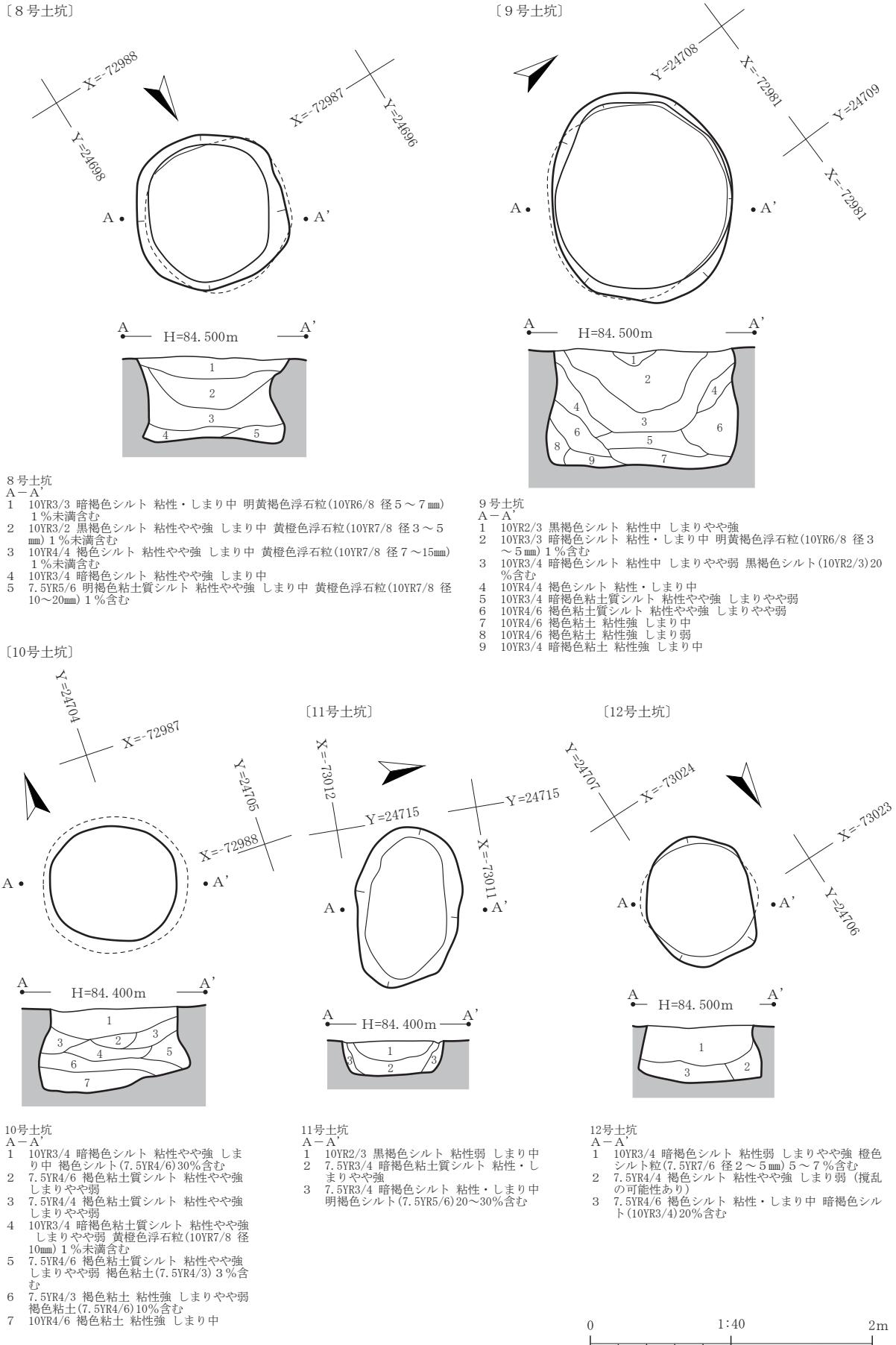
※( )は残存値



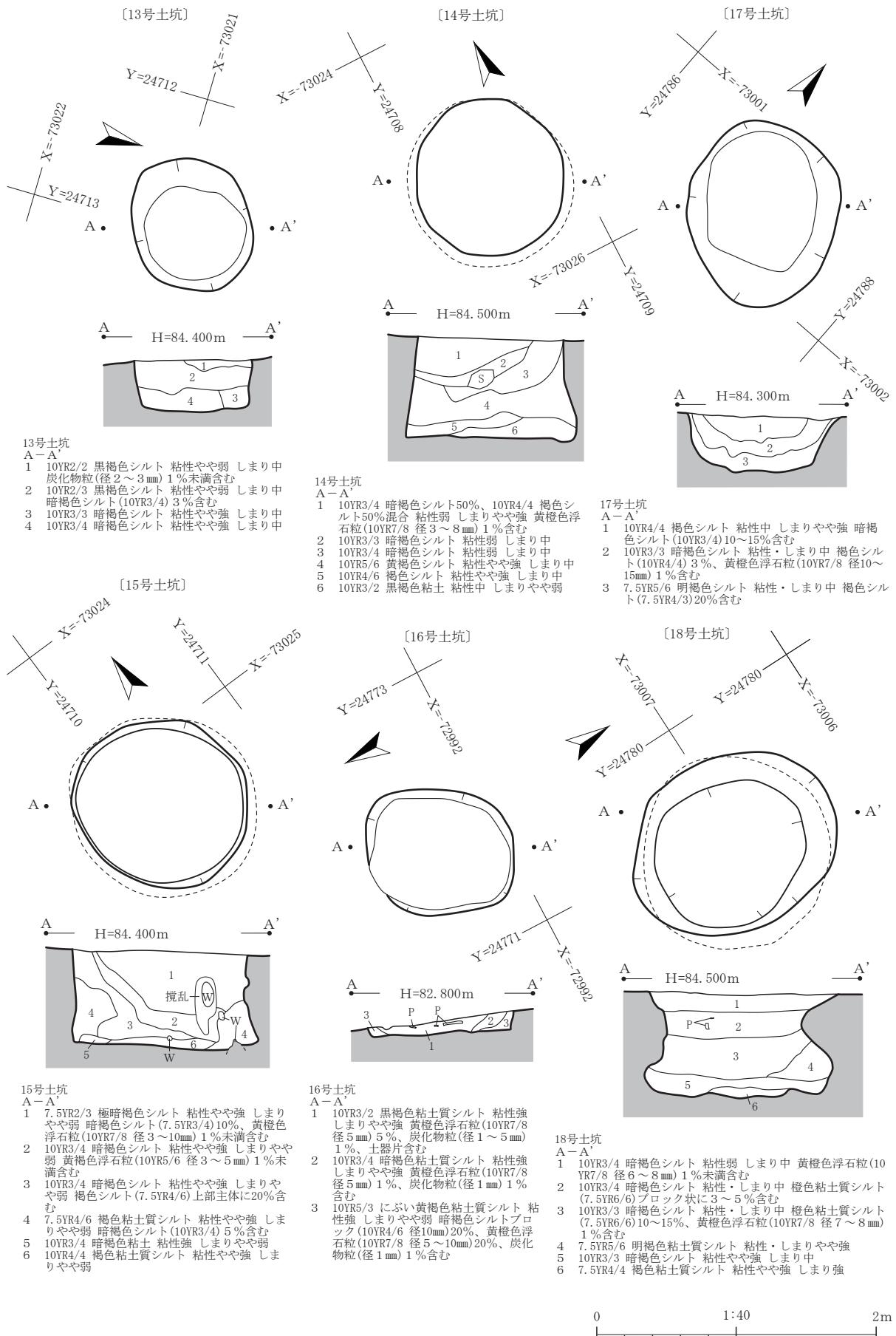
第36図 1~3号土坑



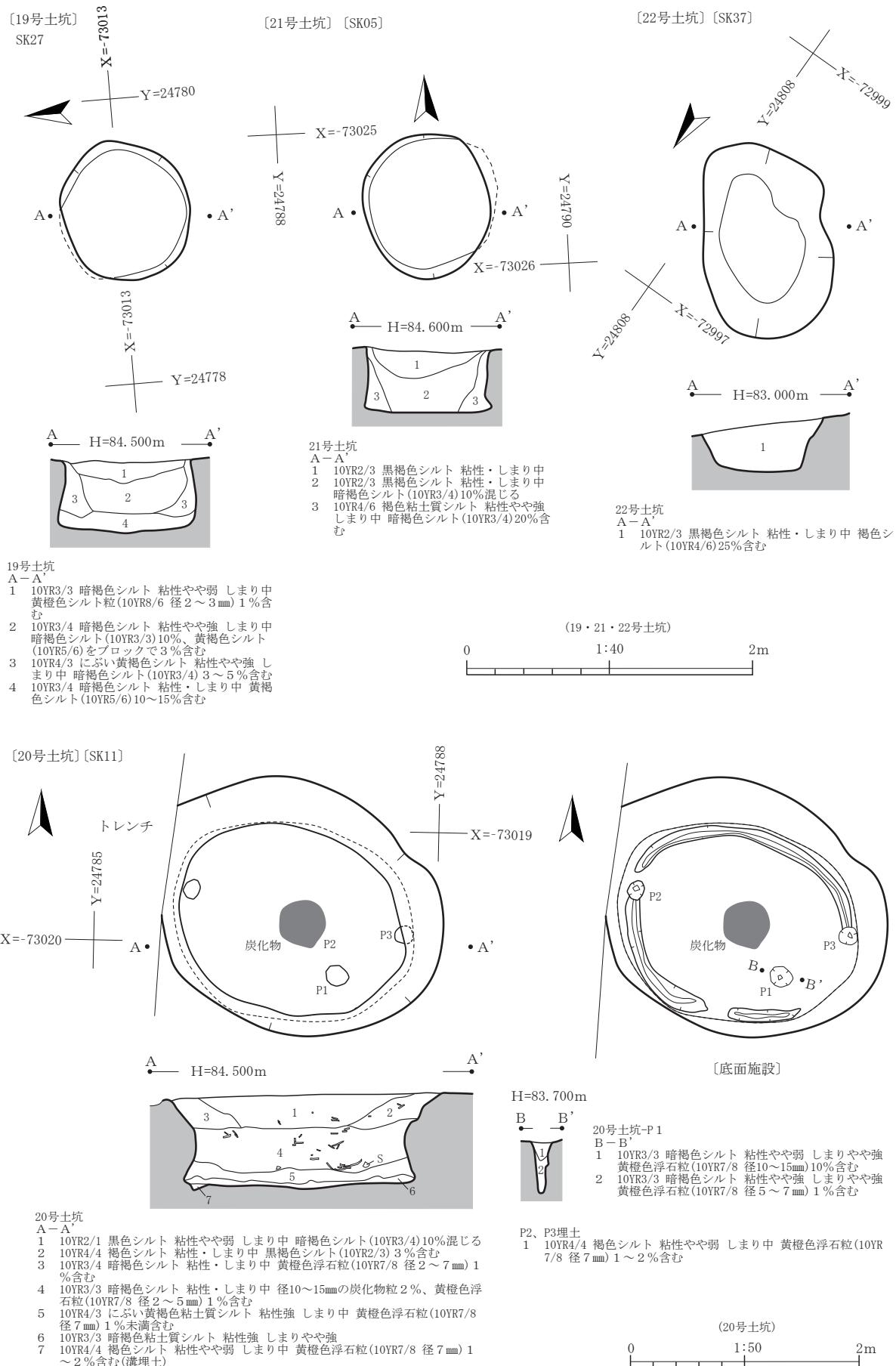
第37図 4~7号土坑



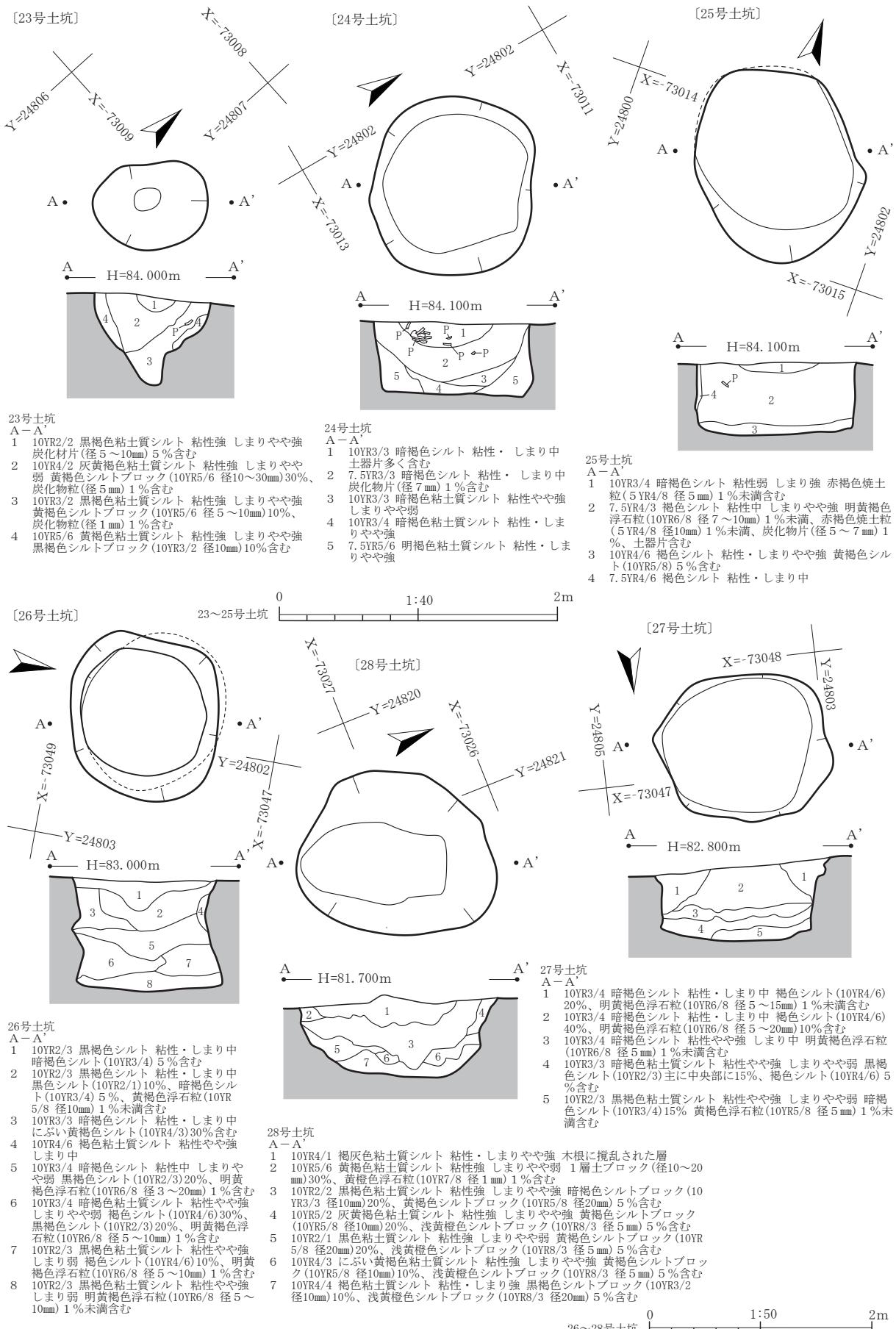
第38図 8~12号土坑



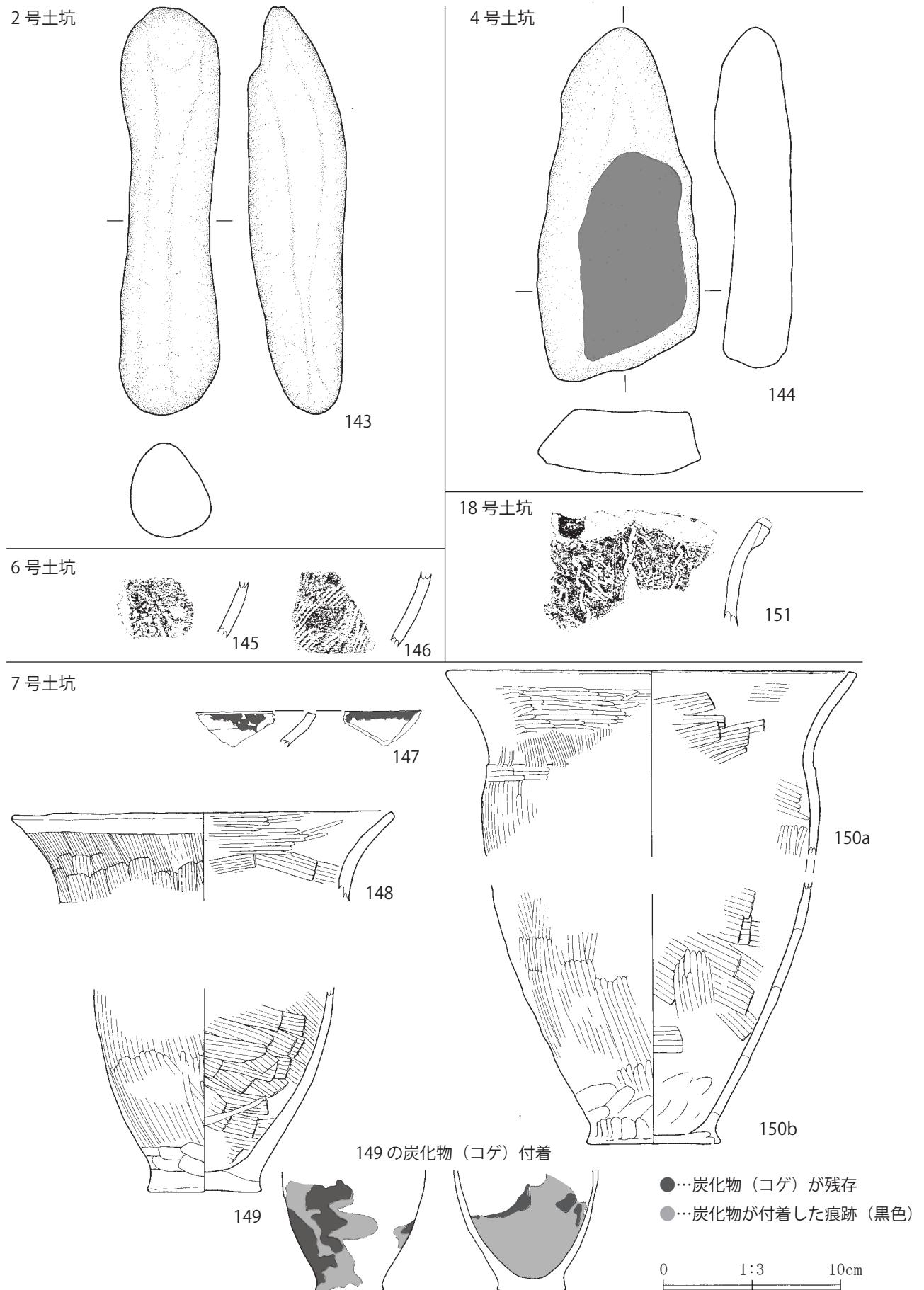
第39図 13~18号土坑



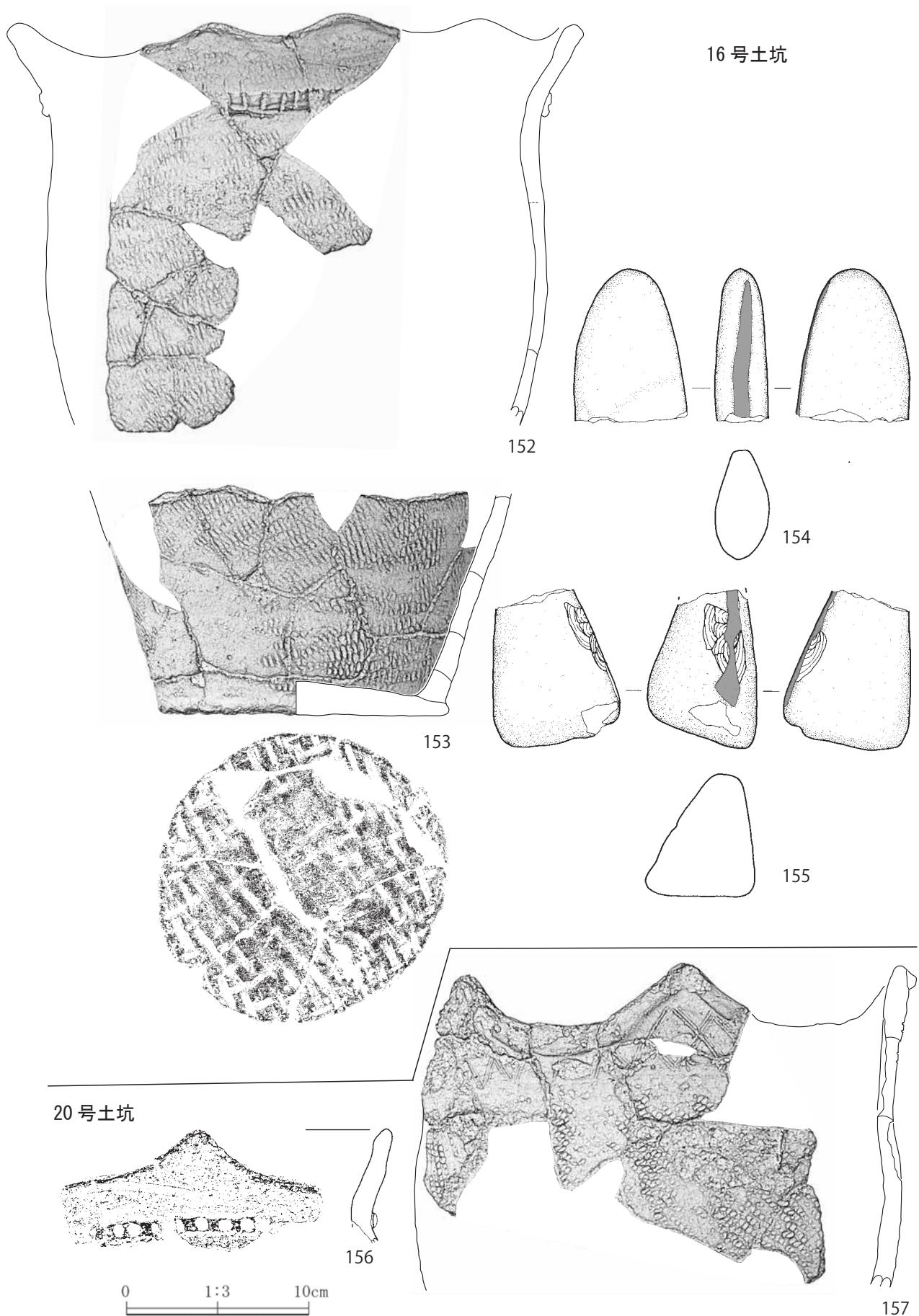
第40図 19~22号土坑



第41図 23~28号土坑

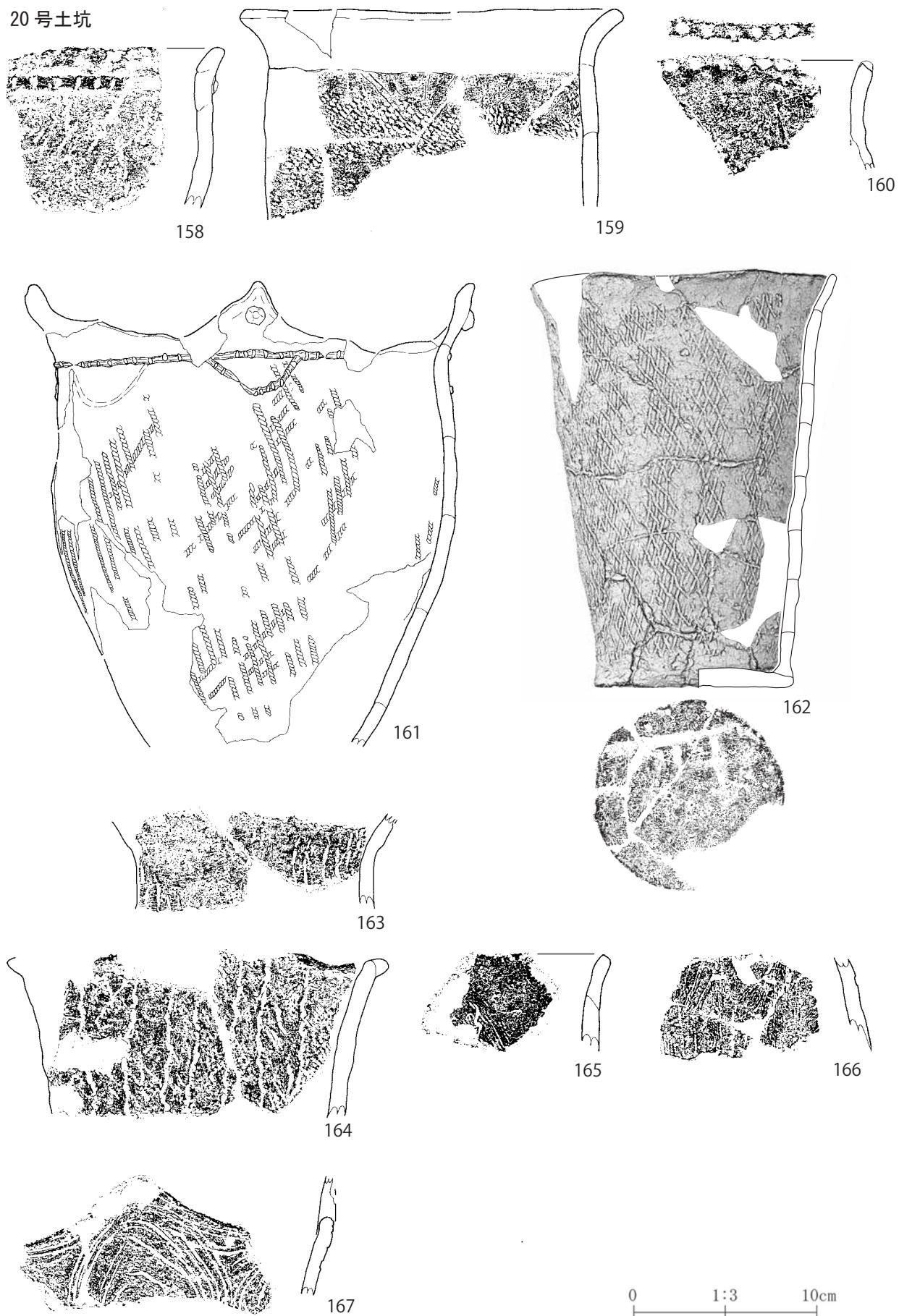


第42図 土坑内出土遺物1



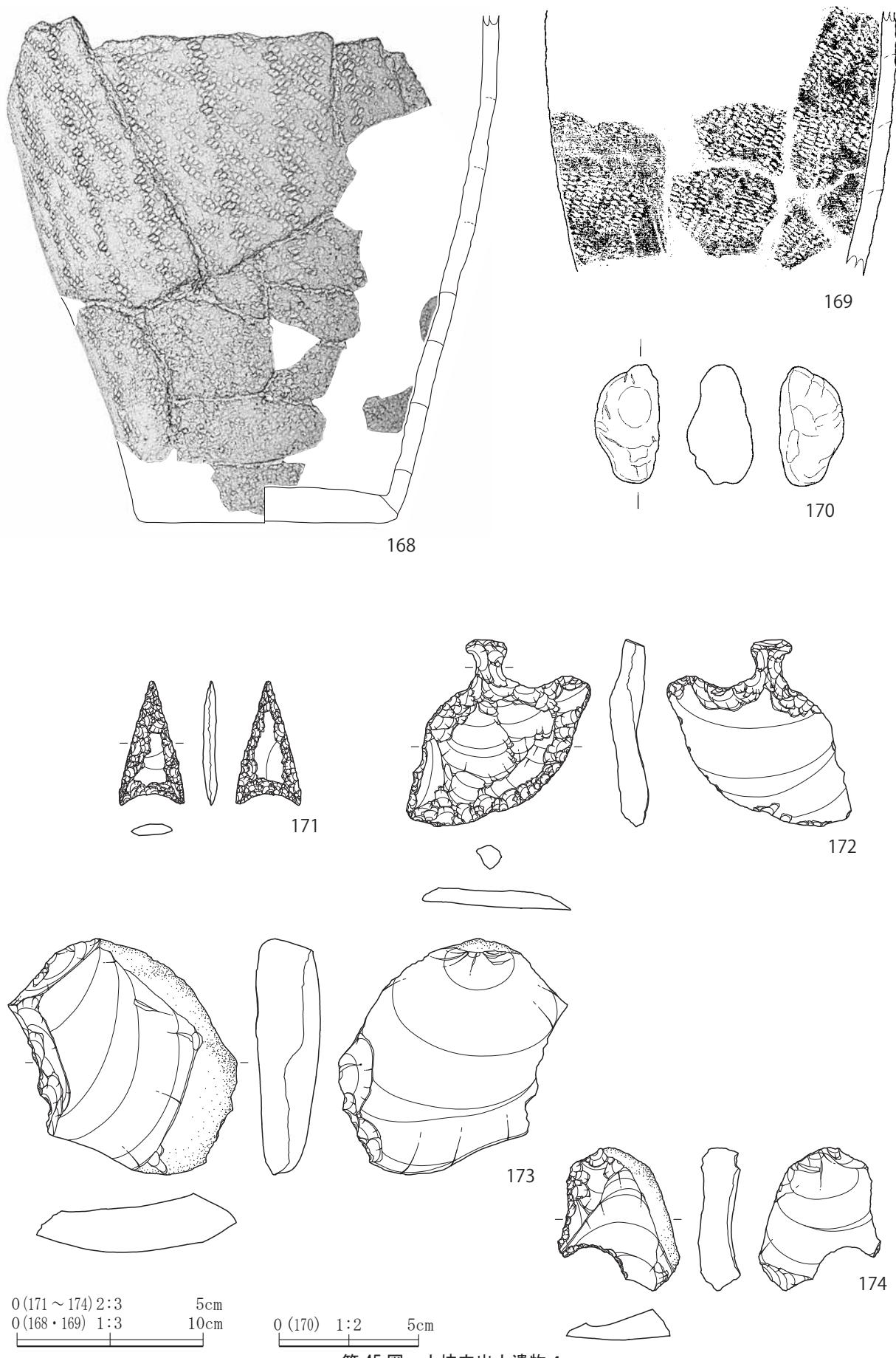
第43図 土坑内出土遺物2

20号土坑

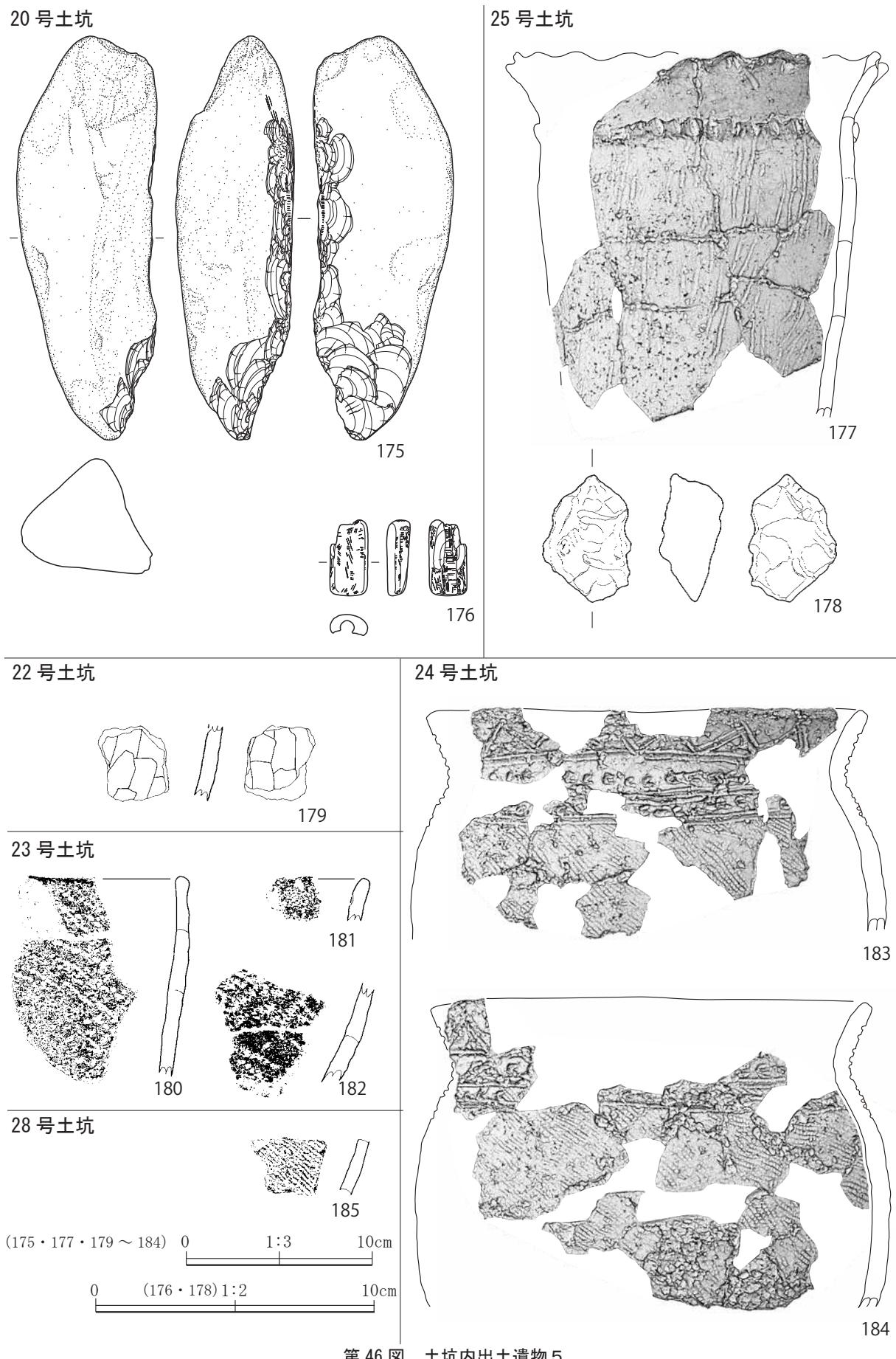


第44図 土坑内出土遺物3

20号土坑



第45図 土坑内出土遺物4



#### (4) 陥し穴状遺構

調査区全域で 61 基、主に平坦地と斜面縁部で検出した。各陥し穴状遺構の形状や規模、底面施設については第 4・5 表に記した。属性については 11・45～57 号陥し穴状遺構は形状から、その他は遺構の底面にある逆茂木を埋設するために掘られた杭穴が確認できたものを本遺構と判断した。なお、本報告書における陥し穴状遺構の底面施設の表記については逆茂木杭を埋設するために掘削した穴全体を『杭穴』、設置されていたと推定される逆茂木杭自体の痕跡を杭穴内部で確認できたものについては『杭跡』と表記した。遺構の形状・規模・底面施設の特徴等は以下のとおりである。

1～8・10・12～19 号陥し穴状遺構は底面の形状が円形・橢円形で、底面の中央部付近に杭穴が 1 基設置されている。1・2 号、7・8 号、11・12 号、14・15 号、17・18 号陥し穴状遺構が検出状況や位置的な要素からそれぞれ近い時期に機能していた可能性が考えられる。

20～22・24～37 号陥し穴状遺構は底面に杭穴 1 基と杭穴内部に 3 ないし 4 個の杭跡が認められたものである。このうち 26・27・31 号陥し穴状遺構の堆積土 1 層中より採取した試料を分析依頼し、十和田中揮テフラ (To - Cu) の可能性が高いとする分析結果を得ていることから、これらの陥し穴状遺構の時期は縄文時代前期中葉以前と推定される。

38～44 号陥し穴状遺構は底面に杭穴が 3・4 個あり、それぞれ単体で埋設されている。41 号陥し穴状遺構と 42～44 号陥し穴状遺構は規模・形状・底面施設等の特徴も一致することから同一時期に機能していたものである可能性が考えられる

45～57 号陥し穴状遺構は底面の平面形が溝状を呈するもので、底面が狭く、開口部近くで開いた形状を呈する。46・47 号陥し穴状遺構は検出状況・規模から、52・53・54 号陥し穴状遺構は位置的な要素から同時に機能していた可能性が考えられる。遺構内から出土した遺物がないため時期の詳細は不明であるが、55 号陥し穴状遺構上部の搅乱土中から縄文時代晚期の土器が出土していることからこれよりも古い時期の遺構である。

58～61 号陥し穴状遺構は底面の形状が橢円形、底面に複数の杭穴があり、位置的にも各遺構は隣接しておらず、単独の陥し穴状遺構である。58・59 号陥し穴状遺構は堆積状況に類似した要素があることから、時期的に近い可能性が考えられるが、出土遺物がないため時期の詳細は不明である。縄文から古代までの幅広い時期の可能性を考慮しておきたい。

##### 1 号陥し穴状遺構（第 47 図、写真図版 20）

＜位置・検出状況＞ 調査区北西の斜面縁部、I B 19 f グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに円形を呈し、規模は開口部径 127 × 117cm、底部径 60 × 54cm、検出面から底面までの深さは 80cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

＜杭穴＞ 1 基検出した。規模は開口部径 15 × 13cm、深さ 16cm を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位に暗褐色シルト、中位に褐色シルト、以下、黒褐色シルト→黄褐色シルト→暗褐色シルト→褐色粘土質シルトの層序に堆積する。全体に浮石粒を多く含む。

＜遺物＞ なし。

## 2号陥し穴状遺構（第47図、写真図版20）

＜位置・検出状況＞ 調査区北西の斜面縁部、IB 20 f・21 f グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部がやや楕円形に近い形状、底部が円形を呈し、規模は開口部径  $139 \times 125\text{cm}$ 、底部径  $71 \times 65\text{cm}$ 、検出面から底面までの深さは  $103\text{cm}$  を測る。

＜壁・底面＞ 壁は外傾して立ち上がる。底面に凹凸はなく概ね平坦であるが、南西側がやや低くなっている。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径  $13 \times 10\text{cm}$ 、深さ  $15\text{cm}$  を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、全体に暗褐色シルトを主体とし、黄褐色シルトをブロックおよび浮石粒を含む。

＜遺物＞ なし。

## 3号陥し穴状遺構（第47図、写真図版20）

＜位置・検出状況＞ 調査区北西の斜面縁部、IB 24 e・25 e グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が楕円形、底部は長方形を呈し、規模は開口部径  $137 \times 115\text{cm}$ 、底部径  $95 \times 79\text{cm}$ 、検出面から底面までの深さは  $87\text{cm}$  を測る。

＜壁・底面＞ 壁は外傾して立ち上がる。底面に凹凸はなく平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径  $19 \times 15\text{cm}$ 、深さ  $34\text{cm}$  を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒褐色シルトで浮石粒が少量含まれている。中位は暗褐色シルト、下位は褐色粘土質シルトを主体とし、最下部に暗褐色粘土層が堆積している。

＜遺物＞ なし。

## 4号陥し穴状遺構（第48図、写真図版21）

＜位置・検出状況＞ 調査区北西の斜面縁部、IB 25 f グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに円形を呈し、規模は開口部径  $132 \times 122\text{cm}$ 、底部径  $83 \times 80\text{cm}$ 、検出面から底面までの深さは  $98\text{cm}$  を測る。

＜壁・底面＞ 壁は外傾して立ち上がる。底面に緩い凹凸があり、北東側が低くなっている。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径  $13 \times 12\text{cm}$ 、深さ  $26\text{cm}$  を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒褐色シルトで浮石粒が少量含まれている。中～下位は暗褐色シルト主体で壁際に褐色粘土、最下部に暗褐色粘土層が堆積している。

＜遺物＞ なし。

## 5号陥し穴状遺構（第48図、写真図版21）

＜位置・検出状況＞ 調査区中央の平坦地、IB 2 j・3 j グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに円形を呈し、規模は開口部径  $107 \times 95\text{cm}$ 、底部径  $82 \times 76\text{cm}$ 、検出面から底面までの深さは  $71\text{cm}$  を測る。

＜壁・底面＞ 壁は外傾して立ち上がる。底面に緩い凹凸があり、壁際に対し、中央が低くなっている。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径  $16 \times 16\text{cm}$ 、深さ  $31\text{cm}$  を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は上面から黒色～黒褐色シルトを主体とし、浮石粒が少量含まれている。中位は褐色シルトおよび黄褐色粘土質シルト、下位はにぶい黄褐色粘土質シルトが堆積する。

＜遺物＞ なし。

**6号陥し穴状遺構（第48図、写真図版21）**

＜位置・検出状況＞ 調査区西側の平坦地、II B 7 b グリッド付近に位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに橢円形を呈し、規模は開口部径 148 × 129cm、底部径 85 × 68cm、検出面から底面までの深さは 97cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は外傾して立ち上がり、底面は平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径 15 × 13cm、深さ 37cm を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上～中位は黒褐・暗褐色シルト、下位は褐色粘土を主体とする。

＜遺物＞ なし。

**7号陥し穴状遺構（第49図、写真図版22）**

＜位置・検出状況＞ 調査区西側の平坦地、II B 7 d・7 e グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が円形、底部が方形を呈し、規模は開口部径 139 × 136cm、底部径 90 × 85cm、検出面から底面までの深さは 81cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、中段より上は外傾している。底面はやや傾斜し、南東側が低い。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径 20 × 19cm、深さ 47cm で、杭穴内面で杭跡を検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒褐色シルト、中位は褐色シルト、下位は暗褐色粘土を主体とする。

＜遺物＞ なし。

**8号陥し穴状遺構（第49図、写真図版22）**

＜位置・検出状況＞ 調査区西側の平坦地、II B 8 e グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに円形を呈し、規模は開口部径 135 × 131cm、底部径 89 × 88cm、検出面から底面までの深さは 71cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から外傾および外反気味に立ち上がり、底面にやや凹凸があるが傾斜はない。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径 22 × 18cm、深さ 48cm を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒褐色シルト、中～下位は暗褐色シルトを主体とする。

＜遺物＞ なし。

**9号陥し穴状遺構（第49図、写真図版22）**

＜位置・検出状況＞ 調査区南西の平坦地、II A 11 u グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が歪んだ円形、底部は方形を呈し、規模は開口部径 133 × 128cm、底部径 64 × 60cm、検出面から底面までの深さは 101cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、中段より上は外傾している。底面は壁際に対し、中央がやや低くなっている。

＜杭穴＞ 2基検出した。規模は P 1 が開口部径 9 × 8 cm、深さ 34cm、P 2 が開口部径 6 × 5 cm、深さ 34cm を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒～暗褐色シルト、中位は褐色粘土質シルト、下位はにぶい黄褐色粘土質シルトを主体とする。

＜遺物＞ なし。

## 10号陥し穴状遺構（第49図、写真図版23）

＜位置・検出状況＞ 調査区南西の平坦地、II A 12 u グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに円形を呈し、規模は開口部径 142 × 138cm、底部径 71 × 66cm、検出面から底面までの深さは 112cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、中段から開口部までは外傾している。底面には凹凸が認められる。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は P 1 が開口部径 20 × 20cm、深さ 37cm を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上～中位は黒～暗褐色シルトを主体とし、下位は褐色粘土質シルトが堆積する。

＜遺物＞ なし。

## 11号陥し穴状遺構（第50図、写真図版23）

＜位置・検出状況＞ 調査区北東の斜面縁部、I B 24 t グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに円形を呈し、規模は開口部径 126 × 121cm、底部径 85 × 84cm、検出面から底面までの深さは 119cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、中段から開口部まではやや外傾している。底面は平坦である。

＜杭穴＞ なし。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は暗褐色シルトを主体に壁際に黄褐色粘土質シルトが堆積し、中～下位は褐色粘土質シルトが主体である。

＜遺物＞ 堆積土から土器 95.0 g 出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

## 12号陥し穴状遺構（第50図、写真図版23）

＜位置・検出状況＞ 調査区北東の斜面縁部、I B 24 u グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに円形を呈し、規模は開口部径 111 × 103cm、底部径 57 × 50cm、検出面から底面までの深さは 114cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から外傾して立ち上がり、底面は概ね平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径 19 × 16cm、深さ 22cm を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は暗褐色シルトを主体に壁際に黄褐色粘土質シルトが堆積し、中～下位は褐色粘土質シルトが主体である。

＜遺物＞ 堆積土から土器 120.7 g 出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

## 13号陥し穴状遺構（第50図、写真図版24）

＜位置・検出状況＞ 調査区北東の斜面地、II C 1 a + 1 b グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに円形を呈し、規模は開口部径 99 × 95cm、底部径 68 × 67cm、検出面から底面までの深さは 107cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から外傾して立ち上がり、中段から開口部まではやや内湾気味に立ち上がっている。底面は平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径 14 × 12cm、深さ 22cm を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒褐色シルト、以下中位に褐色シルトを挟み、下位は暗褐色シ

ルトを主体とする。

＜遺物＞ なし。

#### 14号陥し穴状遺構（第50図、写真図版24）

＜位置・検出状況＞ 調査区東側の平坦地、II B 9 v グリッドに位置し、III層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が歪な橢円形、底部が隅丸方形状を呈する。規模は開口部径 146 × 138cm、底部径 85 × 83cm、検出面から底面までの深さは 92cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から外傾気味に立ち上がり、中段から開口部まではやや内湾気味に開いた立ち上がりである。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径 32 × 22cm、深さ 29cm を測り、杭穴内面に杭跡を検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒～暗褐色シルト、中位は褐色粘土質シルト、下位は暗褐色粘土質シルトを主体とする。

＜遺物＞ なし。

#### 15号陥し穴状遺構（第51図、写真図版24）

＜位置・検出状況＞ 調査区南東の平坦地、II B 10 v グリッドに位置し、III層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が円形、底部が橢円形を呈する。規模は開口部径 147 × 134cm、底部径 83 × 71cm、検出面から底面までの深さは 90cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から垂直及び外傾気味に立ち上がり、中段から開口部に向かって開いた立ち上がりである。底面には緩い凹凸があるが概ね平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径 21 × 15cm、深さ 32cm を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上～中位は暗褐色シルトを主体とし、壁際に褐色シルトが堆積する。下位は灰黄褐色シルトが堆積する。

＜遺物＞ なし。

#### 16号陥し穴状遺構（第51図、写真図版25）

＜位置・検出状況＞ 調査区東側の斜面地、II C 7 c グリッドに位置し、III層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに円形を呈する。規模は開口部径 111 × 106cm、底部径 62 × 57cm、検出面から底面までの深さは 103cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から外傾して立ち上がり、開口部近くでやや開いた立ち上がりとなる。底面は中央部がやや低い。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径 14 × 12cm、深さ 39cm を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒褐色シルト、中～下位は暗褐色シルトと褐色粘土質シルトを主体とする。

＜遺物＞ なし。

#### 17号陥し穴状遺構（第51図、写真図版25）

＜位置・検出状況＞ 調査区南東の斜面地、II C 10 c グリッドに位置し、III層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに円形を呈する。規模は開口部径 128 × 120cm、底部径 65 × 61cm、検出面から底面までの深さは 112cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から垂直ないし内傾して立ち上がり、中段から開口部にかけて外傾し、開いた立ち上がりとなる。底面は南西側がやや低いが、概ね平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径  $17 \times 14$ cm、深さ 13cm を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上～中位は黒褐色シルト、下位は褐色粘土シルトが主体で、底面直上に暗褐色粘土質シルトが堆積する。

＜遺物＞ なし。

#### 18号陥し穴状遺構（第 52 図、写真図版 25）

＜位置・検出状況＞ 調査区南東の斜面地、II C 11 c グリッドに位置し、III 層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに円形を呈する。規模は開口部径  $131 \times 126$ cm、底部径  $62 \times 59$ cm、検出面から底面までの深さは 131cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から外傾して立ち上がり、中段から開口部にかけては、開きがやや大きくなる。底面は南側がやや低いが、概ね平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径  $12 \times 11$ cm、深さ 17cm を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒褐色シルト、中～下位は暗褐色粘土質シルトを主体とする。

＜遺物＞ なし。

#### 19号陥し穴状遺構（第 52 図、写真図版 26）

＜位置・検出状況＞ 調査区南東の斜面地、II B 14 w・15 w グリッドに位置し、III 層で検出した。遺構の南側開口部の一部が 57 号陥し穴状遺構と重複し、これに切られている。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに橢円形を呈する。規模は開口部径  $158 \times 132$ cm、底部径  $84 \times 72$ cm、検出面から底面までの深さは 92cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から外傾して立ち上がり、底面は中央部の杭穴付近が低くなっている。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径  $12 \times 11$ cm、深さ 14cm を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、壁際の一部に褐色シルトが堆積するが、全体に暗褐色シルトを主体とする。

＜遺物＞ なし。

#### 20号陥し穴状遺構（第 52 図、写真図版 26）

＜位置・検出状況＞ 調査区東側の平坦地、I B 18 c グリッドに位置し、III 層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに方形状を呈する。規模は開口部径  $134 \times 118$ cm、底部径  $110 \times 90$ cm、検出面から底面までの深さは 86cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、底面は緩い凹凸がある。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径  $31 \times 28$ cm、深さ 66cm を測り、内面に杭跡を 4 個検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒～暗褐色シルト、中位は褐色粘土質シルト、下位は灰～にぶい黄褐色粘土質シルトを主体とする。

＜遺物＞ なし。

#### 21号陥し穴状遺構（第 52 図、写真図版 26・27）

＜位置・検出状況＞ 調査区北西の平坦地、I B 22 c・22 d グリッドに位置し、III 層で検出した。

遺構の西側開口部の一部が事前に行われた試掘調査により削平され、失われている。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに長方形を呈する。規模は開口部径  $145 \times 121\text{cm}$ 、底部径  $119 \times 91\text{cm}$ 、検出面から底面までの深さは  $85\text{cm}$  を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から垂直ないし外傾して立ち上がり、底面は平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径  $34 \times 32\text{cm}$ 、深さ  $62\text{cm}$  を測り、内面に杭跡を4個検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒色シルト、中位は暗褐色シルト、壁際および下位は褐色粘土質シルトを主体とする。

＜遺物＞ なし。

#### 22号陥し穴状遺構（第53図、写真図版27）

＜位置・検出状況＞ 調査区中央の平坦地、II B 1 e グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。開口部西側の一部が調査時の掘りすぎのため失われている。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに橢円形を呈する。規模は開口部径  $114 \times 94\text{cm}$ 、底部径  $82 \times 67\text{cm}$ 、検出面から底面までの深さは  $85\text{cm}$  を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面からやや外傾して立ち上がり、底面は概ね平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径  $25 \times 20\text{cm}$ 、深さ  $40\text{cm}$  を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、全体に暗褐色シルトを主体とし、底面直上に褐色粘土が堆積する。

＜遺物＞ なし。

#### 23号陥し穴状遺構（第53図、写真図版27）

＜位置・検出状況＞ 調査区中央の平坦地、II B 4 f グリッド付近に位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が橢円形、底部が長方形を呈する。規模は開口部径  $148 \times 142\text{cm}$ 、底部径  $91 \times 72\text{cm}$ 、検出面から底面までの深さは  $93\text{cm}$  を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から外傾して立ち上がり、底面は平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径  $22 \times 19\text{cm}$ 、深さ  $38\text{cm}$  を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上～中位は黒～暗褐色シルト、下位は褐色粘土質シルトを主体とし、底面直上に褐～暗褐色粘土が堆積する。

＜遺物＞ なし。

#### 24号陥し穴状遺構（第53図、写真図版28）

＜位置・検出状況＞ 調査区中央の平坦地、II B 8 h・8 i グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに円形を呈する。規模は開口部径  $125 \times 114\text{cm}$ 、底部径  $93 \times 85\text{cm}$ 、検出面から底面までの深さは  $82\text{cm}$  を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から東側は外傾、西側は内傾して立ち上がり、中段から開口部にかけては、内湾し、開いた立ち上がりとなっている。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径  $41 \times 37\text{cm}$ 、深さ  $59\text{cm}$  を測り、内面に杭跡を4個検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上～中位は黒～暗褐色シルト、下位は褐色粘土質シルトを主体とし、底面直上に暗褐色粘土が堆積する。

＜遺物＞ なし。

## 25号陥し穴状遺構（第53図、写真図版28）

＜位置・検出状況＞ 調査区中央の平坦地、ⅡB 9 i グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに橢円状を呈する。規模は開口部径 165 × 140cm、底部径 140 × 108cm、検出面から底面までの深さは 89cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から内傾して立ち上がり、中段から開口部にかけては外傾した立ち上がりである。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径 41 × 33cm、深さ 62cm を測り、内面に杭跡を 4 個検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上～中位は黒色・暗褐色シルト、下位は褐色粘土質シルトを主体とする。

＜遺物＞ なし。

## 26号陥し穴状遺構（第54図、写真図版29）

＜位置・検出状況＞ 調査区南側の平坦地、ⅡB 11 g グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が円形、底部が橢円形を呈する。規模は開口部径 151 × 149cm、底部径 99 × 89cm、検出面から底面までの深さは 104cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から外傾して立ち上がり、開口部付近ではやや開いた立ち上がりとなる。底面は平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径 24 × 22cm、深さ 42cm を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上～中位は黒～暗褐色シルト、下位は褐色粘土質シルトを主体とし、底面壁際に暗褐色粘土が堆積する。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 出土遺物はないが、堆積土 1 層中より採取した試料を分析依頼し、十和田中振テフラ (To-Cu) の可能性が高いとする分析結果を得ていることから、縄文時代前期中葉以前と推定される。

## 27号陥し穴状遺構（第54図、写真図版29）

＜位置・検出状況＞ 調査区南側の平坦地、ⅡB 12 h グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに橢円形を呈する。規模は開口部径 172 × 159cm、底部径 110 × 92cm、検出面から底面までの深さは 129cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から東側が外反、西側が垂直気味に立ち上がり、開口部付近ではやや開いた立ち上がりとなる。底面は中央部付近がわずかに低くなっている。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径 36 × 29cm、深さ 56cm を測り、内面に杭跡を 3 個検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒褐色シルト、中位は暗褐色シルト、下位は褐色粘土質シルトを主体とする。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 出土遺物はないが、堆積土 1 層中より採取した試料を分析依頼し、十和田中振テフラ (To-Cu) の可能性が高いとする分析結果を得ていることから、縄文時代前期中葉以前と推定される。

## 28号陥し穴状遺構（第54図、写真図版29・30）

＜位置・検出状況＞ 調査区南側の平坦地、ⅡB 12 g・13 g グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が橢円形、底部が長方形を呈する。規模は開口部径 154 × 138cm、底部径 95 × 78cm、検出面から底面までの深さは 120cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から外傾して立ち上がり、開口部付近ではやや開いた立ち上がりとなる。底面は緩い凹凸があるが概ね平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径 33 × 27cm、深さ 47cm を測り、内面に杭跡を 3 個検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒～暗褐色シルト、中～下位は褐色粘土質シルトを主体とし、底面直上に暗褐色粘土質シルトが堆積する。＜遺物＞ なし。

#### 29号陥し穴状遺構（第 55 図、写真図版 30）

＜位置・検出状況＞ 調査区南側の平坦地、II B 13 f・13 g グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が橢円形、底部は方形を呈する。規模は開口部径 172 × 167cm、底部径 78 × 72cm、検出面から底面までの深さは 110cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から外傾して立ち上がり、中段から開口部にかけては、内湾し、開いた立ち上がりとなっている。底面は緩い凹凸があるが概ね平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径 26 × 24cm、深さ 56cm を測り、内面に杭跡を 3 個検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、全体に暗褐色シルト主体とするが、上～中位の一部に黒褐色シルト、壁際に褐色粘土が堆積する。＜遺物＞ なし。

#### 30号陥し穴状遺構（第 55 図、写真図版 30）

＜位置・検出状況＞ 調査区南側の平坦地、II B 13 f・14 f グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに円形を呈する。規模は開口部径 157 × 146cm、底部径 80 × 78cm、検出面から底面までの深さは 119cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、中段から開口部にかけては外傾し、開いた立ち上がりとなっている。底面は概ね平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径 29 × 29cm、深さ 58cm を測り、内面に杭跡を 4 個検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上～中位は黒褐色シルト、下位は暗褐色シルトを主体とする。

＜遺物＞ なし。

#### 31号陥し穴状遺構（第 55 図、写真図版 31）

＜位置・検出状況＞ 調査区南側の平坦地、II B 15 e グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が橢円形、底部は不整な方形状を呈する。規模は開口部径 167 × 145cm、底部径 112 × 99cm、検出面から底面までの深さは 133cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、中段から開口部にかけては外傾し、開いた立ち上がりとなっている。底面は緩い凹凸があるが概ね平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径 28 × 27cm、深さ 61cm を測り、内面に杭跡を 3 個検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は暗褐色シルト、中位は黒褐色シルト、下位は暗褐色シルトを主体とする。底面直上ににぶい黄褐色シルトが堆積する。＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 出土遺物はないが、堆積土 1 層中より採取した試料を分析依頼し、十和田中振テフラ (To - Cu) の可能性が高いとする分析結果を得ていることから、縄文時代前期中葉以前と推定される。

#### 32号陥し穴状遺構（第 56 図、写真図版 31）

＜位置・検出状況＞ 調査区南西の平坦地、II B 17 c・18 c グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

開口部の北東側が後世の搅乱によって失われている。

＜平面形・規模＞ 開口部の平面形は一部が搅乱の影響で本来の形よりも広がっているが、円～楕円形と推定される。底部は楕円形を呈する。規模は開口部径  $161 \times 149\text{cm}$ 、底部径  $85 \times 74\text{cm}$ 、検出面から底面までの深さは  $103\text{cm}$  を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、中段から開口部にかけては内湾気味に開いた立ち上がりとなっている。底面は緩い凹凸があるが概ね平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径  $28 \times 25\text{cm}$ 、深さ  $60\text{cm}$  を測り、内面に杭跡を3個検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上～中位は黒～暗褐色シルト、下位は褐色シルトを主体とする。底面直上ににぶい黄褐色シルトが堆積する。

＜遺物＞ なし。

### 33号陥し穴状遺構（第56図、写真図版32）

＜位置・検出状況＞ 調査区南西の平坦地、II B 18 c グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が円形、底部が長方形を呈する。規模は開口部径  $148 \times 143\text{cm}$ 、底部径  $91 \times 89\text{cm}$ 、検出面から底面までの深さは  $108\text{cm}$  を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、中段から開口部にかけては外傾して開いた立ち上がりとなっている。底面は緩い凹凸があるが概ね平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径  $22 \times 20\text{cm}$ 、深さ  $46\text{cm}$  を測り、内面に杭跡を4個検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒褐色シルト、中位は暗褐色シルト、下位は明褐色シルトを主体とする。底面直上に暗褐色粘土質シルトが堆積する。

＜遺物＞ なし。

### 34号陥し穴状遺構（第56図、写真図版32）

＜位置・検出状況＞ 調査区南側の平坦地、II B 14 j グリッド付近に位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が円形、底部が長方形を呈する。規模は開口部径  $175 \times 174\text{cm}$ 、底部径  $126 \times 93\text{cm}$ 、検出面から底面までの深さは  $105\text{cm}$  を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から外傾して立ち上がり、中段から開口部にかけては、より開いた立ち上がりとなっている。底面は概ね平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径  $35 \times 31\text{cm}$ 、深さ  $47\text{cm}$  を測り、内面に杭跡を4個検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上～中位は黒褐色シルトと暗褐色シルトの互層、下位は褐色粘土質シルトを主体とする。

＜遺物＞ なし。

### 35号陥し穴状遺構（第57図、写真図版33）

＜位置・検出状況＞ 調査区東側の平坦地、II B 8 t グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が楕円形、底部が円形を呈する。規模は開口部径  $115 \times 95\text{cm}$ 、底部径  $99 \times 97\text{cm}$ 、検出面から底面までの深さは  $72\text{cm}$  を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から内傾して立ち上がり、中段から開口部にかけては外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径  $33 \times 29\text{cm}$ 、深さ  $28\text{cm}$  を測り、内面に杭跡を4個検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒褐色シルト、中位は暗褐色シルト、下位はにぶい黄褐色粘土質シルトを主体とする。底面直上に褐色粘土質シルトが堆積している。

＜遺物＞ なし。

### 36号陥し穴状遺構（第57図、写真図版33）

＜位置・検出状況＞ 調査区東側の平坦地、II B 10 u・10 v グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。開口部西側が事前に行われた試掘調査により失われている。

＜平面形・規模＞ 開口部は一部が失われているが、残存部分から底部ともに長方形と推定される。規模は開口部径 152 × 102cm、底部径 123 × 106cm、検出面から底面までの深さは 112cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から垂直に立ち上がり、開口部付近で外傾し、開いた立ち上がりとなっている。底面は緩い凹凸があるが概ね平坦である。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径 43 × 39cm、深さ 55cm を測り、内面に杭跡を 4 個検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上～中位は黒～暗褐色シルト、下位は褐色粘土質シルトを主体とする。底面直上に暗褐色粘土質シルトが堆積している。

＜遺物＞ なし。

### 37号陥し穴状遺構（第57図、写真図版34）

＜位置・検出状況＞ 調査区南東の斜面地、II B 14 v グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が楕円形、底部が長方形を呈する。規模は開口部径 207 × 160cm、底部径 139 × 101cm、検出面から底面までの深さは 98cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から外傾して立ち上がり、中段から開口部にかけてやや開いた立ち上がりとなっている。底面は平坦に近いが中央付近がやや低くなっている。

＜杭穴＞ 1基検出した。規模は開口部径 43 × 41cm、深さ 24cm を測り、内面に杭跡を 4 個検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上～中位は暗褐色シルト、下位は褐色粘土を主体とする。底面直上に黒褐色粘土が堆積している。＜遺物＞ なし。

### 38号陥し穴状遺構（第58図、写真図版34）

＜位置・検出状況＞ 調査区西側の平坦地、II A 8 s・9 s グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が楕円形、底部が長方形を呈する。規模は開口部径 171 × 147cm、底部径 106 × 78cm、検出面から底面までの深さは 102cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、中段から開口部にかけて開いた立ち上がりとなっている。底面は凹凸があるが概ね平坦に近い。

＜杭穴＞ 4基検出した。開口部の長径は 17～19cm、深さは 37～39cm を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積で、上位は黒褐色シルト、中位は褐色粘土、下位は暗褐色粘土を主体とする。

＜遺物＞ なし。

### 39号陥し穴状遺構（第58図、写真図版35）

＜位置・検出状況＞ 調査区南西の平坦地、II B 17 a グリッドに位置し、表土下のⅢ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が円形、底部が方形を呈する。規模は開口部径 153 × 143cm、底部径 113 × 97cm、検出面から底面までの深さは 105cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、中段付近から開口部にかけて開いた立ち上がりとなっている。底面は凹凸があるが概ね平坦である。

＜杭穴＞ 3基検出した。開口部の長径は13～18cm、深さは55～63cmを測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒褐色シルト、中～下位は暗褐色シルト、壁際に褐色シルトを主体とする。底面直上ににぶい黄褐色シルトが堆積している。

＜遺物＞ なし。

#### 40号陥し穴状遺構（第58図、写真図版35）

＜位置・検出状況＞ 調査区南西の平坦地、II B 17 c グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が円形、底部が橢円形を呈する。規模は開口部径178×163cm、底部径118×102cm、検出面から底面までの深さは99cmを測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から垂直気味に立ち上がり、中段付近から開口部にかけて開いた立ち上がりとなっている。底面は凹凸があるが概ね平坦である。

＜杭穴＞ 4基検出した。開口部の長径は13～14cm、深さは41～56cmを測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上～位は黒色シルト、中位は暗褐色シルト、下位はにぶい黄褐色粘土質シルトを主体とする。

＜遺物＞ なし。

#### 41号陥し穴状遺構（第59図、写真図版36）

＜位置・検出状況＞ 調査区南側の平坦地、II B 14 i グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が橢円形、底部が長方形を呈する。規模は開口部径196×173cm、底部径159×109cm、検出面から底面までの深さは104cmを測る。

＜壁・底面＞ 壁底面は長軸方向側の端部がオーバーハンプルし、中段付近から開口部にかけては開いた立ち上がりとなっている。底面は概ね平坦である。

＜杭穴＞ 4基検出した。開口部の長径は13～24cm、深さは41～52cmを測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上～中位は黒～暗褐色シルト、下位は黄褐色粘土質シルトを主体とし、底面直上に暗褐色シルトが堆積する。

＜遺物＞ なし。

#### 42号陥し穴状遺構（第59図、写真図版36）

＜位置・検出状況＞ 調査区南側の平坦地、II B 14 m・14 n グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。開口部西側の一部が後世の搅乱によって失われている。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が橢円形、底部が長方形を呈する。規模は開口部径184×150cm、底部径153×111cm、検出面から底面までの深さは84cmを測る。

＜壁・底面＞ 壁底面は長軸方向側の端部がオーバーハンプルし、中段付近から開口部にかけては開いた立ち上がりとなっている。底面は概ね平坦である。

＜杭穴＞ 4基検出した。開口部の長径は12～19cm、深さは54～66cmを測り、内面に杭跡を確認した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、黒～暗褐色シルトを主体とし、下位の壁際に褐色粘土質シルト、底面直上ににぶい黄褐色粘土質シルトと暗褐色シルトが堆積する。

＜遺物＞ なし。

43号陥し穴状遺構（第60図、写真図版37）

＜位置・検出状況＞ 調査区南側の平坦地、II B 14 n・14 o グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が橢円形、底部が長方形を呈する。規模は開口部径 218 × 207cm、底部径 155 × 111cm、検出面から底面までの深さは 110cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は内傾～垂直に立ち上がり、中段付近から開口部にかけては外傾し、開いた立ち上がりとなっている。底面は平坦である。

＜杭穴＞ 4基検出した。開口部の長径は 14～18cm、深さは 53～62cm を測る。P 1・P 3 で杭跡を検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒～暗褐色シルト、中位は黒色シルト、下位は橙色粘土質シルトを主体とする。底面直上に暗褐色粘土質シルトが堆積する。

＜遺物＞ なし。

44号陥し穴状遺構（第60図、写真図版37）

＜位置・検出状況＞ 調査区南側の平坦地、II B 14 o・14 p グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに長方形を呈する。規模は開口部径 203 × 172cm、底部径 137 × 110cm、検出面から底面までの深さは 100cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面北側がオーバーハングしているが、他は垂直～外傾して立ち上がり、中段付近から開口部にかけて開いた立ち上がりである。底面は緩い凹凸があり、北側がやや低くなっている。

＜杭穴＞ 4基検出した。開口部の長径は 17～24cm、深さは 46～52cm を測る。P 2 で杭跡を検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒色～暗褐色シルト、中位は黒褐色シルト、下位はにぶい褐色粘土質シルトを主体とする。底面直上に褐色粘土質シルトが堆積する。

＜遺物＞ なし。

45号陥し穴状遺構（第61図、写真図版37）

＜位置・検出状況＞ 調査区西端の平坦地、II A 1 o グリッド付近に位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに溝状を呈する。規模は開口部径 402 × 54cm、底部径 406 × 12cm、検出面から底面までの深さは 97cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は長軸側の底面両端がオーバーハングしている。短軸側の壁面は外傾して立ち上がり、底面は緩い凹凸はあるが、勾配はない。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上～中位は暗褐色シルトを主体とし、下位は上面から橙色粘土質シルト、黒褐色シルト、黄褐色シルトが堆積している。

＜遺物＞ なし。

46号陥し穴状遺構（第61図、写真図版38）

＜位置・検出状況＞ 調査区北西の平坦地、II A 23 w・23 x グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに溝状を呈する。規模は開口部径 313 × 58cm、底部径 289 × 7cm、検出面から底面までの深さは 148cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁北東側は底面から垂直な立ち上がりで、他は外傾して立ち上がる。底面には凹凸と勾配があり、北東側が低くなっている。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は暗褐色シルト、中位は褐色粘土質シルト、下位は上面から明黄

褐色浮石粒、にぶい黄褐色粘土質シルト、褐色シルト、黒色シルトの順に堆積している。

＜遺物＞ なし。

#### 47号陥し穴状遺構（第61図、写真図版38）

＜位置・検出状況＞ 調査区北西の平坦地、IA 23 x グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに溝状を呈する。規模は開口部径 372 × 46cm、底部径 358 × 9cm、検出面から底面までの深さは 106cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は長軸側の北東側の底面がややオーバーハングし、垂直気味に立ち上がるが、他は外傾して立ち上がる。底面には緩い凹凸と勾配があり、南西側が低くなっている。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は暗褐色粘土質シルトと褐色粘土質シルト、中位は褐色粘土、下位は暗褐色粘土を主体とする。

＜遺物＞ なし。

#### 48号陥し穴状遺構（第62図、写真図版38）

＜位置・検出状況＞ 調査区西側の平坦地、II A 2 w · 3 w グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに溝状を呈する。規模は開口部径 382 × 58cm、底部径 364 × 8cm、検出面から底面までの深さは 112cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は長軸側が垂直、短軸側が外傾して立ち上がり、開口部付近で開きが大きくなっている。底面には緩い凹凸はあるが勾配はない。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は暗褐色シルト、中位は褐色粘土を主体とし、下位は暗褐色粘土と褐色粘土の互層である。

＜遺物＞ なし。

#### 49号陥し穴状遺構（第62図、写真図版38）

＜位置・検出状況＞ 調査区南西の平坦地、II B 11 b · 12 b グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに溝状を呈する。規模は開口部径 306 × 62cm、底部径 286 × 14cm、検出面から底面までの深さは 124cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁はいずれも外傾して立ち上がり、開口部付近で開きが大きくなっている。底面には緩い凹凸があり、両端に比して中央付近がやや低い。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒褐～暗褐色シルト、中位は褐色粘土質シルト、下位は黒褐色粘土質シルトを主体とする。

＜遺物＞ なし。

#### 50号陥し穴状遺構（第62図、写真図版39）

＜位置・検出状況＞ 調査区南西の平坦地、II B 13 a グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が楕円形、底部は溝状を呈する。規模は開口部径 221 × 84cm、底部径 224 × 21cm、検出面から底面までの深さは 92cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は長軸側の底面両端がオーバーハングしている。短軸側の壁面は底面からほぼ垂直に立ち上がり、中段～開口部にかけては外傾して立ち上がる。底面は勾配があり、両端に比して中央付近がやや低くなっている。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒褐色シルト、中位は褐色粘土質シルト、下位は褐色シルトを主体とする。

＜遺物＞ なし。

#### 51号陥し穴状遺構（第62図、写真図版39）

＜位置・検出状況＞ 調査区南側の平坦地、ⅡB 14 g・15 gグリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。開口部の南側が後世の搅乱によって失われている。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに溝状を呈する。検出した規模は開口部径 138 × 61cm、底部径 252 × 7 cm、検出面から底面までの深さは 85cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁はいずれも外傾して立ち上がり、開口部付近で開きが大きくなっている。底面には凹凸および勾配があり、両端が低くなっている。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒褐色シルト、中位は暗褐色粘土質シルト、下位は褐色粘土を主体とする。

＜遺物＞ なし。

#### 52号陥し穴状遺構（第63図、写真図版39）

＜位置・検出状況＞ 調査区中央の平坦地、ⅡB 4 j グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに溝状を呈する。規模は開口部径 316 × 60cm、底部径 285 × 12cm、検出面から底面までの深さは 122cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁はいずれも外傾して立ち上がり、開口部付近で開きがやや大きくなっている。底面には緩い勾配があり、両端がやや低くなっている。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒褐～暗褐色シルト、中位は褐色粘土質シルト、下位は上面から暗褐色シルト、にぶい黄褐色シルト、黒色シルトの順に堆積している。

＜遺物＞ なし。

#### 53号陥し穴状遺構（第63図、写真図版39）

＜位置・検出状況＞ 調査区中央の平坦地、ⅡB 5 m・5 n グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が橢円形、底部が溝状を呈する。規模は開口部径 321 × 72cm、底部径 284 × 14cm、検出面から底面までの深さは 123cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁はいずれも外傾して立ち上がり、中段から開口部にかけて開きがやや大きくなっている。底面には緩い凹凸がある。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒褐色シルト、中位は褐色粘土質シルトを主体とし、下位は上面から暗褐色粘土質シルト、褐色粘土質シルト、にぶい褐色粘土質シルト、黒色シルトが堆積する。

＜遺物＞ なし。

#### 54号陥し穴状遺構（第63図、写真図版40）

＜位置・検出状況＞ 調査区中央の平坦地、ⅡB 5 o・5 p グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。遺構の東側は倒木の搅乱によって失われている。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が橢円状、底部が溝状を呈する。検出した規模は開口部径 171 × 85cm、底部径 302 × 19cm、検出面から底面までの深さは 116cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は長軸の西側がオーバーハングしている。短軸側の壁面は底面から垂直に立ち上がり、中段から開口部にかけて開きが大きくなっている。底面には勾配があり、両端に比して中央付近が低くなっている。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒色シルト、中位は黒褐色シルト、下位は褐色粘土質シルトを主体とし、底面直上に暗褐色粘土が堆積している。

＜遺物＞ なし。

#### 55号陥し穴状遺構（第63図、写真図版40）

＜位置・検出状況＞ 調査区東側の平坦地、II B 5 u グリッドに位置し、III層で検出した。

南東側開口部の一部は後世の搅乱によって失われている。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が橢円状、底部が溝状を呈する。検出した規模は開口部径 83 × 67cm、底部径 225 × 14cm、検出面から底面までの深さは 102cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は長軸の北西側がオーバーハングしている。短軸側の壁面は底面から外傾して立ち上がる。底面には勾配があり、両端が低くなっている。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位の大半は搅乱の影響で失われているが黒褐色シルト、中～下位は褐色粘土質シルトを主体とし、底面直上に暗褐色粘土が堆積している。

＜遺物＞ なし。

#### 56号陥し穴状遺構（第64図、写真図版40）

＜位置・検出状況＞ 調査区東側の斜面縁部、II B 1 x・2 x グリッドに位置し、III層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに溝状を呈する。規模は開口部径 324 × 42cm、底部径 322 × 16cm、検出面から底面までの深さは 124cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は長軸の南側がオーバーハングしている。短軸側の壁面は底面から垂直に立ち上がり、中段から開口部にかけて外傾し、開きがやや大きくなっている。底面には勾配があり、北端側が低くなっている。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒褐色シルト、褐色シルトを挟み中位は暗褐色粘土質シルト、下位は黒褐色シルトを主体とする。底面直上に暗褐色シルトが堆積している。

＜遺物＞ なし。

#### 57号陥し穴状遺構（第64図、写真図版40）

＜位置・検出状況＞ 調査区南東の緩斜面地、II B 15 w・15 x グリッドに位置し、III層で検出した。遺構の北西側が19号陥し穴状遺構と重複し、これを切る。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに溝状を呈する。規模は開口部径 322 × 58cm、底部径 290 × 10cm、検出面から底面までの深さは 98cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から垂直に立ち上がり、中段から開口部にかけて外傾し、開きが大きくなっている。底面は全体に凹凸と勾配があり、北西側が低くなっている。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は黒褐色シルト、中位は暗褐色シルト、下位は黒褐色シルトを主体とする。

＜遺物＞ なし。

**58号陥し穴状遺構（第64図、写真図版41）**

＜位置・検出状況＞ 調査区東側の平坦地、II B 9 u グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに橢円形を呈する。規模は開口部径 187 × 110cm、底部径 141 × 52cm、検出面から底面までの深さは 115cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から外傾して立ち上がり、底面はやや凹凸があるが概ね平坦である。

＜杭穴＞ 5基検出した。開口部の長径は 7～13cm、深さは 20～25cm を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は暗褐色シルト、黒褐色シルト、下位は褐色シルト・黄褐色粘土質シルトを主体とする。

＜遺物＞ なし。

**59号陥し穴状遺構（第64図、写真図版41）**

＜位置・検出状況＞ 調査区北西の平坦地、II A 10 f・11 f グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が不整形、底部が橢円形を呈する。規模は開口部径 178 × 135cm、底部径 130 × 51cm、検出面から底面までの深さは 129cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から西側が外傾、東側が内傾して立ち上がり、開口部付近で開いた立ち上がりとなっている。底面は勾配があり、南側が低くなっている。

＜杭穴＞ 3基検出した。開口部の長径は 9cm、深さは 11～18cm を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上位は暗褐色シルト、黒褐色シルト、下位はにぶい褐色粘土質シルトを主体とし、底面直上に橙色粘土が堆積している。

＜遺物＞ なし。

**60号陥し穴状遺構（第65図、写真図版41）**

＜位置・検出状況＞ 調査区南西の平坦地、II B 14 v グリッド付近に位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部・底部ともに橢円形を呈する。規模は開口部径 173 × 107cm、底部径 143 × 50cm、検出面から底面までの深さは 98cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から垂直に立ち上がり、開口部付近で外傾し、開いた立ち上がりとなっている。底面は全体にやや凹凸がある。

＜杭穴＞ 7基検出した。開口部の長径は 7～16cm、深さは 20～33cm を測る。

＜堆積土＞ 自然堆積で、上～中位は暗褐～黒褐色シルト、下位は褐色粘土質シルトを主体とする。

＜遺物＞ なし。

**61号陥し穴状遺構（第65図、写真図版41）**

＜位置・検出状況＞ 調査区西側の平坦地、II A 4 w グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。

＜平面形・規模＞ 平面形は開口部が橢円形・底部が長方形を呈する。規模は開口部径 152 × 110cm、底部径 104 × 57cm、検出面から底面までの深さは 92cm を測る。

＜壁・底面＞ 壁は底面から外傾して立ち上がり、開口部付近でやや開いた立ち上がりとなっている。底面は概ね平坦である。

＜杭穴＞ 2基検出した。

＜堆積土＞ 自然堆積で、上位は暗褐色シルト、中位は褐色粘土、下位は暗褐色粘土を主体とする。

＜遺物＞ なし。

第4表 陥し穴状遺構一覧(1)

遺構名	位置(グリッド)	形状		規模(cm)			軸方向	底面施設		備考
		開口部	底部	開口部径	底面径	深さ		杭穴	杭跡	
1号陥し穴状遺構	I B19 f	円形	円形	127×117	60×54	80	N-53°-E	1		
2号陥し穴状遺構	I B20 f、21 f	楕円形	円形	139×125	71×65	103	N-70°-W	1		
3号陥し穴状遺構	I B24 e、25 e	楕円形	長方形	137×115	95×79	87	N-32°-E	1		
4号陥し穴状遺構	I B25 f	円形	円形	132×122	83×80	98	N-13°-E	1		
5号陥し穴状遺構	II B2 j、3 j	円形	円形	107×95	82×76	71	N-90°	1		
6号陥し穴状遺構	II B7 b、7 c、8 b、8 c	楕円形	楕円形	148×129	85×68	97	N-23°-W	1		
7号陥し穴状遺構	II B7 d、7 e	円形	方形	139×136	90×85	81	N-27°-W	1	1	
8号陥し穴状遺構	II B8 e	円形	円形	135×131	89×88	71	N-35°-E	1		
9号陥し穴状遺構	II A11 u	歪んだ円形	方形	133×128	64×60	101	N-23°-W	2		杭穴=杭跡か?
10号陥し穴状遺構	II A12 u	円形	円形	142×138	71×66	112	N-21°-E	1		
11号陥し穴状遺構	I B24 t	円形	円形	126×121	85×84	119	N-30°-W			
12号陥し穴状遺構	I B24 u	円形	円形	111×103	57×50	114	N-10°-W	1		
13号陥し穴状遺構	II C1 a、1 b	円形	円形	99×95	68×67	107	N-36°-W	1		
14号陥し穴状遺構	II B9 v	楕円形	隅丸方形状	146×138	85×83	92	N-3°-E	1	1	
15号陥し穴状遺構	II B10 v	円形	楕円形	147×134	83×71	90	N-27°-E	1		
16号陥し穴状遺構	II C7 c	円形	円形	111×106	62×57	103	N-28°-W	1		
17号陥し穴状遺構	II C10 c	円形	円形	128×120	65×61	112	N-38°-W	1		
18号陥し穴状遺構	II C11 c	円形	円形	131×126	62×59	131	N-72°-E	1		
19号陥し穴状遺構	II B14 w、15 w	楕円形	楕円形	158×132	84×72	92	N-68°-E	1		57号陥し穴状遺構と重複
20号陥し穴状遺構	I B18 c	方形状	方形状	134×118	110×90	86	N-65°-E	1	4	
21号陥し穴状遺構	I B22 c、22 d	長方形	長方形	145×121	119×91	85	N-57°-E	1	4	
22号陥し穴状遺構	II B1 e	楕円形	楕円形	114×94	82×67	85	N-24°-E	1	-	杭跡3か4
23号陥し穴状遺構	II B4 f、4 g、5 f、5 g	楕円形	長方形	148×142	91×72	93	N-84°-W	1		
24号陥し穴状遺構	II B8 h、8 i	円形	円形	125×114	93×85	82	N-35°-E	1	4	
25号陥し穴状遺構	II B9 i	楕円状	楕円状	165×140	140×108	89	N-59°-E	1	4	
26号陥し穴状遺構	II B11 g	円形	楕円形	151×149	99×89	104	N-15°-W	1	-	杭跡3か4
27号陥し穴状遺構	II B12 h	楕円形	楕円形	172×159	110×92	129	N-67°-W	1	3	
28号陥し穴状遺構	II B12 g、13 g	楕円形	長方形	154×138	95×78	120	N-47°-W	1	3	
29号陥し穴状遺構	II B13 f、13 g	楕円形	方形	172×167	78×72	110	N-65°-W	1	3	
30号陥し穴状遺構	II B13 f、14 f	円形	円形	157×146	80×78	119	N-68°-W	1	4	
31号陥し穴状遺構	II B15 e	楕円形	方形状	167×145	112×99	133	N-61°-W	1	3	

第4表 陥し穴状遺構一覧(2)

遺構名	位置(グリッド)	形状		規模(cm)			軸方向	底面施設		備考
		開口部	底部	開口部径	底面径	深さ		杭穴	杭跡	
32号陥し穴状遺構	II B 17 c、18 c	円～楕円形	楕円形	161×149	85×74	103	N-40°-E	1	3	
33号陥し穴状遺構	II B 18 c	円形	長方形	148×143	91×89	108	N-56°-W	1	4	
34号陥し穴状遺構	II B 14 j、14 k、15 j、15 k	円形	長方形	175×174	126×93	105	N-2°-W	1	4	
35号陥し穴状遺構	II B 8 t	楕円形	円形	115×95	99×97	72	N-49°-W	1	4	
36号陥し穴状遺構	II B 10 u、10 v	長方形	長方形	(152)×(102)	123×106	112	N-11°-W	1	4	
37号陥し穴状遺構	II B 14 v	楕円形	長方形	207×160	139×101	98	N-79°-E	1	4	
38号陥し穴状遺構	II A 8 s、9 s	楕円形	長方形	171×147	106×78	102	N-84°-W	4		
39号陥し穴状遺構	II B 17 a	円形	隅丸方形	153×143	113×97	105	N-6°-E	3		
40号陥し穴状遺構	II B 17 c	円形	楕円形	178×163	118×102	99	N-66°-W	4		
41号陥し穴状遺構	II B 14 i	楕円形	長方形	196×173	159×109	104	N-24°-E	4		
42号陥し穴状遺構	II B 14m、14 n	楕円形	長方形	184×(150)	153×111	84	N-20°-W	4	4	
43号陥し穴状遺構	II B 14 n、14 o	楕円形	長方形	218×207	155×111	110	N-23°-W	4	2	
44号陥し穴状遺構	II B 14 o、14 p	長方形	長方形	203×172	137×110	100	N-61°-W	4	1	
45号陥し穴状遺構	II A 1 o、1 p、2 p	溝状	溝状	402×54	406×12	97	N-46°-W			
46号陥し穴状遺構	I A 23 w、23 x	溝状	溝状	313×58	289×7	148	N-22°-E			
47号陥し穴状遺構	I A 23 x	溝状	溝状	372×46	358×9	106	N-46°-E			
48号陥し穴状遺構	II A 2 w、3 w	溝状	溝状	382×58	364×8	112	N-53°-W			
49号陥し穴状遺構	II B 11 b、12 b	溝状	溝状	306×62	286×14	124	N-21°-W			
50号陥し穴状遺構	II B 13 a	楕円形	溝状	221×84	224×21	92	N-60°-E			
51号陥し穴状遺構	II B 14 g、15 g	溝状	溝状	(138)×61	252×7	85	N-68°-W			
52号陥し穴状遺構	II B 4 j	溝状	溝状	316×60	285×12	122	N-33°-E			
53号陥し穴状遺構	II B 5 m、5 n	楕円形	溝状	321×72	284×14	123	N-36°-W			
54号陥し穴状遺構	II B 5 o、5 p	楕円形	溝状	(171)×(85)	(302)×19	116	N-68°-W			
55号陥し穴状遺構	II B 5 u	楕円形	溝状	(83)×67	225×14	102	N-44°-W			
56号陥し穴状遺構	II B 1 x、2 x	溝状	溝状	324×42	322×16	124	N-15°-W			
57号陥し穴状遺構	II B 15 w、15 x	溝状	溝状	332×58	290×10	98	N-47°-W			19号陥し穴状遺構と重複
58号陥し穴状遺構	II B 9 u	楕円形	楕円形	187×110	141×52	115	N-61°-W	5		杭穴=杭跡か?
59号陥し穴状遺構	II A 10 r、11 r	不整形	楕円形	178×135	130×51	129	N-18°-E	3		杭穴=杭跡か?
60号陥し穴状遺構	II B 14 v、14 w、15 v、15 w	楕円形	楕円形	173×107	143×50	98	N-47°-W	7		
61号陥し穴状遺構	II A 4 w	楕円形	長方形	152×110	104×57	92	N-26°-W	2		

※( )は残存値

第5表 陥し穴状遺構内底面施設一覧(1)

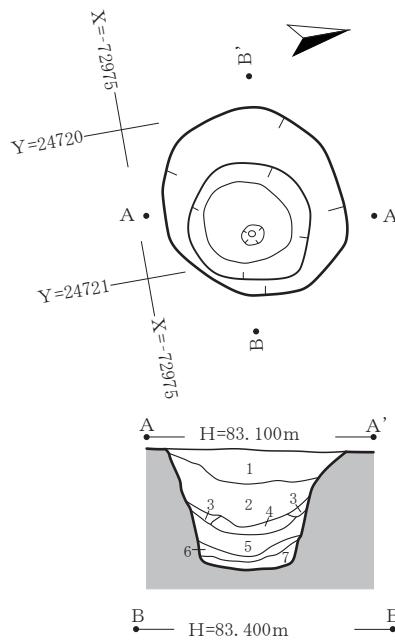
遺構名	施設名	規模(検出面)	深さ
1号陥し穴状遺構	杭穴	15×13	16
2号陥し穴状遺構	杭穴	13×10	15
3号陥し穴状遺構	杭穴	19×15	34
4号陥し穴状遺構	杭穴	13×12	26
5号陥し穴状遺構	杭穴	16×16	31
6号陥し穴状遺構	杭穴	15×13	37
7号陥し穴状遺構	杭穴	20×19	47
	杭跡	11×11	47
8号陥し穴状遺構	杭穴	22×18	48
9号陥し穴状遺構	杭穴(P1)	9×8	34
	杭穴(P2)	6×5	34
10号陥し穴状遺構	杭穴	20×20	37
12号陥し穴状遺構	杭穴	19×16	22
13号陥し穴状遺構	杭穴	14×12	22
14号陥し穴状遺構	杭穴	32×22	29
	杭跡	21×21	29
15号陥し穴状遺構	杭穴	21×15	32
16号陥し穴状遺構	杭穴	14×12	39
17号陥し穴状遺構	杭穴	17×14	13
18号陥し穴状遺構	杭穴	12×11	17
19号陥し穴状遺構	杭穴	12×11	14
20号陥し穴状遺構	杭穴	31×28	66
	杭跡(P1)	9×8	—
	杭跡(P2)	10×8	—
	杭跡(P3)	12×9	—
	杭跡(P4)	9×7	—
21号陥し穴状遺構	杭穴	34×32	62
	杭跡(P1)	8×5	68
	杭跡(P2)	8×6	65
	杭跡(P3)	8×6	62
	杭跡(P4)	8×6	63
22号陥し穴状遺構	杭穴	25×20	40
23号陥し穴状遺構	杭穴	22×19	38
24号陥し穴状遺構	杭穴	41×37	59
	杭跡(P1)	11×10	—
	杭跡(P2)	12×7	60
	杭跡(P3)	11×9	—

遺構名	施設名	規模(検出面)	深さ
24号陥し穴状遺構	杭跡(P4)	11×9	64
	杭穴	41×33	62
	杭跡(P1)	18×14	—
	杭跡(P2)	17×13	66
	杭跡(P3)	13×10	—
25号陥し穴状遺構	杭跡(P4)	10×7	66
	杭穴	24×22	42
	杭穴	36×29	55
27号陥し穴状遺構	杭跡(P1)	10×9	56
	杭跡(P2)	10×8	55
	杭跡(P3)	9×8	56
	杭穴	33×27	47
28号陥し穴状遺構	杭跡(P1)	10×9	51
	杭跡(P2)	11×7	51
	杭跡(P3)	—	48
	杭穴	26×24	56
29号陥し穴状遺構	杭跡(P1)	—	70
	杭跡(P2)	—	57
	杭跡(P3)	—	57
	杭穴	29×29	58
30号陥し穴状遺構	杭跡(P1)	—	64
	杭跡(P2)	—	67
	杭跡(P3)	—	67
	杭跡(P4)	—	63
	杭穴	28×27	61
31号陥し穴状遺構	杭跡(P1)	14×14	—
	杭跡(P2)	12×11	—
	杭跡(P3)	13×9	—
	杭穴	28×25	60
32号陥し穴状遺構	杭跡(P1)	9×7	60
	杭跡(P2)	7×6	62
	杭跡(P3)	7×7	63
	杭穴	22×20	46
33号陥し穴状遺構	杭跡(P1)	11×9	—
	杭跡(P2)	8×7	—
	杭跡(P3)	8×7	—
	杭跡(P4)	8×6	—

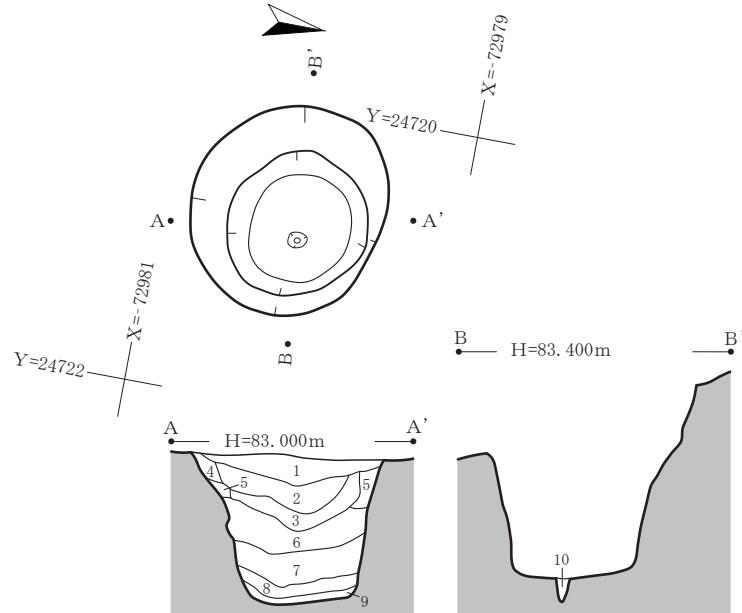
第5表 陥し穴状遺構内底面施設一覧(2)

遺構名	施設名	規模(検出面)	深さ
34号陥し穴状遺構	杭穴	35×31	47
	杭跡(P1)	14×13	67
	杭跡(P2)	16×15	65
	杭跡(P3)	14×12	60
	杭跡(P4)	14×11	51
35号陥し穴状遺構	杭穴	33×29	28
	杭跡(P1)	12×10	33
	杭跡(P2)	12×11	42
	杭跡(P3)	12×11	36
	杭跡(P4)	11×9	37
36号陥し穴状遺構	杭穴	43×39	55
	杭跡(P1)	18×14	56
	杭跡(P2)	19×14	60
	杭跡(P3)	17×14	59
	杭跡(P4)	18×14	60
37号陥し穴状遺構	杭穴	43×41	24
	杭跡(P1)	16×15	42
	杭跡(P2)	20×17	44
	杭跡(P3)	18×15	42
	杭跡(P4)	18×15	47
38号陥し穴状遺構	杭穴(P1)	19×17	37
	杭穴(P2)	18×17	37
	杭穴(P3)	18×15	39
	杭穴(P4)	17×15	38
39号陥し穴状遺構	杭穴(P1)	16×16	62
	杭穴(P2)	18×16	63
	杭穴(P3)	13×12	55
40号陥し穴状遺構	杭穴(P1)	14×13	53
	杭穴(P2)	13×12	56
	杭穴(P3)	14×12	41
	杭穴(P4)	13×12	49
41号陥し穴状遺構	杭穴(P1)	17×15	41
	杭穴(P2)	13×13	44
	杭穴(P3)	18×15	52
	杭穴(P4)	24×21	50
42号陥し穴状遺構	杭穴(P1)	17×14	66
	杭跡(P1)	4×4	66
	杭穴(P2)	14×11	58
	杭跡(P2)	5×5	58
	杭穴(P3)	19×14	59
	杭跡(P3)	5×5	59
	杭穴(P4)	12×10	54
	杭跡(P4)	4×4	54
43号陥し穴状遺構	杭穴(P1)	18×16	58
	杭跡(P1)	7×7	58
	杭穴(P2)	17×14	62
	杭穴(P3)	18×15	53
	杭跡(P3)	4×4	53
	杭穴(P4)	14×13	58
44号陥し穴状遺構	杭穴(P1)	18×17	50
	杭穴(P2)	17×17	46
	杭跡(P2)	8×8	46
	杭穴(P3)	24×23	52
	杭穴(P4)	19×17	50
58号陥し穴状遺構	杭穴(P1)	9×7	24
	杭穴(P2)	10×9	23
	杭穴(P3)	13×9	25
	杭穴(P4)	7×6	20
	杭穴(P5)	10×7	24
59号陥し穴状遺構	杭穴(P1)	9×9	11
	杭穴(P2)	9×9	18
	杭穴(P3)	9×8	13
60号陥し穴状遺構	杭穴(P1)	12×12	22
	杭穴(P2)	12×9	22
	杭穴(P3)	12×11	20
	杭穴(P4)	7×6	23
	杭穴(P5)	7×6	33
	杭穴(P6)	13×12	33
	杭穴(P7)	16×15	33
61号陥し穴状遺構	杭穴(P1)	20×13	47
	杭穴(P2)	21×21	41

〔1号陥し穴状遺構〕



〔2号陥し穴状遺構〕

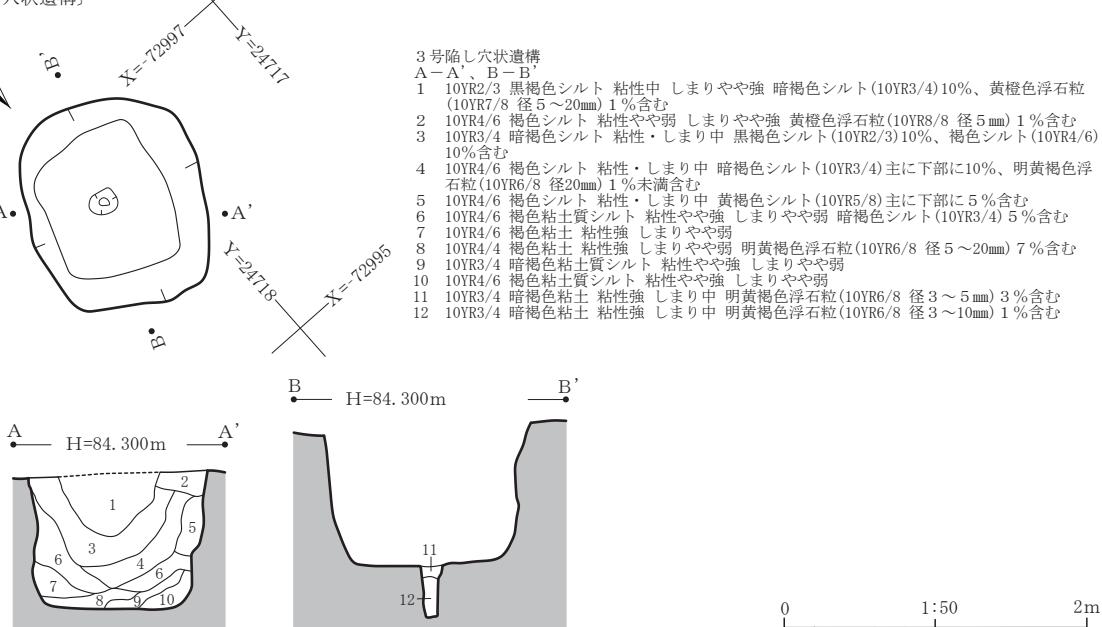


- 2号陥し穴状遺構  
 A-A', B-B'  
 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中 黄褐色シルトブロック (10YR5/8 径50mm) 3%、明黄褐色浮石粒 (10YR6/8 径3~5mm) 1%含む  
 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト (10YR2/3) 10%、黄褐色シルトブロック (10YR5/8 径50mm) 5%、明黄褐色浮石粒 (10YR6/8 径5~20mm) 2%含む  
 3 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性やや強・しまりやや弱 明黄褐色浮石粒 (10YR6/8 径5~10mm) 3%含む  
 4 10YR4/6 褐色シルト 粘性中・しまりやや強  
 5 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性・しまり中 褐色シルト (10YR4/6) 20%、黄橙色浮石粒 (10YR7/8 径5~10mm) 5%含む  
 6 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性やや強・しまりやや弱 黄橙色浮石粒 (10YR7/8 径3~30mm) 3%含む  
 7 10YR3/4 暗褐色粘土 粘性強・しまりやや弱 黄褐色粘土 (10YR4/6) 5%、黄橙色浮石粒 (10YR7/8 径5~30mm) 5%含む  
 8 10YR4/4 にぶい黄褐色粘土 粘性強・しまりやや弱 褐色粘土 (10YR4/6) 10%、黄橙色浮石粒 (10YR7/8 径5~10mm) 3%含む  
 9 10YR3/4 暗褐色粘土 粘性強・しまりやや弱 黄橙色浮石粒 (10YR7/8 径5~10mm) 5%含む  
 10 5YR4/4 にぶい黄褐色粘土 粘性強・しまり中 淡黄色粘土 (2.5YR8/4) 30~40%混じる

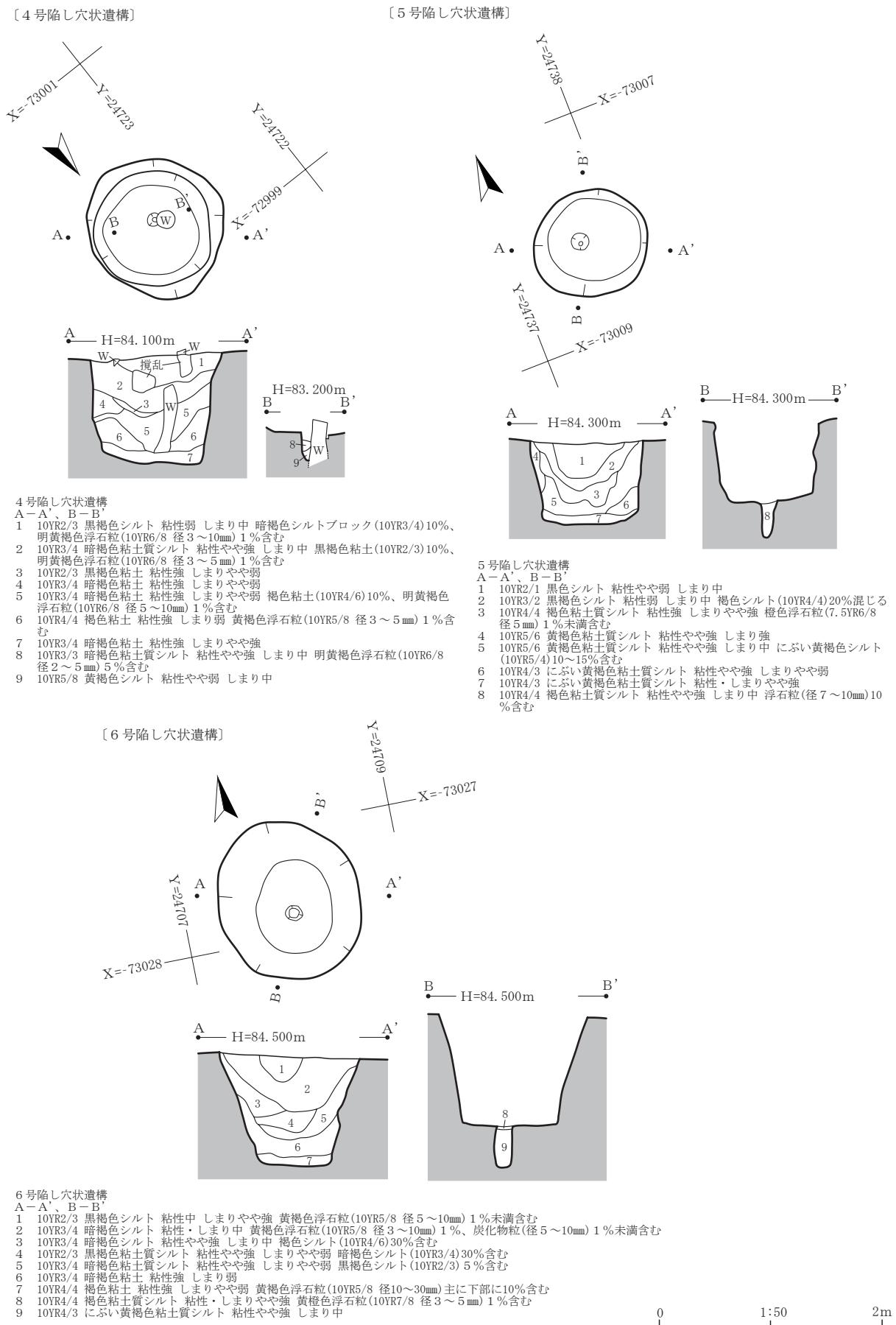
1号陥し穴状遺構

- A-A', B-B'  
 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや強・しまりやや強 黄褐色シルト (10YR4/6) 40%、黄橙色浮石粒 (10YR7/8 径3~20mm) 10%含む  
 2 10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり中 黄橙色浮石粒 (10YR7/8 径3~30mm) 30%含む  
 3 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり中 黄橙色浮石粒 (10YR7/8 径3~30mm) 30%含む  
 4 10YR2/3 黑褐色シルト 粘性中・しまりやや弱 暗褐色シルト (10YR3/4) 10%、黄橙色浮石粒 (10YR7/8 径10~20mm) 10%含む  
 5 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性中・しまりやや弱 褐色シルト (10YR4/6) 10%、黄橙色浮石粒 (10YR7/8 径5~20mm) 10%、炭化物粒 (径2~3mm) 1%未満含む  
 6 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや強・しまりやや弱 黄橙色浮石粒 (10YR7/8 径5~30mm) 10%含む  
 7 10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性・しまりやや弱 黄褐色粘土 (10YR4/6) 5%、明黄褐色浮石粒 (10YR6/8 径5~20mm) 15%含む  
 8 5YR4/4 にぶい黄褐色粘土 粘性強・しまり中 淡黄色粘土 (2.5YR8/4) 30~40%含む

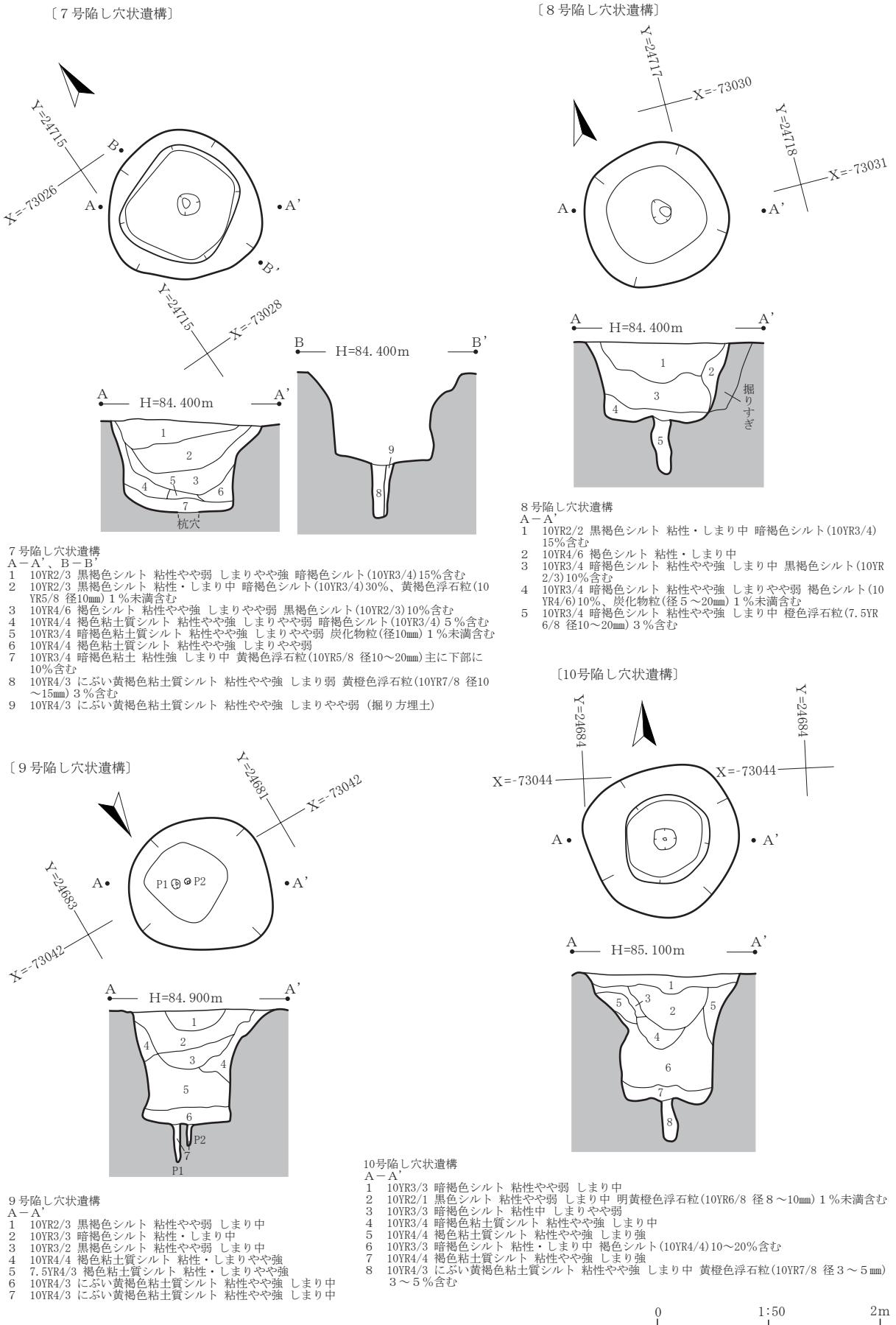
〔3号陥し穴状遺構〕



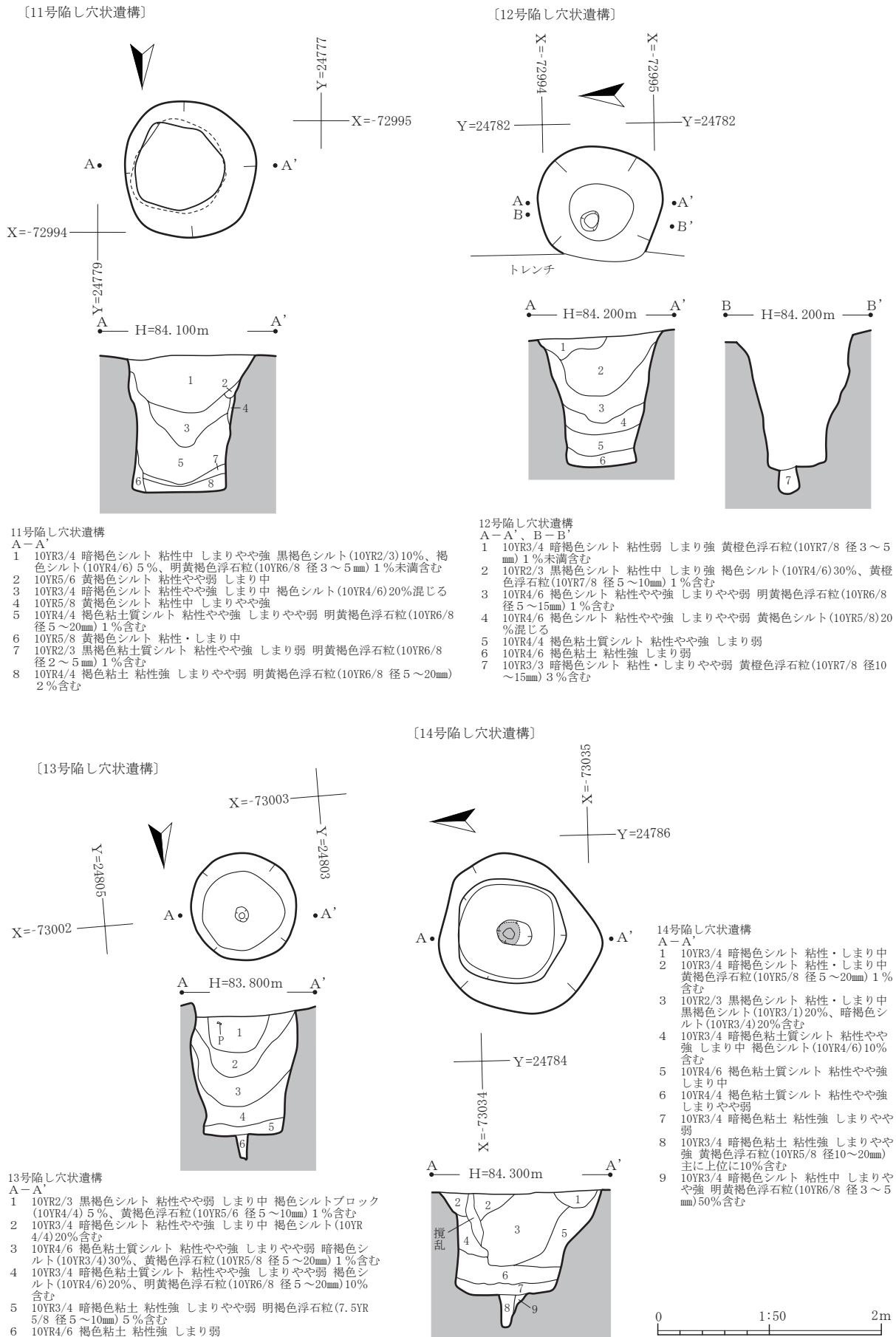
第47図 1~3号陥し穴状遺構



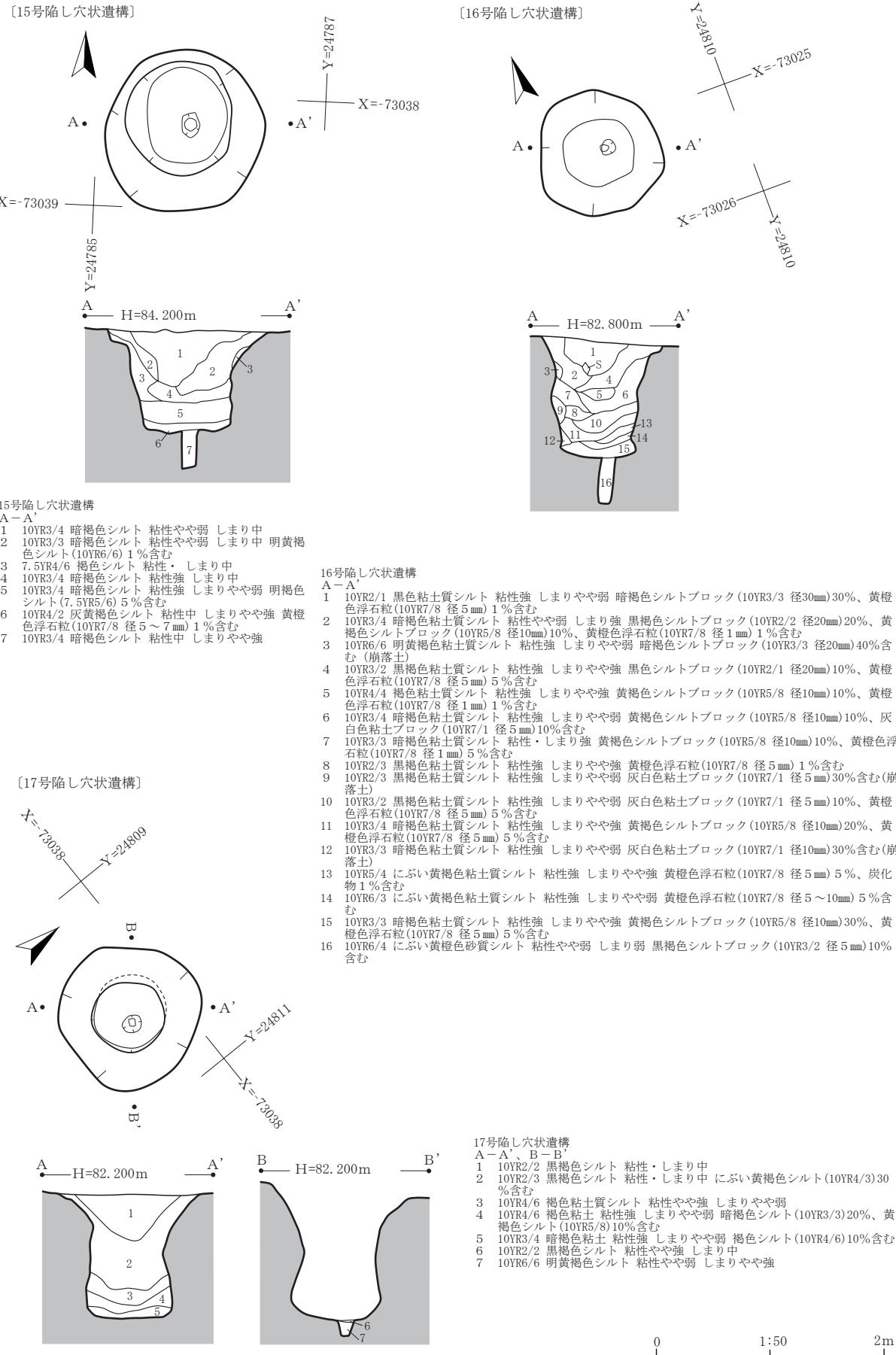
第48図 4~6号陥し穴状遺構



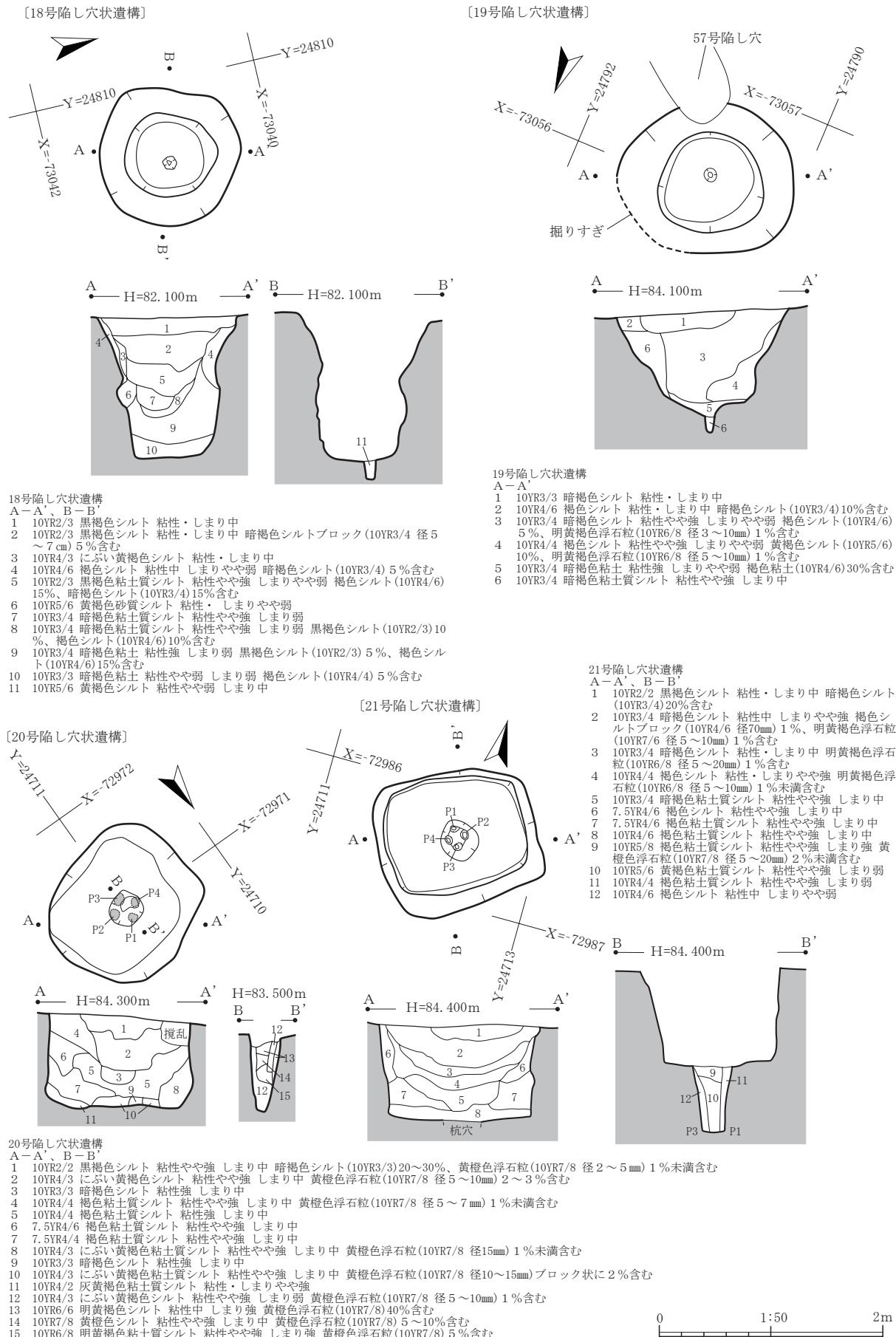
第49図 7~10号陥し穴状遺構



第50図 11~14号陥し穴状遺構

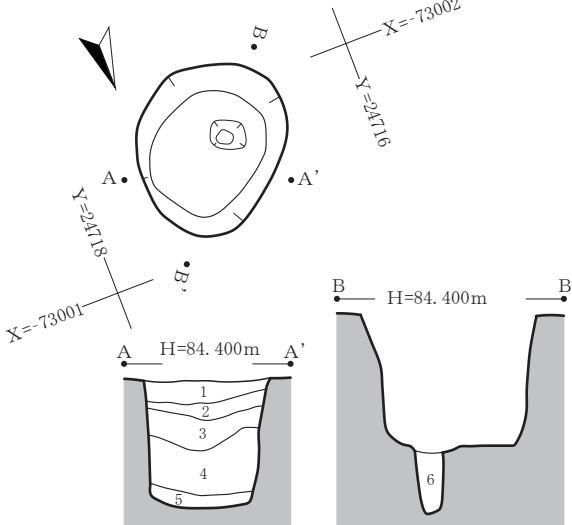


第51図 15～17号陥し穴状遺構



第52図 18~21号陥し穴状遺構

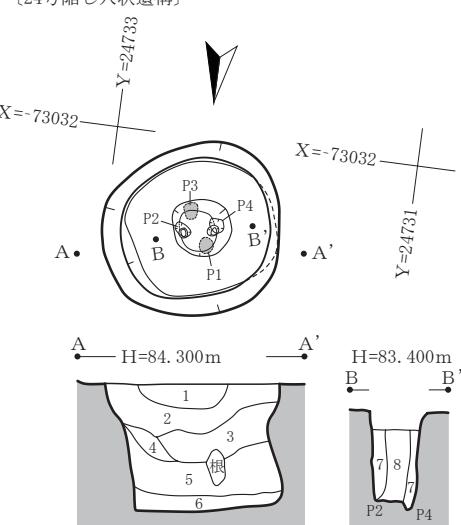
[22号陥し穴状遺構]



22号陥し穴状遺構

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり強 黄褐色浮石粒(10YR5/8 径3~5mm) 1%未満含む
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中
- 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色浮石粒(10YR6/8 径5~20mm) 1%含む
- 4 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや弱
- 5 10YR4/6 褐色粘土 粘性強 しまりやや弱
- 6 7.5YR4/6 褐色粘土 粘性強 しまりやや弱

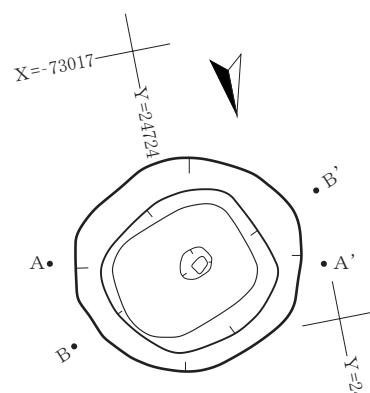
[24号陥し穴状遺構]



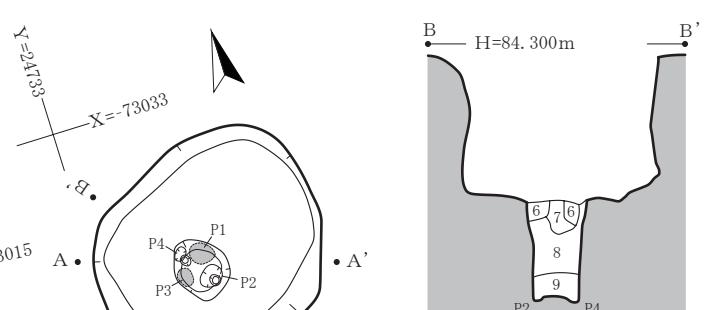
24号陥し穴状遺構

- 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中 黄褐色浮石粒(10YR7/8 径3~10mm) 1%含む
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまりやや弱 黄褐色浮石粒(10YR7/8 径2~5mm) 1%含む
- 4 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや強 しまりやや弱
- 5 10YR4/6 暗褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや弱
- 6 10YR3/4 暗褐色粘土 粘性・しまりやや強
- 7 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや強 しまりやや弱 明黄褐色浮石粒(10YR6/8 径10~15mm) 3%含む(杭跡)
- 8 10YR7/8 黄橙色粘土質シルト 粘性やや強 しまり強 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径10~20mm) 30~40%、灰黄褐色シルト(10YR5/2) 5%含む(掘り方埋土)

[23号陥し穴状遺構]

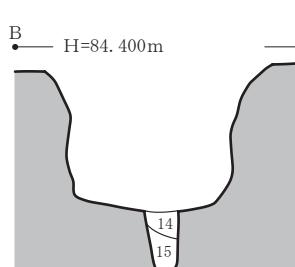


[25号陥し穴状遺構]



25号陥し穴状遺構

- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性やや弱 しまりやや強 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径2~5mm) 1~2%含む
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 径7~8mmの礫 1%含む
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや弱 しまり中 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径2~10mm) 1~2%含む
- 4 7.5YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまり中
- 5 10YR4/6 暗褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまり弱
- 6 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや強 しまり弱
- 7 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや弱 黄褐色浮石粒(10YR5/8 径10~30mm) 40%含む
- 8 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや強 しまり弱 暗褐色シルト(10YR3/4) 主に上部に5%含む
- 9 10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまりやや強 黄褐色浮石粒(10YR5/8 径10~20mm) 20%含む

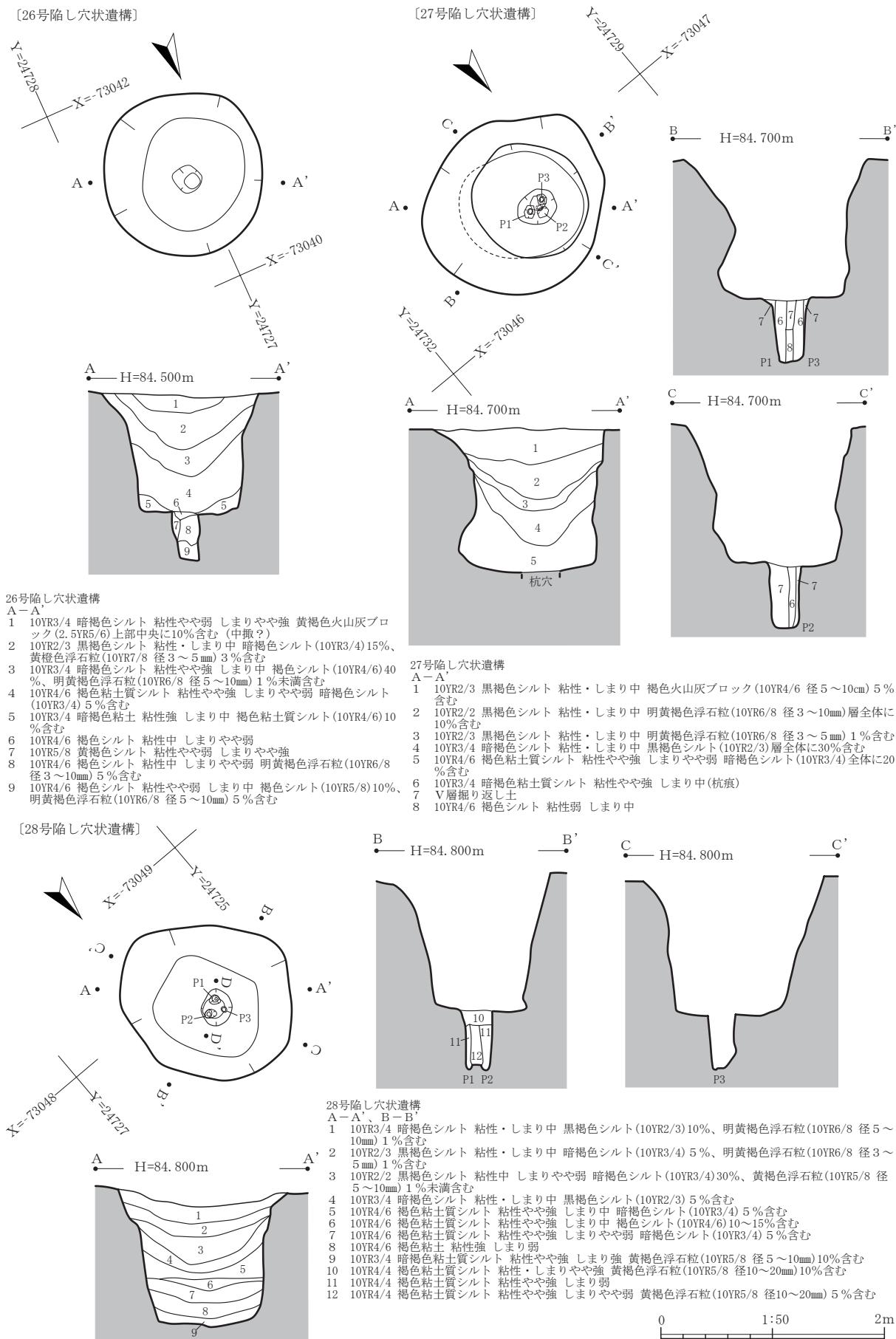


23号陥し穴状遺構

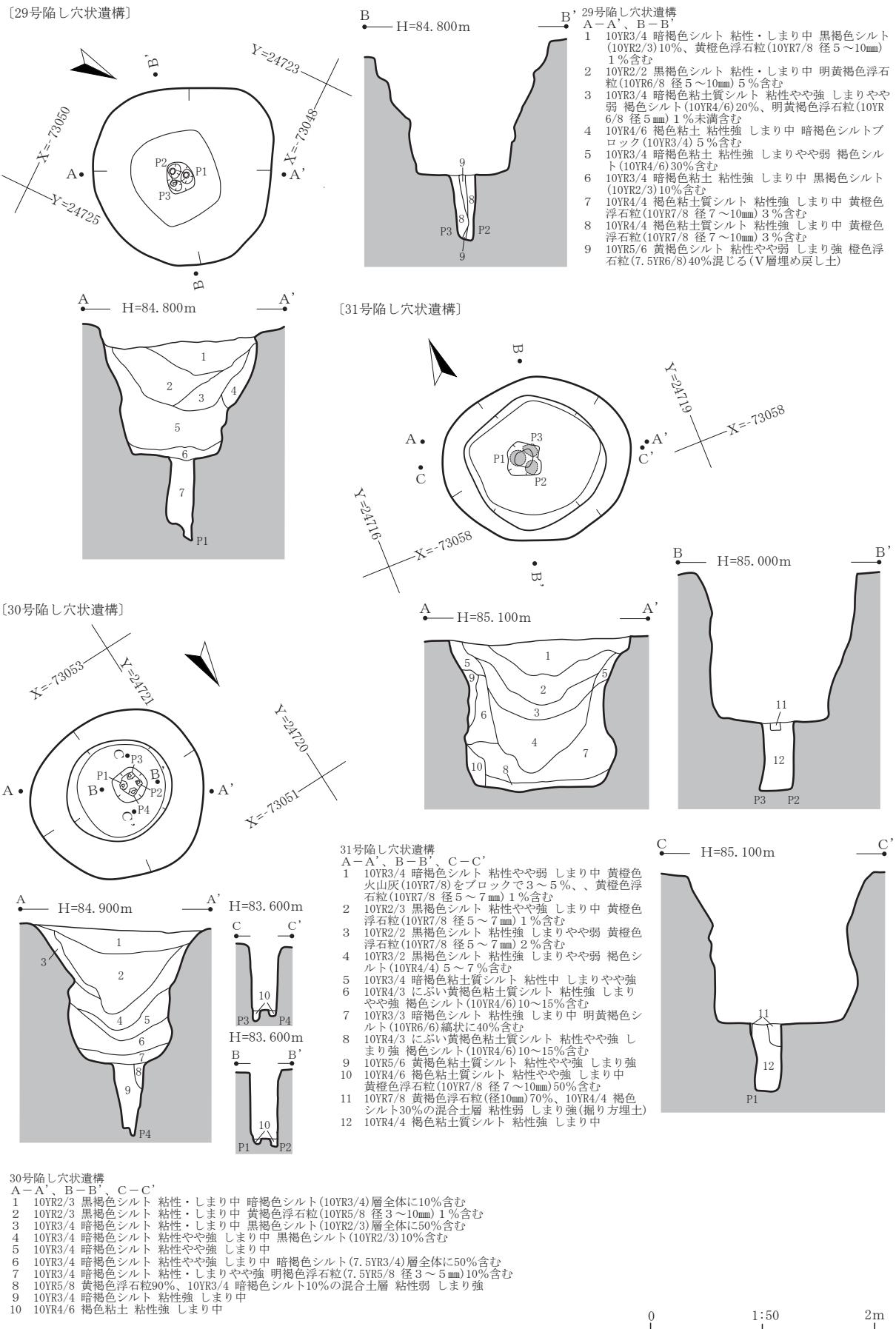
- 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや強 暗褐色シルト(10YR3/4) 20%含む
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや弱 明黄褐色浮石粒(10YR6/8 径2~5mm) 1%未満含む
- 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色浮石粒(10YR6/8 径2~5mm) 1%未満含む
- 4 10YR4/6 褐色粘土 粘性強 しまり中 暗褐色粘土(10YR4/6) 主に下部に10%含む
- 5 10YR4/6 褐色粘土 粘性強 しまり中
- 6 10YR4/6 褐色粘土 粘性強 しまり中
- 7 7.5YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性・しまりやや強
- 8 7.5YR4/6 褐色粘土 粘性強 しまり中
- 9 10YR4/6 褐色粘土 粘性強 しまり弱
- 10 10YR4/4 褐色粘土 粘性強 しまり弱
- 11 10YR3/4 暗褐色粘土 粘性強 しまりやや弱 褐色粘土(10YR4/6) 主に下部に20%含む
- 12 10YR3/4 暗褐色粘土 粘性強 しまり中
- 13 10YR4/4 褐色粘土 粘性強 しまり中
- 14 7.5YR4/6 褐色粘土 粘性強 しまりやや弱
- 15 10YR4/6 褐色粘土 粘性強 しまりやや弱

0 1:50 2m

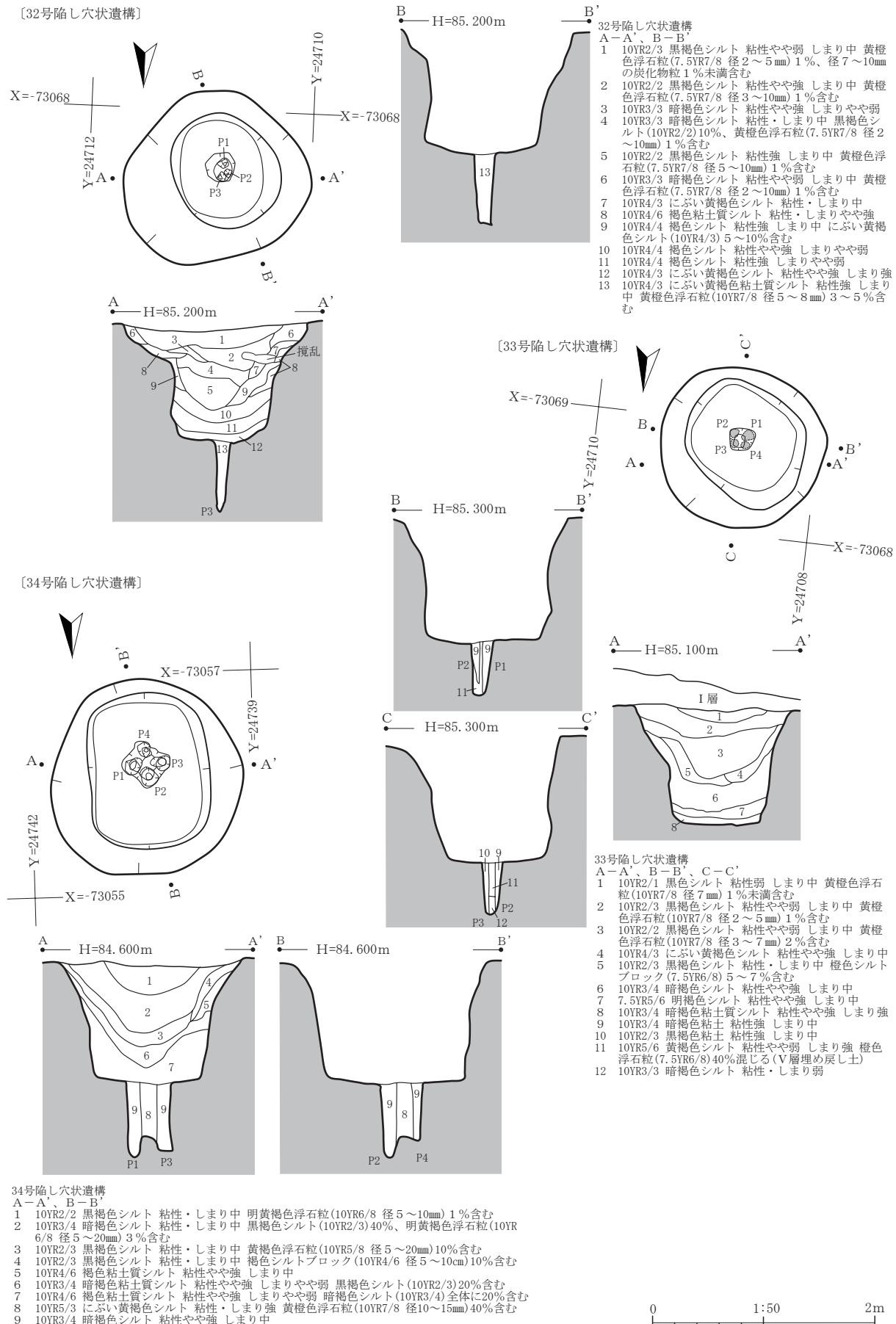
第53図 22~25号陥し穴状遺構



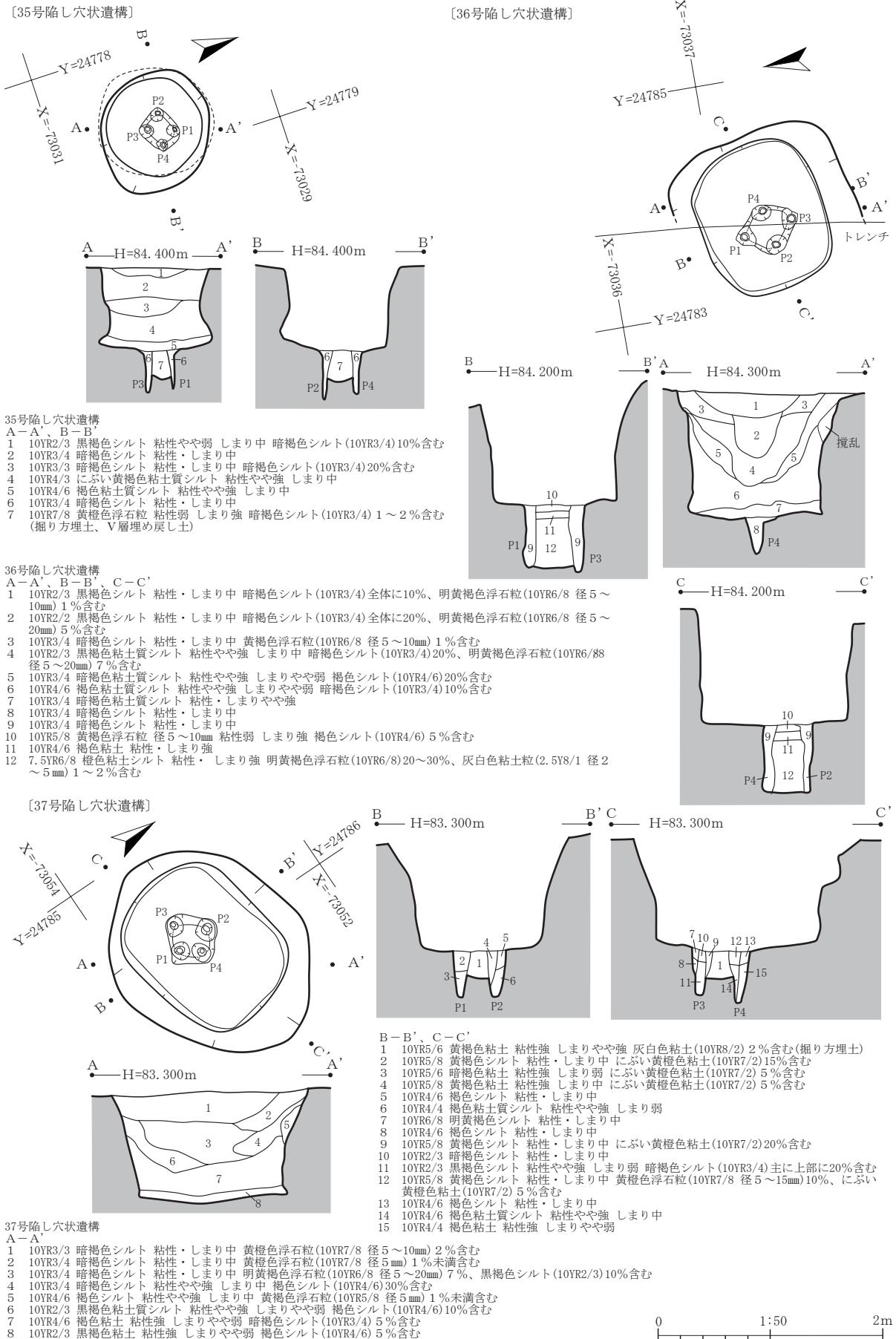
第 54 図 26 ~ 28 号陥し穴状遺構



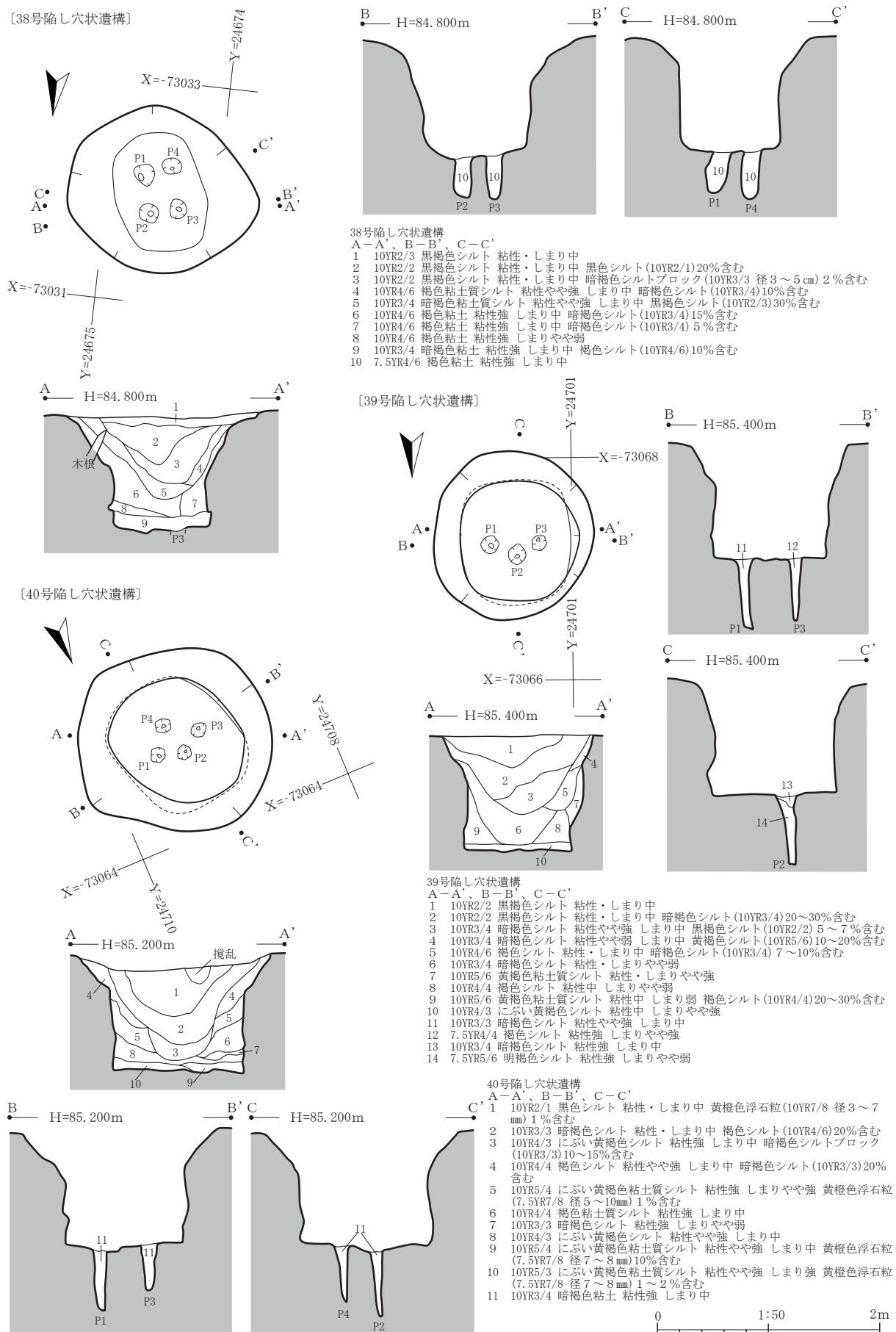
第55図 29~31号陥し穴状遺構



第 56 図 32 ~ 34 号陥し穴状遺構

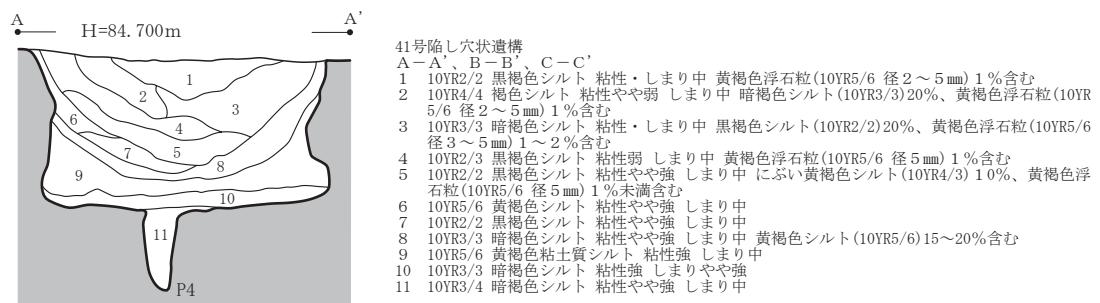
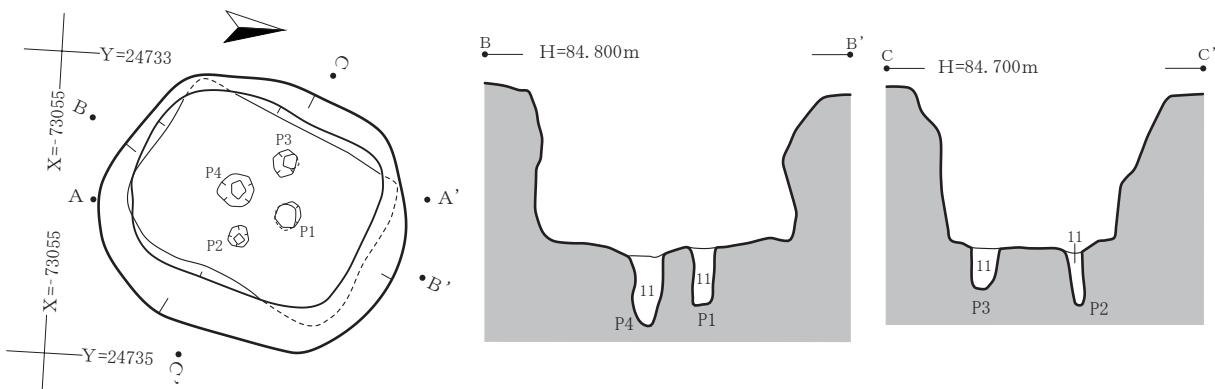


第57図 35~37号陥し穴状遺構

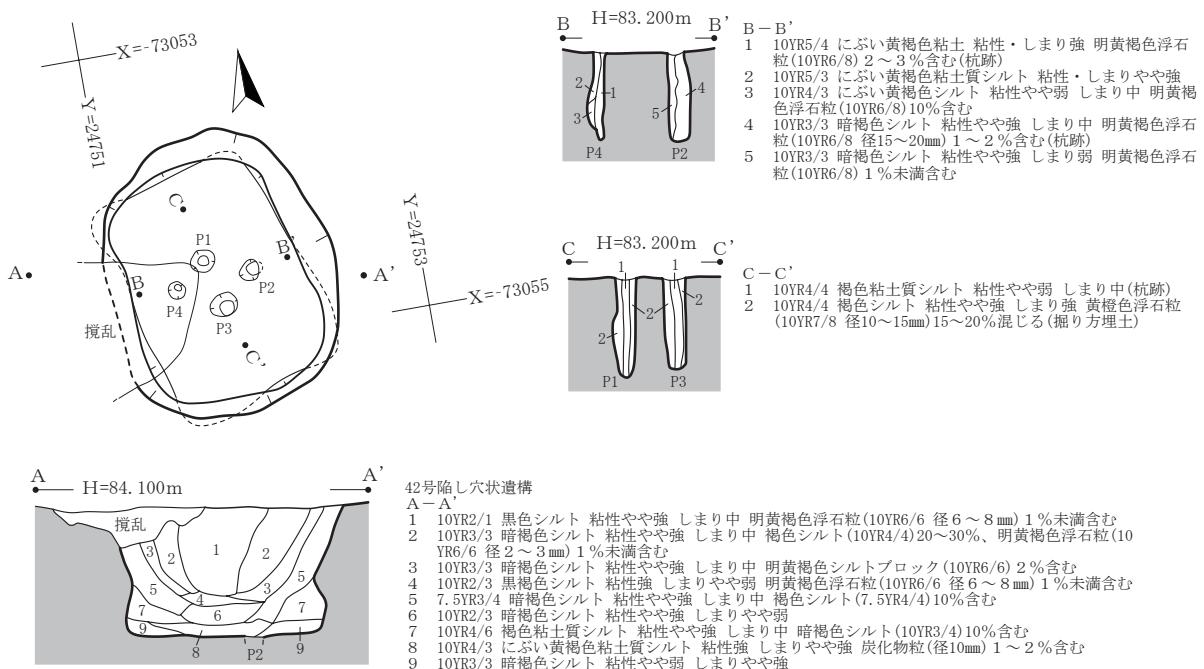


第 58 図 38 ~ 40 号陥し穴状遺構

[41号陥し穴状遺構]



[42号陥し穴状遺構]

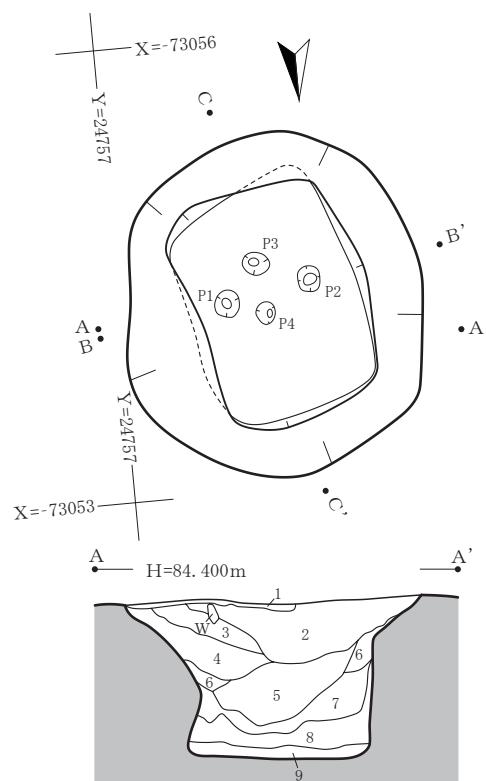


0 1:50 2m

第59図 41・42号陥し穴状遺構

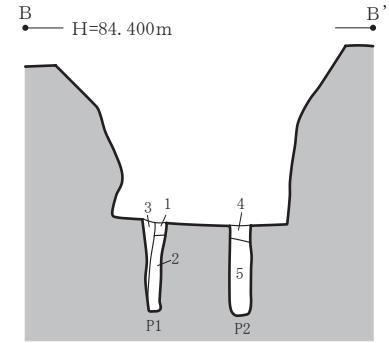
## 2 検出遺構と出土遺物

[43号陥し穴状遺構]

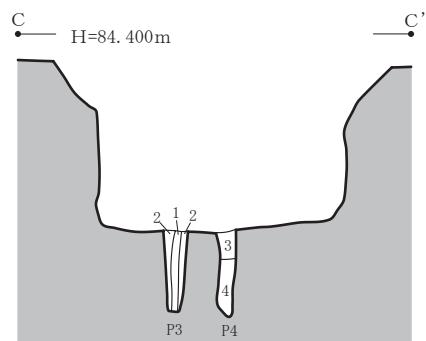


43号陥し穴状遺構

- A-A'
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや弱 しまり中 黄橙色浮石粒(10YR8/8 径3~5mm) 1%含む
  - 2 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性やや弱 しまり中 黄橙色浮石粒(10YR8/8 径3~5mm) 1%含む
  - 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや弱 しまり中 褐色シルト(10YR4/4)20%含む
  - 4 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや弱 しまり中 褐色シルト(10YR4/4)20~30%含む
  - 5 10YR2/1 黒色シルト 粘性やや強 しまり中 黄橙色浮石粒(10YR8/8 径5~7mm) 1%未満含む
  - 6 10YR2/3 黑褐色シルト 粘性・しまり中 暗褐色シルト(10YR3/4)20~30%含む
  - 7 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 褐色粘土質シルト(7.5YR4/4)10~15%含む
  - 8 7.5YR6/6 橙色粘土質シルト 粘性強 しまり中
  - 9 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性強 しまりやや強

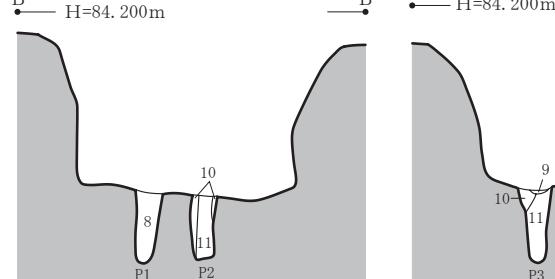


- B-B'
- 1 7.5YR5/6 明褐色シルト 粘性中 しまり強 黄橙色浮石粒(10YR8/8 径7~8mm)50%混じる
  - 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱 (杭跡)
  - 3 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性弱 しまりやや強 黄橙色浮石粒(10YR8/8 径10~12mm)20~30%混じる (掘り方)
  - 4 7.5YR5/6 明褐色シルト 粘性中 しまり強 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径7~8mm)20~30%混じる
  - 5 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまりやや強 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径10~12mm) 5%含む



- C-C'
- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱 (杭跡)
  - 2 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性弱 しまりやや強 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径10mm)20%含む (掘り方埋土)
  - 3 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性弱 しまりやや強 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径10~12mm)20~30%含む
  - 4 7.5YR5/6 明褐色シルト 粘性中 しまり強 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径10~12mm)10%含む

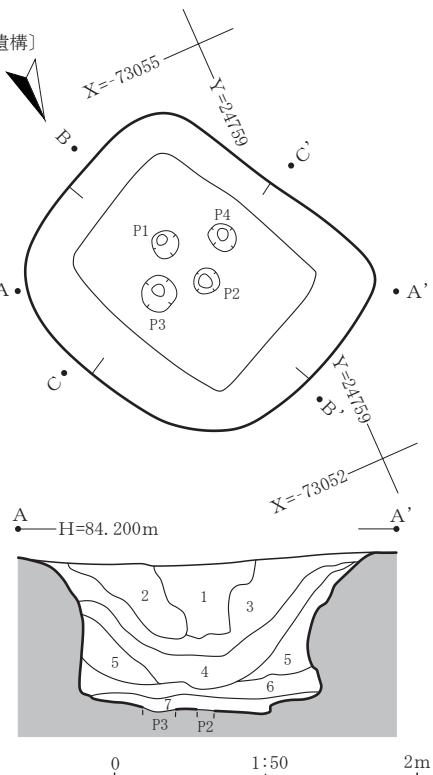
44号陥し穴状遺構



44号陥し穴状遺構

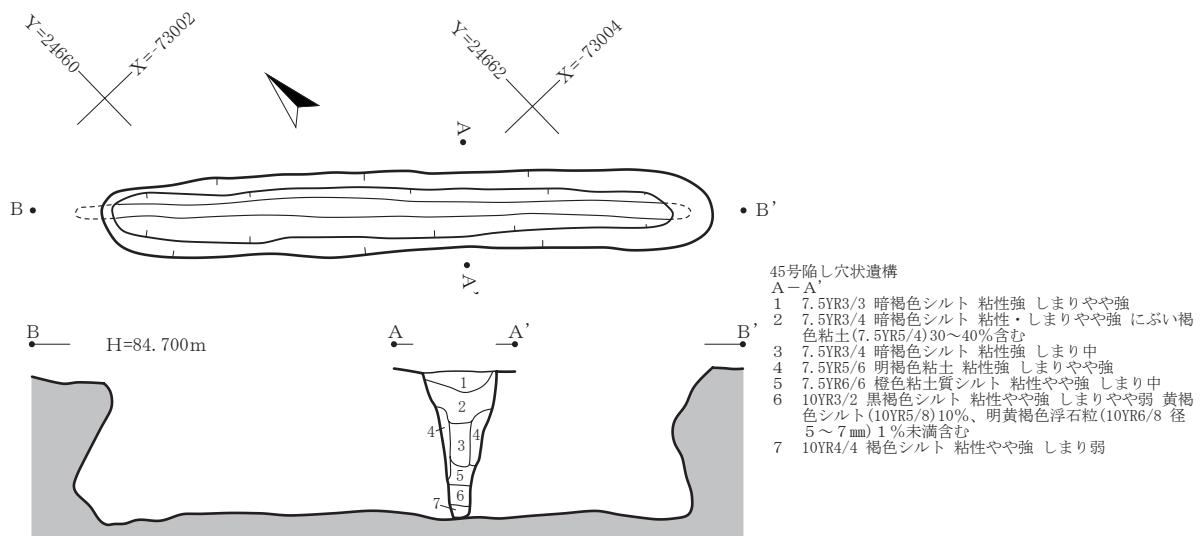
- A-A'、B-B'、C-C'
- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性やや弱 しまり中 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5~8mm) 1%未満含む
  - 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 黄橙色浮石粒(10YR7/8 径5~7mm) 1%未満含む
  - 3 10YR2/3 黑褐色シルト 粘性やや弱 しまり中 暗褐色シルト(10YR3/4) 10~15%含む
  - 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや強 しまりやや弱 暗褐色シルト(10YR3/4) 15~20%含む
  - 5 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性やや強 しまり中 褐灰色シルト(10YR4/1)筋状に20%含む
  - 6 7.5YR4/6 にぶい褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまり中
  - 7 10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性・しまり強
  - 8 10YR4/6 黑褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや弱
  - 9 10YR2/3 褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや弱
  - 10 7.5YR5/6 明褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまり中
  - 11 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまり弱

[44号陥し穴状遺構]

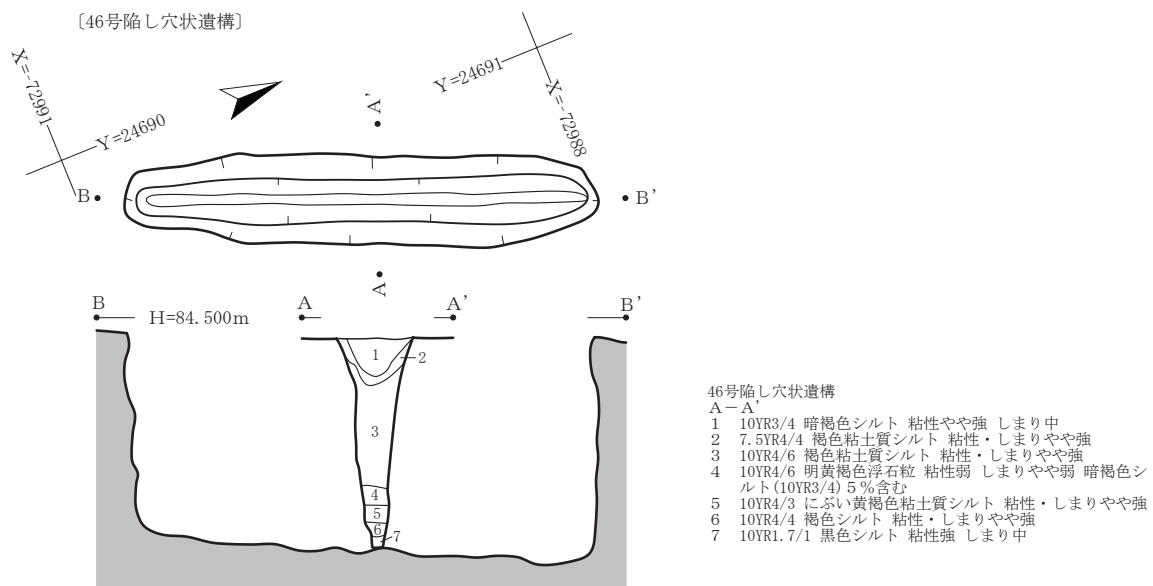


第 60 図 43・44 号陥し穴状遺構

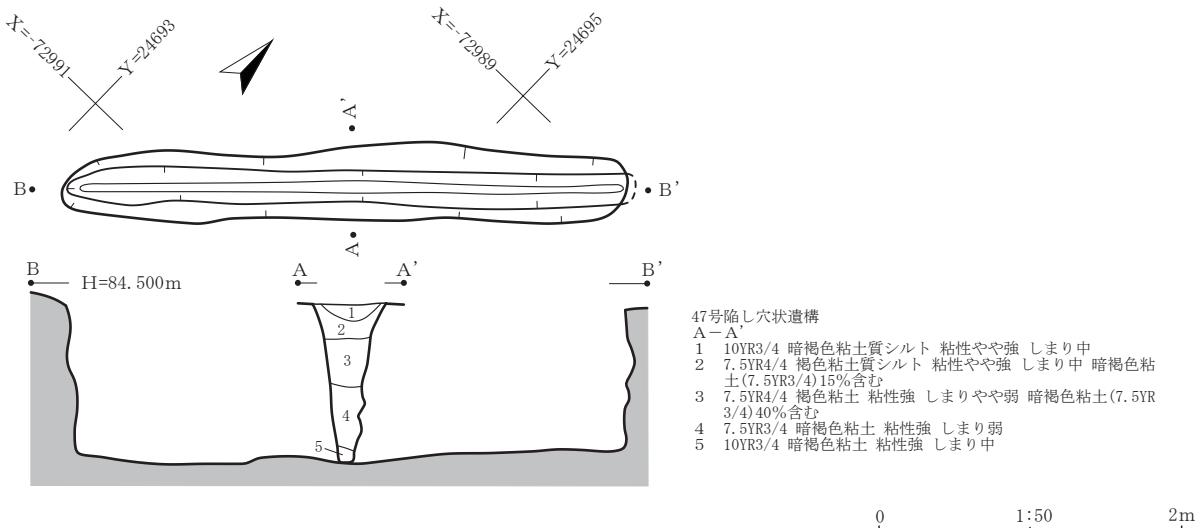
[45号陥し穴状遺構]



[46号陥し穴状遺構]



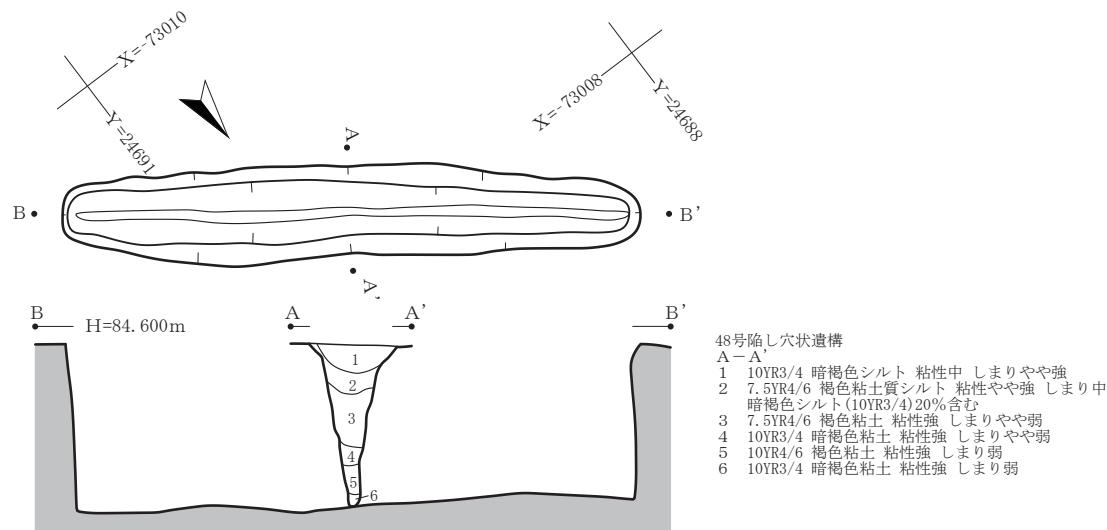
[47号陥し穴状遺構]



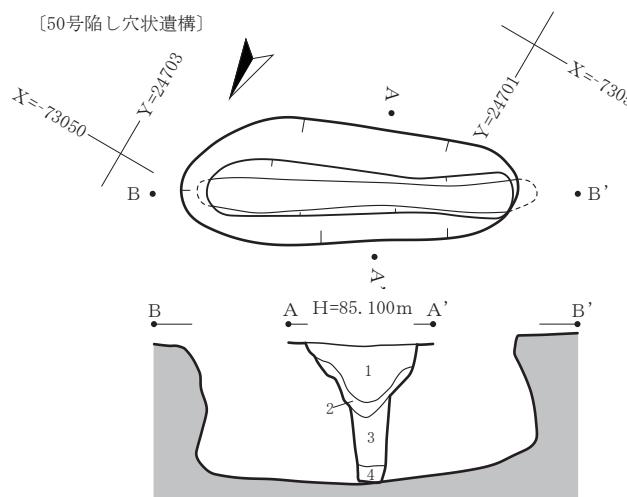
0 1:50 2m

第61図 45~47号陥し穴状遺構

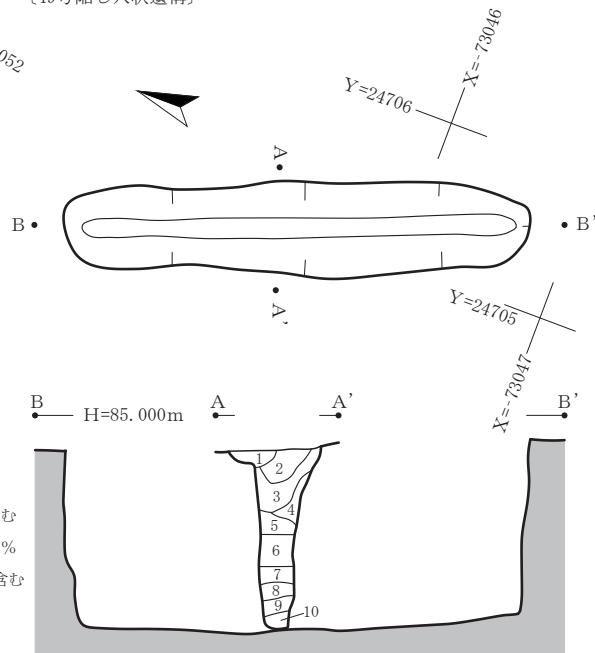
[48号陥し穴状遺構]



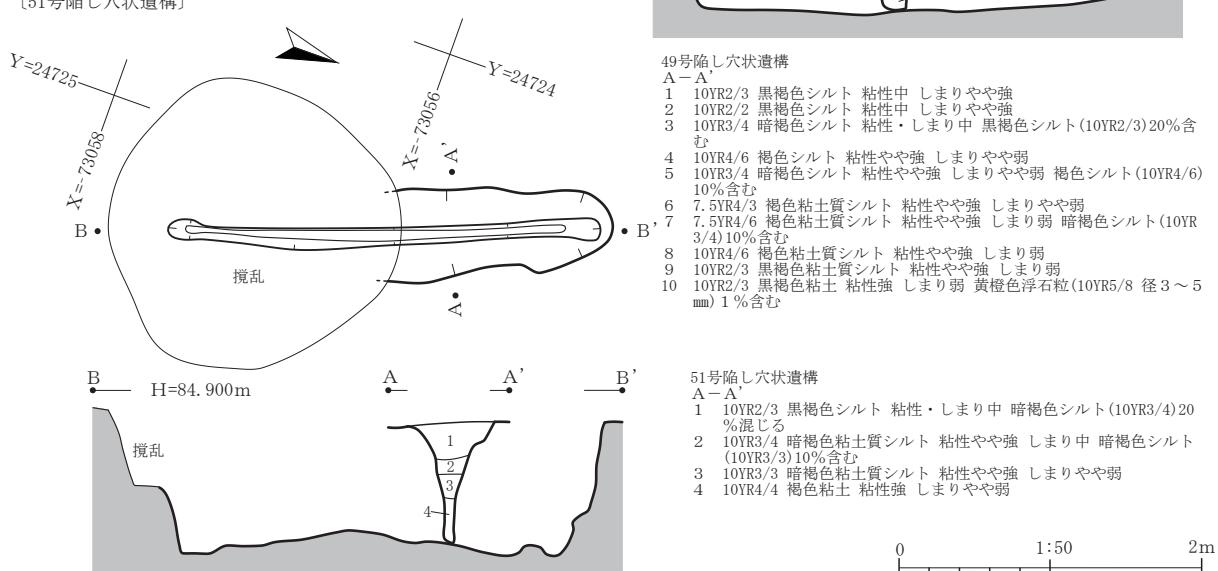
[50号陥し穴状遺構]



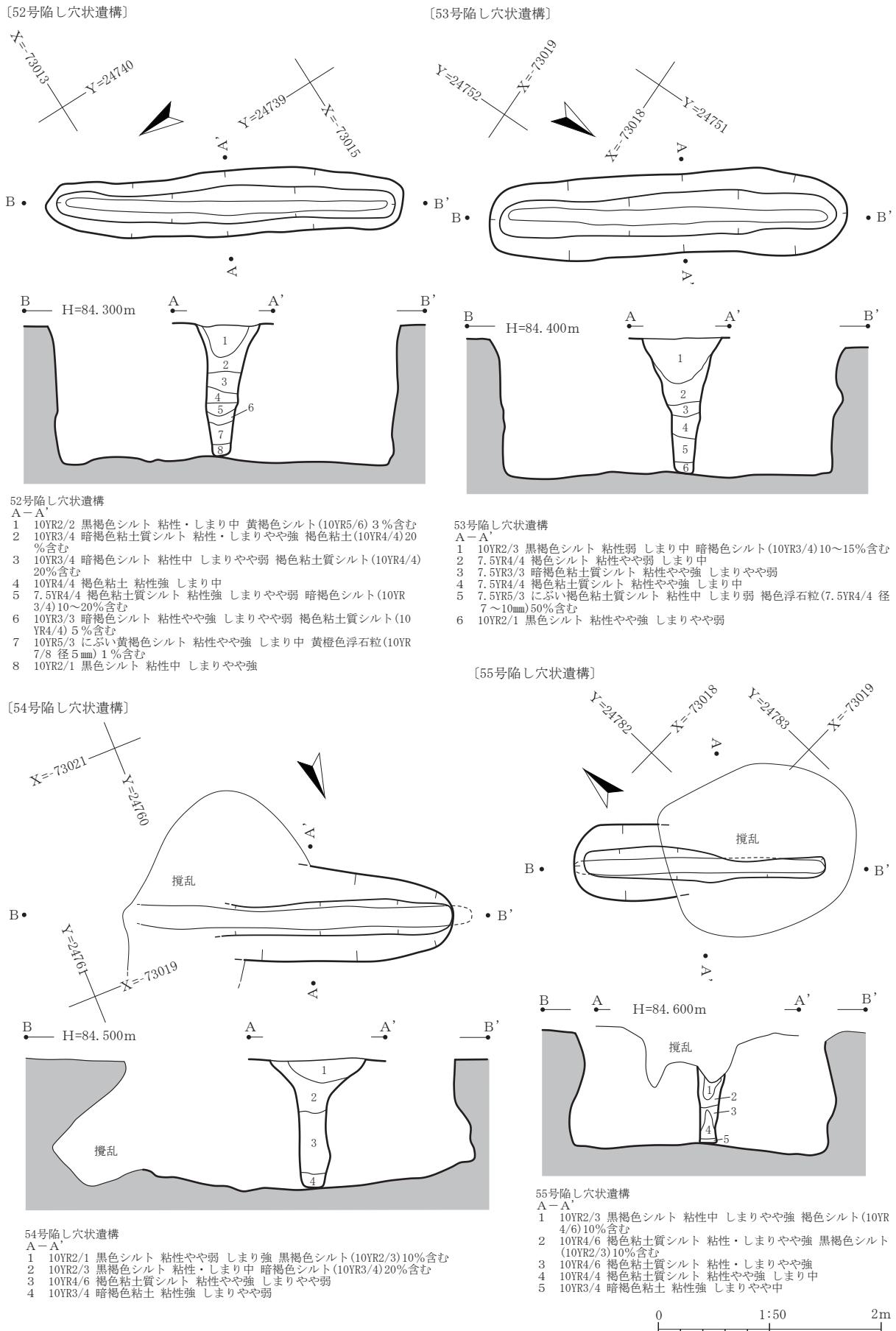
[49号陥し穴状遺構]



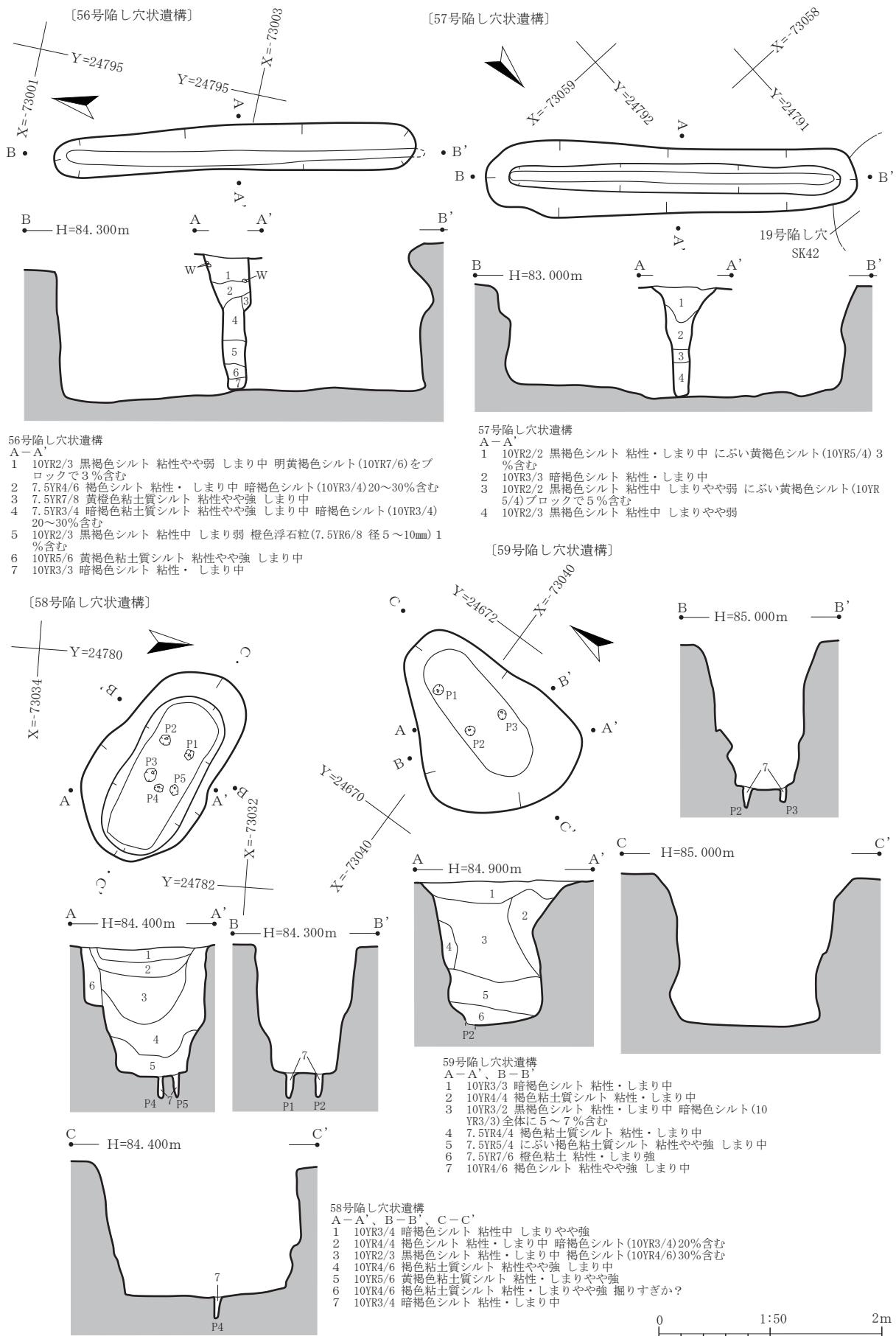
[51号陥し穴状遺構]



第62図 48~51号陥し穴状遺構

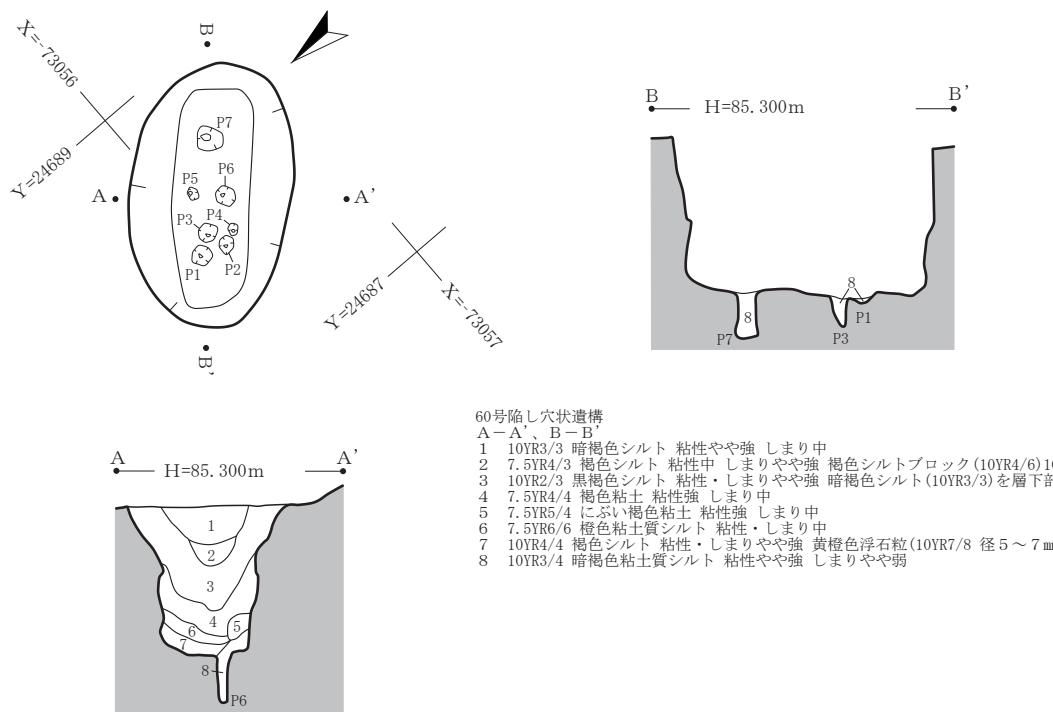


第63図 52～55号陥し穴状遺構

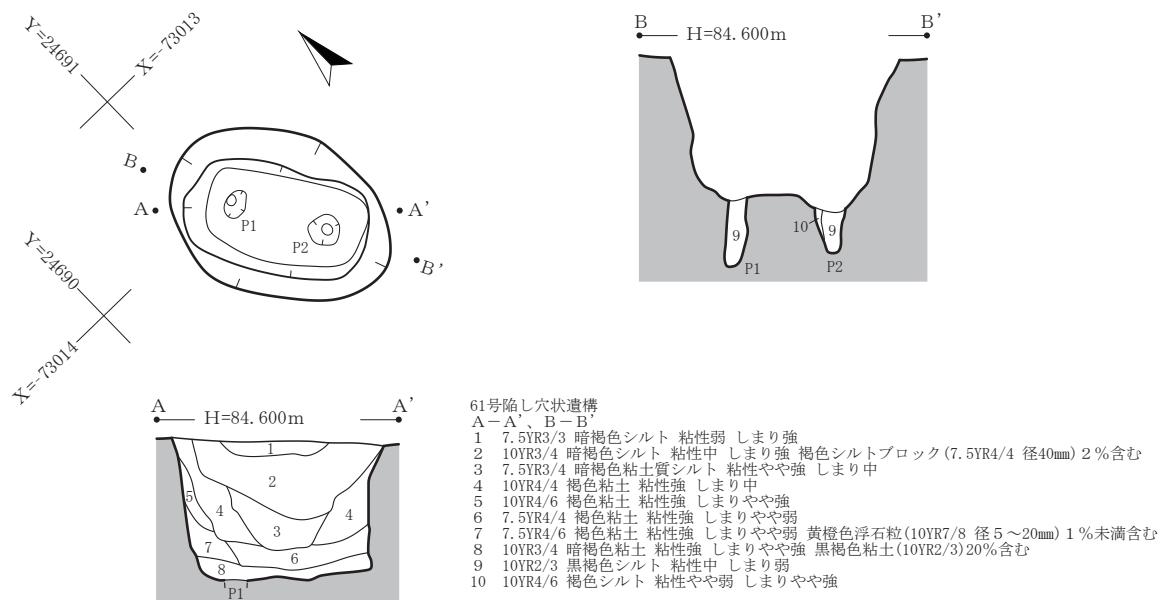


第64図 56~59号陥し穴状遺構

[60号陥し穴状遺構]



[61号陥し穴状遺構]



0 1:50 2m

第65図 60・61号陥し穴状遺構

## (5) 柱穴状土坑

調査区全体で21個検出し、調査区南側のII A・II Bグリッド内に集中する。いずれからも建物を構成するものではないが、P 4～7、P 8～10、P 14～16、P 12・13・17が近い場所で検出されている。遺物はP17から土器が少量出土しているのみである。

第6表 柱穴状土坑一覧

遺構名	位置 (グリッド)	規模(cm)			底面標高 (m)	備考
		長径	短径	深さ		
P 1	II B 11 o・11 p	98	95	71	83.33	
P 2	II B 14 q	65	51	68	83.16	
P 3	II B 14 t	35	29	60	82.86	
P 4	II A 9 x	31	29	25	84.46	
P 5	II A 10 x	42	32	38	84.36	
P 6	II A 10 x	28	27	15	84.60	
P 7	II A 9 w	44	37	25	84.50	
P 8	II B 9 i	70	59	15	84.11	
P 9	II B 10 j	82	56	32	83.88	
P 10	II B 11 j・11 k	59	47	13	84.05	
P 11	II B 10 k	42	37	48	83.55	
P 12	II A 3 y	65	58	38	84.02	
P 13	II A 2 y・3 y	69	61	43	83.92	
P 14	II A 1 t	54	51	16	84.31	
P 15	II A 1 r・1 s・2 s	43	42	23	84.21	
P 16	II A 1 r・2 r	63	52	57	83.95	
P 17	II A 2 y	89	80	59	83.79	土器72.8g出土
P 18	II B 7 t	40	34	96	83.27	
P 19	II B 16 e・17 e	76	63	108	83.71	
P 20	II B 6 y	46	37	52	83.45	
P 21	II B 4 x・5 x	30	24	63	83.67	

## (6) 遺構外出土遺物

今回の調査区内には、「遺物捨て場」が形成された範囲はなく、遺構外出土遺物は概ね遺構検出面の直上層から出土している。

土器は総重量で 73530.0 g 出土し、256 点を掲載した。主に縄文土器で、他に弥生土器、土師器、須恵器を確認した。

### 縄文土器

186～192 は早期の楓ノ木 I 式に比定される土器群で、186～189 は同一個体である。外面には格子状を呈する細隆起線文が施文され、186 は内面に横位の条痕が残る。192 は内外両面に条線が施文され、外面には細隆起線文もみられる。193 は早期か。口縁部に極小な列点が見られる。

194、195 は尖底土器である。195 は底部片で無節縄文が施文されている。194 は胴部片だが、縄文原体の在り方から尖底土器と判断した。どちらも時期は早期末葉～前期初頭の範疇と推測する。

196～213 は胎土に纖維が混入しており、前期前葉の土器群と推測した。文様は単節や複節の縄文の他、「ぴっちり縄文」や結束羽状縄文がみられる。196、197 の口唇部には縄文が施文される。

214～393 は大木 5 式の範疇と捉える土器群である。遺構内出土の該期土器群と同様に、文様は頸部の隆帯と胴部地文のみか、口縁部から胴部に縄文等を地文とするのみで、縄文原体の在り方などから該期に相当すると判断している。以下のような文様の特徴が見いだせた。

214～223 は頸部に隆帯が巡る土器群である。隆帯には押圧や刻みが施文される。口縁部は無文で、胴部には結節回転縄文などが施文される。224、225 は波状口縁の破片で、口唇部下が肥厚する。

226、227 は頸部に沈線を巡らせる土器群で、出土量は少なく、また小片しか確認できなかった。

229～246 は口縁部から胴部に、無節か単節の縄文が施文される土器群である。232 は口唇部に刻みが巡る。239～240 は縄文原体端部（結節部）も施文される。

247～266 は、口縁部から胴部にかけ結節回転縄文を縦位に施文する土器群である。247、248 は波状口縁を呈する。

267～295 は単軸絡条体 1 類が施文される土器群で、今回の調査で最も多く確認した。頸部に隆帯が巡るもの（255～260）は、口縁部が無文となる。隆帯が付かないものは口縁部から胴部にかけ単軸絡条体 1 類を縦位に施文している。また 267、268、274、275 は口唇部に縄文や押圧が施文される。293 は単軸絡条体 1 類を交互に施文し、格子状文を描いている。295 は単軸絡条体を斜位に施文しているが、施文の際、軸部分の縄文原体も押圧されて、格子状の文様を描いている。

296～301 は単軸絡条体 1 A 類を施文する土器群である。縦位が多いが、横位に施文するもの（299）もある。また 300、301 は頸部に隆帯が巡る。

302～326 は単軸絡条体 5 類を施文する土器群である。

327～329 は単軸絡条体 6 類と考える縄文原体を施文している土器群である。

330～351 は多軸絡条体を施文する土器群で、比較的出土量は多いが、胴部片がほとんどで、全体像は不明である。

352～373 は縄文を施文せず、半裁竹管状工具による平行沈線文を施文した土器群である。主に縦位に施文するが、特に途中でカーブする曲線文（352～356）が多い。352 は頸部に隆帯が付き、口縁部は無文である。358 は曲線文と鋸歯状文両方が描かれる。367、369 は半裁竹管状工具ではなく 2 条の沈線文で平行沈線状に文様を描いている。

374、375、378、379 は口縁部に円形刺突文が巡る土器群である。375 は肥厚した口唇部下に円形の刺突文を巡らせている。380 は波状口縁で波頂部下に比較的大きな円孔が見られる。

376、377 は半裁竹管状工具による押引文を横位に施文する土器群である。376 は口唇部に押圧を巡らせ、口縁部には単節縄文が施文される。377 は頸部に複数段の押引文が横位に施文される。

381～383 は地文に縄文ではなく沈線文を施文する土器群である。沈線文は口縁部から胴部にかけ縦位に施文されるものが多い。383 は交互に施文し格子状を描いている。

386、387 は縦位に条線を充填する土器群である。

384、385、382～392 は無文の土器群で、385 と 388、392 は輪積み痕が残る。391 は底部片であるが、胴部の欠損部分に付着物を確認した。この付着物は詳しく分析していないが、アスファルトと考えられ、接着剤として欠損部を補修した可能性がある。393 は底面の破片で網代痕が見受けられる。

394～396 は縄文時代晩期の土器群である。394 は大洞 B 式の深鉢の大きな破片資料で、口径は推定 27.0cm を測る。395 は胴部片であるが、雲形文が見受けられるので、大洞 C 1～C 2 式頃と推測する。

### 弥生土器

397～402 は甕の破片で、弥生前期頃か。口縁部は無文、胴部に単節縄文が施文されるものが多い。406 も甕か。403～405、407、408 は壺である。404 は口縁部に円孔が巡る。405 は口縁部と胴部に沈線文が横位に施文され、また胴部に粒状の突起が付く。409 は鉢の口縁部片で口縁部に変形工字文が付く。410～429 は浅鉢、台付浅鉢である。弥生前期の青木畠式と判断した。410、411 は変形工字文が付く。410 は波頂部下に円孔がある。424 は台付浅鉢の台部で沈線文を施文する。427 は大きく開く浅鉢の底部片で、底面が台状を呈する。431～434 は縄文のみか無文だが、該期に比定されると判断した。432～436 は底面に網代痕が残る。446 は表面が被熱し赤色を呈している。

### 土製品

土製品は、指輪状の土製品 1 点、粘土塊が 75 点出土している。

指輪状の土製品(437)は完形で、外径 2.6cm、内径 1.4cm を測る。無文のため帰属する時期は不明だが、大木 5 式頃か。

粘土塊は調査区の全体で出土しており、出土傾向に偏りはない。時期については不明だが大木 5 式頃か縄文晩期～弥生前期の範疇のどちらかと推測している。13 点(438～450)掲載した。いずれも指頭などで捏ねたと思われる痕跡や棒状の工具を刺した痕跡が見受けられる。438 は今回出土した粘土塊で最も大きく、5.0cm を超える。439 は表面にわずかに付着物がある(炭化物?)。440 は刺突痕があり、またわずかに磨った痕跡が見受けられた。446 は表面が被熱し赤色を呈している。

### 土師器

451、452 は土師器の坏で、どちらも口クロ成形で内面は非黒色処理である。6 号竪穴建物出土の土師器と同時期と推測している。453～455 は須恵器で、453 は小型壺の胴部片、454、455 は大甕で、454 は口縁部片、455 は胴部片である。

### 石器

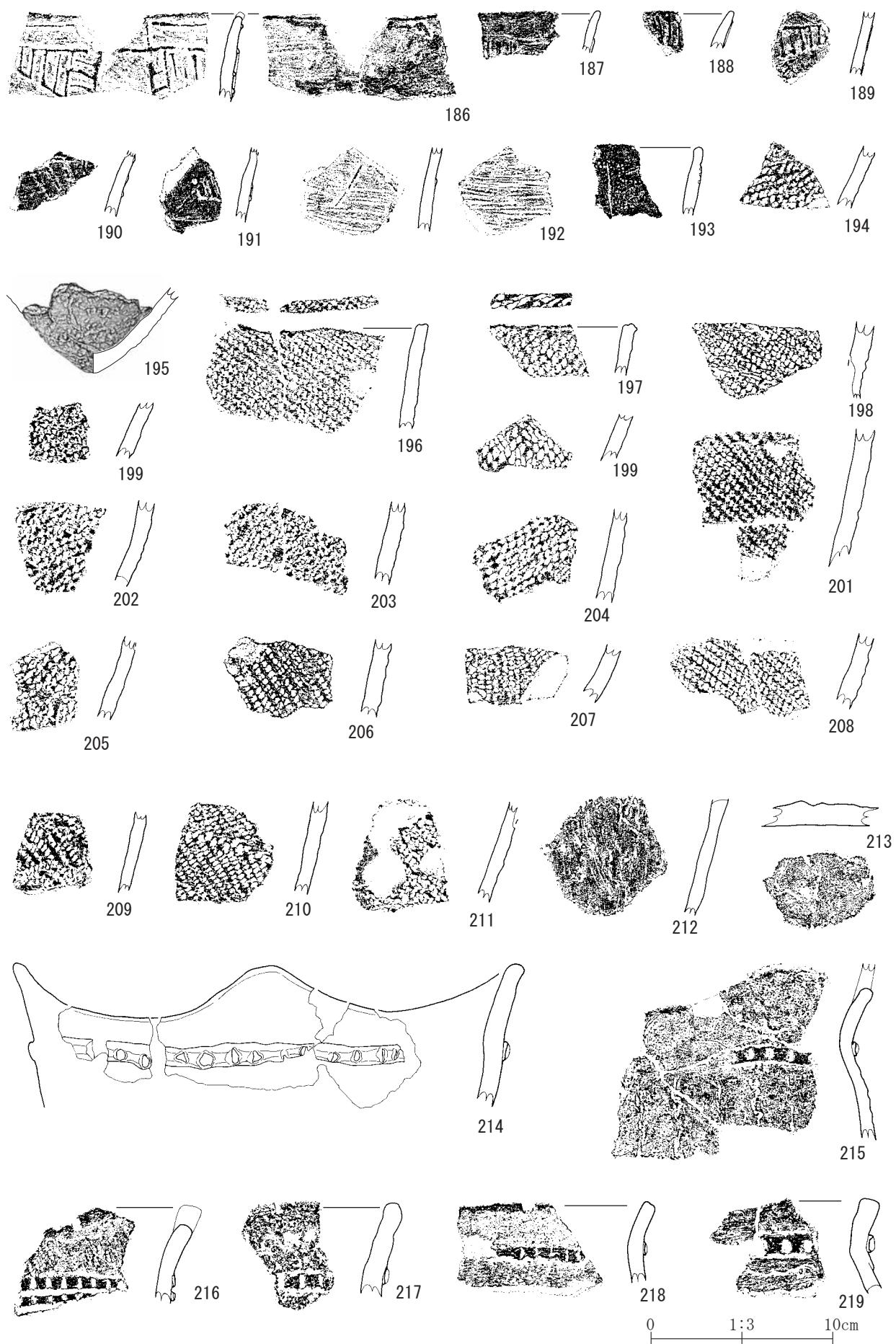
石器は、トゥール類が石鏃 16 点、尖頭器 2 点、石錐 1 点、石匙 7 点、楔形石器 1 点、不定形石器 7 点、石箒 7 点、礫器 12 点、砥石 1 点、磨製石斧 9 点、石錘 4 点、敲磨器類 79 点、台石 12 点で、石核 12 点、

フレイク類が 604 点出土している。トゥール類の器種は多彩であるが、出土点数はどれも比較的少ない。フレイク類は出土量が突出して多く、出土位置は I B 22s、t グリッドや I B 23s、t グリッドに集中している。

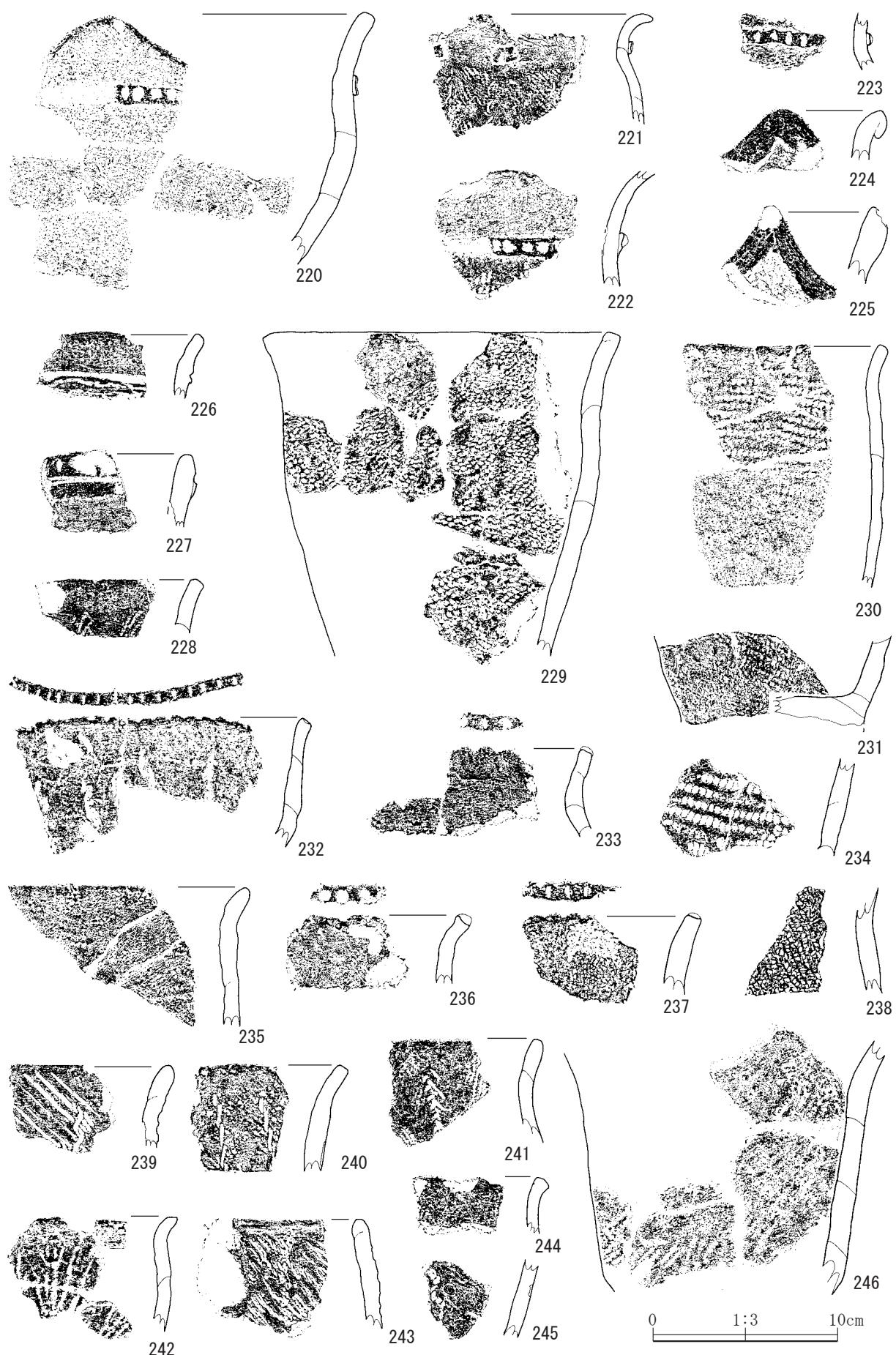
各器種のうち、計 91 点掲載した。456～459 は石鎌で、無茎鎌である。460 は扁平な三角形状で一端を鋭利に作出しているので石錐とした。462、463 は尖頭器とした。どちらも厚みがある棒状を呈し、両端はあまり鋭利ではない。461、464～469 は石匙である。刃部は片面のみ作出されるものが多い。また 460 は石鎌よりも小型であるが、形態から石匙と判断した。470～488 は不定形石器である。平面形や大きさに規則性はなく、また刃部も片側の長辺のみ作出されるものもあれば、両側に及ぶものもある。489～494 は石籠で、厚みがあり、全面に加工が施される。主にチャート、頁岩を素材とし、493 のみ砂岩製である。495～499 は磨製石斧である。495、496 は体部の広い範囲に敲打痕が残るが、刃部は仕上がっており、完成品と考える。497 も完成品か。498、499 は未完成品で、剥離の段階で廃棄されている。500～503 は石錘で、体部に擦痕が見られる。504～507 は礫器とした。504 は比較的大きな棒状の凝灰岩を素材とし、一端を鋭利に作出している。「杭」のような形状を呈するが、用途は不明である。505～507 は扁平な礫を素材とし、長辺の片側側面に敲打痕や磨痕がみられる。508～522 は敲磨器類である。磨痕のみのもの（508～516）は主に縁辺に使用痕が見受けられるものが多い。517、518 は敲打痕が見受けられる。519、520 は扁平な面の中央に凹痕が見受けられる。521、522 はほぼ全面に磨った痕跡がある。台石にするには小型なので、敲磨器類としたが、用途は不明である。523 は砥石で、3 面に研磨した痕跡があり、そのため各面とも窪んでいる。小型でホルンフェルスを素材とする。524～527 は台石とした。石皿とするにはどれも扁平ではなく、また側面も含め、各面に使用痕があり、どのように使用したか定かではないものも多い。特に 524 は両端が欠損するが立方状の形状で、用途は不明である。528～531 は石核とした。528 は厚みがあり、自然面の残らない平坦面が作業面と考える。529、530 は自然面が広く残り、石核ではなく、何らかの器種を製作途中で廃棄されたものの可能性もある。531 も同様か。各面に剥離されているものの作業面が判別できなかった。フレイク類はユーズドフレイクやリタッチドフレイクに相当するものののみ 14 点（532～546）掲載した。

## 石製品

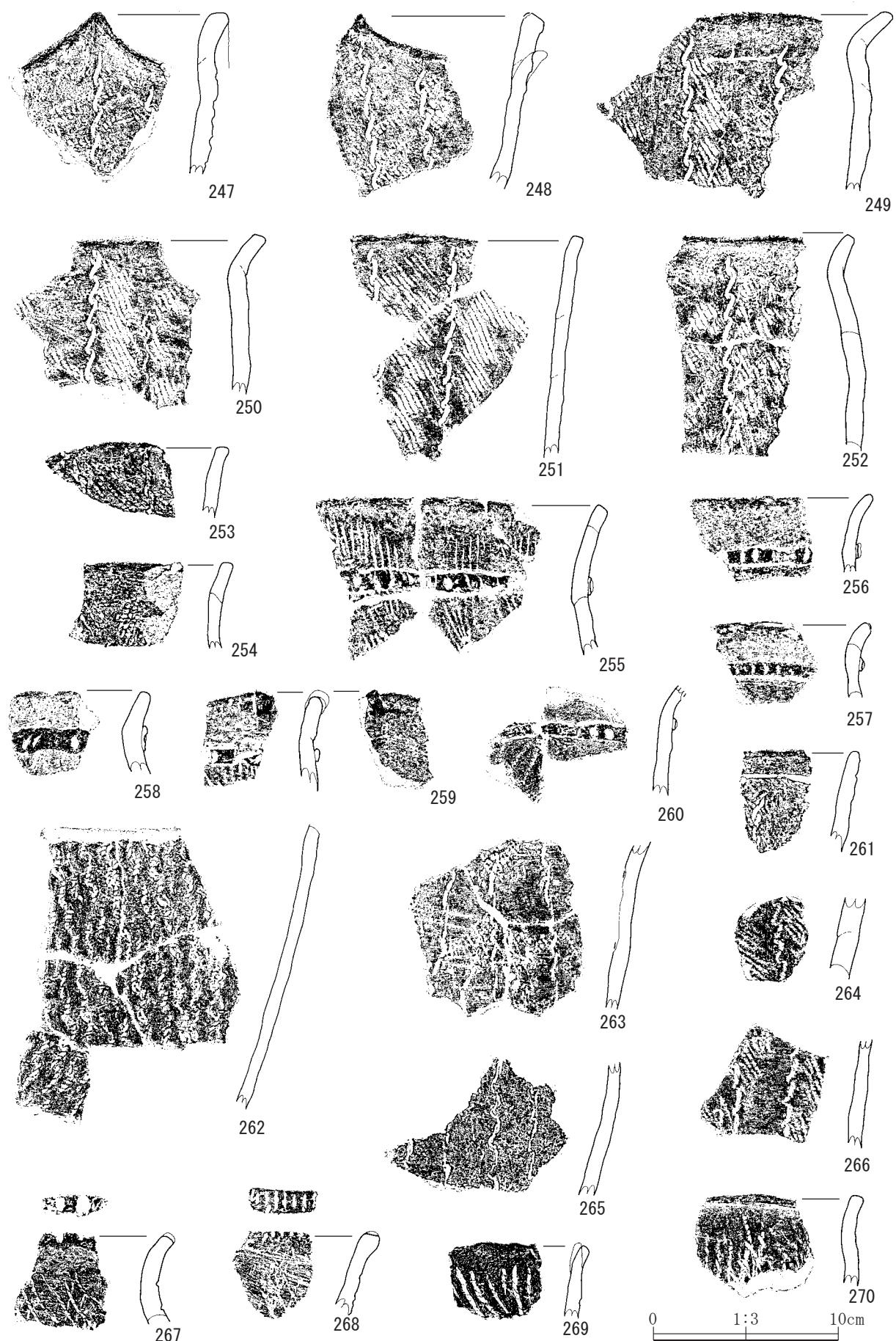
石製品は有孔石製品 1 点、石剣・石棒 2 点が出土している。有孔石製品（547）は一部欠損している。頁岩製で扁平な円礫の中央からやや片側に片側から穿孔したと推測するが、孔はやや傾いた状態で穿孔されている。548 は石剣と推測するが、多くを欠損し、基部のみ残存する。全体に研磨痕がある。549 も石剣とした。全体的に扁平で細長い形状に成形されているが、形態が石棒や石剣とは異なるので、他の器種の可能性もある。



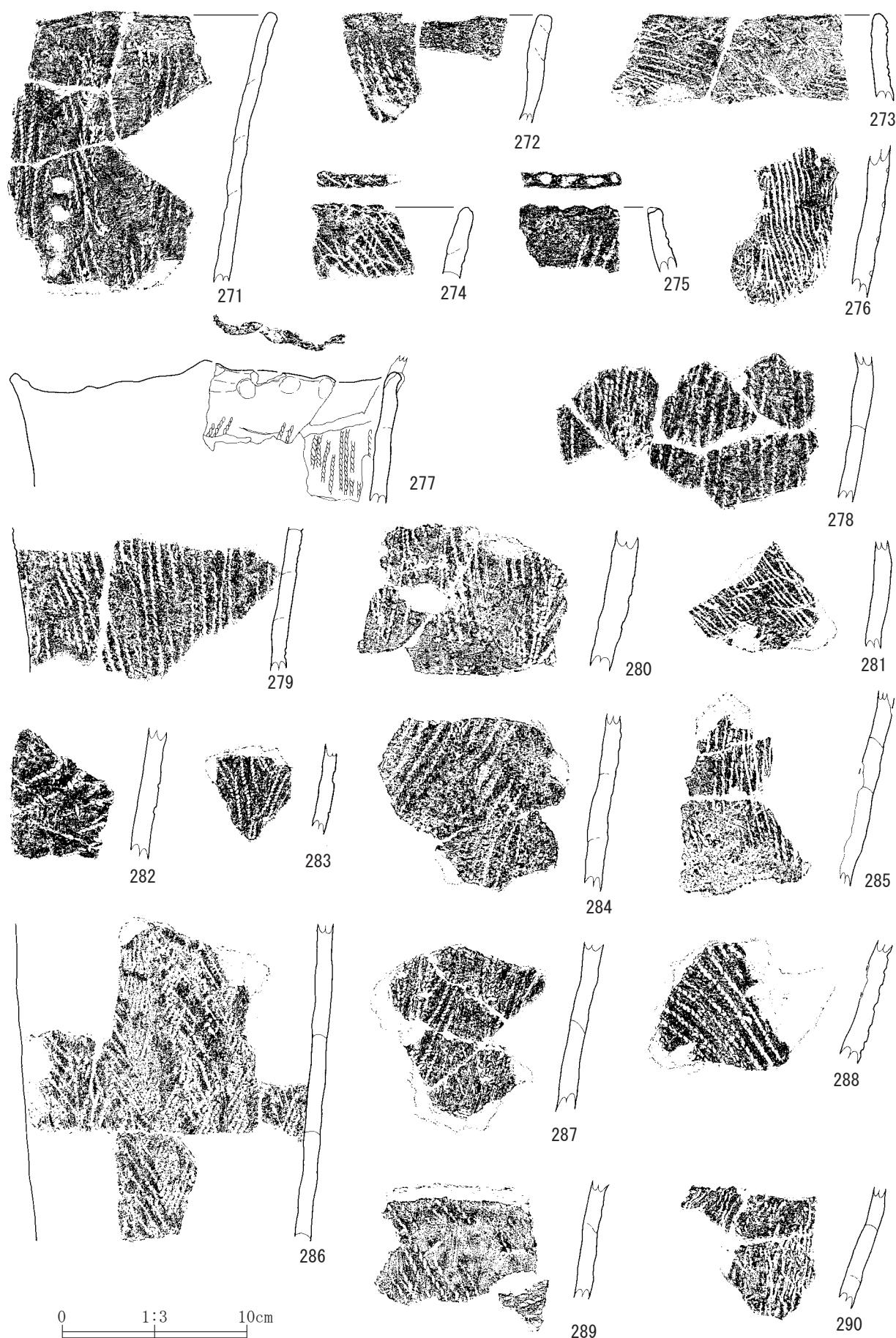
第 66 図 遺構外出土遺物 1



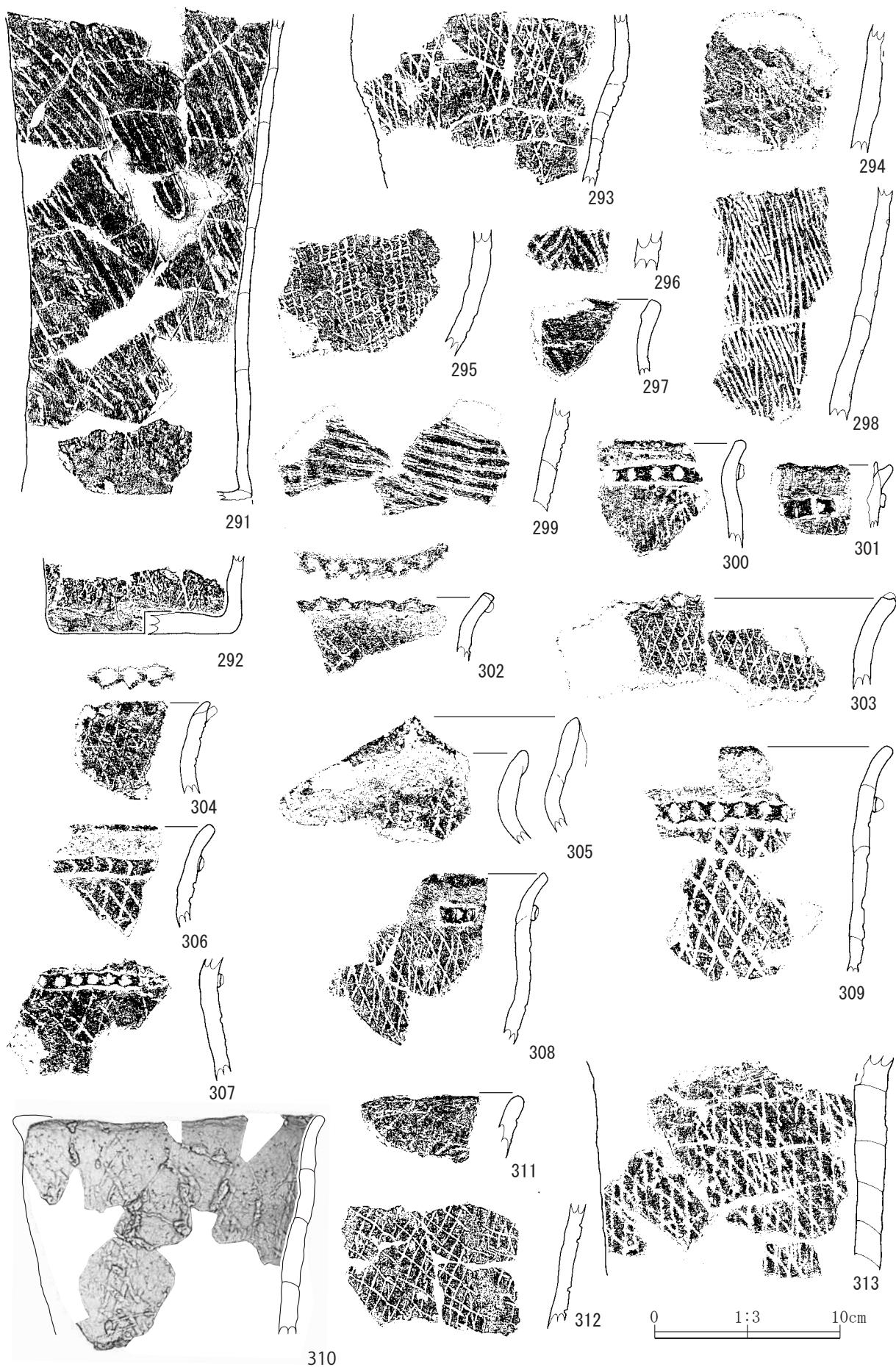
第 67 図 遺構外出土遺物 2



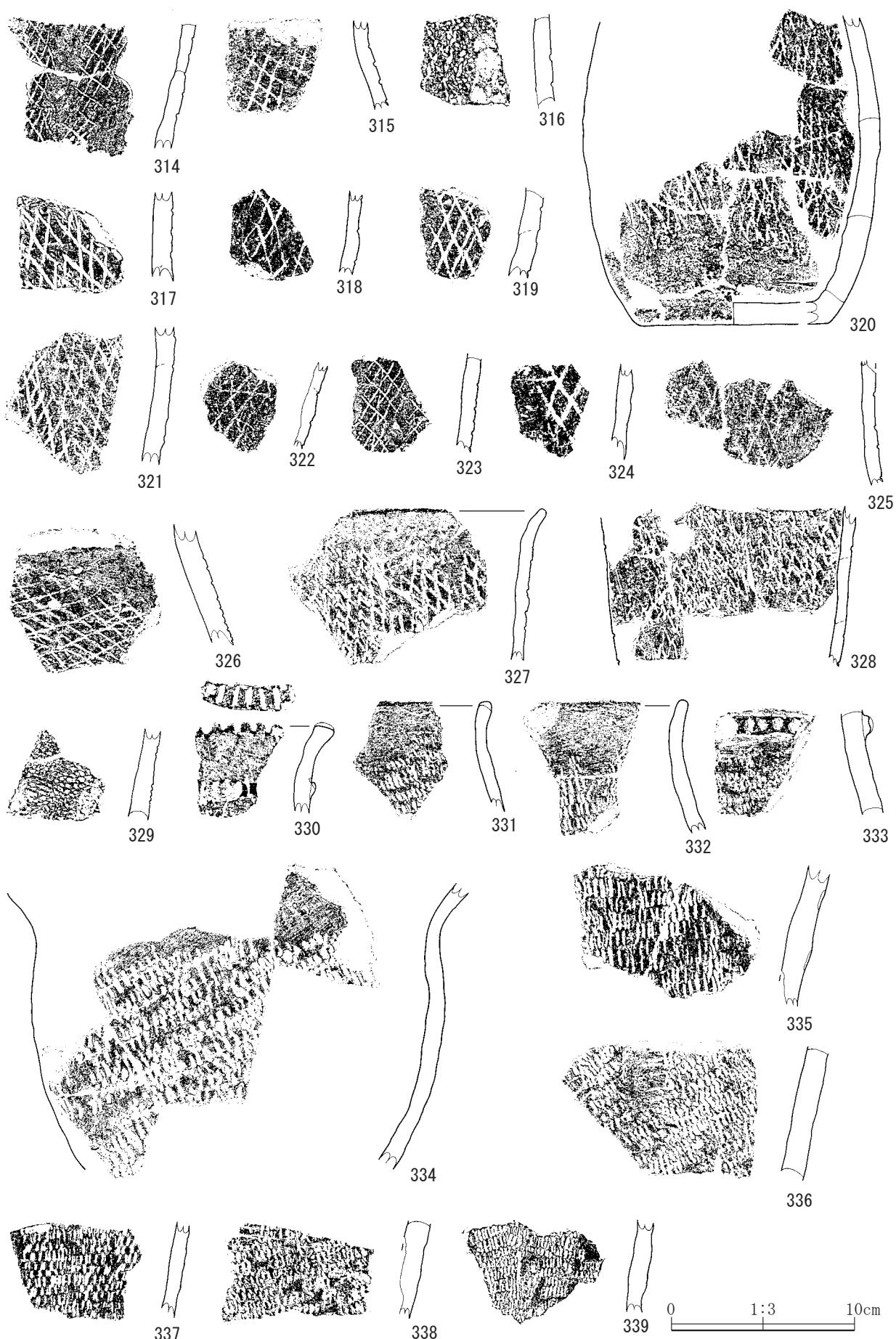
第 68 図 遺構外出土遺物 3



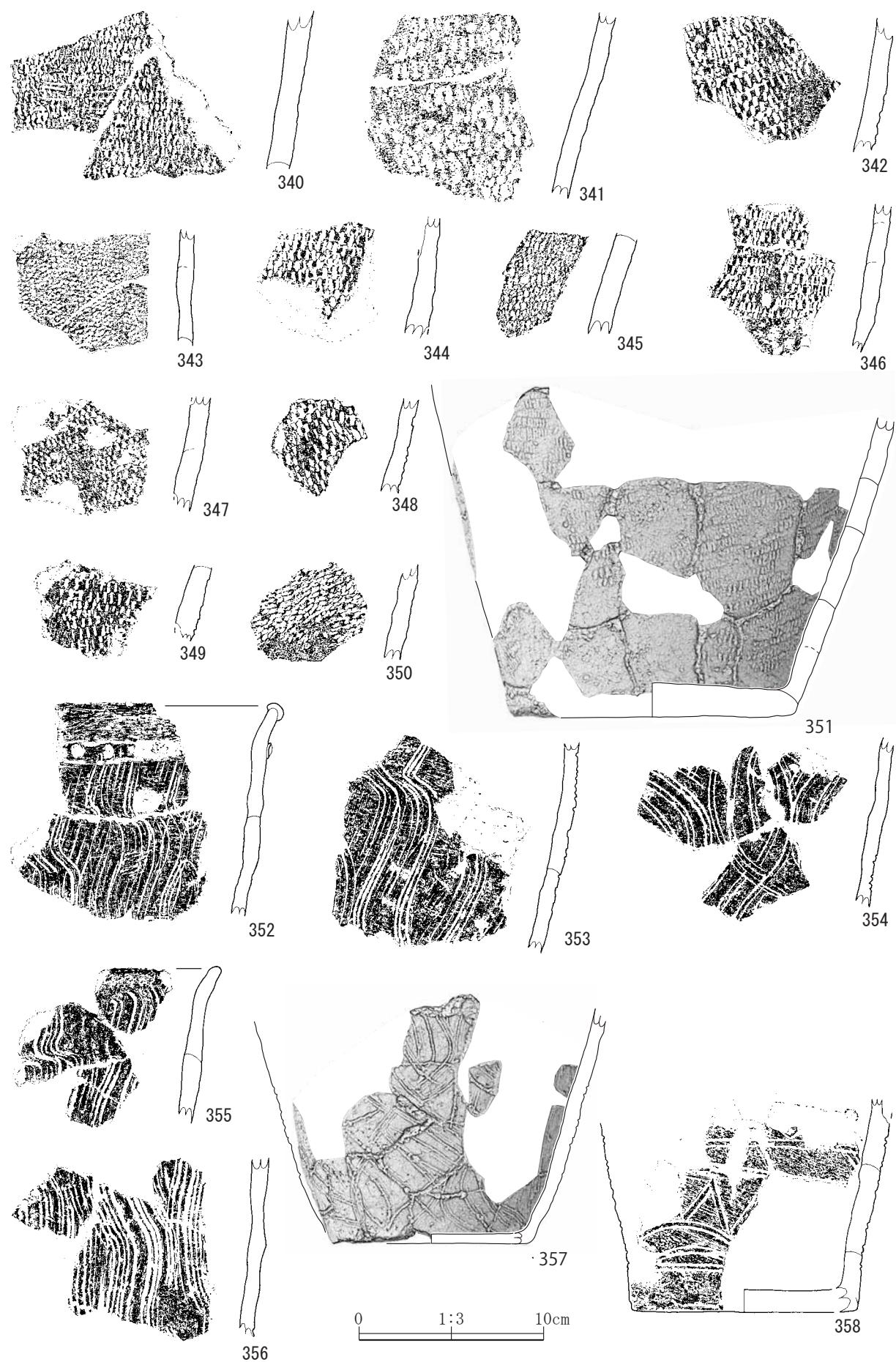
第69図 遺構外出土遺物4



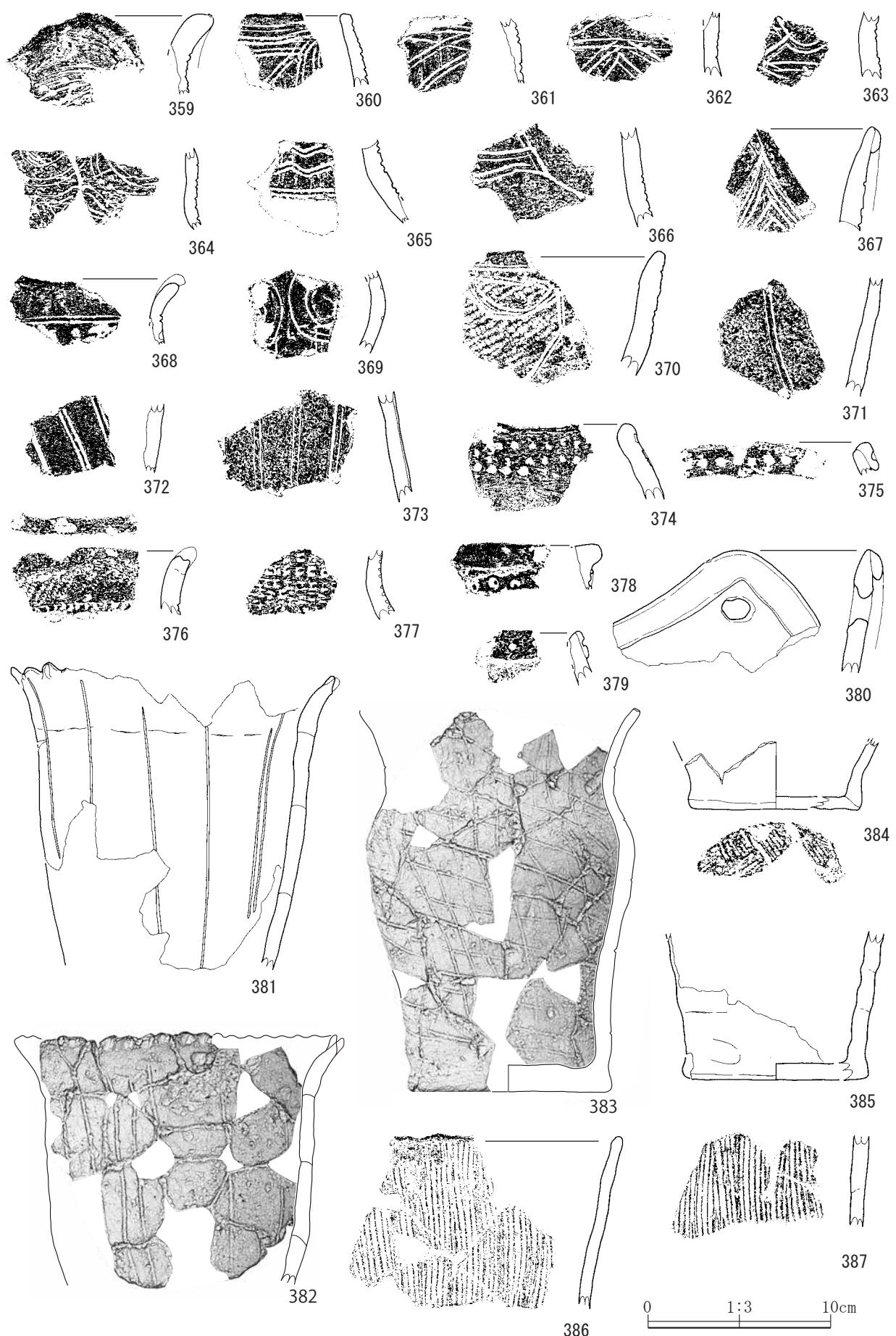
第 70 図 遺構外出土遺物 5



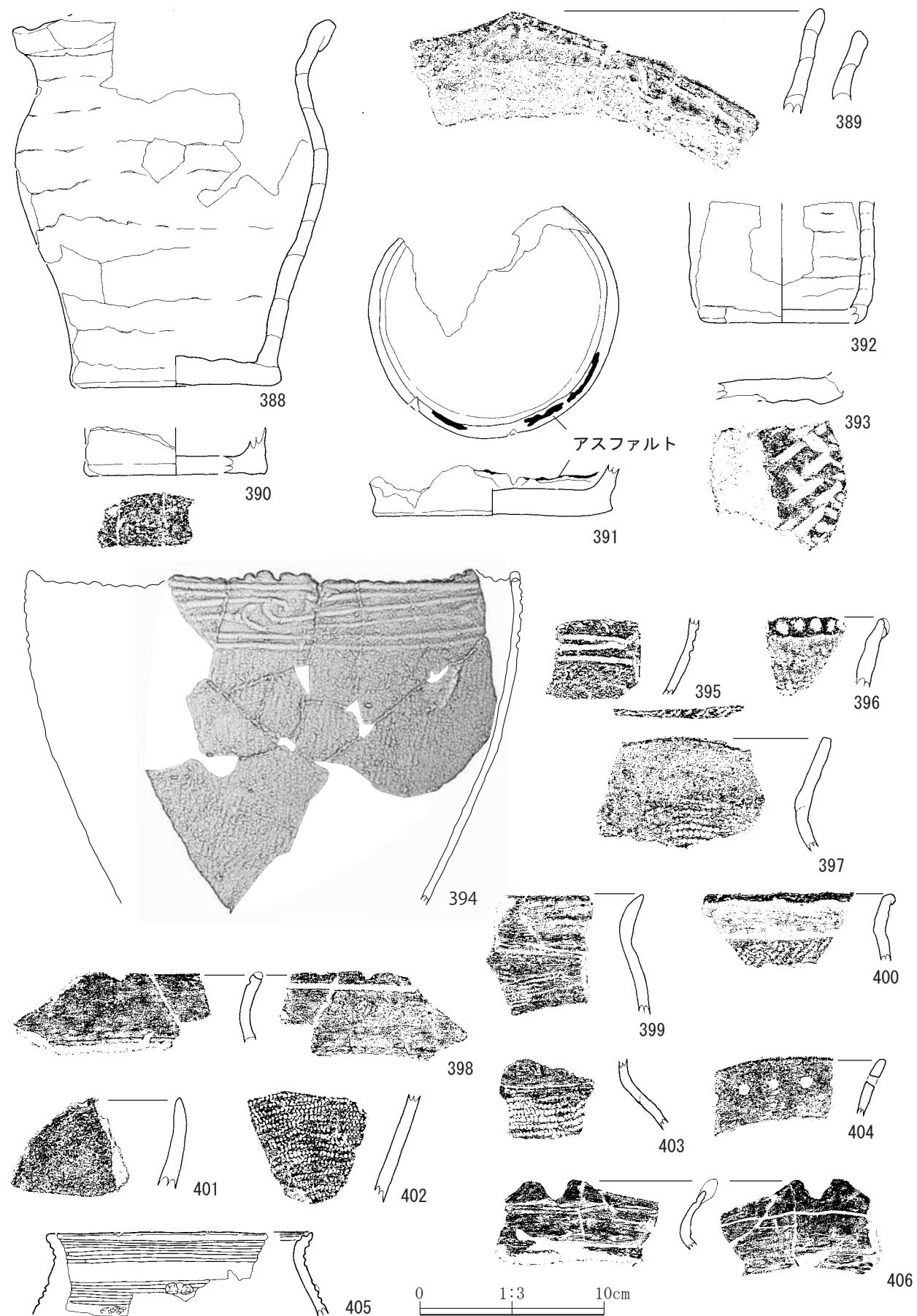
第71図 遺構外出土遺物6



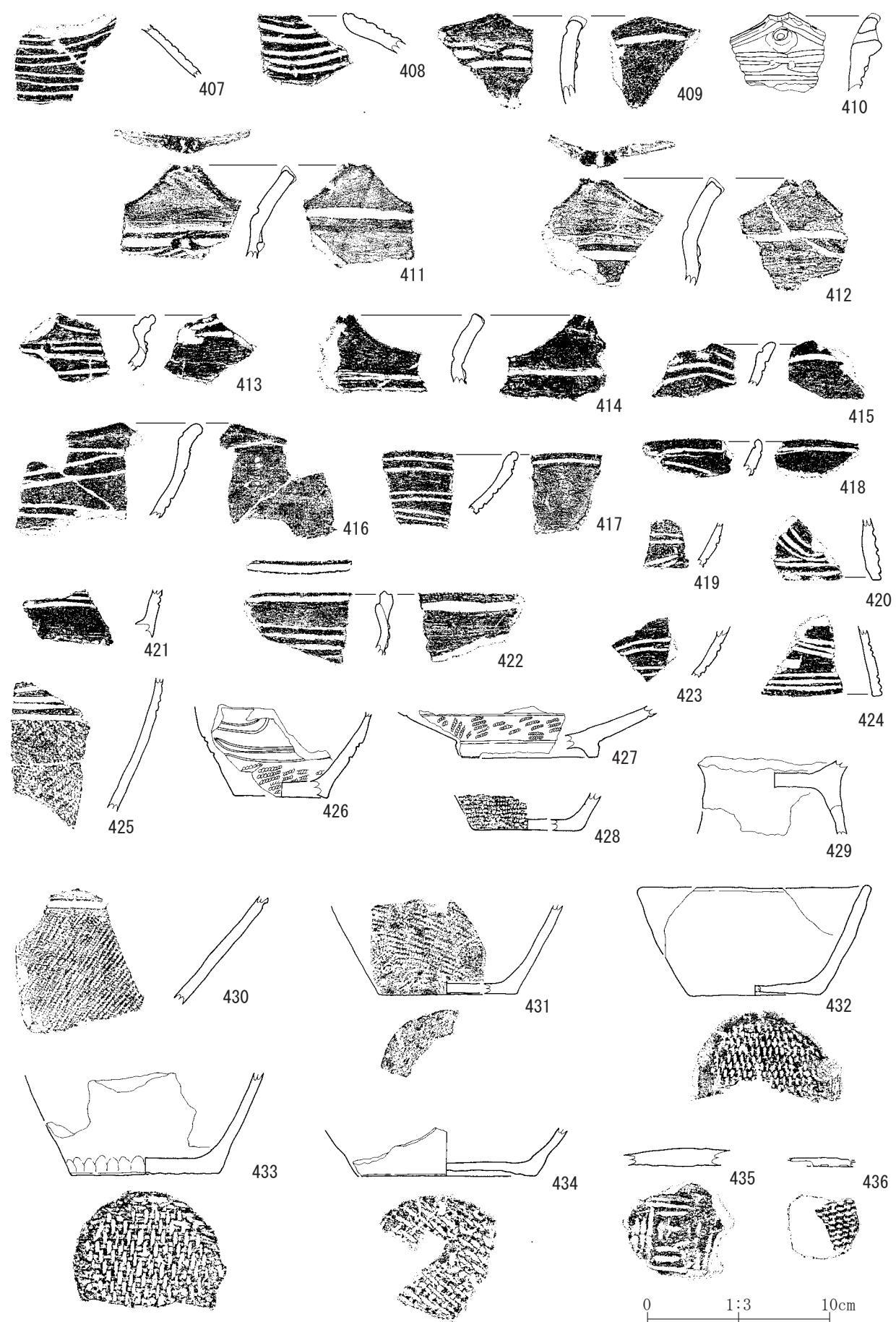
第 72 図 遺構外出土遺物 7



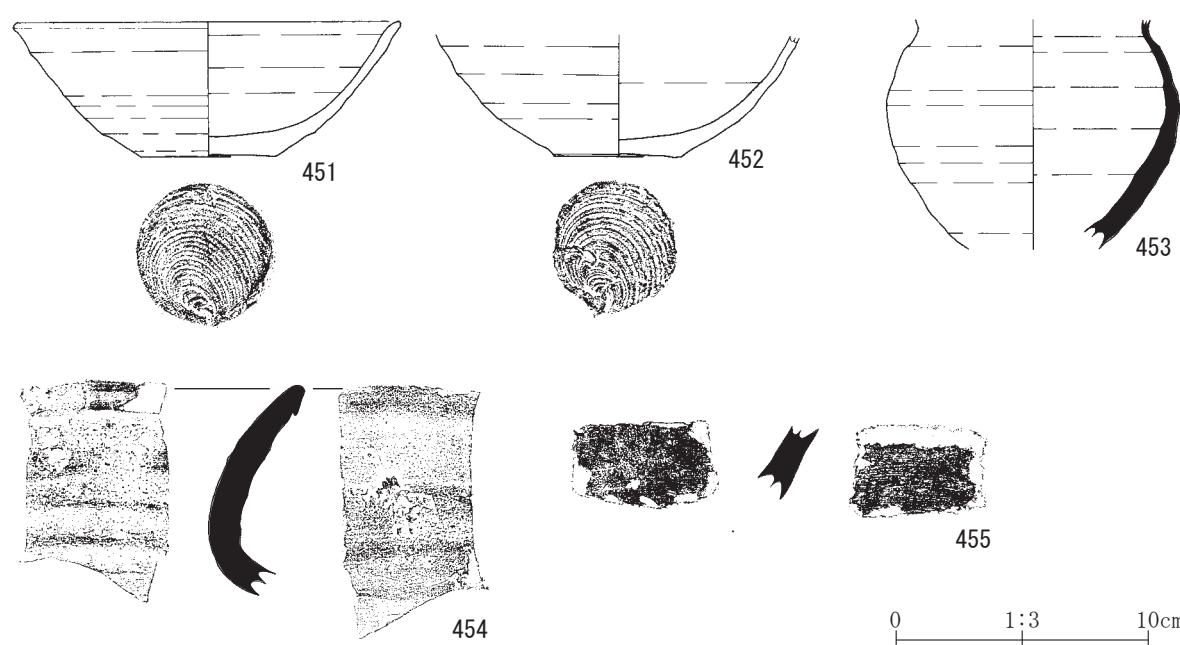
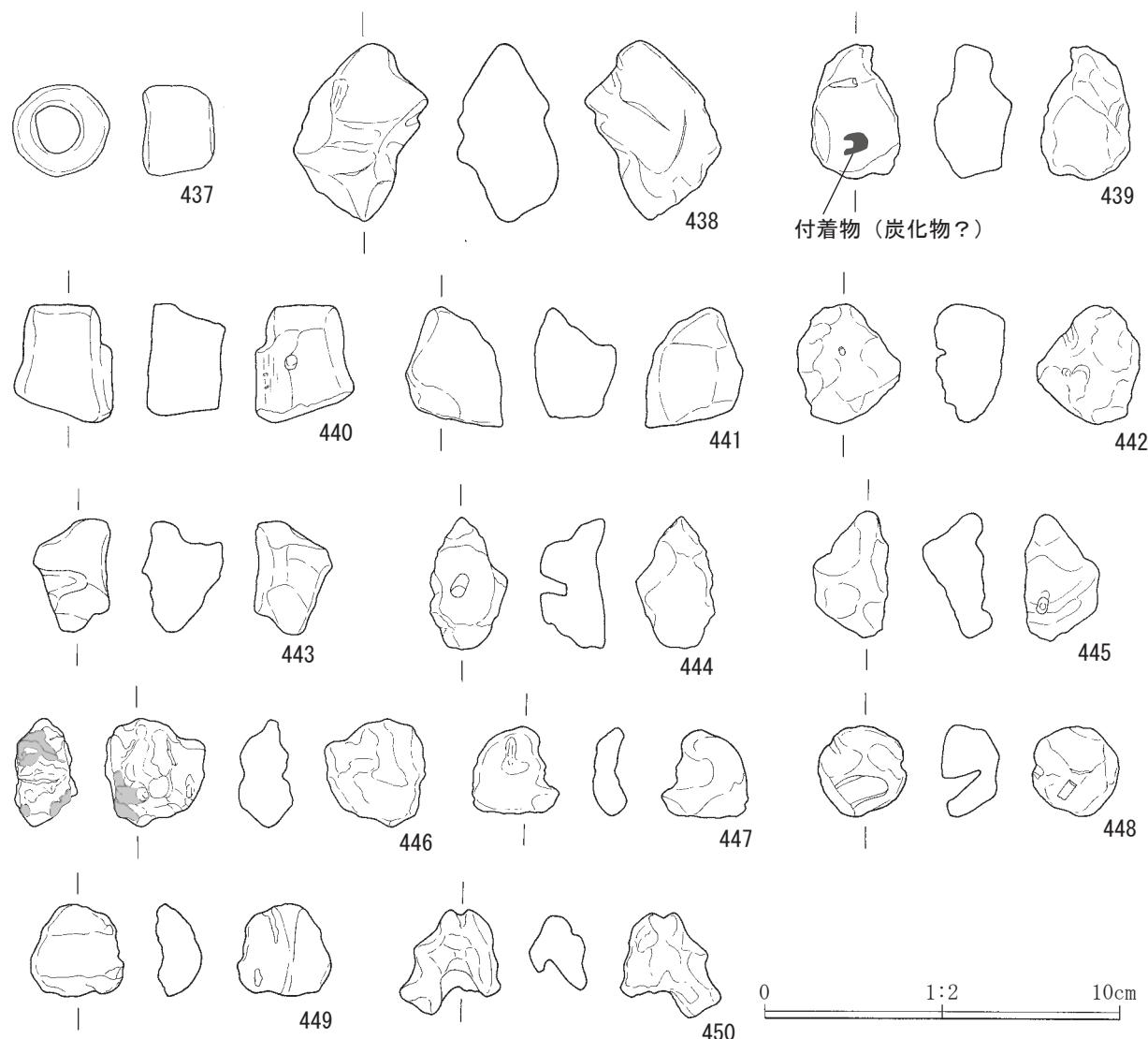
第73図 遺構外出土遺物8



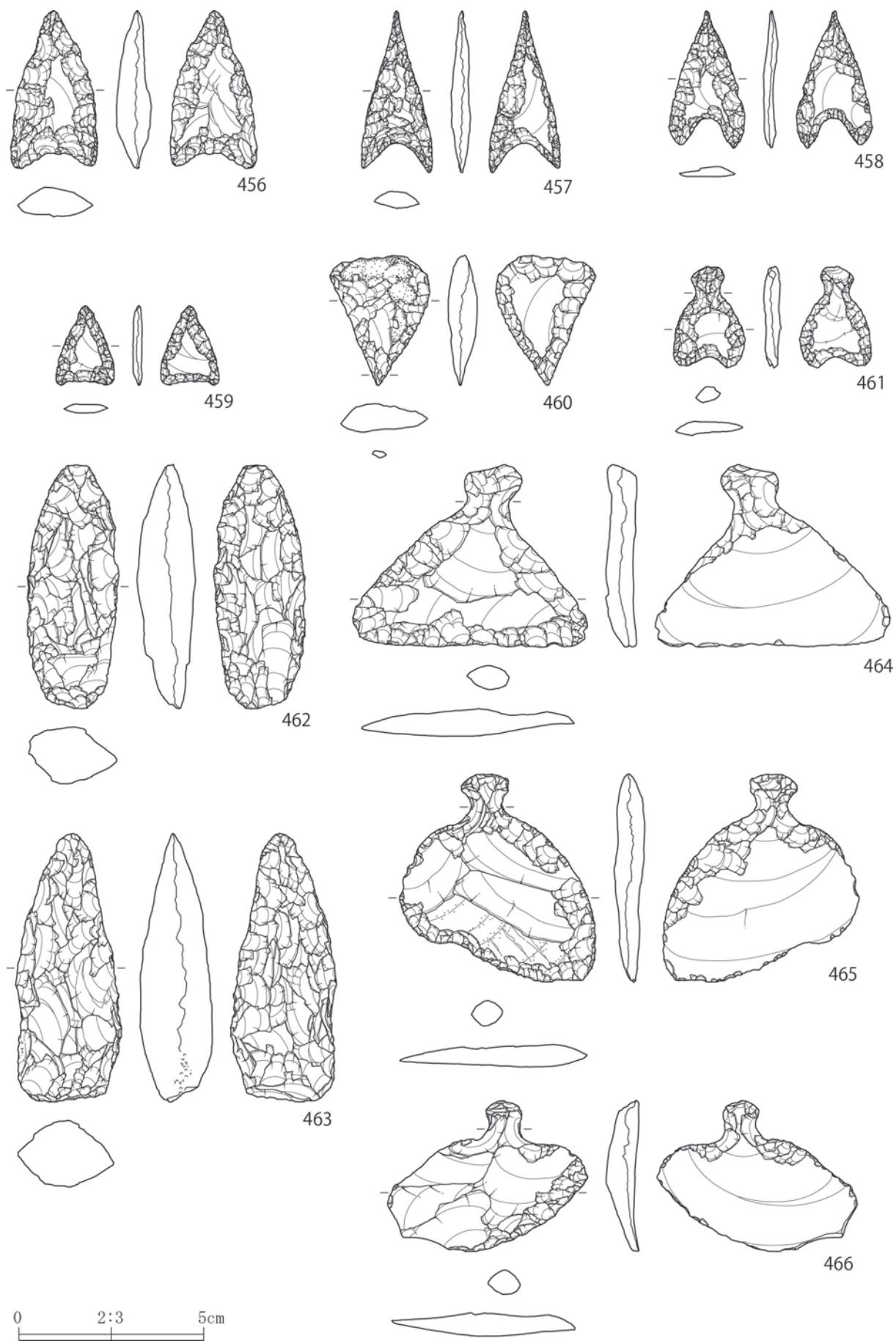
第 74 図 遺構外出土遺物 9



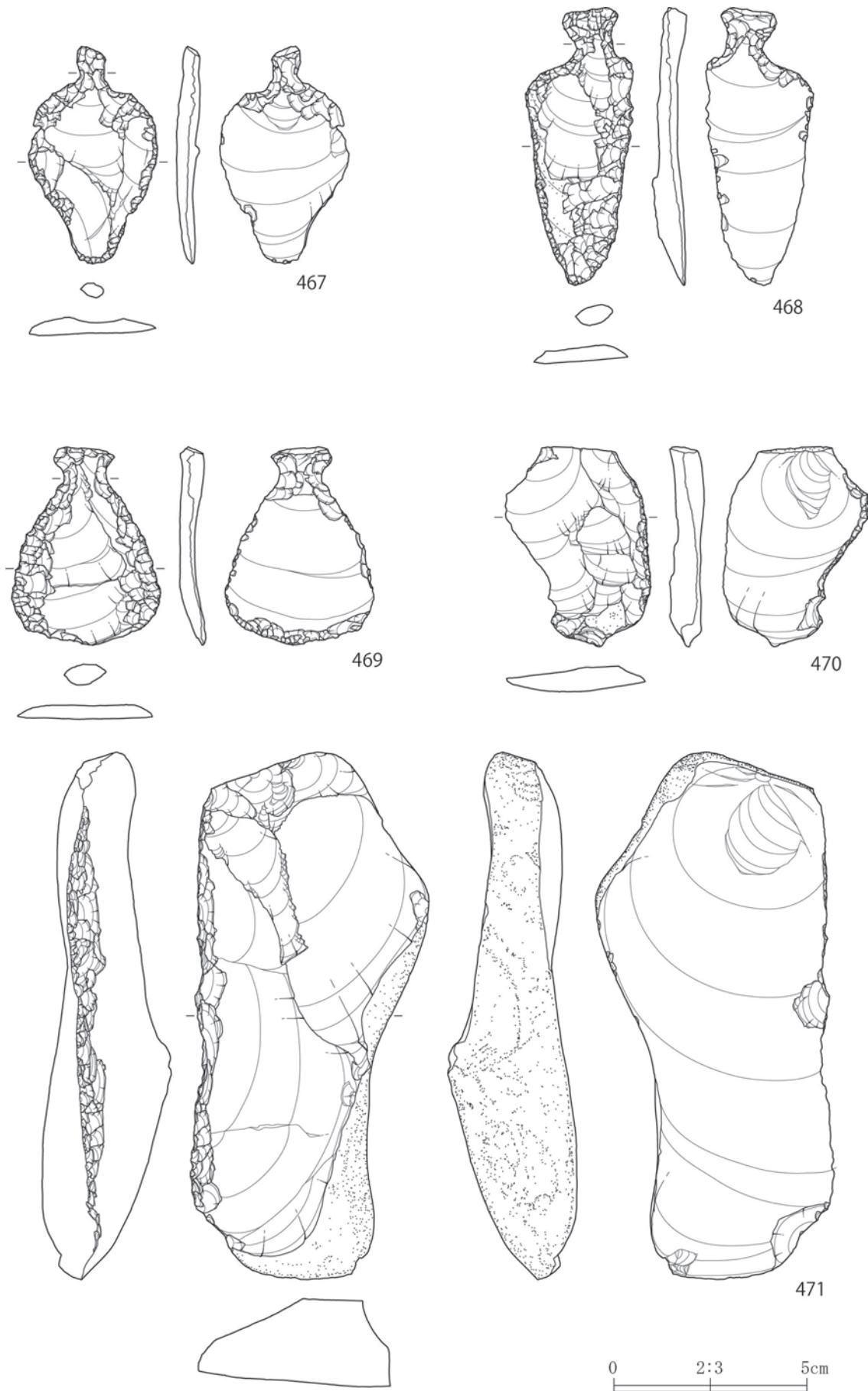
第75図 遺構外出土遺物10



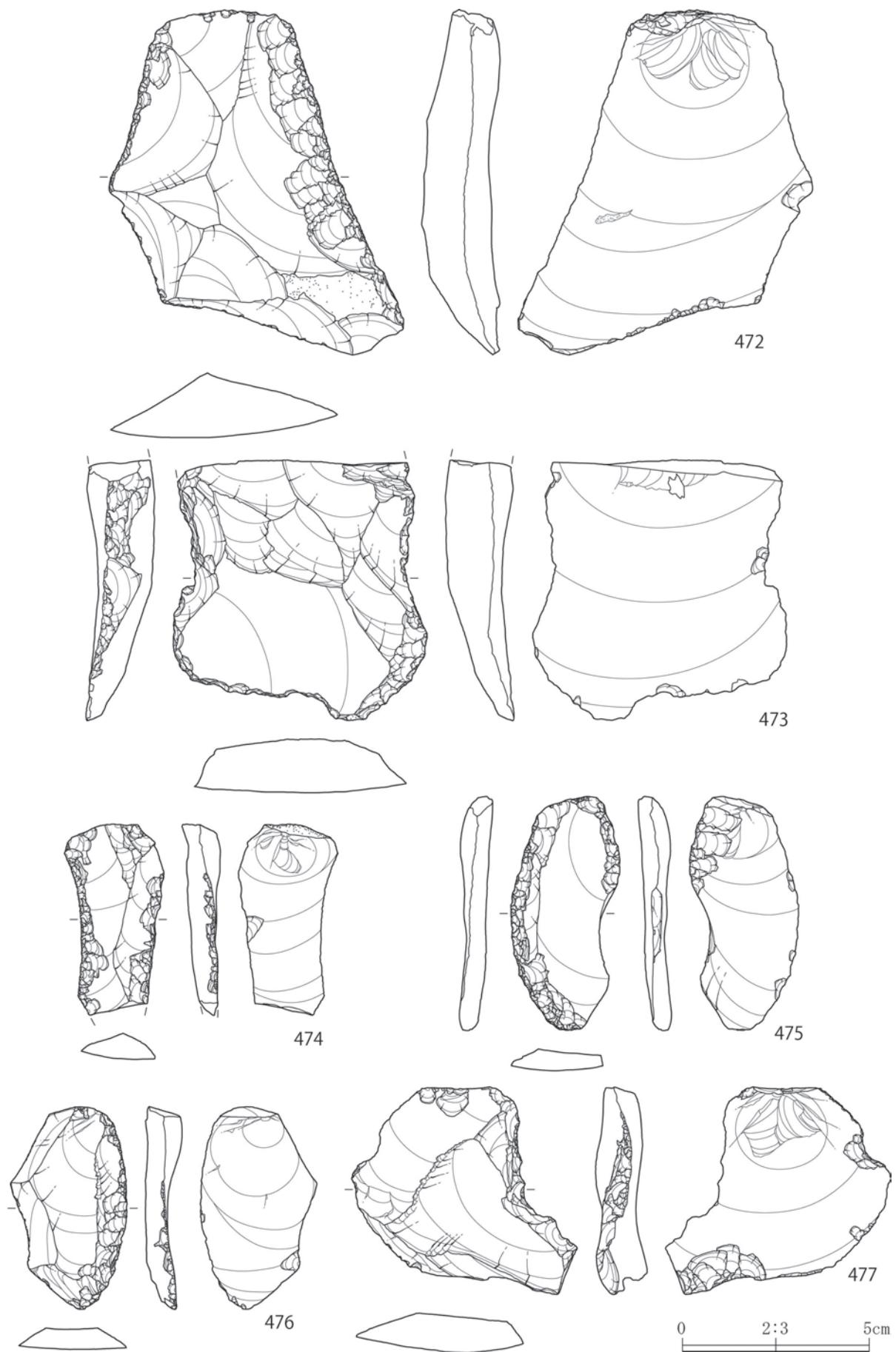
第 76 図 遺構外出土遺物 11



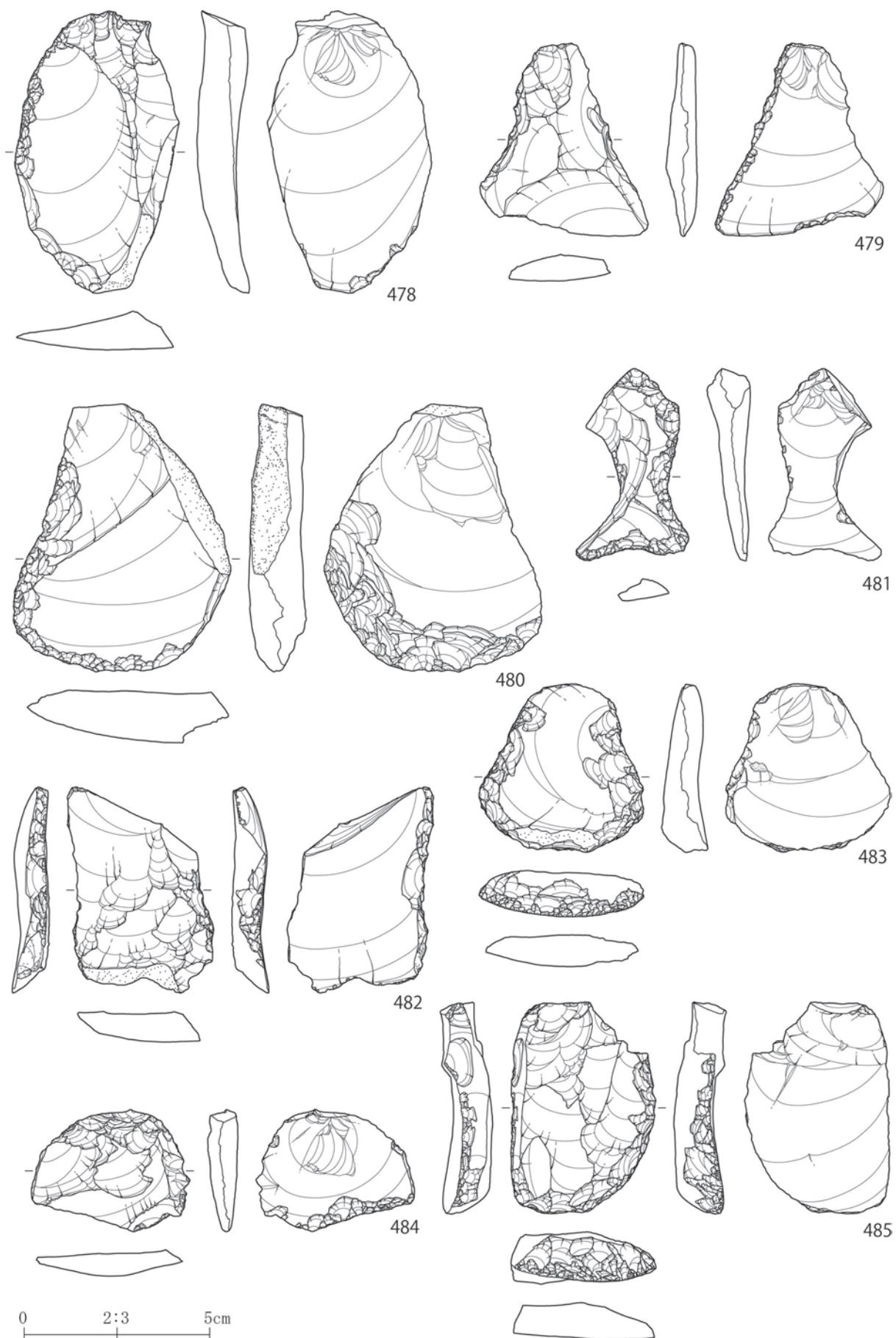
第 77 図 遺構外出土遺物 12



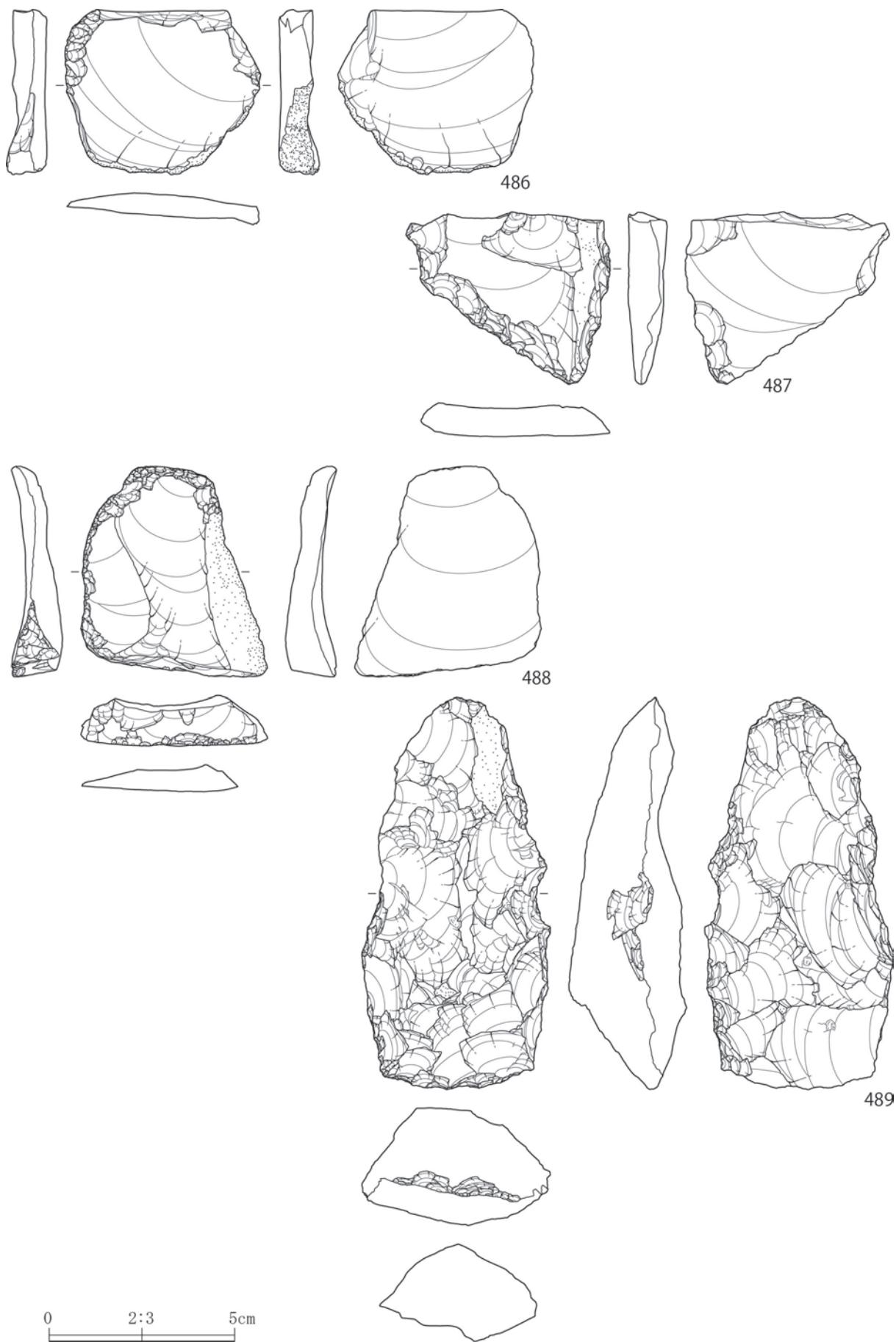
第 78 図 遺構外出土遺物 13

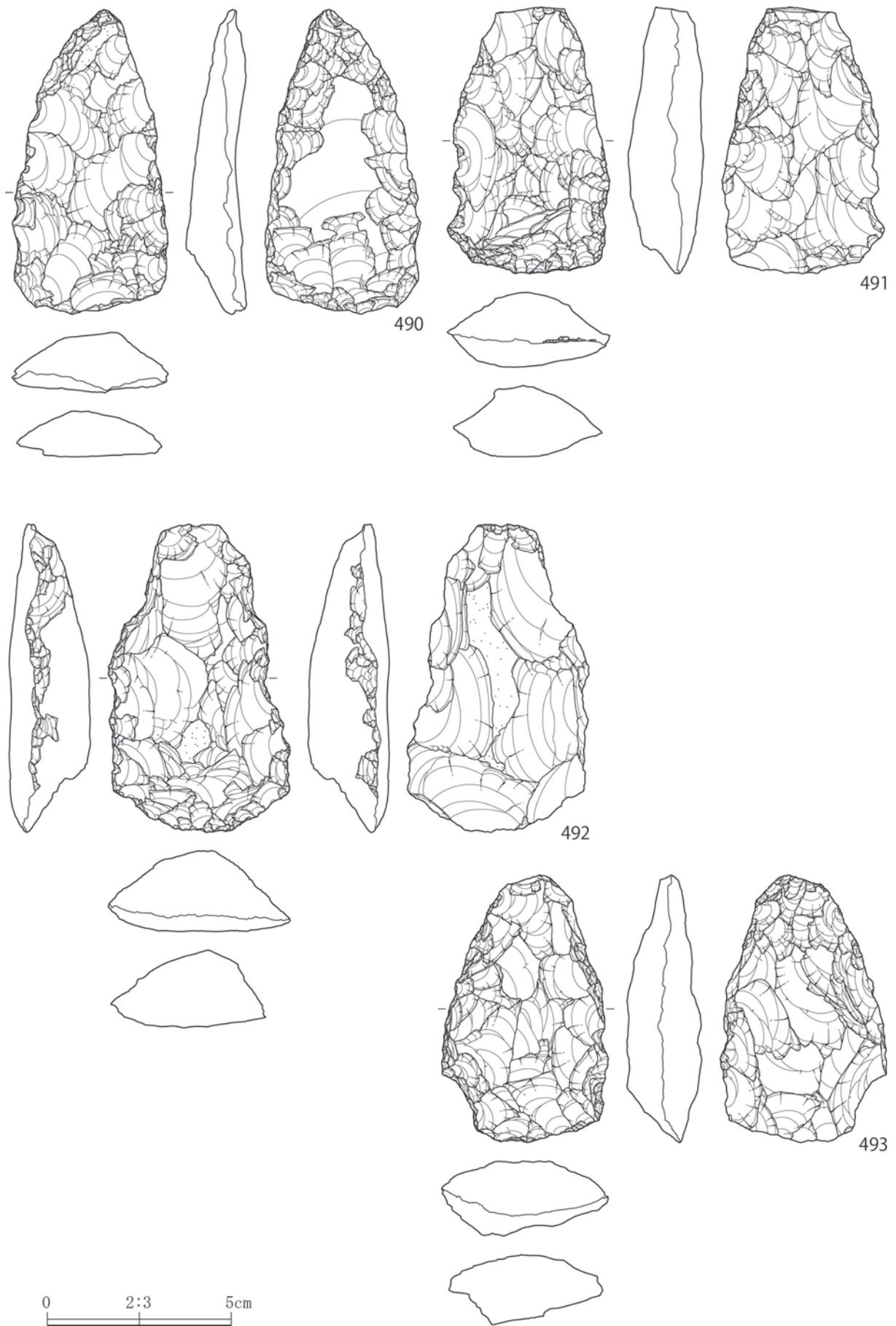


第 79 図 遺構外出土遺物 14

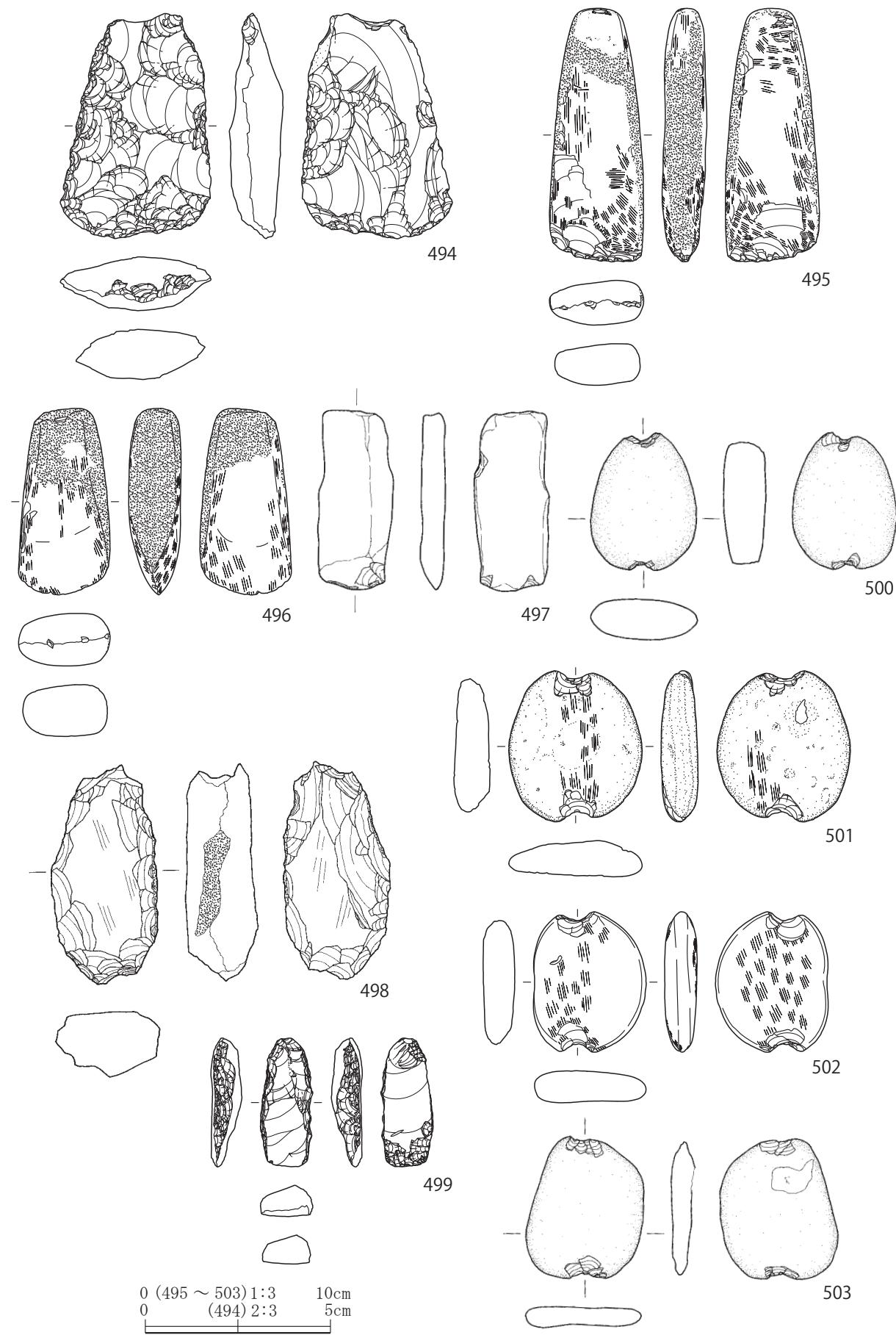


第 80 図 遺構外出土遺物 15

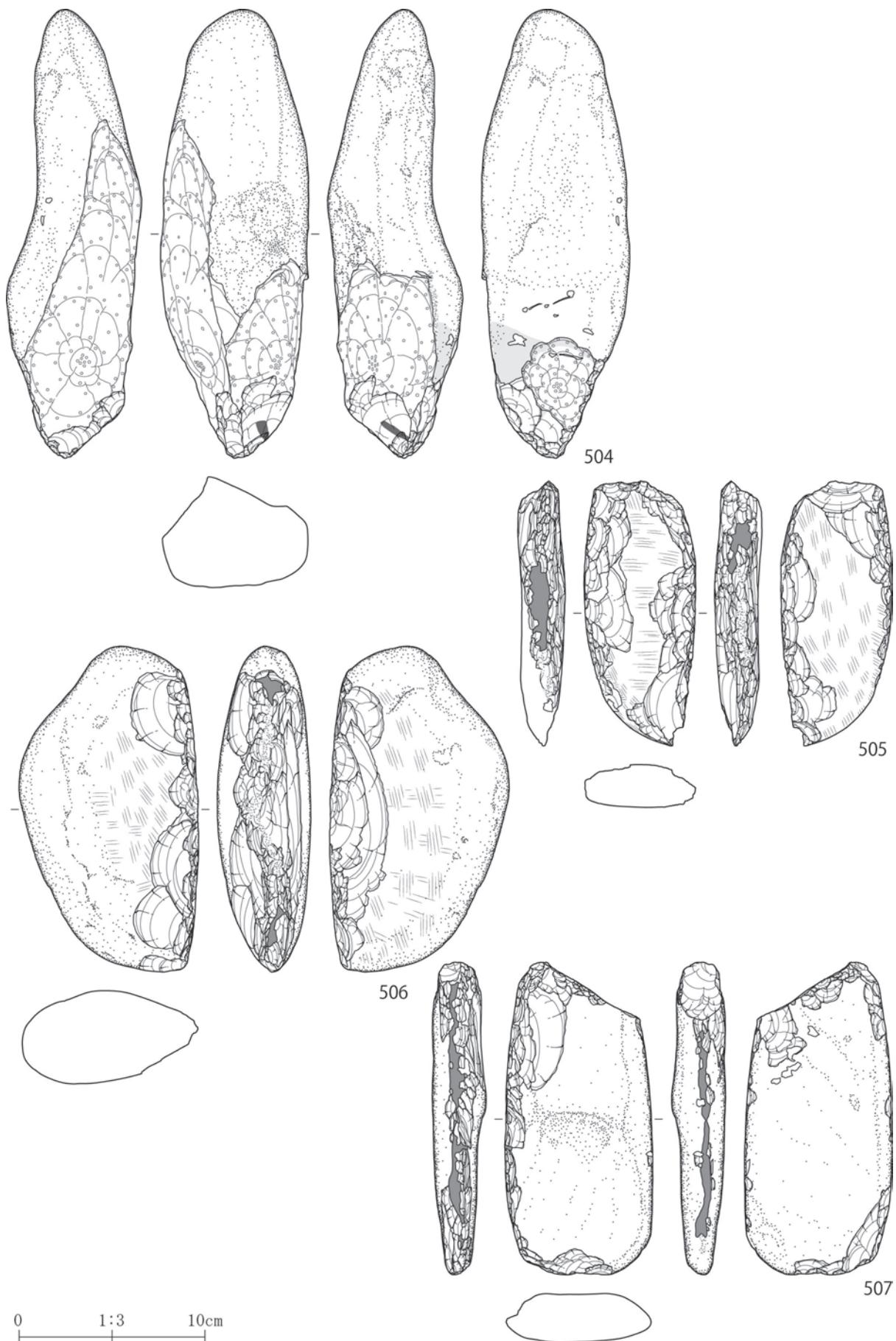




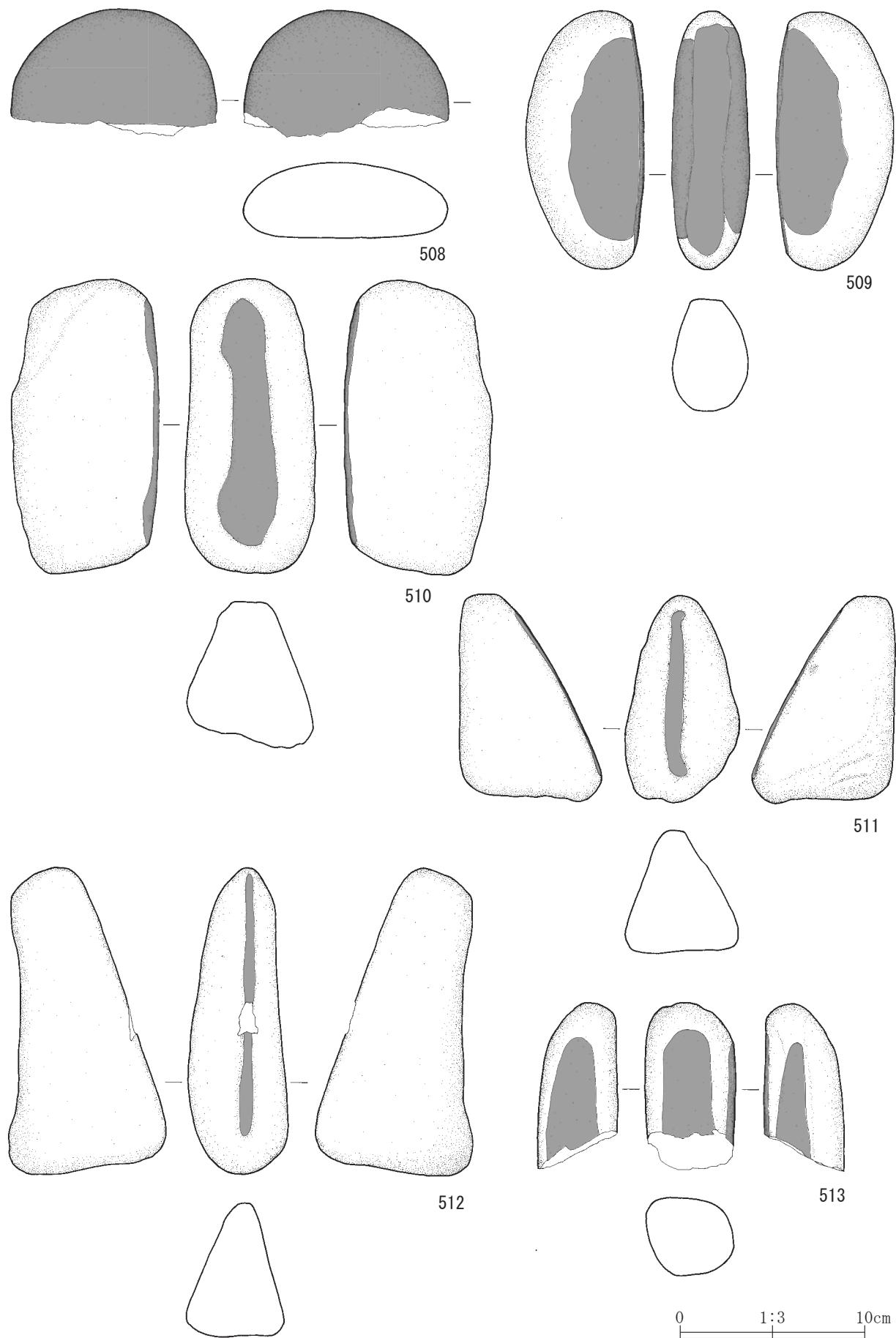
第 82 図 遺構外出土遺物 17



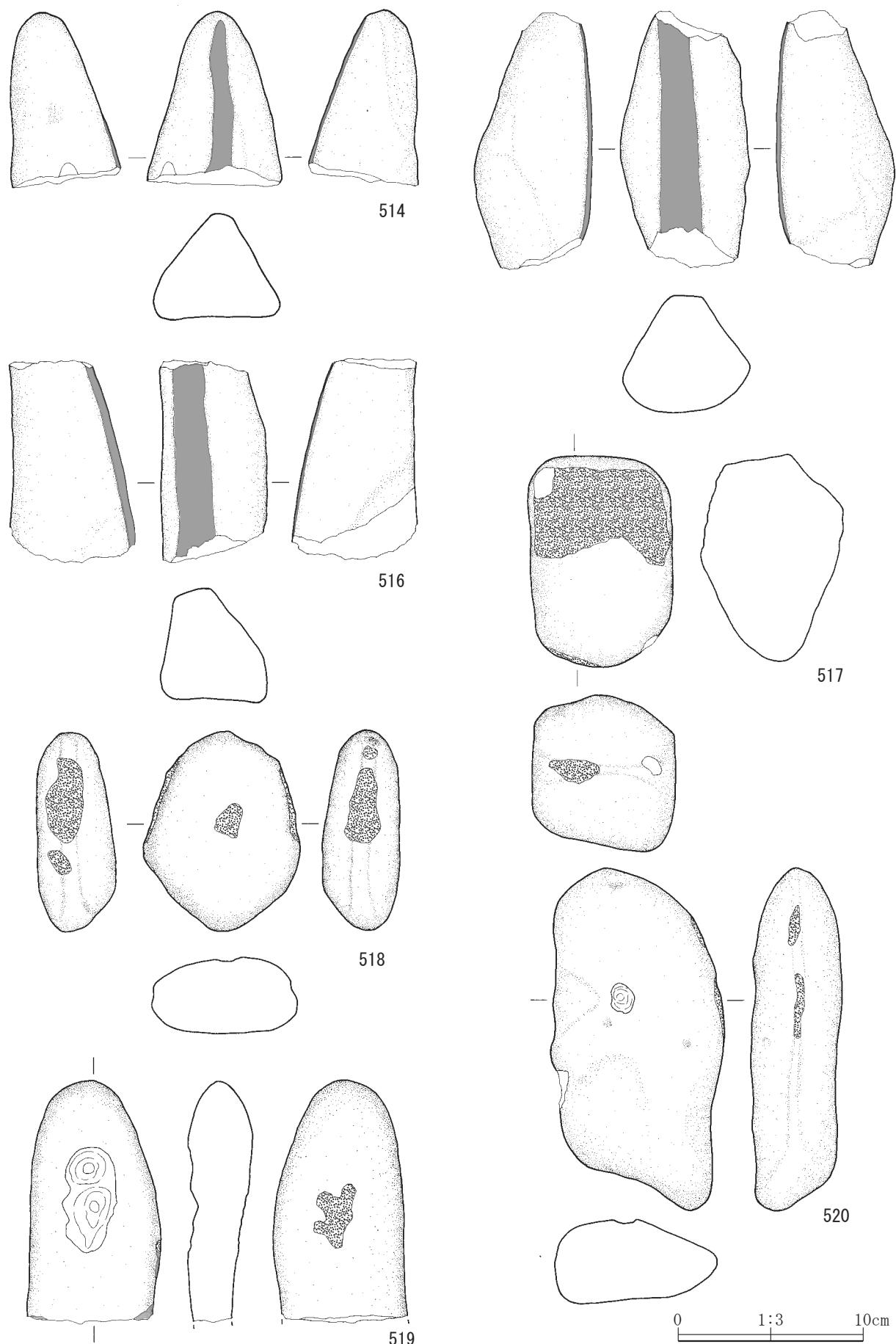
第 83 図 遺構外出土遺物 18



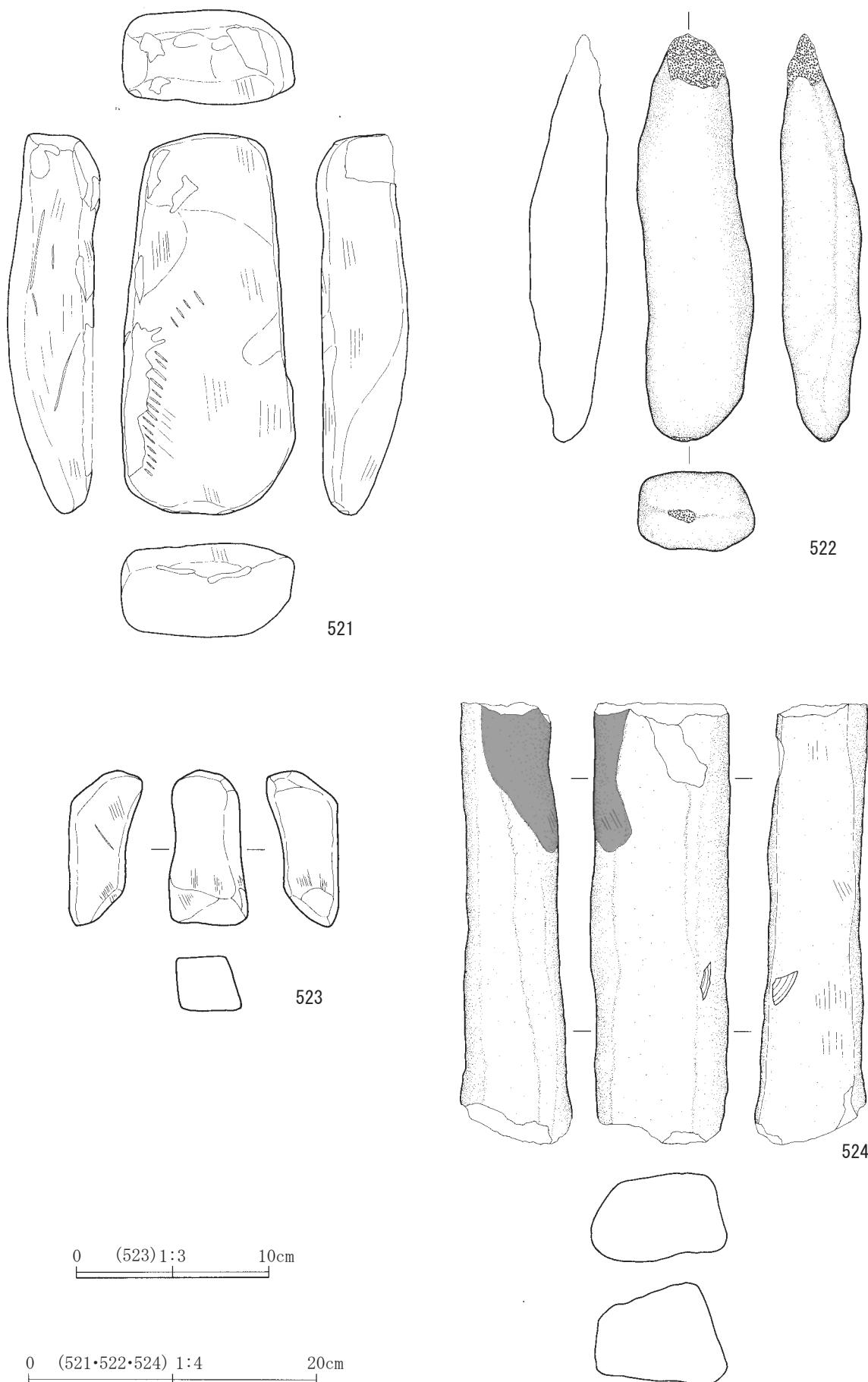
第 84 図 遺構外出土遺物 19



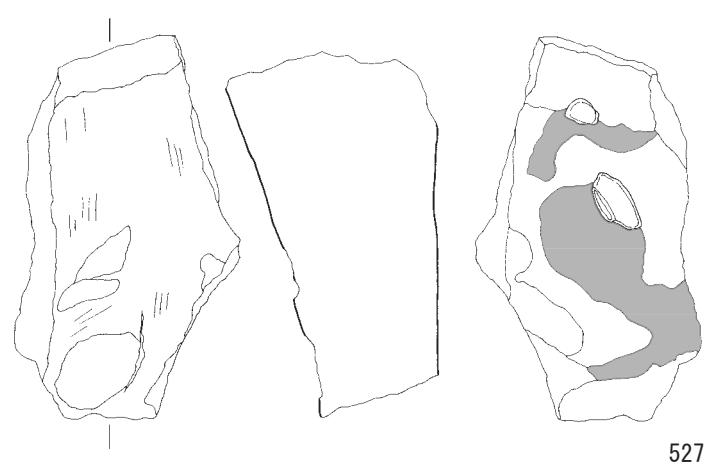
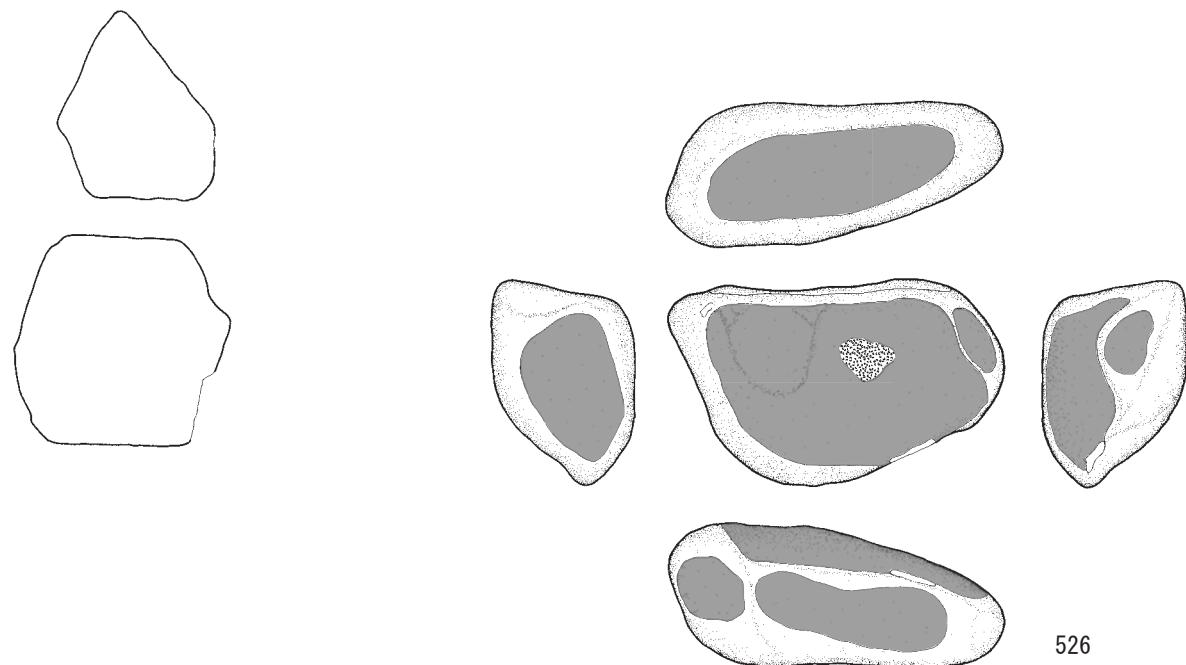
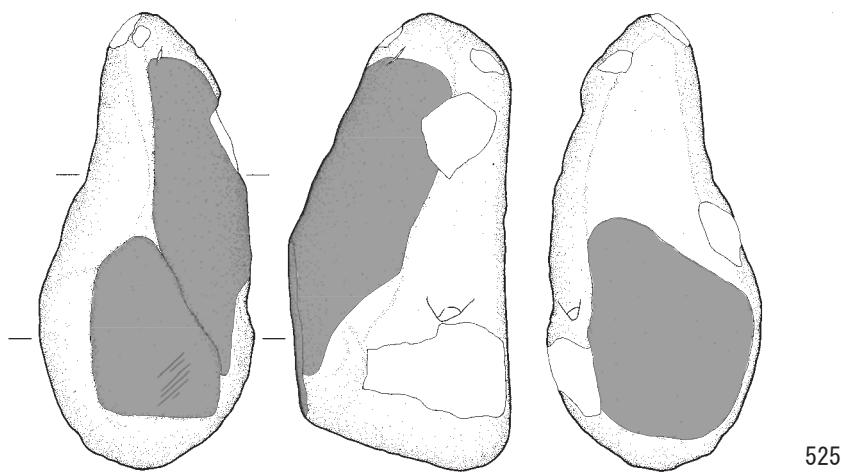
第 85 図 遺構外出土遺物 20



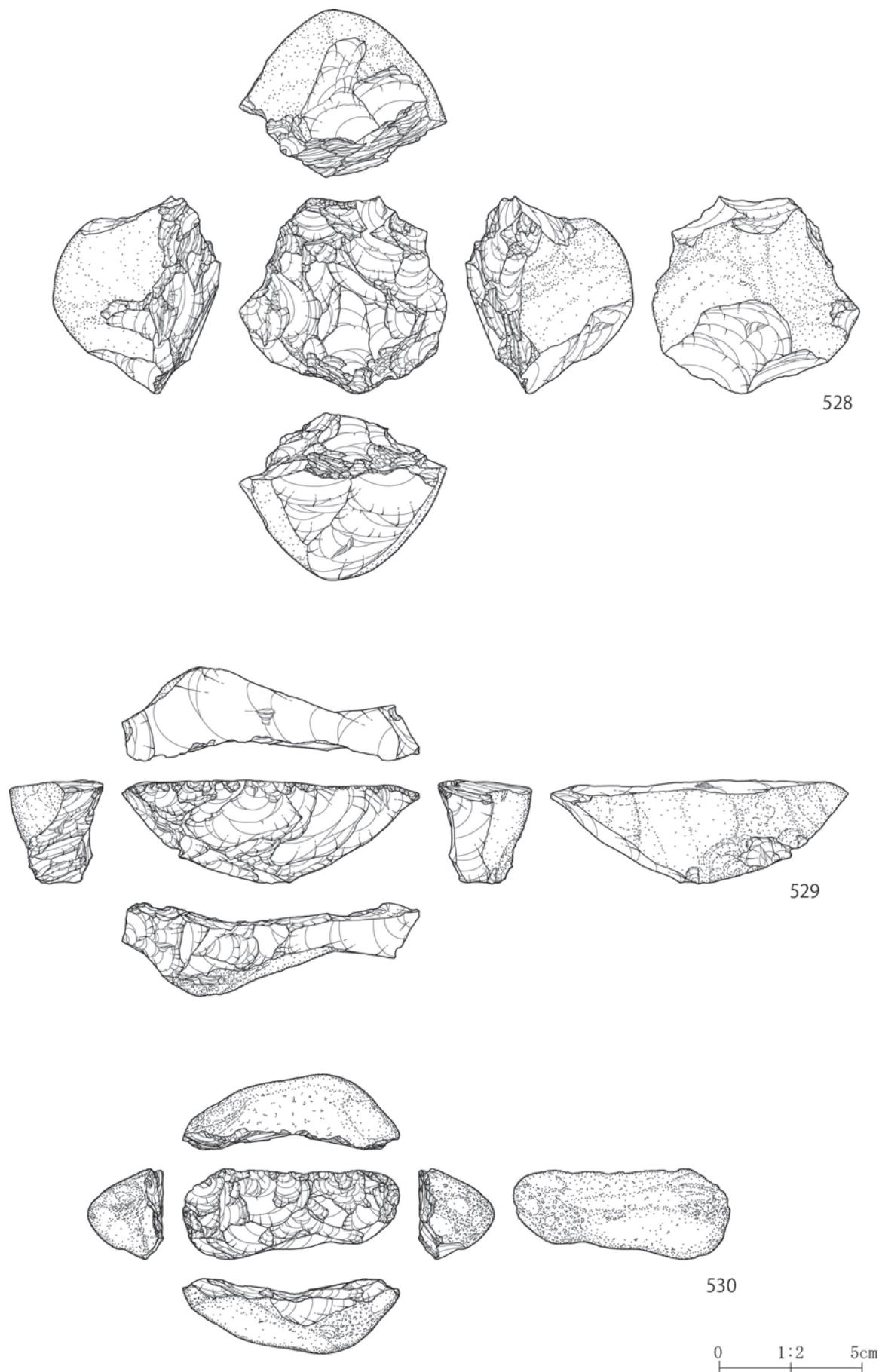
第 86 図 遺構外出土遺物 21



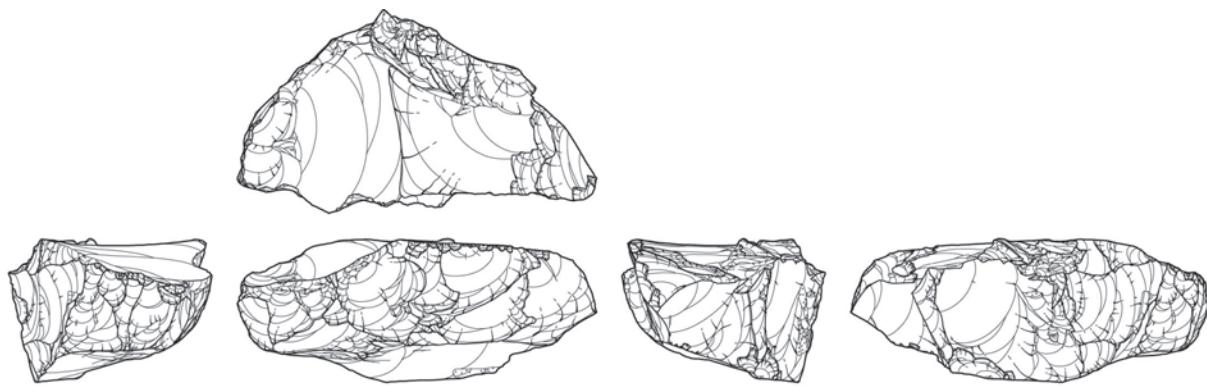
第 87 図 遺構外出土遺物 22



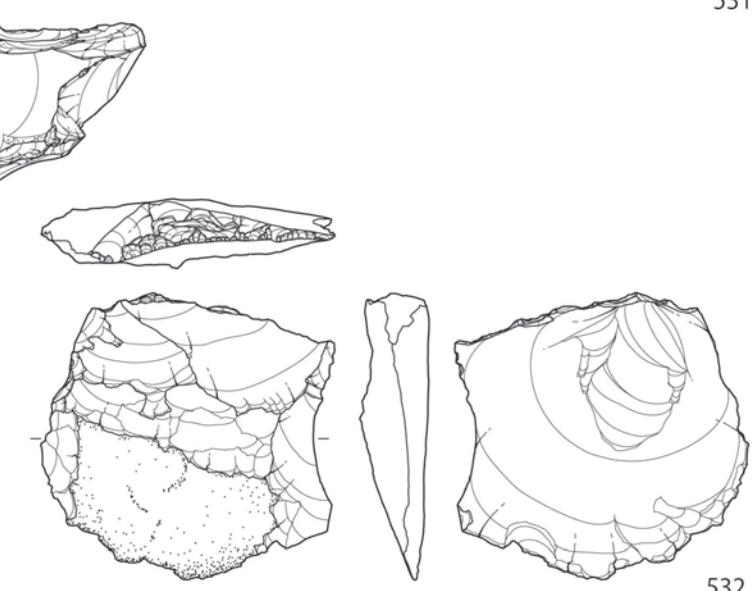
第 88 図 遺構外出土遺物 23



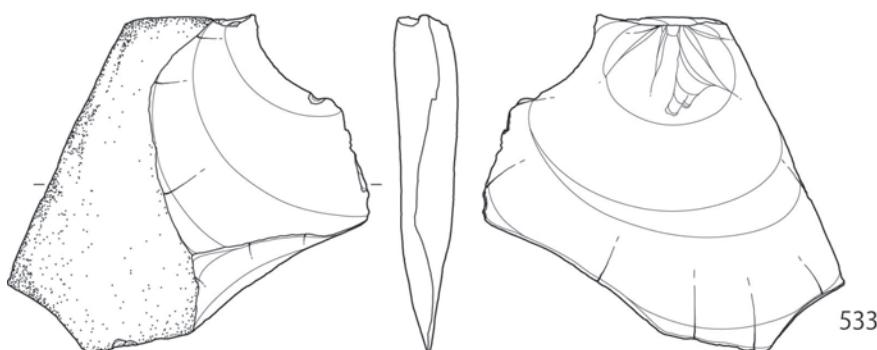
第 89 図 遺構外出土遺物 24



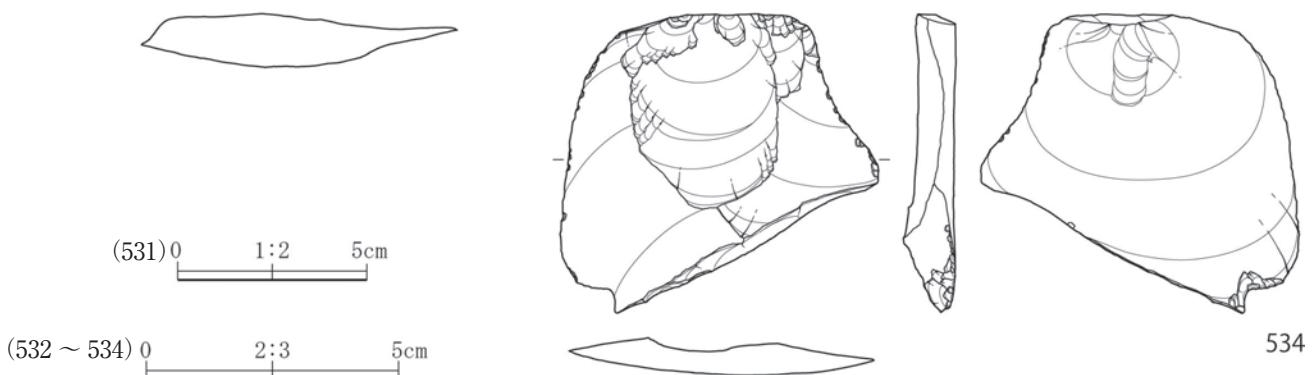
531



532



533

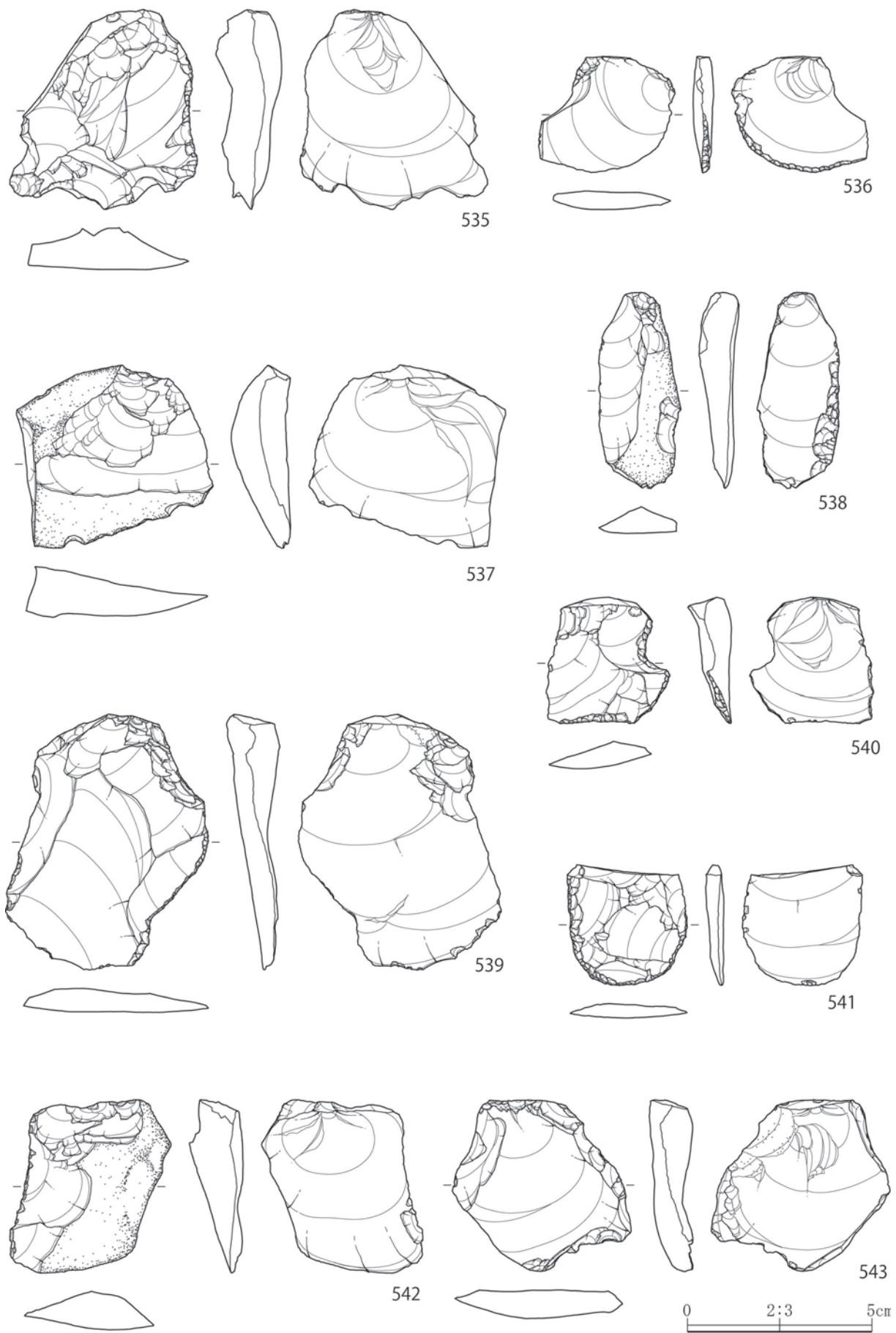


534

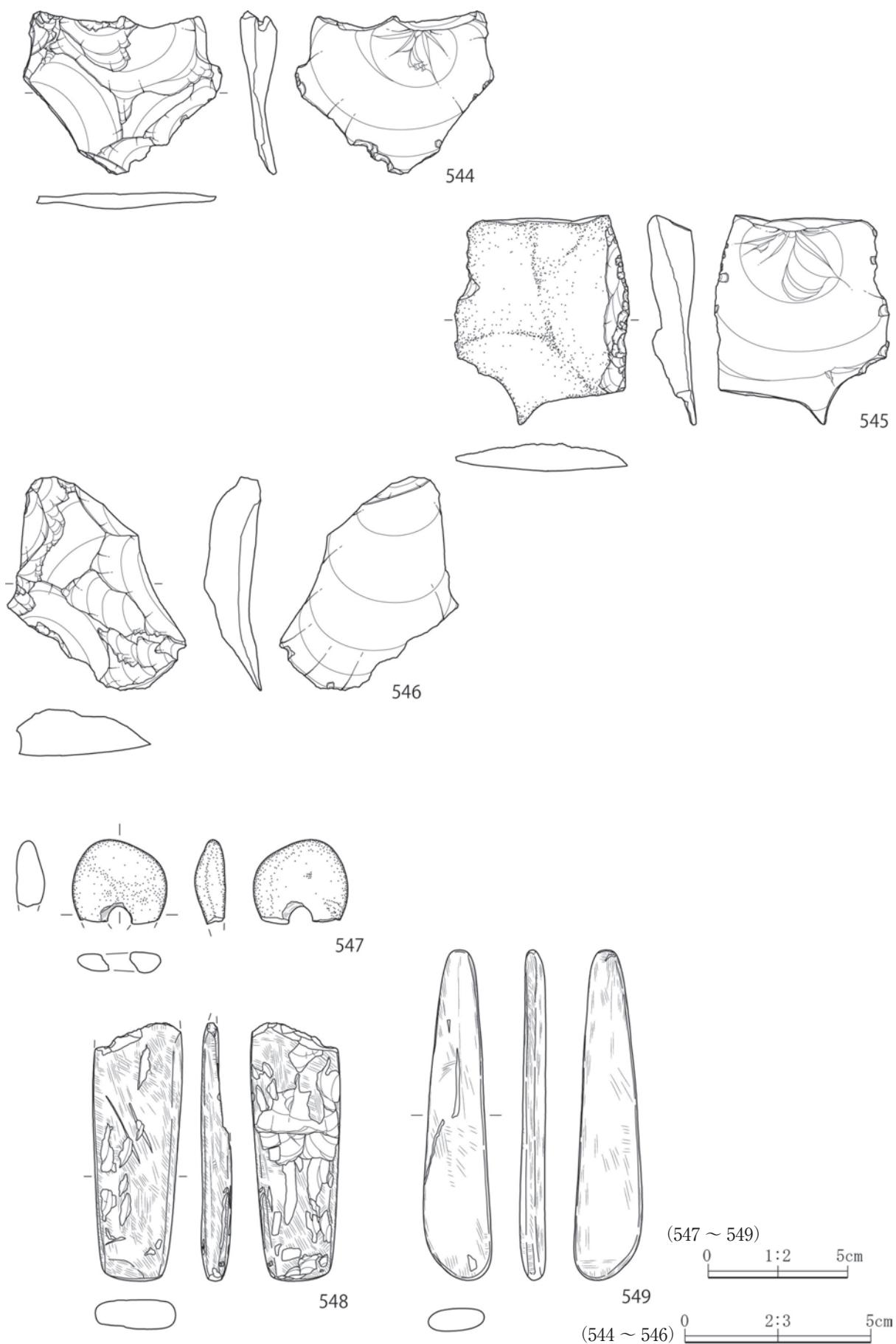
(531) 0 1:2 5cm

(532 ～ 534) 0 2:3 5cm

第 90 図 遺構外出土遺物 25



第 91 図 遺構外出土遺物 26



第 92 図 遺構外出土遺物 27

第7表 遺物観察表(土器)

掲載番号	出土地点・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整(文様)	色調(外面)色調(内面)	胎土混入物	時期	コゲ付着	焼成	備考
1	1号堅穴建物床面	深鉢	口～底 2/3残存	口:無文 頸:押圧を加えた隆帯 胴:单軸絡条体1類(l斜) 底:網代痕	口～胴:ナデ	明黄褐 明黄褐	砂、長、 <	大木5式		不良	
2	1号堅穴建物堆積土中	深鉢	口～胴 1/4残存	口～胴:单軸絡条体1類(r縦)	口～胴:ナデ	灰黄褐 灰黄褐	砂、雲	大木5式		やや不良	
3	1号堅穴建物堆積土中	深鉢	口～胴 1/4残存	口～胴:条線(縦)	口～胴:ナデ	にぶい橙 橙	砂、長	大木5式		やや良好	
4	1号堅穴建物堆積土中	深鉢	口縁部片	口:無文 頸:押圧加えた隆帯 胴:縄文(LR横?)	口～胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、雲	大木5式		やや不良	
5	1号堅穴建物堆積土中	深鉢	口～胴部片	口:無文 頸:押圧加えた隆帯 胴:单軸絡条体1類(r縦)	口～胴:ナデ	明黄褐 橙	砂、長	大木5式		やや不良	
6	1号堅穴建物床面	深鉢	底部欠損	口～胴:单軸絡条体1類(r縦)	口～胴:ナデ	浅黄橙 浅黄橙	砂、長、 <	大木5式		不良	
7	1号堅穴建物堆積土中	深鉢	口縁部片	胴:单軸絡条体1類(r縦)	口～胴:ナデ	明黄褐 にぶい黄橙	砂、<	大木5式		やや不良	
8	1号堅穴建物堆積土中	深鉢	胴部片	胴:縄文(LR横)	胴:ナデ	橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		やや不良	
9	1号堅穴建物堆積土中	深鉢	口～胴 1/4残存	唇:刻み 口～胴:無文	口～胴:ナデ	灰黄褐 にぶい黄橙	砂	大木5式?		やや不良	輪積み痕残る
10	1号堅穴建物堆積土中	深鉢	胴部片	胴:单軸絡条体1A類(RL・RL斜)	胴:ナデ	にぶい黄橙 明赤褐	砂、白	大木5式	外面 胴部	やや良好	
11	1号堅穴建物堆積土中	深鉢	口～胴 1/4残存	口:無文 胴:多軸絡条体	口～胴:ナデ	橙 橙	砂、長	大木5式		やや不良	
12	1号堅穴建物堆積土中	深鉢	胴部片	胴:多軸絡条体	胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		やや不良	
13	1号堅穴建物堆積土中	深鉢	口縁部片	口:隆帯、沈線、突起	口:ナデ	にぶい橙 にぶい橙	砂	大木5式		やや良好	14と同一個体
14	1号堅穴建物堆積土中	深鉢	口縁部片	口:隆帯、沈線	口:ナデ	にぶい橙 にぶい橙	砂、長	大木5式		やや不良	13と同一個体
15	1号堅穴建物堆積土中	深鉢	胴部片	胴:半裁竹管状工具による押引文	口:ナデ	にぶい赤褐 にぶい褐	砂	大木5式		良好	
16	1号堅穴建物堆積土中	深鉢	胴～底 1/4残存	胴:沈線(格子状)	胴:ナデ	橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		不良	
17	1号堅穴建物堆積土中	深鉢	底部のみ	胴:無文? 底:無文	底:ナデ	にぶい橙 にぶい橙	砂	前期 後葉		やや良好	
18	1号堅穴建物堆積土中	深鉢	底部のみ	胴:無文? 底:無文(ケズリ、ナデによる整形痕)	底:ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	砂	前期 後葉		やや良好	
47	2号堅穴建物堆積土中	深鉢	口縁部片	口:無文 胴:单軸絡条体1類(r縦)	胴:ケズリ	褐灰 にぶい黄橙	砂、長	大木5式		不良	
48	2号堅穴建物堆積土中	深鉢	口縁部片	口～胴:单軸絡条体5類(l・r縦)	口～胴:ナデ	にぶい黄褐 にぶい橙	砂	大木5式		やや良好	
49	2号堅穴建物堆積土中	深鉢	口縁部片	口:無文 胴:单軸絡条体5類(r・r縦)	口:ナデ	にぶい褐 浅黄橙	砂、長	大木5式		やや不良	
50	2号堅穴建物堆積土中	深鉢	胴部片	胴:单軸絡条体5類(r・r縦)	胴:ナデ	橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		不良	
51	2号堅穴建物堆積土中	深鉢	胴部片	胴:半裁竹管状工具による格子状文	胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		やや不良	
52	2号堅穴建物堆積土中	深鉢	口縁部片	口～胴:半裁竹管状工具による平行沈線文	口～胴:ナデ	にぶい橙 橙	砂	大木5式	内面 胴部	良好	53と同一個体
53	2号堅穴建物堆積土中	深鉢	胴部片	胴:半裁竹管状工具による平行沈線文	胴:ナデ	橙 橙	砂、長	大木5式		良好	52と同一個体
74	3号堅穴建物堆積土中	深鉢	胴部片	胴:結束羽状縄文(l横)	胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄褐	砂、 繊維	大木2a式		不良	
75	3号堅穴建物堆積土中	深鉢	胴部片	胴:縄文(LR横)	胴:ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	繊維	大木1～ 2a式		不良	
76	3号堅穴建物堆積土中	深鉢	胴部片	胴:縄文(RL横)	胴:ナデ	にぶい橙 にぶい褐	白、 繊維	大木1～ 2a式		不良	
77	3号堅穴建物堆積土中	深鉢	胴部片	胴:貝殻腹縁文?	胴:ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	白、長	早期 末葉?		不良	

\*第7表における混入物欄の省略表記 黒→: 黒色光沢粒 雲→: 雲母 頁→: 頁岩 く→: くさり礫 砂→: 砂岩・泥岩などの砂粒 長→: 石英・長石

掲載番号	出土地点・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整(文様)	色調(外面)色調(内面)	胎土混入物	時期	コゲ付着	焼成	備考
78	3号堅穴建物堆積土中	深鉢	胴部片	胴:貝殻腹縁文?	胴:ナデ	にぶい橙 灰褐	砂、長	早期 末葉?		不良	
79	3号堅穴建物堆積土中	深鉢	口縁部片	口:無文 頸:押圧を加えた隆帶 胴:単軸絡条体(原体不明)	口~胴:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		不良	
80	3号堅穴建物堆積土中	深鉢	口縁部片	口:無文 頸:刻みを加えた隆帶 胴:繩文?	口~胴:ナデ	浅黄橙 にぶい橙	砂、長	大木5式		やや 良好	
81	3号堅穴建物堆積土中	深鉢	口縁部片	口:隆帶 胴:繩文(r横)	口:ナデ	橙 橙	砂	大木5式?		良好	
82	3号堅穴建物堆積土中	深鉢	口縁部片	唇:交互押圧 口:繩文 原体押圧文(LR横) 胴:単軸絡条体1A類(RL・RL縦)	口~胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		不良	
83	3号堅穴建物堆積土中	深鉢	胴部片	胴:単軸絡条体1類(I縦)	胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		やや 良好	
84	3号堅穴建物堆積土中	深鉢	口~胴1/2残存	唇:押圧 口~胴:無文	口~胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		不良	輪積み痕 残る
85	3号堅穴建物堆積土中	深鉢	口~胴1/4	唇:交互押圧 口~胴:半裁竹管状工具による平行沈線文	口~胴:ナデ	明黄褐 明黄褐	砂	大木5式		やや 良好	
103	4号堅穴建物堆積土中	鉢	口~胴部片	口:無文 胴:沈線、刻み、雲形文	胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	白	大洞C1式		不良	
104	4号堅穴建物堆積土中	鉢	口~胴部片	唇:押圧 口:無文 胴:沈線、雲形文	口:沈線 胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	白	大洞C1式		不良	
105	4号堅穴建物堆積土中	鉢	口~胴部片	唇:押圧 口:刻みを加えた半球状突起、沈線	口:ナデ	灰黄褐 灰黄褐	白、長	大洞C1式		不良	
106	4号堅穴建物堆積土中	ミニチュア	胴~底1/3残存	胴:手捏ね	胴:ナデ	橙 橙	白、長	晚期?		不良	
107	4号堅穴建物堆積土中	深鉢	口~胴1/4	口:無文 頸:3段の押引文 胴:結節回転文(r縦)	ナデ(横)	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、長、 く	大木5~6式		不良	
108	4号堅穴建物堆積土中	深鉢	口縁部片	唇:交互押圧 口~胴:半裁竹管文	口~胴:ナデ	橙 橙	砂、白	大木5式		やや 不良	
109	4号堅穴建物堆積土中	深鉢	口縁部片	唇:押圧 口:無文	口:ナデ	浅黄橙 浅黄橙	砂	大木5式?		不良	
110	4号堅穴建物堆積土中	深鉢	胴部片	胴:繩文(r縦)	胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂	前期後葉		不良	
111	4号堅穴建物堆積土中	深鉢	胴部片	胴:単軸絡条体(r縦)	胴:ナデ	橙 明黄褐	白	大木5式		やや 良好	
112	4号堅穴建物堆積土中	深鉢	胴部片	胴:繩文(RLR横)	胴:ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	砂、織 維	大木1~2a式		不良	
120	5号堅穴建物床面上	鉢	口縁部片	口:無文	口:ナデ	橙 橙	砂	弥生前期?		やや 良好	
121	5号堅穴建物床面上	小型甕	口縁部片	口:無文	口:無文	灰黄褐 黒褐	砂	弥生前期?		不良	
122	5号堅穴建物Pit7内	鉢?	胴部片	胴:無文	胴:ケズリ→ ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	砂	弥生前期?		不良	123と同一個体
123	5号堅穴建物Pit7内	鉢?	胴部片	胴:繩文(RL横)	胴:ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	砂	弥生前期?		不良	122と同一個体
124	5号堅穴建物床面上	小型甕	胴部片	胴:無文	胴:ナデ	にぶい黄橙 黒褐	砂	弥生前期?		不良	
125	5号堅穴建物床面上	甕?	底部のみ	胴:無文? 底:無文(指頭?による整形痕)	底:ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	砂	弥生前期?		やや 不良	
132	6号堅穴建物土坑2内	土師器 坏	口~底2/3残存	口~胴:回転ナデ 胴:ケズリ 底:回転糸切り	口~底:回転 ナデ	浅黄橙 浅黄橙	黒	10世紀 前半		良好	
133	6号堅穴建物床面上	土師器 坏(内黒)	口~底2/3残存	口~胴:回転ナデ 底:回転糸切り	口:ミガキ (横) 胴~底:ミガキ (横)	浅黄橙 黒	砂、長	10世紀 前半		良好	
134	6号堅穴建物カマド焼土面上、煙道内、床面上	土師器 甕	口~底2/3残存	口~胴:回転ナデ 胴:ケズリ	口:回転ナデ 胴:ナデ?	浅黄橙 浅黄橙	砂、長	10世紀 前半		良好	

\* 第7表における混入物欄の省略表記 黒→: 黒色光沢粒 雲→: 雲母 頁→: 頁岩 く→: くさり礫 砂→: 砂岩・泥岩などの砂粒 長→: 石英・長石

掲載番号	出土地点・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整(文様)	色調(外面)色調(内面)	胎土混入物	時期	コケ付着	焼成	備考
135	6号堅穴建物土坑2内	土師器甕	口～胴 1/4残存	口～胴:回転ナデ→ケズリ	口～胴:回転ナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	砂、雲	10世紀前半		良好	
136	6号堅穴建物カマド焼土面	土師器甕	口～胴 1/4残存	口～胴:回転ナデ→ケズリ	口～胴:回転ナデ	浅黄橙 浅黄橙	砂、長	10世紀前半		良好	
137	6号堅穴建物土坑2内	土師器甕	口～胴 1/4残存	口:回転ナデ 胴:ケズリ	口:回転ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	白、雲	10世紀前半			
138	6号堅穴建物床面上	土師器甕	胴～底 1/4残存	胴:ケズリ	胴～底:回転ナデ→ナデ	にぶい橙 灰黄褐	白、雲	10世紀前半		良好	
139	6号堅穴建物床面上	土師器甕	口縁部片	口:回転ナデ	口:回転ナデ	橙 にぶい橙	黒	10世紀前半		良好	
140	6号堅穴建物床面上	須恵器大甕	胴部片	胴:タタキメ	胴:タタキメ?	灰 灰	白	10世紀前半		良好	
141	6号堅穴建物堆積土中	須恵器大甕	胴部片	胴:タタキメ	胴:ナデ?	灰白 灰白	白、長	10世紀前半		良好	還元不足?
142	6号堅穴建物堆積土中	須恵器大甕	胴部片	胴:タタキメ	胴:ナデ?	灰白 灰白	白	10世紀代?		良好	還元不足?
145	6号土坑堆積土中	鉢?	胴部片	胴:無文	胴:ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	砂、長	弥生?		不良	146と同一個体
146	6号土坑堆積土中	鉢?	胴部片	胴:縄文(LR横)	胴:ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	砂、長	弥生?		不良	145と同一個体
147	7号土坑1層	甕	口縁部片	口:ヨコナデ 胴:タテナデ	口:ナデ	黒褐 黒褐	白	7世紀前半	外面口縁	不良	炭素年代測定試料
148	7号土坑1層	土師器長胴甕	口1/4残存	口:唇下無文(ヨコナデ)、ハケメ縦	口:ミガキ 胴:ハケメ	灰黄褐 灰黄褐	砂、長	7世紀前半	口縁内外	不良	149と同一個体
149	7号土坑1層	土師器長胴甕	胴～底 1/2残存	胴:ミガキ(縦)、ナデ(横)	胴:ハケメ(一部ミガキ)	にぶい黄橙 にぶい黄橙	白	7世紀前半	胴部内外	不良	148と同一個体
150a	7号土坑1層	土師器長胴甕	口～胴 1/4残存	口:ミガキ(横) 頸:ミガキ(横)→ハケメ 胴:ミガキ	口～胴:ハケメ 胴下:ミガキ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、長	7世紀前半		やや不良	
150b	7号土坑1層	土師器長胴甕	胴～底 1/4残存	胴:ミガキ、指頭による整形	胴:ハケメ→ミガキ(縦)、ナデ	灰黄褐 灰黄褐	砂、長	7世紀前半		不良	
151	18号土坑堆積土中	深鉢	口縁部片	口:隆帶 胴:結節回転文(r縦)	口～胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、長	大木5式		やや不良	
152	16号土坑1層	深鉢	口～胴 1/4残存	口:無文 頸:刻みを加えた隆帶 胴:多軸絡条体(r斜)	口～胴:ナデ	橙 橙	砂、長	大木5式		やや不良	
153	16号土坑1層	深鉢	胴～底 2/3残存	胴:多軸絡条体(1斜) 底:網代痕	胴:ナデ	橙 にぶい黄褐	砂、長	大木5式		やや不良	
156	20号土坑堆積土中	深鉢	口縁部片	口:無文(ナデ) 頸:押圧を加えた隆帶	口:ケズリ、ナデ	明赤褐 にぶい橙	砂	大木5式		やや良好	
157	20号土坑堆積土中	深鉢	口～胴 1/4残存	口:隆帶、半裁竹管状による鋸齒状文 胴:縄文(LR縦)	口～胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		やや良好	
158	20号土坑2層	深鉢	口～胴部片	口:無文 頸:刻みを加えた隆帶 胴:結節回転文(1縦)	口～胴:指頭による整形→ナデ	にぶい褐 にぶい褐	砂	大木5式		やや良好	
159	20号土坑堆積土中	深鉢	口～胴 1/4残存	口:無文 胴:多軸絡条体(1斜)	口～胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、長	大木5式		やや良好	
160	20号土坑堆積土中	深鉢	口縁部片	唇:押圧 口:無文	口:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		不良	
161	20号土坑2層	深鉢	口～胴	唇:三角形突起(5単位?) 口:半球形突起 頸:押圧を加えた隆帶 胴:単軸絡条体5類(r・r縦)	口～胴:ナデ	浅黄橙 にぶい橙	砂、長	大木5式		やや良好	
162	20号土坑2層	深鉢	略完形	口～胴:単軸絡条体5類(r・r縦)	口～胴:ナデ	にぶい褐 にぶい褐	砂、長	大木5式		やや不良	
163	20号土坑堆積土中	深鉢	胴部片	胴:単軸絡条体1類(r縦)	胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	砂、く	大木5式		不良	
164	20号土坑2層	深鉢	口～胴 1/4残存	口:隆帶 胴:結節回転文(r縦)	口～胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	砂	大木5式		やや不良	
165	20号土坑堆積土中	深鉢	口縁部片	口:無文 胴:単軸絡条体(r縦)	口～胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、白、長	大木5式		やや不良	

\*第7表における混入物欄の省略表記 黒→: 黒色光沢粒 雲→: 雲母 頁→: 頁岩 く→: くさり礫 砂→: 砂岩・泥岩などの砂粒 長→: 石英・長石

掲載番号	出土地点・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整(文様)	色調(外面)色調(内面)	胎土混入物	時期	コゲ付着	焼成	備考
166	20号土坑堆積土中	深鉢	胴部片	胴:単軸絡条体1A類(RL・RL縦)	胴:ナデ	橙にぶい黄橙	砂	大木5式		やや不良	
167	20号土坑堆積土中	深鉢	口縁部片	口:半裁竹管状工具による曲線状文	口:ナデ	にぶい橙にぶい橙	砂、長	大木5式		不良	
168	20号土坑堆積土中	深鉢	胴～底2/3残存	胴:結節回転(LR・LR縦)	胴:ナデ	橙にぶい黄橙	砂、長	大木5式		やや不良	
169	20号土坑2層	深鉢	胴部1/2残存	胴:多軸絡条体(1横)	胴:ナデ	にぶい黄橙灰黄褐	砂、長	大木5式		不良	
177	25号土坑堆積土中	深鉢	口～胴1/3残存	唇:交差押圧口:無文 頸:押圧を加えた隆帶 胴:単軸絡条体1類(r縦)	口～胴:ナデ	にぶい黄橙にぶい黄橙	砂、長	大木5式		やや不良	
179	22号土坑堆積土中	土師器甕?	胴部片	胴:ナデ	胴:ナデ、ミガキ	褐灰にぶい褐	砂	10世紀代?		やや良好	
180	23号土坑堆積土中	深鉢	口縁部片	口～胴:繩文(LR縦)	口～胴:ナデ	橙にぶい黄橙	砂、長、雲	大木5式		やや良好	
181	23号土坑堆積土中	深鉢	口縁部片	口:無文	口:ナデ	橙橙	砂	大木5式		やや不良	
182	23号土坑堆積土中	深鉢	胴部片	胴:繩文(RL?)	胴:ナデ?	橙にぶい黄橙	砂、纖維	前期初頭?		不良	尖底?
183	24号土坑堆積土中	深鉢	口～胴1/4残存	口:半裁竹管状工具による鋸歯状文 頸:押引文、平行沈線 胴:繩文(LR横)	口～胴:ナデ	浅黄橙 浅黄橙	砂	大木5式		やや不良	184と同一個体
184	24号土坑堆積土中	深鉢	口～胴1/4残存	口:半裁竹管状工具による鋸歯状文 頸:押引文、平行沈線文 胴:繩文(LR横)	口～胴:ナデ	浅黄橙 浅黄橙	砂	大木5式		やや不良	183と同一個体
185	28号土坑堆積土中	深鉢	胴部片	胴:繩文?	胴:条痕?	にぶい黄橙 にぶい黄橙	白	早期?		やや良好	
186	II C8a II C8b III層	深鉢	口縁部片	口～胴:細隆起線文	胴:条線	にぶい黄橙 灰黄褐	黒、長	楓ノ木I式	内面口縁	不良	
187	II C8a III層	深鉢	口縁部片	口:細隆起線文	口:ナデ	灰黄褐 浅黄橙	長	楓ノ木I式		不良	同一個体
188	II C8a III層	深鉢	口縁部片	口:細隆起線文	口:ナデ?	にぶい黄橙 灰黄褐	白、長	楓ノ木I式		不良	
189	II C8a III層	深鉢	胴部片	胴:細隆起線文	胴:ナデ	橙 灰黄褐	白、長	楓ノ木I式	内面胴部	不良	
190	II C8a III層	深鉢	胴部片	胴:細隆起線文	胴:ナデ	橙 灰黄褐	白、長	楓ノ木I式	内面胴部	不良	
191	II C7a III層	深鉢	胴部片	胴:細隆起線文	胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、長	楓ノ木I式		不良	
192	II C8a III層	深鉢	胴部片	胴:細隆起線文、条線	胴:条線	橙 にぶい黄褐	砂、く、長	楓ノ木I式		不良	
193	II C2t III層	深鉢	口縁部片	口:微小な刺突列	口:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	白	早期?		やや不良	
194	I B23t III層	深鉢	胴部片	胴:繩文(I縦?)	胴:ナデ	にぶい黄橙 黒褐	白	早末～前初		やや不良	尖底土器
195	I B24v III層	尖底	胴～底	胴～底:繩文(I縦)	胴～底:ナデ	にぶい橙 橙	長、 纖維	早末～前初		不良	
196	I B23t III層	深鉢	口縁部片	唇:繩文(RL) 口～胴:繩文(RL横)	口～胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	く、長、 纖維	前期前葉		やや不良	
197	I B23t III層	深鉢	口縁部片	唇:繩文原体押圧(I) 口:びっちり繩文(RL横)	口:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	白、長、 纖維	前期前葉		やや不良	
198	I B24y III層	深鉢	胴部片	胴:繩文(RLR横)	胴:ナデ	にぶい橙 にぶい橙	砂、 纖維	前期前葉		不良	
199	I B23u III層	深鉢	胴部片	胴:繩文(LR斜?)	胴:ナデ	にぶい黄橙 黒褐	白	前期前葉		やや不良	
200	I B22s III層	深鉢	胴部片	胴:繩文(LR横)	胴:ナデ	黒褐 橙	白、 纖維	前期前葉		不良	
201	I B23u III層	深鉢	胴部片	胴:繩文(RLR横)	胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	く、纖維	前期前葉		やや不良	

\*第7表における混入物欄の省略表記 黒→: 黒色光沢粒 雲→: 雲母 頁→: 頁岩 く→: くさり礫 砂→: 砂岩・泥岩などの砂粒 長→: 石英・長石

掲載番号	出土地点・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整(文様)	色調(外面)色調(内面)	胎土混入物	時期	コゲ付着	焼成	備考
209	I B23p III層	深鉢	胴部片	胴:縄文(RLR縦)	胴:ナデ	橙 にぶい橙	砂、く、 繊維	前期 前葉		やや 不良	
210	II B5w III層	深鉢	胴部片	胴:結束羽状縄文 (LR・LR横)	胴:ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	白、 繊維	前期 前葉		不良	
211	II B4s III層	深鉢	胴部片	胴:縄文(RLR横)	胴:ナデ	灰黄褐 にぶい橙	白、く、 繊維	前期 前葉		不良	
212	I B23x III層	深鉢	胴部片	胴:縄文(1斜?)	胴:ナデ	浅黄橙 にぶい黄橙	長、 繊維	前期 前葉	内面 胴部	やや 不良	
213	I B24v III層	深鉢	底部片	底:無文	底:ナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	白、 繊維	前期 前葉		不良	
214	I C24b III層	深鉢	口～胴 1/4残存	口:無文 頸:押圧加えた隆帯 胴:無文?	口～胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		やや 良好	
215	I B24y III層	深鉢	口～胴 部片	口:無文 頸:押圧を加えた隆帯 胴:結節回転文(r縦)	口～胴:ナデ	にぶい黄橙 褐灰	砂、く	大木5式		やや 不良	
216	I C24b III層	深鉢	口縁部 片	口:縄文(1横) 頸:沈線 (横)と刻みを加えた隆帯	口:ナデ	橙 にぶい黄橙	白	大木5式		やや 良好	
217	I B24v III層	深鉢	口縁部 片	口:無文 頸:押圧を加えた隆帯	口:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		やや 不良	
218	I C25d III層	深鉢	口縁部 片	口:無文 頸:押圧を加えた隆帯 胴:縄文(RLR横?)	口:ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	砂、く、 長	大木5式		やや 良好	
219	II C1b III層	深鉢	口縁部 片	口:無文 頸:押圧を加えた隆帯	口～胴:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		良好	
220	I C24b III層	深鉢	口～胴 部片	口:無文 頸:押圧を加えた隆帯 胴:無文	口～胴:ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	砂、頁	大木5式		やや 良好	
221	II B1u III層	深鉢	口縁部 片	口:無文 頸:押圧を加えた隆帯 胴:結節回転文(r縦)	口:ナデ	にぶい橙 にぶい橙	砂、雲	大木5式		不良	
222	I B24y III層	深鉢	口～胴 部片(口 唇部欠 損)	口:無文 頸:押圧を加えた隆帯 胴:多軸絡条件(I縦)	口～胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	白	大木5式		やや 良好	
223	I C22b III層	深鉢	胴部片	頸:押圧を加えた隆帯	胴:ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	砂、雲	大木5式		不良	
224	I B25w III層	深鉢	口縁部 片	口:隆帯	口:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		良好	
225	I B23y III層	深鉢	口縁部 片	口:隆帯	口:ナデ	にぶい褐 にぶい褐	砂、長	大木5式		不良	
226	I B23y III層	深鉢	口縁部 片	口:無文 頸:沈線	口:ナデ	橙 橙	砂、頁	大木5 式?	外面 口縁	やや 不良	
227	I C25a III層	深鉢	口縁部 片	口:沈線、隆帯	口:ナデ	橙 橙	砂、長	大木5 式?		やや 不良	
228	I B24y III層	深鉢	口縁部 片	口:縄文(LR?)	口:ナデ	浅黄 にぶい黄橙	砂、長	大木5 式?		やや 良好	
229	I B23y III層	深鉢	口～胴 1/3残存	口～胴:縄文(LR横?)	口～胴:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		やや 不良	
230	I B24v III層	深鉢	口～胴 部片	口:無文 胴:縄文(LR横)	口～胴:ナデ	にぶい橙 にぶい褐	砂、く、 長	大木5式		やや 良好	
231	I B24a III層	深鉢	胴～底 部片(底 面剥離)	胴:縄文(LR縦)?	胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、く	大木5式		やや 不良	
232	I B24y III層	深鉢	口縁部 片	唇刻み 口～胴:結節回 転文(r縦)	口～胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、く、 長	大木5式		やや 不良	
233	I B24x III層	深鉢	口縁部 片	唇:押圧 口:無文	口:ナデ	灰黄褐 にぶい黄橙	砂	大木5式		やや 不良	
234	I B25w I層	深鉢	胴部片	胴:縄文(LR縦)	胴:ナデ	橙 にぶい橙	砂、白	大木5 式?		やや 不良	
235	I B25t III層	深鉢	口～胴 部片	口:無文 胴:縄文(LR横)	口～胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、頁、 く	大木5 式?		やや 良好	
236	I B23t III層	深鉢	口縁部 片	唇:押圧 口:無文	口:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		良好	

\*第7表における混入物欄の省略表記 黒→: 黒色光沢粒 雲→: 雲母 頁→: 頁岩 く→: くさり礫 砂→: 砂岩・泥岩などの砂粒 長→: 石英・長石

掲載番号	出土地点・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整(文様)	色調(外面)色調(内面)	胎土混入物	時期	コゲ付着	焼成	備考
237	I C25d III層	深鉢	口縁部片	唇:押圧 口:無文	口:ナデ	橙 橙	砂、長	大木5式		やや不良	
238	I C25d III層	深鉢	胴部片	胴:繩文(r縦)	胴:ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	砂、く	大木5式?		不良	
239	I B22w III層	深鉢	口縁部片	口:ナデ→結節回転文(r縦)	口:ナデ	橙 灰褐	砂、貞、長	大木5式		やや不良	
240	I C24a III層	深鉢	口縁部片	口:無文 胴:結節回転文(r縦)	口:ナデ	橙 にぶい黄橙	砂、く	大木5式		不良	
241	I B24y III層	深鉢	口縁部片	口:無文 胴:単軸絡条体1A類(r縦)	口~胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	白、砂	大木5式	外面 口縁	やや不良	
242	II C1b III層	深鉢	口縁部片	口:無文 胴:繩文(RL横)	口~胴:ナデ	浅黄橙 褐灰	砂	大木5式		不良	
243	I C24a III層	深鉢	口縁部片	口~胴:結節回転文(l縦)	口~胴:ナデ	橙 橙	砂	大木5式?		良好	
244	I C25b III層	深鉢	口縁部片	口:無文	口:ナデ	灰黄褐 灰黄褐	砂、長	大木5式?		やや不良	
245	I B25y III層	深鉢	胴部片	胴:繩文(r縦 結節あり)、円孔刺突文	胴:ナデ	浅黄橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		やや不良	
246	I B25t III層	深鉢	胴部1/3 残存	胴:繩文(LR横)?	胴:ナデ	橙 橙	砂、長	大木5式		良好	
247	I B25b III層	深鉢	口縁部片	口:隆帶 胴:結節回転文(r縦)	口~胴:ナデ	灰黄褐 にぶい黄橙	砂、長	大木5式		不良	
248	I C25d III層	深鉢	口縁部片	口:隆帶 胴:結節回転文(r縦)	口~胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、長	大木5式		不良	
249	I C25b III層	深鉢	口~胴 部片	口:無文 胴:結節回転文(r縦)	口~胴:ナデ	灰黄褐 にぶい黄褐	砂	大木5式		不良	250と同一個体
250	I C25b III層	深鉢	口~胴 部片	口:無文 胴:結節回転文(r縦)	口~胴:ナデ	灰黄褐 にぶい黄褐	砂	大木5式		不良	249と同一個体
251	I B23y III層	深鉢	口縁部片	口~胴:結節回転文(r縦)	口~胴:ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	砂、長	大木5式		不良	
252	I C25c I層	深鉢	口~胴 部片	口:無文 胴:結節回転文(r縦)	口~胴:ナデ	にぶい黄橙 明黄褐	砂、く	大木5式		不良	
253	I B23y III層	深鉢	口縁部片	口~胴:結節回転文(r縦)	口~胴:ナデ	にぶい橙 橙	砂	大木5式		やや不良	
254	I B23y III層	深鉢	口縁部片	口:結節回転文?	口:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、長	大木5式?		やや不良	
255	I B24v III層	深鉢	口~胴 部片	口:単軸絡条体1類(r縦) 頸:押圧を加えた隆帶 胴:単軸絡条体1類(r縦)	口~胴:ナデ	にぶい橙 浅黄橙	砂、く	大木5式		やや不良	
256	I B25u III層	深鉢	口縁部片	口:無文 頸:押圧を加えた隆帶 胴:単軸絡条体1類(r縦?)	口:ナデ	にぶい橙 浅黄橙	砂、く	大木5式		不良	
257	I B25w III層	深鉢	口縁部片	口:無文 頸:刻みを加えた隆帶 胴:単軸絡条体1類?	口:ナデ	浅黄橙 浅黄橙	砂、長	大木5式		やや不良	
258	I B24x III層	深鉢	口縁部片	口:無文 頸:刺突を加えた隆帶 胴:単軸絡条体1類?	口:ナデ	にぶい橙 浅黄橙	白	大木5式		やや不良	
259	I B25b III層	深鉢	口縁部片	唇:突起 口:無文 頸:押圧を加えた隆帶 胴:単軸絡条体1類(l縦)	口:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		やや不良	
260	I B25t III層	深鉢	口~胴 部片(口唇部欠損)	口:無文 頸:押圧を加えた隆帶 胴:単軸絡条体1類(r斜)	口~胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、長	大木5式		やや不良	
261	I C24a III層	深鉢	口縁部片	口:沈線 胴:結節回転文(l縦)	胴:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		良好	
262	I C25b III層	深鉢	胴部片	胴:結節回転文(l縦)	胴:ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	白、雲	大木5式		やや不良	
263	I B23y III層	深鉢	胴部片	胴:結節回転文(r縦)	胴:ナデ	にぶい橙 にぶい橙	砂、長	大木5式		やや不良	
264	II B5y III層	深鉢	胴部片	胴:繩文(LR縦 結節あり)	胴:ナデ	明黄橙 にぶい橙	砂、長	大木5式		やや不良	

\*第7表における混入物欄の省略表記 黒→: 黒色光沢粒 雲→: 雲母 貞→: 貞岩 く→: くさり礫 砂→: 砂岩・泥岩などの砂粒 長→: 石英・長石

掲載番号	出土地点・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整(文様)	色調(外面)色調(内面)	胎土混入物	時期	コゲ付着	焼成	備考
265	I B23y III層	深鉢	胴部片	胴:結節回転文(r縦)	胴:ナデ	にぶい橙 褐灰	砂、長	大木5式	内面 胴部	不良	
266	I B23y III層	深鉢	胴部片	胴:結節回転文(r縦)	胴:ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	砂、長	大木5式		やや 不良	
267	II B4u III層	深鉢	口縁部片	唇:押圧 口:無文 胴:单軸絡条体1類(r縦)	口:ナデ	にぶい橙 にぶい橙	砂、長	大木5式		やや 不良	
268	I B24t III層	深鉢	口縁部片	唇:刻み 胴:单軸絡条体1類(r縦)	口:ナデ	橙 橙	黒	大木5式		良好	
269	I B23y III層	深鉢	口縁部片	唇:交互押圧 胴:单軸絡条体1類(r縦)	口:ナデ	にぶい橙 にぶい橙	砂、く	大木5式		やや 不良	
270	II C1b III層	深鉢	口縁部片	口～胴:单軸絡条体1類(r縦)	口～胴:ナデ	にぶい橙 にぶい橙	砂、長、 く	大木5式		やや 不良	
271	I C24a III層	深鉢	口～胴部片	口:無文 胴:单軸絡条体1類(I縦)	胴:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		やや 不良	
272	I B24x III層	深鉢	口縁部片	口:無文 類:单軸絡条体1類(r縦)	口:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	白	大木5式		やや 良好	
273	I C24a I C25b III層	深鉢	口縁部片	口～胴:单軸絡条体1類(r横)?	口～胴:ナデ	浅黄橙 にぶい橙	砂	大木5式		やや 不良	
274	I B23t III層	深鉢	口縁部片	唇～口:单軸絡条体1類(r斜)	口:ナデ	橙 橙	く、長	大木5式		不良	
275	II C8a III層	深鉢	口縁部片	唇:押圧 口～胴:单軸絡条体1類(I縦)	口:ナデ	橙 橙	砂、長	大木5式		良好	
276	I B24w III層	深鉢	胴部片	胴:单軸絡条体1類(r縦)	胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	砂	大木5式		やや 不良	
277	I C24b III層	深鉢	口～胴 1/4残存	唇:交互押圧 口:無文 胴:单軸絡条体1類(I縦)	口～胴:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		良好	
278	I B24v III層	深鉢	胴部片	胴:单軸絡条体1類(r縦)	胴:ナデ	橙 灰黄褐	砂	大木5式	内面 胴部	やや 不良	
279	I B24u III層	深鉢	胴部1/3 残存	胴:单軸絡条体1類(r縦)	胴:ナデ	にぶい橙 灰黄褐	砂	大木5式		やや 不良	
280	I B24t III層	深鉢	胴部片	胴:单軸絡条体1類(I斜)	胴:ナデ	橙 浅黄橙	砂、く	大木5式		不良	
281	II B3w I～III層	深鉢	胴部片	胴:单軸絡条体1類(r斜)	胴:ナデ	浅黄橙 浅黄橙	砂、く	大木5式		不良	
282	II C3a III層	深鉢	胴部片	胴:单軸絡条体1類(I斜)	胴:ナデ	浅黄橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		やや 不良	
283	II B2u III層	深鉢	胴部片	胴:单軸絡条体1類(I縦)	胴:ナデ	にぶい橙 褐灰	砂	大木5式	内面 胴部	不良	
284	I C25b III層	深鉢	胴部片	胴:单軸絡条体1類(r斜)	胴:ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	砂	大木5式		やや 良好	
285	I C24b III層	深鉢	胴部片	胴:单軸絡条体1類(r縦)	胴:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		良好	
286	I B24y III層	深鉢	胴部片	胴:单軸絡条体1類(I縦)	胴:ナデ	浅黄 灰黄褐	砂、長	大木5式		やや 不良	
287	I C25b III層	深鉢	胴部片	胴:单軸絡条体1類(I縦)	胴:ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	砂、く	大木5式		やや 不良	
288	I C24f I層	深鉢	胴部片	胴:单軸絡条体1類(I斜)	胴:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		やや 不良	
289	I C25d III層	深鉢	胴部片	胴:单軸絡条体1類(RL斜)	胴:ナデ	にぶい黄橙 橙	砂、く	大木5式		不良	
290	I B25t III層	深鉢	胴部片	胴:单軸絡条体1類(r縦)	胴:ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	砂、く	大木5式		やや 不良	
291	I B23y III層	深鉢	胴部	胴:单軸絡条体1類(r斜)	胴:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		良好	
292	II B8y III層	深鉢	胴～底 2/3残存	胴:单軸絡条体1類(r縦)	胴:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		やや 不良	
293	II B8y II B8x III層	深鉢	胴部 1/4残存	胴:单軸絡条体1類(r・r縦)	胴:ナデ	橙 にぶい赤褐	砂	大木5式		やや 不良	

\*第7表における混入物欄の省略表記 黒→: 黒色光沢粒 雲→: 雲母 頁→: 頁岩 く→: くさり礫 砂→: 砂岩・泥岩などの砂粒 長→: 石英・長石

掲載番号	出土地点・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整(文様)	色調(外面)色調(内面)	胎土混入物	時期	コゲ付着	焼成	備考
294	I C24a III層	深鉢	胴部片	口～胴: 単軸絡条体1類(r斜)	口～胴: ナデ	橙 橙	砂	大木5式		良好	
295	I C24a III層	深鉢	胴部片	胴: 単軸絡条体1類(r縦)、横位に結節?	胴: ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	砂、長	大木5式		やや不良	
296	I B24w III層	深鉢	胴部片	胴: 単軸絡条体1A類(1縦)	胴: ナデ	橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		不良	
297	I C25a III層	深鉢	口縁部片	口: 単軸絡条体1A類(RL・RL斜)	口: ナデ	橙 橙	砂	大木5式		やや不良	
298	I B24v III層	深鉢	胴部片	胴: 単軸絡条体1A類(r縦)	胴: ナデ	にぶい橙 浅黄橙	砂、く	大木5式		やや不良	
299	I B23t III層	深鉢	胴部片	胴: 単軸絡条体1A類(1・1横)	胴: ナデ	橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		やや不良	
300	I B24v III層	深鉢	口～胴部片	口: 無文 頸: 押圧を加えた隆帶 胴: 単軸絡条体1A類(r縦)	口～胴: ナデ	にぶい橙 にぶい橙	砂	大木5式		不良	
301	II B8y III層	深鉢	口縁部片	唇: 交互押圧 口: 無文 頸: 隆帶 胴: 単軸絡条体1A類?(r縦)	口: ナデ	橙 橙	砂、長	大木5式		やや不良	
302	I C24w III層	深鉢	口縁部片	唇: 交互押圧 口: 無文 胴: 単軸絡条体5類(r・r縦)	胴: ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、長	大木5式		不良	
303	I B22t I B23u III層	深鉢	口～胴 1/5残存	唇: 押圧 口～胴: 単軸絡条体5類(r・r縦)	口～胴: ナデ	橙 橙	砂	大木5式		良好	
304	I B22t III層	深鉢	口縁部片	唇: 交互押圧 口～胴: 単軸絡条体5類(r・r縦)	口～胴: ナデ	橙 橙	砂	大木5式		良好	
305	I C24b III層	深鉢	口縁部片	口: 隆帶 胴: 単軸絡条体5類(r・r縦)	口: ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		不良	
306	I C25d III層	深鉢	口縁部片	口: 無文 頸: 刻み 胴: 単軸絡条体5類(1・1縦)	口: ナデ	橙 橙	砂、く	大木5式		やや不良	
307	I B24y III層	深鉢	胴部片	頸: 押圧を加えた隆帶 胴: 単軸絡条体5類(r・r縦)	胴: ナデ	浅黄橙 浅黄橙	砂	大木5式		不良	
308	II B8y III層	深鉢	口縁部片	口: 無文 頸: 押圧を加えた隆帶 胴: 単軸絡条体5類(r・r縦)	口～胴: ナデ	橙 にぶい褐	砂	大木5式		やや不良	
309	I B24t III層	深鉢	口～胴部片	口: 無文 頸: 押圧を加えた隆帶 胴: 単軸絡条体5類(r・r縦)	口～胴: ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		不良	
310	I B23s III層	深鉢	口～胴 1/2残存	口: 無文 胴: 単軸絡条体5類(r・r縦)	口～胴: ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、長	大木5式		やや不良	
311	I C24a III層	深鉢	口縁部片	口: 単軸絡条体5類(RL・RL横)	口: ナデ	にぶい橙 橙	白	大木5式		不良	
312	I C25b III層	深鉢	胴部片	胴: 単軸絡条体5類(r・r縦)	胴: ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	白	大木5式		やや良好	
313	I B24v III層	深鉢	胴部1/4 残存	胴: 単軸絡条体5類(r・r斜)	胴: ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、く、長	大木5式		やや不良	
314	I C25a III層	深鉢	胴部片	胴: 単軸絡条体5類(r・r縦)	胴: ナデ	浅黄橙 浅黄橙	黒、く	大木5式		やや不良	
315	II B5y III層	深鉢	胴部片	胴: 単軸絡条体5類(r・r縦)	胴: ナデ	赤褐 赤褐	砂、長	大木5式		やや不良	
316	I B25w III層	深鉢	胴部片	胴: 単軸絡条体5類(r・r縦)	胴: ナデ	にぶい橙 橙	砂	大木5式		やや不良	
317	II B7y III層	深鉢	胴部片	胴: 単軸絡条体5類(r・r縦)	胴: ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		やや良好	
318	I B25w III層	深鉢	胴部片	胴: 単軸絡条体5類(r縦)	胴: ナデ?	橙 橙	砂	大木5式		やや不良	
319	I C25d III層	深鉢	胴部片	胴: 単軸絡条体5類(r・r縦)	胴: ナデ	橙 浅黄橙	砂、く	大木5式	外面 胴部	やや良好	

\*第7表における混入物欄の省略表記 黒→: 黒色光沢粒 雲→: 雲母 頁→: 頁岩 く→: くさり礫 砂→: 砂岩・泥岩などの砂粒 長→: 石英・長石

掲載番号	出土地点・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整(文様)	色調(外面)色調(内面)	胎土混入物	時期	コゲ付着	焼成	備考
325	I B20w I層	深鉢	胴部片	胴:単軸絡条体5類 (r・r縦)	胴:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		良好	
326	II C1b III層	深鉢	胴部片	胴:単軸絡条体5類 (r・r横)	胴:ナデ	橙 橙	砂・長	大木5式		不良	
327	I C24a III層	深鉢	口縁部片	胴:単軸絡条体6類 (1?縦)	胴:ナデ	明赤褐 明赤褐	砂	大木5式		やや不良	
328	I B24y I C24a III層	深鉢	胴1/3残存	胴:単軸絡条体6類 (1?縦)	胴:ナデ	明赤褐 橙	白、長	大木5式		やや良好	
329	I B24w III層	深鉢	胴部片	胴:単軸絡条体6類?	胴:ナデ	橙 灰黄褐	砂	大木5式		不良	
330	I B22x III層	深鉢	口縁部片	唇:押圧 口:無文 頸: 押圧を加えた隆帶 胴: 単軸絡条体?	口:ナデ	橙 明黄褐	砂	大木5式?		やや良好	
331	I B23y III層	深鉢	口縁部片	口:無文 胴:多軸絡条体(r斜)	口~胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	く、長	大木5式		やや良好	
332	II B4t III層	深鉢	口縁部片	口:無文 胴:多軸絡条体(1縦)	口:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、長	大木5式		良好	
333	II C5b III層	深鉢	口縁部片	頸:押圧を加えた隆帶 胴:多軸絡条体?(r縦)	胴:ナデ	橙 橙	白、長	大木5式	内面 胴部	良好	
334	I C25b III層	深鉢	頸~胴 1/4残存	口~頸:無文 胴:多軸 絡条体(r縦)	胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		やや不良	
335	I B23t III層	深鉢	胴部片	胴:多軸絡条体(r縦)	胴:ナデ	明黄褐 にぶい橙	砂	大木5式		やや不良	
336	I B23v III層	深鉢	胴部片	胴:多軸絡条体(r縦)?	胴:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		やや不良	
337	II C1b III層	深鉢	胴部片	胴:多軸絡条体(r縦)	胴:ナデ	橙 にぶい褐	砂	大木5式		やや不良	
338	I C23d III層	深鉢	胴部片	胴:多軸絡条体(r縦)	胴:ナデ	にぶい橙 橙	白	大木5式		やや良好	
339	I B22y I層	深鉢	胴部片	胴:多軸絡条体(1縦)	胴:ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	砂、長	大木5式		不良	
340	I C25a I C25b III層	深鉢	胴部片	胴:多軸絡条体(r縦)	胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	砂	大木5式		やや不良	
341	I C25b III層	深鉢	胴部片	胴:多軸絡条体(1縦)?	胴:ナデ	にぶい橙 灰黄褐	砂	大木5式		やや不良	
342	I B24t III層	深鉢	胴部片	胴:多軸絡条体(r縦)	胴:ナデ	橙 橙	砂、長	大木5式		不良	
343	I B25u III層	深鉢	胴部片	胴:多軸絡条体?	胴:ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	砂、く	大木5式		やや不良	
344	I B24t III層	深鉢	胴部片	胴:多軸絡条体(r縦)	胴:ナデ	にぶい橙 橙	砂、く、 長	大木5式		不良	
345	II B3w I層	深鉢	胴部片	胴:多軸絡条体?	胴:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		やや良好	
346	II C1b III層	深鉢	胴部片	胴:多軸絡条体(r縦)	胴:ナデ	にぶい橙 にぶい褐	砂・長	大木5式		やや良好	欠損部に アスファルト付着?
347	II B3t III層	浅鉢	胴部片	胴:多軸絡条体(r斜)?	胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、く	大木5式		不良	
348	I B24t III層	深鉢	胴部片	胴:多軸絡条体?	胴:ナデ	橙 にぶい褐	砂、長	大木5式		不良	
349	I B23u III層	深鉢	胴部片	胴:多軸絡条体?	胴:ナデ	橙 橙	白、長	大木5式		やや不良	
350	I B24y III層	深鉢	胴部片	胴:多軸絡条体(L縦)?	胴:ナデ	橙 にぶい褐	砂、く、 長	大木5式	内面 胴部	やや不良	
351	I C25b III層	深鉢	胴~底	胴:多軸絡条体(r縦)	胴:ナデ	にぶい黄橙 橙	砂	大木5式		やや不良	
352	I B23y III層	深鉢	口~胴 部片	口:無文 頸:押圧を加 えた隆帶 胴:半裁竹管 状工具による曲線文	口~胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、く	大木5式		不良	
353	I B23y III層	深鉢	胴部片	胴:半裁竹管状工具によ る曲線文	胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、く	大木5式		やや不良	

\*第7表における混入物欄の省略表記 黒→: 黒色光沢粒 雲→: 雲母 真→: 真岩 く→: くさり礫 砂→: 砂岩・泥岩などの砂粒 長→: 石英・長石

掲載番号	出土地点・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整(文様)	色調(外面)色調(内面)	胎土混入物	時期	コゲ付着	焼成	備考
354	I C24b I C25b III層	深鉢	胴部片	胴:半裁竹管状工具による曲線文	胴:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		良好	
355	I B24a III層	深鉢	口縁部片	口～胴:半裁竹管状工具による曲線文	胴:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		良好	
356	I B24y III層	深鉢	胴部片	胴:半裁竹管状工具による曲線文	胴:ナデ	橙 にぶい橙	砂、頁	大木5式		良好	
357	I C24b III層	深鉢	胴～底(底面欠損)	胴:半裁竹管状工具による曲線文	胴:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		やや不良	
358	I C24a III層	深鉢	胴～底1/4残存	胴:半裁竹管状工具による鋸歯曲線文	胴:ナデ	橙 橙	砂、く	大木5式		やや良好	
359	I C24a III層	深鉢	口縁部片	口:隆帯、半裁竹管状工具による平行沈線文	口:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		良好	
360	I C25b III層	深鉢	口縁部片	口～胴:半裁竹管状工具による平行沈線文	口:ナデ	橙 橙	砂、頁	大木5式		不良	
361	I C24a III層	深鉢	口～胴部片(口唇欠損)	胴:半裁竹管状工具による平行沈線文	胴:不明(剥落)	橙 一	砂、く	大木5式		やや良好	
362	I B23t III層	深鉢	胴部片	胴:半裁竹管状工具による平行沈線文	胴:ナデ	橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		不良	366と同一個体
363	I B23t III層	深鉢	胴部片	胴:半裁竹管状工具による曲線文	胴:ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		やや不良	
364	I B23t III層	深鉢	胴部片	胴:半裁竹管状工具による曲線文	胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂	大木5式?		不良	
365	I B24u III層	深鉢	胴部片	胴:半裁竹管状工具による平行沈線文	胴:ナデ	にぶい橙 にぶい橙	砂、く	大木5式		やや不良	
366	I B23t III層	深鉢	胴部片	胴:半裁竹管状工具による平行沈線文	胴:ナデ	橙 にぶい黄橙	砂	大木5式	内面	不良	362と同一個体
367	II C7a III層	深鉢	口縁部片	口:隆帯、沈線	口:ナデ	明黄褐 明黄褐	砂、長	大木5式		良好	
368	I B23t III層	深鉢	口縁部片	口:無文 頸:半裁竹管状工具による平行沈線文、円形刺突文	口:ナデ	橙 にぶい橙	砂、く	大木5式		やや良好	
369	I B23t III層	深鉢	胴部片	胴:沈線(曲線文)	胴:ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		やや不良	
370	I B20u I層	深鉢	口縁部片	口～胴:縄文(LR横)→半裁竹管状工具による平行沈線文	口～胴:ナデ	にぶい橙 橙	砂、頁、長	大木5式		良好	
371	I B23y III層	深鉢	胴部片	胴:半裁竹管状工具による平行沈線文	胴:ナデ	浅黄橙 浅黄橙	砂、く	大木5式		やや良好	
372	I B24a III層	深鉢	胴部片	胴:半裁竹管状工具による平行沈線文	胴:不明(剥落)	橙 一	白	大木5式		やや良好	
373	I B24x III層	深鉢	胴部片	胴:半裁竹管状工具による平行沈線文	胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、く	大木5式		やや良好	
374	II C7a III層	深鉢	口縁部片	口:3列の円孔刺突文	口:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		良好	
375	II B5y III層	深鉢	口縁部片	口:円形刺突文を加えた隆帯	口:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		良好	
376	I B23t I層	深鉢	口縁部片	唇:押圧(1箇所) 口:無文 頸:半裁竹管状工具による押引文	口:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		良好	
377	I B24v III層	深鉢	胴部片	胴:半裁竹管文による押引文	胴:ナデ	橙 橙	砂	大木5式		良好	
378	I B25v I～III層	深鉢	口縁部片	口:隆帯 胴:円孔刺突文を加えた隆帯	口:不明(剥落)	褐灰 一	砂、長	大木5式		やや不良	
379	II B5y III層	深鉢	口縁部片	口:隆帯→円孔刺突文	口:ナデ?	橙 橙	砂、長	大木5式		良好	
380	I C24w III層	深鉢	口縁部片	口:隆帯、円形の穿孔	口:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		不良	
381	II A6w III層	深鉢	口～胴1/2残存	唇:交互押圧 口～胴:沈線	口～胴:ナデ	橙 にぶい黄橙	砂、長	大木5式		やや不良	
382	II A6w III層	深鉢	口～胴1/4残存	唇:交互押圧 口～胴:沈線	口～胴:ナデ	橙 にぶい黄橙	砂、頁	大木5式		やや不良	

\*第7表における混入物欄の省略表記 黒→: 黒色光沢粒 雲→: 雲母 頁→: 頁岩 く→: くさり礫 砂→: 砂岩・泥岩などの砂粒 長→: 石英・長石

掲載番号	出土地点・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整(文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土混入物	時期	コゲ付着	焼成	備考
383	I B24v III層	深鉢	口～底： 2/3残存	唇：刻み 口～胴：沈線 (格子状文)	口～胴：ナデ	浅黄橙 にぶい黄橙	砂	大木5式	内面胴部	不良	
384	I B24u III層	深鉢	胴～底： 1/4残存	胴：無文 底：網代痕	胴：ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		不良	
385	I B23s III層	深鉢	胴～底： 1/2残存 (底面欠損)	胴：無文(指頭による整 形、ナデ)	胴：ナデ	にぶい黄橙 黒褐	砂、頁	大木5式		やや 不良	
386	II C1b III層	深鉢	口～胴 部片	口～胴：条線(縦)	口～胴：ナデ	橙 橙	砂、く	大木5式		やや 不良	
387	II C1b III層	深鉢	胴部片	胴：条線(縦)	胴：ナデ	橙 にぶい橙	砂	大木5式		やや 良好	
388	I B23y III層	深鉢	口～底： 2/3残存	口：隆帶 口～胴：無文	口～胴：ナデ	にぶい橙 橙	砂	大木5式		不良	輪積み痕 残る
389	I B24t III層	深鉢	口縁部 片	口：無文	口：ナデ		砂、白	大木5式		やや 不良	
390	I C25a III層	深鉢	胴～底： 1/4残存	胴：無文 底：条線(木葉痕?)	底：ナデ	にぶい黄橙 浅黄橙	砂、頁	大木5式		良好	
391	I B24v III層	深鉢	底部片	胴：無文	底ナデ	橙 明黄褐	砂	大木5式		やや 不良	欠損部に アスファル ト付着
392	II C6e III層	深鉢	胴～底： 1/4残存 (底面欠 損)	胴：無文(ケズリ?)	胴：ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂	大木5式		不良	内面に輪 積み痕
393	I B22y III層	深鉢	底部片	底：網代痕	底：ナデ	橙 にぶい黄橙	白	大木5式		やや 不良	
394	II B5y I層	深鉢	口～胴： 1/4残存	唇：B突起、刻み 口：入組三叉文 胴：縄文(RL横?)	口～胴：ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂、長、 く	大洞B 式		やや 不良	
395	II B12i III層	浅鉢	胴部片	胴：沈線(雲形文?)、 縄文(LR横)	胴：ミガキ	にぶい黄橙 にぶい橙	長	大洞C1 式?		不良	
396	I B25w III層	深鉢	口縁部 片	唇：押圧 口：無文	口：ナデ	橙 橙	砂	晚期?		良好	
397	I B17b III層	深鉢	口縁部 片	口：無文 胴：縄文(LR縦)	口：ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	黒、長	青木烟 式?		やや 良好	
398	I B23e III層	甕?	口縁部 片	唇：刻み 口：無文	口：沈線、ミ ガキ	にぶい橙 にぶい橙	黒、く、 雲	弥生前 期?		やや 不良	
399	I B23e III層	甕?	口～胴 部片	口：無文 胴：縄文(LR縦)	口～胴：ナデ	明黄褐 橙	黒	弥生前 期?		良好	
400	II B3t III層	甕?	口縁部 片	口：無文 胴：縄文(RL横)	口：ナデ	橙 橙	砂、長	青木烟 式?		良好	
401	I C25a III層	深鉢	口縁部 片	口：無文	胴：ナデ	にぶい橙 にぶい橙	砂、雲	弥生?		やや 不良	
402	II B16m III層	甕?	胴部片	胴：縄文(LR横)	胴：ミガキ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	黒、く、 長	青木烟 式?		やや 不良	
403	I B23e III層	壺	頸部片	口～頸：無文 胴：縄文(LR縦)	頸～胴：ナデ	橙 橙	砂、長	弥生前 期?		やや 良好	
404	I B16a III層	壺?	口縁部 片	口：無文(穿孔横位に巡 る)	口：ナデ(横)	にぶい黄橙 にぶい黄橙	長	弥生前期		不良	
405	I B17a III層	鉢?	口～胴： 1/4残存	口：沈線(4条) 胴：沈線、粒状突起、 縄文(RL横)	口：沈線 口 ～胴：ミガキ	にぶい黄橙 褐灰	白、長	青木烟 式?		不良	
406	I B18d I～III層	甕?	口縁部 片	唇：突起 口：沈線	口：沈線、ミ ガキ	橙 橙	長	弥生前期		不良	
407	I B17a III層	壺?	胴部片	胴：沈線	胴：ナデ、ミ ガキ	橙 にぶい橙	白、長	青木烟 式		不良	
408	II B15q III層	鉢?	口縁部 片	口～胴：変形工字文	口：ナデ	橙 橙	白	青木烟 式		良好	
409	II B13o III層	鉢	口縁部 片	口：無文 胴：変形工字文	口：沈線 胴：ナデ	橙 橙	白	青木烟 式		やや 良好	
410	T3 I層	浅鉢	口縁部 片	唇：押圧 口：注口部 胴：変形工字文、沈線	口：ミガキ	橙 橙	長	青木烟 式		良好	

\*第7表における混入物欄の省略表記 黒→：黒色光沢粒 雲→：雲母 頁→：頁岩 く→：くさり礫 砂→：砂岩・泥岩などの砂粒 長→：石英・長石

掲載番号	出土地点・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整(文様)	色調(外面)色調(内面)	胎土混入物	時期	コゲ付着	焼成	備考
411	II B3t III層	浅鉢	口縁部片	唇:刻み 口:無文 胴:变形工字文	口:沈線 胴:ミガキ	橙 橙	白、黒	青木烟式		良好	
412	II B4u III層	浅鉢	口縁部片	唇:刻み 口:無文 胴:沈線(变形工字文?)	口:沈線 胴:ナデ、ミガキ	橙 橙	白	青木烟式		良好	
413	II B1w III層	浅鉢	口縁部片	口:沈線 胴:隆帯による 变形工字文、沈線	口:沈線 胴:ミガキ	橙 橙	黒、長	青木烟式		やや不良	
414	II B4t III層	浅鉢	口縁部片	唇:刻み 口:無文 胴: 沈線(变形工字文?)	口:沈線 胴:ナデ、ミガキ	橙 橙	白、黒	青木烟式		良好	
415	I B17b III層	浅鉢	口縁部片	口:沈線	口:沈線 胴:ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	白、長	青木烟式		やや良好	
416	I B18e I層	浅鉢	口縁部片	口:沈線	口:沈線、ミガキ	浅黄橙 灰白	長	青木烟式		不良	
417	位置不明 III層	浅鉢	口~胴部片	口~胴:沈線、 半裁竹管文	口:沈線 胴:ナデ	橙 橙	白	青木烟式		良好	
418	I B19d I~III層	浅鉢	口縁部片	口:沈線	口:沈線、ミガキ	にぶい赤褐 にぶい赤褐	長	青木烟式		良好	
419	I B17a III層	浅鉢	胴部片	胴:半裁竹管文(变形工 字文?)	胴:ナデ	にぶい褐 にぶい黄褐	白、長	青木烟式		やや不良	
420	I B16a III層	台付浅鉢	台部片	台:沈線	台:ミガキ	褐 褐灰	砂、長	青木烟式		良好	
421	I B17b III層	浅鉢	胴部片	胴:半裁竹管文	胴:ナデ	灰褐 灰黄褐	白	青木烟式		やや良好	
422	II B14m III層	浅鉢	口縁部片	唇:沈線 口:無文 胴: 变形工字文	口:沈線 胴:ナデ	にぶい黄橙 橙	黒	青木烟式		良好	
423	I A17y I層	浅鉢	胴部片	胴:沈線	胴:ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	白	青木烟式		不良	
424	I A17v III層	台付浅鉢	台部片	台:沈線	台:ミガキ	灰褐 にぶい黄橙	白、長	青木烟式		不良	
425	II B14n III層	浅鉢	胴部片	胴:沈線、縄文(LR縦)	胴:ナデ、ミガキ	橙 橙	白、雲	青木烟式		良好	
426	I B16a III層	浅鉢	胴~底 1/4残存	胴:沈線、縄文(LR斜)	胴:ミガキ	橙 橙	白	青木烟式		やや不良	
427	I B17b III層	浅鉢	胴~底 1/3残存	胴:縄文(LR横、斜)、沈 線	胴:ミガキ	にぶい橙 灰褐	白、雲	青木烟式		不良	
428	I B17b III層	浅鉢	胴~底 1/4残存	胴:縄文(LR縦)	胴:ナデ	橙 にぶい赤褐	白	青木烟式?		やや不良	
429	I B22f I層	台付鉢?	台部	台:無文(ミガキ)	底・台:ナデ	にぶい黄褐 にぶい橙	白、雲	青木烟式?		不良	
430	II B17k III層	浅鉢	胴部片	胴:沈線、縄文(RL横)	胴:ミガキ	橙 橙	砂、長	青木烟式		良好	
431	I A17y I層	浅鉢	胴~底 1/4残存	胴:縄文(LR縦) 底:ミガキ	胴:ナデ	にぶい黄橙 黒	白	青木烟式?	内面 胴部 下半	良好	
432	I B16d III層	浅鉢	口~底 1/3残存	口~胴:無文(ミガキ) 底:網代痕	口~胴:ミガキ 底:ナデ	浅黄橙 浅黄橙	黒、雲	青木烟式?		やや不良	
433	I B16a III層	甕	胴~底 部	胴:無文(指頭による整 形) 底:網代痕	胴~底:ナデ	にぶい黄橙 橙	白、雲	青木烟式?	内面 胴部	良好	
434	I B16a I B17b III層	甕	胴~底 1/4残存	胴:無文 底:網代痕	胴:ナデ	褐灰 褐灰	白、雲	青木烟式?		不良	
435	I B22w III層	深鉢	底部片	底:網代痕	底:ナデ	橙 にぶい褐	砂	弥生 前期		やや良好	
436	II A10w III層	壺?	底部片	底:網代痕	底:ナデ	橙 橙	砂	青木烟式?		やや不良	
451	II B13w I~III層	土師器 壺	口~底 2/3残存	口~胴:回転ナデ 底:回転糸切り	口~胴:回転 ナデ	橙 橙	砂	10世紀 代?		良好	
452	II B13w I~III層	土師器 壺	胴~底	胴:回転ナデ 底:回転糸切り	胴~底:回転 ナデ	橙 橙	白	10世紀 代?		良好	
453	II C7a III層	須恵器 甕	胴部1/4 残存	胴:回転ナデ	胴:ナデ	灰 灰	白	10世紀 代?		良好	

\* 第7表における混入物欄の省略表記 黒→: 黒色光沢粒 雲→: 雲母 貞→: 貞岩 く→: くさり礫 砂→: 砂岩・泥岩などの砂粒 長→: 石英・長石

掲載番号	出土地点・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整(文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期	コゲ 付着	焼成	備考
454	I B25y III層	須恵器 大甕	口縁部 片	口:折り返し口縁、 回転ナデ	口:回転ナデ	灰 灰	黒	10世紀 代?	良好	外面に 釉?	
455	II B17t III層	須恵器 甕	胴部片	胴:ケズリ	胴:ナデ	灰 褐灰	白	10世紀 代?	良好		

第8表 遺物観察表(土製品)

掲載番号	出土地点・層位	器種	整形	色調	外径 (mm)	内径 (mm)	長さ (mm)	重さ (g)	備考
437	I B17a III層	指輪状土製品	手づくね	にぶい 黄褐	27.0	13.6	20.9	10.1	

第9表 遺物観察表(粘土塊)

掲載番号	出土地点・層位	特徴	色調	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
19	1号堅穴建物 床面上	指頭で捏ねた痕跡	橙	3.4	3.1	1.4	10.61	細い棒状を刺した小孔あり
20	1号堅穴建物 堆積土中	指頭で捏ねた痕跡	橙	3.3	2.5	8.1	8.11	
21	1号堅穴建物 堆積土中	平らな面がある(指頭)	橙	2.0	2.1	1.5	4.13	
22	1号堅穴建物 堆積土中	棒状工具(?)で押した痕跡	橙	2.6	2.0	18.0	4.67	細い棒状を刺した小孔あり
113	4号堅穴建物 堆積土中	平らな面がある(指頭)	橙	3.0	2.1	1.8	6.37	
170	20号土坑 堆積土中	指頭で捏ねた痕跡	にぶい黄橙 ～橙	4.2	2.3	2.3	17.85	
178	25号土坑 堆積土中	指頭で捏ねた痕跡	浅黄橙	4.5	3.2	2.3	22.68	
438	II A4t III層	指頭で捏ねた痕跡	橙	5.1	3.9	2.9	24.67	
439	II A4t III層	指頭で捏ねた痕跡	橙	3.8	2.5	2.3	14.52	
440	II A4t III層	指頭で整形か	橙	3.4	2.8	2.2	14.07	
441	II A4t III層	指頭で整形か	橙	3.4	2.7	2.3	14.12	
442	II B3t III層	指頭で整形か	橙	3.8	3.0	2.1	10.79	
443	II A4t III層	指頭で捏ねた痕跡	橙	3.2	2.2	2.3	9.07	
444	II A4t III層	棒状工具で刺した 痕跡あり	橙	3.7	2.2	1.8	8.36	
445	I C25b III層	指頭で捏ねた痕跡	橙	4.6	2.0	1.6	6.52	
446	II B1v III層	指頭で捏ねた痕跡	にぶい黄橙	3.1	2.9	1.5	10.00	被熱している
447	II C1d III層	工具痕の痕跡	橙	2.5	2.5	1.0	4.27	
448	II B1t III層	棒状工具で刺した痕跡	明黄褐	2.6	2.5	1.7	8.15	
449	I B23y III層	工具痕の痕跡	橙	2.6	2.7	1.3	5.68	
450	II B13n III層	棒状工具で刺した痕跡	橙	2.9	2.9	2.0	8.84	

第10表 遺物観察表(石器・石製品)

掲載番号	出土地点・層位	器種	分類	残存状態	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
23	1号堅穴建物 堆積土中	石鏸	凸基 有茎	茎部 欠損	頁岩 (北上山地)	(34.17)	16.12	6.77	(2.63)	
24	1号堅穴建物 堆積土中	尖頭器	-	1/2 欠損	頁岩 (奥羽山脈) ?	(42.64)	21.16	13.83	(13.48)	
25	1号堅穴建物 床下土坑内	石匙	縦	1/2 欠損	頁岩 (奥羽山脈) ?	(42.04)	18.84	5.86	(5.05)	
26	1号堅穴建物 堆積土中	石匙	縦	完形	頁岩 (北上山地)	88.58	18.37	9.59	14.57	
27	1号堅穴建物 Pit11	不定形石器	-	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	83.78	51.02	14.47	45.27	
28	1号堅穴建物 床面上	磨製石斧	-	完形	蛇紋岩 ? (接触変成を受けた)	96.99	44.98	24.42	196.86	
29	1号堅穴建物 堆積土中	磨製石斧	-	完形 ?	ホルンフェルス (北上山地)	91.23	30.40	18.03	72.38	
30	1号堅穴建物 堆積土中	礫器	-	端部 欠損	凝灰岩 (奥羽山脈) 稲 ?	(142.86)	68.38	33.03	(454.24)	凹痕2箇所あり
31	1号堅穴建物 堆積土中	石錘	-	完形	安山岩 (奥羽山脈)	63.87	72.93	22.39	135.85	
32	1号堅穴建物 堆積土中	石錘	-	完形	デイサイト (奥羽山脈)	75.16	61.74	20.61	109.29	
33	1号堅穴建物 床面上	敲磨器類	磨痕	完形	花崗閃綠斑岩(ひ ん岩)(奥羽山脈)	98.66	80.51	31.35	370.93	
34	1号堅穴建物 床面上	敲磨器類	磨痕	完形	安山岩 (奥羽山脈)	103.80	84.76	44.73	488.55	被熱している
35	1号堅穴建物 堆積土中	敲磨器類	磨痕	完形	安山岩 (奥羽山脈)	108.93	78.62	46.43	479.54	
36	1号堅穴建物 Pit12内	敲磨器類	磨痕	完形	砂岩 (奥羽山脈)	121.72	50.32	24.02	187.68	
37	1号堅穴建物 床面上	敲磨器類	磨+敲	1/3 欠損	凝灰岩 (奥羽山脈)	122.12	49.08	(73.33)	(672.37)	
38	1号堅穴建物 堆積土中	敲磨器類	磨痕	端部 欠損	閃綠岩 (北上山地)	(130.34)	85.13	42.94	(686.59)	被熱している
39	1号堅穴建物 床面上	敲磨器類	磨+敲	完形	凝灰岩 (奥羽山脈)	166.17	55.40	50.87	548.23	
40	1号堅穴建物 床面上	敲磨器類	磨+敲	端部 欠損	頁岩 (北上山地)	150.78	47.47	41.52	(364.79)	
41	1号堅穴建物 堆積土中	敲磨器類	磨痕	完形	流紋岩 (奥羽山脈)	167.80	39.79	21.12	211.78	
42	1号堅穴建物 堆積土中	ユーズド フレイク	IVa	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	51.10	37.33	12.38	22.35	
43	1号堅穴建物 堆積土中	フレイク	1b	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	50.16	69.74	16.87	36.57	
44	1号堅穴建物 堆積土中	ユーズド フレイク	IIc	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	34.84	24.78	6.11	4.15	
45	1号堅穴建物 堆積土中	敲磨器類	磨痕	端部 のみ	砂岩 (北上山地)	(175.91)	(38.28)	(18.10)	(138.16)	
46	1号堅穴建物 堆積土中	玦状耳飾り	-	完形	滑石 (蓬萊山周辺)	48.90	37.02	5.77	16.21	
54	2号堅穴建物 堆積土中	石鏸	凹基 有茎	先端部 欠損	頁岩 (北上山地)	(30.29)	19.45	4.13	(2.01)	
55	2号堅穴建物 堆積土中	尖頭器	-	完形	頁岩 (北上山地)	71.91	18.22	16.38	17.48	
56	2号堅穴建物 Pit29内	石匙	縦	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	79.41	25.99	9.95	22.47	
57	2号堅穴建物 堆積土中	石匙	縦	刃部 欠損	頁岩 (奥羽山脈) ?	71.35	(22.16)	(7.53)	(9.45)	
58	2号堅穴建物 堆積土中	石匙	横	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	39.05	63.07	6.27	11.32	
59	2号堅穴建物 床面上	石匙	斜	完形 ?	頁岩 (奥羽山脈) ?	65.65	41.32	8.36	16.99	二次利用か

フレイクの分類は「浜川目沢田I 遺跡発掘調査報告書」(第689集)に準じる

( ) : 残存値

掲載番号	出土地点・層位	器種	分類	残存状態	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
60	2号堅穴建物 堆積土中	フレイク	IIIb	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	60.02	61.92	16.94	54.10	
61	2号堅穴建物 堆積土中	不定形石器	-	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	135.99	50.53	34.13	212.18	
62	2号堅穴建物 堆積土中	敲磨器類	敲打	完形	チャート (北上山地)	75.31	65.35	47.42	288.01	ハンマー?
63	2号堅穴建物 堆積土中	敲磨器類	敲打	完形	チャート (北上山地)	74.02	52.88	44.08	188.93	ハンマー?
64	2号堅穴建物 堆積土中	敲磨器類	磨痕	完形	チャート (北上山地)	70.92	55.17	32.36	203.02	
65	2号堅穴建物 堆積土中	礫器	-	完形	頁岩 (北上山地)	91.90	58.57	20.64	170.86	
66	2号堅穴建物 Pit25内	敲磨器類	磨痕	1/3 残存	頁岩 (北上山地)	(54.85)	81.06	17.29	(93.81)	
67	2号堅穴建物 堆積土中	敲磨器類	磨痕	完形	花崗閃綠岩 (北上山地)	73.40	67.19	44.26	314.55	
68	2号堅穴建物 堆積土中	敲磨器類	敲打	完形	凝灰岩(奥羽山脈) (稻?)	88.99	74.58	23.01	181.48	
69	2号堅穴建物 床面上	礫器	-	両端 欠損	ホルンフェルス (北上山地)	158.89	79.11	70.62	1115.38	
70	2号堅穴建物 堆積土中	敲磨器類	磨痕	1/2 残存	花崗閃綠斑岩(ひ ん岩)(奥羽山脈)	(84.00)	(55.31)	50.56	(261.63)	
71	2号堅穴建物 床面上	敲磨器類	磨痕	端部 のみ	花崗閃綠斑岩(ひ ん岩)(奥羽山脈)	168.52	69.70	73.50	875.60	赤色顔料付着
72	2号堅穴建物 堆積土中	敲磨器類	磨痕	1/2 欠損	砂岩 (北上山地)	(83.29)	68.02	69.26	(429.29)	
73	2号堅穴建物 床面上	敲磨器類	磨痕	完形	花崗閃綠斑岩(ひ ん岩)(奥羽山脈)	179.35	90.23	66.00	1128.04	
86	3号堅穴建物 堆積土中	石鏸	凹基 無茎	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	40.49	20.54	4.30	2.72	
87	3号堅穴建物 Pit13内	石鏸	凹基 無茎	先端部 欠損	頁岩 (北上山地)	(19.37)	14.92	3.76	(0.80)	
88	3号堅穴建物 床面上	石匙	横	刃部 欠損	頁岩 (奥羽山脈) ?	50.34	(45.40)	5.37	(10.28)	
89	3号堅穴建物 堆積土中	石匙	未成 品?	完形	砂岩 (北上山地)	80.35	61.60	15.29	59.13	
90	3号堅穴建物 堆積土中	石匙	縦	先端部 欠損	頁岩 (奥羽山脈) ?	(58.32)	29.60	9.98	(15.79)	
91	3号堅穴建物 堆積土中	楔形石器	-	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	42.90	64.24	15.91	49.05	長辺上下に階 段状剥離
92	3号堅穴建物 堆積土中	不定形石器	-	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	52.75	47.51	17.94	44.31	
93	3号堅穴建物 床面上	不定形石器	-	完形	頁岩 (北上山地)	67.85	37.13	10.52	21.16	
94	3号堅穴建物 堆積土中	敲磨器類	磨痕	完形	凝灰岩 (奥羽山脈)	86.05	80.23	63.68	542.29	
95	3号堅穴建物 堆積土中	敲磨器類	磨痕	完形	流紋岩 (奥羽山脈)	96.18	87.28	45.17	543.44	
96	3号堅穴建物 堆積土中	敲磨器類	磨痕	完形	砂岩 (北上山地)	151.56	46.32	25.39	278.57	
97	3号堅穴建物 堆積土中	敲磨器類	磨痕	完形	デイサイト (奥羽山脈)	114.93	43.97	32.61	164.24	
98	3号堅穴建物 堆積土中	敲磨器類	磨+敲	端部 欠損	頁岩 (奥羽山脈)	181.58	74.58	25.67	(453.30)	
99	3号堅穴建物 堆積土中	礫器	-	完形	頁岩 (北上山地)	79.14	94.15	59.09	368.87	ハンマー?
100	6号堅穴建物 床面上	砥石	-	完形	凝灰岩 (奥羽山脈)	62.64	27.38	15.91	25.06	
101	3号堅穴建物 堆積土中	ユーズド フレイク	IIIb	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	46.64	35.73	12.74	19.13	
102	3号堅穴建物 堆積土中	ユーズド フレイク	I b	-	ホルンフェルス (北上山地)	53.55	70.88	19.26	54.74	

フレイクの分類は「浜川目沢田I遺跡発掘調査報告書」(第689集)に準じる

( ) : 残存値

掲載番号	出土地点・層位	器種	分類	残存状態	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
114	4号堅穴建物 堆積土中	石錐	-	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	39.35	17.92	7.62	4.00	
115	4号堅穴建物 堆積土中	石匙	縦	完形	凝灰岩 (奥羽山脈)	66.70	29.30	12.03	17.50	
116	4号堅穴建物 堆積土中	ユーズド フレイク	IVa	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	36.14	34.77	10.67	10.47	
117	4号堅穴建物 堆積土中	ユーズド フレイク	IIIc	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	31.30	21.45	7.72	3.51	
118	4号堅穴建物 堆積土中	敲磨器類	磨痕	完形	砂岩 (北上山地)	131.29	83.80	54.02	794.79	
119	4号堅穴建物 堆積土中	敲磨器類	敲打	完形	デイサイト (奥羽山脈)	94.38	36.64	28.18	105.99	
126	5号堅穴建物 堆積土中	石錐	-	完形	安山岩 (奥羽山脈)	93.03	62.23	16.58	125.25	
127	5号堅穴建物 堆積土中	石錐	-	完形	デイサイト (奥羽山脈)	75.22	55.71	24.87	124.61	
128	5号堅穴建物 堆積土中	磨製石斧	-	未成品	ホルンフェルス (北上山地)	70.70	35.80	15.66	47.48	
129	5号堅穴建物 床面上	敲磨器類	敲打	完形	頁岩 (奥羽山脈)	108.63	45.05	21.98	91.16	
130	5号堅穴建物 堆積土中	敲磨器類	磨痕	完形	安山岩 (奥羽山脈)	153.84	64.06	47.80	595.31	
131	5号堅穴建物 Pit6内	敲磨器類	磨+敲	1/3 残存	砂岩 (奥羽山脈)	75.92	58.73	46.84	(248.38)	
143	2号土坑 堆積土下位	敲磨器類?	磨痕?	完形	ホルンフェルス (北上山地)	227.56	56.57	54.98	925.80	自然礫か 台石か
144	4号土坑 堆積土中	敲磨器類	磨痕	完形	ホルンフェルス (北上山地)	196.59	90.25	43.76	1080.54	
154	16号土坑 堆積土中	敲磨器類	磨痕	1/2 欠損	安山岩 (奥羽山脈)	(85.22)	30.15	62.35	(194.15)	
155	16号土坑 堆積土中	礫器	-	1/2 欠損	デイサイト (奥羽山脈)	(87.87)	60.11	69.17	414.97	
171	20号土坑 堆積土中位	石鍤	凹基 無茎	完形	頁岩 (北上山地)	33.06	17.78	3.50	1.65	
172	20号土坑 2層	石匙	斜	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	48.94	43.97	9.57	14.61	
173	20号土坑 堆積土中位	リタッヂド フレイク	I b	-	ホルンフェルス (北上山地)	62.57	62.36	15.44	59.72	
175	20号土坑 堆積土中	礫器	-	完形	頁岩 (北上山地)	217.20	70.80	77.42	1153.20	
174	20号土坑 2層	ユーズド フレイク	I b	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	40.81	30.96	13.18	9.76	
176	20号土坑 堆積土中位	管玉	-	1/2 欠損	滑石 (蓬萊山周辺)	27.49	13.40	(7.36)	(3.50)	
456	II B3y III層	石鍤	凹基 無茎	完形	頁岩 (北上山地)	42.86	23.80	10.59	7.68	
457	IB25w III層	石鍤	凹基 無茎	完形	頁岩 (北上山地)	43.41	19.52	4.78	2.75	
458	II B6w III層	石鍤	丸基 無茎	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	37.58	20.86	3.51	1.89	
459	IB23t III層	石鍤	平基 無茎	未成 品?	頁岩 (北上山地)	21.52	16.19	2.63	0.96	
461	IB23t III層	石匙	8	完形	赤色頁岩 (北上山地)	27.40	19.66	5.01	2.08	
460	IB23t III層	石錐	-	完形	頁岩 (北上山地)	35.27	27.14	7.57	6.11	
462	II B5y III層	尖頭器	-	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	65.95	25.12	1536.00	25.94	

フレイクの分類は「浜川目沢田I遺跡発掘調査報告書」(第689集)に準じる

( ) : 残存値

掲載番号	出土地点・層位	器種	分類	残存状態	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
463	I B25y III層	尖頭器	-	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	72.84	29.10	20.43	40.28	
464	I C25b III層	石匙	横	完形	凝灰岩 (奥羽山脈)	48.95	63.60	8.54	14.19	
465	I C25b III層	石匙	横	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	50.25	56.17	8.67	17.46	
466	I C24y III層	石匙	横	完形	頁岩 (北上山地)	39.76	53.75	9.02	11.65	
467	II B5y III層	石匙	縦	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	56.30	33.93	6.44	8.66	
468	II C3d III層	石匙	縦	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	72.03	28.14	9.41	11.48	
469	I C24b III層	石匙	縦	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	51.58	38.68	7.18	9.80	
470	II B5w カクラン内	不定形石器	-	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	50.92	36.32	8.59	15.40	
471	II B4w III層	不定形石器	-	完形	頁岩 (北上山地)	136.95	59.32	30.79	231.80	
472	II C4c III層	不定形石器	-	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	102.48	61.42	18.33	101.82	
473	II B5x III層	不定形石器	-	完形	頁岩 (北上山地)	69.69	67.28	18.05	88.87	
474	II C1a III層	不定形石器	-	端部欠損	頁岩 (奥羽山脈) ?	(50.64)	26.81	9.48	(10.46)	
475	II C1b III層	不定形石器	-	完形	頁岩 (北上山地)	62.27	30.23	7.68	13.04	
476	II B4x III層	不定形石器	-	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	54.45	30.59	11.08	13.56	
477	I B24v III層	不定形石器	-	端部欠損	頁岩 (北上山地)	(63.63)	53.79	11.67	(32.64)	
478	I B25s III層	不定形石器	-	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	76.54	42.07	12.06	33.83	
479	II B4y III層	不定形石器	-	完形	頁岩 (奥羽山脈)	51.65	46.31	8.58	14.19	
480	II B5w カクラン	不定形石器	-	完形	頁岩 (北上山地)	71.48	59.42	13.66	59.70	
481	II B5x III層	不定形石器	-	1/2欠損	頁岩 (北上山地)	(51.12)	(30.99)	12.10	(9.94)	
482	II B4x III層	不定形石器	-	完形	珪質頁岩 (奥羽山脈)	45.36	44.57	12.74	23.99	
483	II C1b III層	不定形石器	-	端部欠損	頁岩 (北上山地)	(58.13)	38.35	10.75	(21.51)	
484	II B10v III層	不定形石器	-	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	31.45	41.83	8.02	9.89	
485	I C25b III層	不定形石器	-	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	57.58	39.15	11.93	32.03	
486	I B23w III層	不定形石器	-	刃部欠損	頁岩 (奥羽山脈) ?	(44.56)	51.98	9.33	(22.76)	
487	II B16j III層	不定形石器	-	1/2欠損	頁岩 (奥羽山脈) ?	(55.64)	(45.43)	(10.49)	(25.74)	
488	I B23w III層	不定形石器	-	完形	頁岩 (奥羽山脈) ?	56.20	49.59	13.21	27.69	
489	I B22t III層	石籠	-	完形	チャート (北上山地)	105.54	50.09	29.97	142.51	
490	I B25t III層	石籠	-	完形	頁岩 (北上山地)	82.91	42.26	15.50	46.69	
491	I B24v III層	石籠	-	完形	頁岩 (北上山地)	73.02	44.40	20.73	62.43	
492	I B24y III層	石籠	-	完形	頁岩 (北上山地)	83.94	49.23	22.03	99.72	

( ) : 残存値

掲載番号	出土地点・層位	器種	分類	残存状態	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
493	I C25b III層	石籠	-	完形	砂岩 (北上山地)	73.41	45.54	21.24	61.72	
494	I B24j III層	石籠	-	完形	頁岩 (奥羽山脈)？	60.91	39.73	14.74	34.41	
495	I B25x III層	磨製石斧	-	刃部 欠損？	ホルンフェルス (北上山地)	(136.86)	50.87	22.02	(264.72)	未成品か 側面には敲打 による整形痕
496	I B25x III層	磨製石斧	-	完形	ホルンフェルス (北上山地)	100.19	49.12	28.63	228.59	
497	I B25x III層	磨製石斧	-	完形	ホルンフェルス (北上山地)	97.57	40.62	13.77	92.11	
498	II B10v III層	磨製石斧	-	未成品	ホルンフェルス (北上山地)	117.07	56.75	39.09	352.42	
499	I B25w III層	磨製石斧	-	未成品	頁岩 (北上山地)	69.77	30.27	17.04	33.63	
500	II C2b III層	石錘	-	完形	凝灰岩 (奥羽山脈)	74.35	56.25	23.18	122.90	
501	I B23u III層	石錘	-	完形	凝灰岩 (奥羽山脈)？	81.59	71.56	19.45	152.46	
502	I B25w III層	石錘	-	完形	凝灰岩 (奥羽山脈)	75.46	59.99	17.41	114.27	
503	II C9a III層	石錘	-	完形	凝灰岩 (奥羽山脈)	77.01	61.91	13.36	87.62	
504	I B25t III層	礫器	-	完形	凝灰岩 (奥羽山脈)	241.50	78.97	67.22	1587.90	
505	II B1t III層	礫器	-	完形	凝灰岩 (奥羽山脈)	142.69	60.15	24.22	276.83	
506	II B5a III層	礫器	-	完形	頁岩 (北上山地)	139.49	96.81	49.11	1080.60	
507	II B1x III層	礫器	-	端部 欠損	ホルンフェルス (北上山地)	168.20	78.32	28.59	(586.88)	
508	I A17r III層	敲磨器類	磨痕	1/2 欠損	砂岩 (北上山地)	111.07	(68.81)	39.46	(414.01)	
509	II B1w III層	敲磨器類	磨痕	完形	花崗閃綠斑岩(ひ ん岩)(奥羽山脈)	140.11	41.61	63.59	560.71	
510	I B24y III層	敲磨器類	磨痕	完形	花崗閃綠斑岩(ひ ん岩)(奥羽山脈)	159.65	72.03	82.72	1236.10	
511	I B23x III層	敲磨器類	磨痕	完形	流紋岩 (奥羽山脈)	125.35	61.98	70.74	459.65	
512	I B24y III層	敲磨器類	磨痕	完形	花崗閃綠斑岩(ひ ん岩)(奥羽山脈)	165.50	53.58	85.09	740.44	
513	II A6r III層	敲磨器類	磨痕	1/2 欠損	花崗閃綠斑岩(ひ ん岩)(奥羽山脈)	(86.43)	42.52	44.64	(280.54)	
514	I B23t III層	敲磨器類	磨痕	1/2 欠損	流紋岩 (奥羽山脈)	(97.68)	73.69	59.50	(330.68)	
515	II C5b III層	敲磨器類	磨痕	両端 欠損	安山岩 (奥羽山脈)	(137.15)	62.89	60.55	(675.43)	
516	I B24w III層	敲磨器類	磨痕	両端 欠損	花崗閃綠斑岩(ひ ん岩)(奥羽山脈)	(105.93)	58.97	63.86	(587.12)	
517	I B24y III層	敲磨器類	敲打	完形	流紋岩 (奥羽山脈)	114.93	43.97	32.61	1155.91	
518	I B24x III層	敲磨器類	敲打	完形	凝灰岩 (奥羽山脈)	108.44	84.67	42.51	526.44	
519	I B23w III層	敲磨器類	敲+凹	1/2 残存	砂岩 (奥羽山脈)	130.33	72.78	35.07	(316.64)	
520	II C1a III層	敲磨器類	敲+凹	完形	流紋岩 (奥羽山脈)	184.00	94.60	49.61	887.99	
521	II C6a III層	敲磨器類	磨痕	端部 欠損	ホルンフェルス (北上山地)	197.95	91.27	46.48	(1510.20)	研磨痕
522	I B20u III層	敲磨器類	敲打	完形	凝灰岩 (奥羽山脈)	211.96	61.34	41.79	511.70	

( ) : 残存値

掲載番号	出土地点 ・層位	器種	分類	残存 状態	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
523	II B5w III層	砥石	-	完形	ホルンフェルス (北上山地)	81.42	40.71	37.29	188.75	
524	I B25w III層	台石	-	両端 欠損	流紋岩 (奥羽山脈)	(308.78)	100.00	78.35	(2960.04)	
525	II B4x III層	台石	-	完形	流紋岩 (奥羽山脈)	241.57	114.78	121.48	3600.00	磨痕あり
526	II C8a III層	台石	-	完形	凝灰岩 (奥羽山脈)	179.15	110.79	77.03	1893.20	磨+敲打
527	II B1x III層	台石	-	側面 欠損	流紋岩 (奥羽山脈)	(204.70)	119.97	113.76	(2807.81)	研磨痕あり 被熱痕あり
528	I B23t III層	石核	-	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	71.31	70.37	57.17	232.18	
529	I B23t III層	石核	-	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	104.77	34.25	28.07	84.13	
530	I B23u III層	石核	-	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	76.43	31.95	27.10	60.26	
531	I B22t III層	石核	-	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	52.17	94.82	38.11	175.05	
532	I B23t III層	フレイク	IIIb	-	頁岩 (北上山地)	54.72	58.54	14.97	41.92	
533	I B22t III層	ユーズド フレイク	IIb	-	頁岩 (北上山地)	66.54	73.97	12.05	46.48	
534	II B5y III層	ユーズド フレイク	IIc	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	60.51	64.90	10.59	26.52	
535	II B5y III層	ユーズド フレイク	Ic	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	54.87	49.40	17.79	36.00	
536	II B6v III層	ユーズド フレイク	IIb	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	40.97	31.36	5.51	6.63	
537	I B23p III層	ユーズド フレイク	IIb	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	49.92	56.99	14.86	31.28	
538	II B4x III層	ユーズド フレイク	IIIb	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	53.16	21.72	10.72	10.58	
539	II B4y III層	ユーズド フレイク	IIb	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	68.77	55.84	14.00	34.51	
540	II B2u III層	ユーズド フレイク	IIIc	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	34.05	33.50	9.65	8.34	
541	II B4x III層	ユーズド フレイク	IVd	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	(32.60)	31.89	4.37	(5.67)	
542	I B18e III層	ユーズド フレイク	IIb	-	頁岩 (北上山地)	54.24	39.37	14.69	21.96	
543	II C1b III層	リタッヂド フレイク	IIc	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	46.39	49.86	11.90	21.39	
544	I B23y III層	ユーズド フレイク	IIIc	-	頁岩 (奥羽山脈) ?	42.60	52.96	9.04	11.38	
545	II C7a III層	ユーズド フレイク	IIb	-	頁岩 (北上山地)	56.88	46.05	13.36	27.55	
546	I B23t III層	ユーズド フレイク	IVc	-	頁岩 (北上山地)	63.12	39.64	16.55	25.50	
547	II B12g III層	有孔石製品	-	1/2 欠損	頁岩 (奥羽山脈)	(29.45)	33.94	11.47	(12.49)	
548	II B4x III層	石剣	-	基部 のみ	粘板岩 (北上山地)	(92.55)	31.88	11.19	(55.63)	
549	II B3w III層	石棒類	-	完形	頁岩 (北上山地)	117.95	24.19	9.46	39.98	

( ) : 残存値

## V 自然科学分析

### 1 放射性炭素年代 (AMS測定)

株式会社 加速器分析研究所

#### 1. 測定対象試料

広表遺跡は、岩手県北上市村崎野 21 地割（北緯 39° 20' 32"、東経 141° 7' 11"）に所在する。測定対象試料は、竪穴建物や土坑から出土した炭化物 9 点、土器付着炭化物 1 点（掲載番号 147）の合計 10 点である（表 1）。

#### 2. 測定の意義

試料が出土した遺構、試料が採取された土器の年代を明らかにする。また、同じ遺構から出土した遺物の年代観と比較する。

#### 3. 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA : AcidAlkaliAcid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1 mol/ℓ (1 M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1 M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1 M に達した時には「AAA」、1 M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

#### 4. 測定方法

加速器をベースとした <sup>14</sup>C - AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、<sup>14</sup>C の計数、<sup>13</sup>C 濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C 濃度 (<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

#### 5. 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$  は、試料炭素の <sup>13</sup>C 濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である（表 1）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) <sup>14</sup>C 年代 (LibbyAge : yrBP、表 1) は、過去の大気中 <sup>14</sup>C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0 yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用し、 $\delta^{13}\text{C}$  によって同位体効果を補正する (Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C 年代と誤差は、

下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 $^{14}\text{C}$ 年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の $^{14}\text{C}$ 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

(3)pMC(percentModernCarbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の $^{14}\text{C}$ 濃度の割合である。pMCが小さい( $^{14}\text{C}$ が少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上( $^{14}\text{C}$ の量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正されている(表1)。

(4)暦年較正年代(または単に較正年代)とは、年代が既知の試料の $^{14}\text{C}$ 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の $^{14}\text{C}$ 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差( $1\sigma = 68.3\%$ )あるいは2標準偏差( $2\sigma = 95.4\%$ )で表示される。グラフの縦軸が $^{14}\text{C}$ 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない $^{14}\text{C}$ 年代値である(表2の「暦年較正用(yrBP)」)。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal20較正曲線(Reimer et al. 2020)を用い、OxCal v4.4較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正の結果を表2( $1\sigma \cdot 2\sigma$ 暦年代範囲)に示す。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「calBC/AD」または「calBP」という単位で表される。今後、較正曲線やプログラムが更新された場合、「暦年較正用(yrBP)」の年代値を用いて較正し直すことが可能である。

## 6. 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料10点の $^{14}\text{C}$ 年代は、 $4850 \pm 30\text{yrBP}$ (試料6)から $1240 \pm 20\text{yrBP}$ (試料3)の間にある。暦年較正年代( $1\sigma$ )は、最も古い試料6が5600～5492calBPの間に2つの範囲、最も新しい試料3が1245～1123calBP(705～827calAD)の間に2つの範囲で示される。全体としては縄文時代から平安時代までの年代幅があり、縄文時代については、古い方から順に試料4、6が前期後葉頃、試料7が後期初頭から前葉頃、試料5が晩期後葉頃に相当する(小林編 2008、小林 2017)。6号竪穴建物から出土した炭化物1、2はほぼ同年代を示した。7号土坑の1層から出土した炭化物8と土器付着炭化物10の間には若干年代差が認められる。

今回測定された試料のうち、炭化物1～9の多くは観察所見から木炭と考えられる(細片のため不明なものもある)。いずれも樹皮は残存しないため、次に記す古木効果を考慮する必要がある。ただし試料8については枝状を呈するため樹皮直下(本来の最外年輪)が残っている可能性がある。

樹木は外側に年輪を形成しながら成長するため、その木が伐採等で死んだ年代を示す試料は最外年輪から得られ、内側の試料は年輪数の分だけ古い年代値を示す(古木効果)。今回測定された試料1～9は樹皮が残存せず、本来の最外年輪を確認できることから、測定された年代値は、その木が死んだ年代よりも古い可能性がある(試料8は最外年輪が残っている可能性がある)。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

## 文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337 – 360

小林謙一 2017 縄文時代の実年代 一土器型式編年と炭素14年代一, 同成社

## 1 放射性炭素年代 (AMS測定)

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer,P.J.etal.2020TheIntCal20NorthernHemisphereradiocarbonagecalibrationcurve(0 – 55calBP),Radiocarbon62(4),725 – 757

Stuiver,M.andPolach,H.A.1977Discussion:Reportingof<sup>14</sup>Cdata,Radiocarbon19(3),355 – 363

表1 放射性炭素年代測定結果(  $\delta^{13}\text{C}$ 、 $^{14}\text{C}$  年代(Libby Age)、pMC)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法 (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ (%)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
					Libby Age (yrBP)	pMC (%)	
IAAA-231364	試料 1	6号竪穴建物床面土坑 1層	炭化物	AAA	<b>-27.37 ± 0.29</b>	<b>1,280 ± 20</b>	<b>85.29 ± 0.24</b>
IAAA-231365	試料 2	6号竪穴建物 床面	炭化物	AAA	<b>-27.11 ± 0.18</b>	<b>1,290 ± 20</b>	<b>85.22 ± 0.23</b>
IAAA-231366	試料 3	3号竪穴建物 埋土下位	炭化物	AAA	<b>-27.58 ± 0.22</b>	<b>1,240 ± 20</b>	<b>85.74 ± 0.24</b>
IAAA-231367	試料 4	2号竪穴建物 焼土塊内	炭化物	AaA	<b>-25.85 ± 0.25</b>	<b>4,770 ± 30</b>	<b>55.19 ± 0.19</b>
IAAA-231368	試料 5	5号竪穴建物 炉1上	炭化物	AAA	<b>-26.28 ± 0.26</b>	<b>2,510 ± 20</b>	<b>73.12 ± 0.22</b>
IAAA-231369	試料 6	20号土坑 底面	炭化物	AAA	<b>-26.42 ± 0.21</b>	<b>4,850 ± 30</b>	<b>54.65 ± 0.18</b>
IAAA-231370	試料 7	1号土坑 2層	炭化物	AAA	<b>-25.34 ± 0.20</b>	<b>3,840 ± 20</b>	<b>62.03 ± 0.19</b>
IAAA-231371	試料 8	7号土坑 1層	炭化物	AAA	<b>-27.76 ± 0.24</b>	<b>1,560 ± 20</b>	<b>82.38 ± 0.23</b>
IAAA-231372	試料 9	23号土坑 3層	炭化物	AAA	<b>-25.46 ± 0.20</b>	<b>1,510 ± 20</b>	<b>82.84 ± 0.23</b>
IAAA-231373	試料 10	7号土坑 1層 (147)	土器付着炭化物	AaA	<b>-24.42 ± 0.20</b>	<b>1,470 ± 20</b>	<b>83.32 ± 0.24</b>

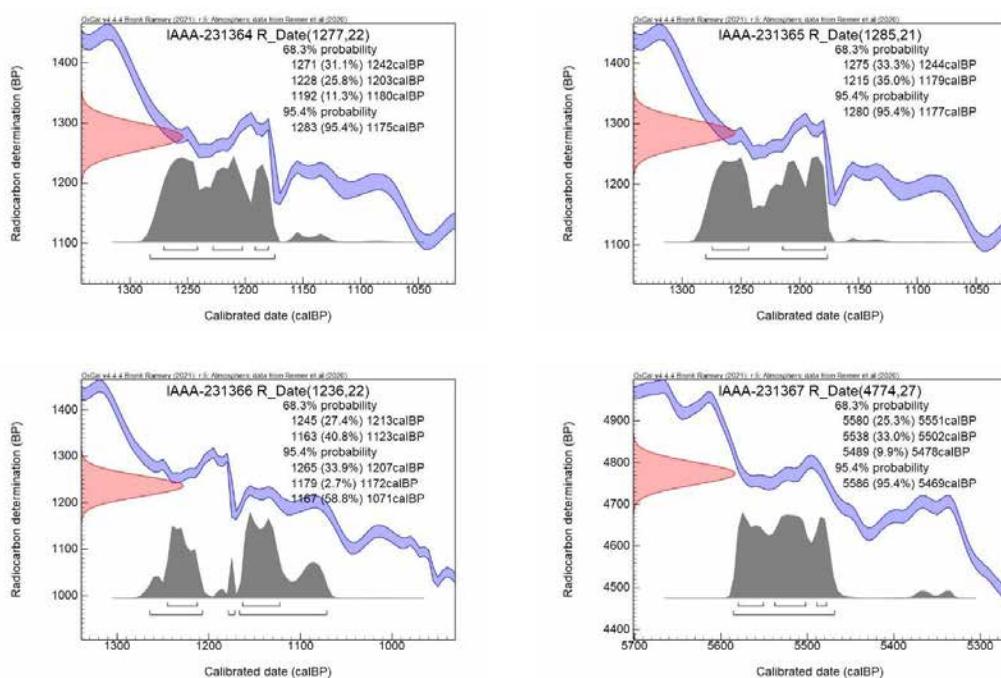
[IAA 登録番号 : #C293]

表2 放射性炭素年代測定結果(暦年較正用 $^{14}\text{C}$ 年代、較正年代)(1)

測定番号	試料名	暦年較正用(yrBP)	較正条件	1 $\sigma$ 暦年代範囲		2 $\sigma$ 暦年代範囲
IAAA-231364	試料 1	1,277 ± 22	OxCal v4.4 IntCal20	1271calBP - 1242calBP (31.1%) 1228calBP - 1203calBP (25.8%) 1192calBP - 1180calBP (11.3%)	1283calBP - 1175calBP (95.4%)	
IAAA-231365	試料 2	1,285 ± 21	OxCal v4.4 IntCal20	1275calBP - 1244calBP (33.3%) 1215calBP - 1179calBP (35.0%)	1280calBP - 1177calBP (95.4%)	
IAAA-231366	試料 3	1,236 ± 22	OxCal v4.4 IntCal20	1245calBP - 1213calBP (27.4%) 1163calBP - 1123calBP (40.8%)	1265calBP - 1207calBP (33.9%) 1179calBP - 1172calBP (2.7%) 1167calBP - 1071calBP (58.8%)	
IAAA-231367	試料 4	4,774 ± 27	OxCal v4.4 IntCal20	5580calBP - 5551calBP (25.3%) 5538calBP - 5502calBP (33.0%) 5489calBP - 5478calBP (9.9%)	5586calBP - 5469calBP (95.4%)	
IAAA-231368	試料 5	2,514 ± 24	OxCal v4.4 IntCal20	2721calBP - 2698calBP (15.3%) 2635calBP - 2615calBP (13.2%) 2588calBP - 2519calBP (39.8%)	2729calBP - 2675calBP (22.6%) 2650calBP - 2611calBP (18.4%) 2600calBP - 2493calBP (54.5%)	
IAAA-231369	試料 6	4,853 ± 26	OxCal v4.4 IntCal20	5600calBP - 5581calBP (58.7%) 5501calBP - 5492calBP (9.6%)	5653calBP - 5630calBP (7.4%) 5605calBP - 5575calBP (66.3%) 5526calBP - 5482calBP (21.7%)	

表2 放射性炭素年代測定結果(曆年較正用<sup>14</sup>C年代、較正年代)(2)

測定番号	試料名	曆年較正用(yrBP)	較正条件	1σ 曆年代範囲	2σ 曆年代範囲
IAAA-231370	試料 7	3,836 ± 24	OxCal v4.4 IntCal20	4290calBP - 4267calBP (13.3%) 4257calBP - 4225calBP (20.6%) 4205calBP - 4155calBP (34.3%)	4401calBP - 4370calBP (4.0%) 4355calBP - 4325calBP (7.2%) 4301calBP - 4149calBP (84.2%)
IAAA-231371	試料 8	1,556 ± 22	OxCal v4.4 IntCal20	1511calBP - 1491calBP (17.7%) 1472calBP - 1454calBP (19.5%) 1417calBP - 1390calBP (31.1%)	1518calBP - 1380calBP (95.4%)
IAAA-231372	試料 9	1,512 ± 22	OxCal v4.4 IntCal20	1398calBP - 1360calBP (68.3%)	1414calBP - 1344calBP (94.5%) 1324calBP - 1316calBP (0.9%)
IAAA-231373	試料 10	1,465 ± 23	OxCal v4.4 IntCal20	1366calBP - 1340calBP (36.7%) 1333calBP - 1311calBP (31.6%)	1382calBP - 1305calBP (95.4%)



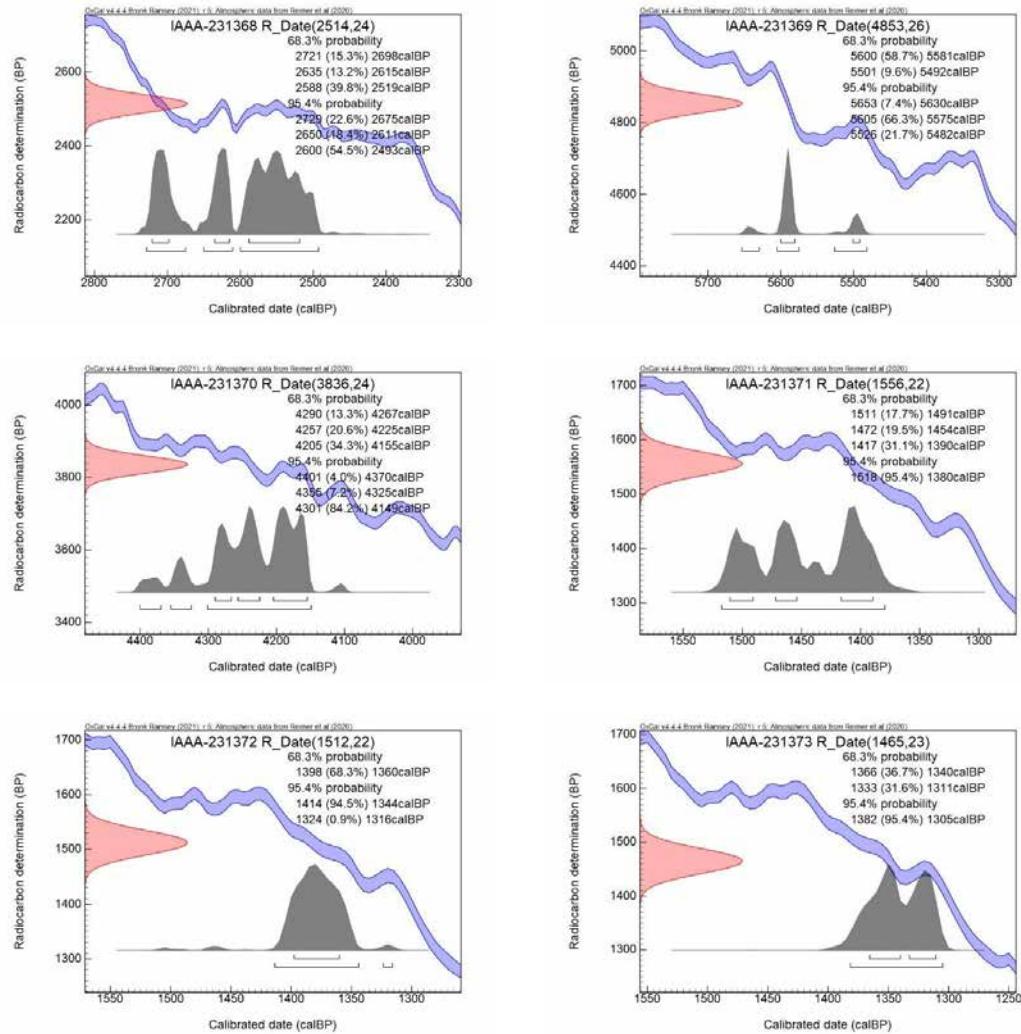


図1 曆年較正年代グラフ

## 2 火山灰分析

株式会社 火山灰考古学研究所

### 1. はじめに

東北地方北部の岩手県域には、十和田、岩手、焼石、鳴子、秋田駒ヶ岳など火山フロントとその西方に位置する火山のほか、北海道、中部地方、中国地方、九州地方、さらには大陸に位置する火山から噴出したテフラ (tephra, 火山碎屑物、いわゆる火山灰) が数多く降灰している。少なくとも後期更新世以降のそれらの多くについては、すでに年代や岩石記載学的特徴が明らかにされて、テフラ・カタログにデータが収録されている (たとえば町田・新井, 2011)。そして、埋蔵文化財の調査研究においても、年代が明らかなテフラを層位的指標として利用する火山灰編年学によって、考古学的な遺構や遺物包含層の層位や年代を明らかにできるようになっている。

そこで、具体的な層位や年代が不明な遺構などが検出された北上市広表遺跡でも、この火山灰編年学的分析 (テフラ分析) を実施することになった。分析の対象は、発掘調査担当者により採取後に送付された試料1 (6号竪穴建物・3層)、試料2 (27号陥し穴状遺構・1層)、試料3 (31号陥し穴状遺構・1層)、試料4 (26号陥し穴状遺構・1層) の4試料である。また、実施したテフラ分析は、テフラ検出分析、テフラ組成分析、火山ガラスおよび鉱物の屈折率測定である。

### 2. テフラ検出分析

#### (1) 分析方法

4試料に含まれる比較的粗粒のテフラ粒子の量や特徴を定性的に把握するテフラ検出分析を、次の手順で実施した。

- 1) 送付試料の中から高純度部を可能な限り採取。
- 2) 試料に含まれる砂分に応じて電子天秤で9～20gを秤量。
- 3) 超音波洗浄装置で泥分を除去。
- 4) 恒温乾燥機により80℃で乾燥。
- 5) 実体顕微鏡を用いて粒子を観察

#### (2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。いずれの試料からも、比較的粗粒の軽石やスコリアは検出されなかった。試料1 (6号竪穴建物・3層) には、火山ガラスが多く含まれている。それは、白色のスponジ状軽石型、無色透明や淡褐色の纖維束状軽石型および塊状や破片状の分厚い軽石型 (以降、軽石型) である。磁鉄鉱など不透明鉱物以外の重鉱物 (以降、重鉱物) には、斜方輝石や単斜輝石がわずかに認められる。

試料2 (27号陥し穴状遺構・1層) には無色透明の纖維束状軽石型火山ガラスが少量含まれており、重鉱物には重鉱物) には斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料3 (31号陥し穴状遺構・1層) には、無色透明や淡褐色の纖維束状軽石型や、白色のスponジ状軽石型の火山ガラスが少量含まれている。重鉱物には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。さらに、試料4 (26号陥し穴状遺構・1層) には、

無色透明や淡褐色の纖維束状軽石型火山ガラスが比較的多く含まれている。重鉱物には、斜方輝石や单斜輝石が認められる。

### 3. テフラ組成分析

#### (1) 分析方法

試料に含まれる比較的細粒のテフラ粒子の定量的検討を行うために、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析を合わせたテフラ組成分析を実施した。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 分析篩により、1/4 – 1/8mm と 1/8 – 1/16mm の粒子を篩別。
- 2) 偏光顕微鏡下で 1/4 – 1/8mm と 1/8 – 1/16mm の 250 粒子を観察し、火山ガラスの形態（一部色調）別含有率、 軽鉱物・重鉱物の含有率を求める（火山ガラス比分析）。なお、火山ガラスの形態分類は、町田・新井（1992）や早田（1999）に従った。
- 3) 偏光顕微鏡下で、1/4 – 1/8mm と 1/8 – 1/16mm の重鉱物 250 粒子を観察し、重鉱物組成を明らかにする（重鉱物組成分析）。

#### (2) 分析結果

テフラ組成分析の結果をダイヤグラムにして図1に、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析の結果の内訳を表2と表3に示す。試料1 (SI03・3層) の火山ガラス、軽鉱物、重鉱物の含有率は、順に 31.6%、27.6%、15.6% である。火山ガラスは、含有率が高い順に纖維束状軽石型（18.4%）、スポンジ状軽石型（8.4%）、中間型（4.8%）、無色透明のバブル型（0.4%）である。また、重鉱物としては、含有率が高い順に斜方輝石（40.4%）と、单斜輝石（8.0%）が認められる。

試料2 (SK01・1層) の火山ガラス、軽鉱物、重鉱物の含有率は、順に 26.0%、33.6%、19.6% である。火山ガラスは、含有率が高い順に中間型（11.2%）、纖維束状軽石型（8.0%）、スポンジ状軽石型（6.4%）である。また、重鉱物としては、含有率が高い順に斜方輝石（50.4%）、单斜輝石（10.0%）、角閃石（0.4%）が認められる。

試料3 (SK26・1層) の火山ガラス、軽鉱物、重鉱物の含有率は、順に 7.6%、37.6%、40.0% である。このうちの火山ガラスは、含有率が高い順に中間型（4.4%）、スポンジ状軽石型（2.8%）、纖維束状軽石型（1.6%）である。また、重鉱物としては、含有率が高い順に斜方輝石（55.2%）、单斜輝石（12.8%）、角閃石（0.8%）が認められる。

そして、試料4 (SK39・1層) の火山ガラス、軽鉱物、重鉱物の含有率は、順に 20.8%、47.6%、13.2% である。このうちの火山ガラスは、含有率が高い順にスポンジ状軽石型（7.6%）、纖維束状軽石型（6.8%）、無色透明のバブル型（0.8%）である。また、重鉱物としては、含有率が高い順に斜方輝石（52.8%）、单斜輝石（8.8%）、角閃石（0.4%）が認められる。

### 4. 屈折率測定（火山ガラス・鉱物）

#### (1) 測定試料と測定方法

分析対象に含まれる火山ガラスと鉱物（斜方輝石）の屈折率測定を実施して、指標テフラとの同定精度の向上を図った。屈折率の測定方法は、温度変化型屈折率測定法（壇原、1993）である。測定対象とした火山ガラスは 1/8 – 1/16mm 粒径のもので、斜方輝石は 1/4mm 粒子の中から実体顕微鏡を利用しながら拾いだしたものと軽く粉碎したものである。

## (2) 測定結果

屈折率の測定結果を、代表的な指標テフラの屈折率特性も合わせて表4に、測定値の内訳を付表に示す。

試料1(6号堅穴建物・3層)に含まれる火山ガラス(30粒子)と斜方輝石(32粒子)の屈折率( $n$ ,  $\gamma$ )は、1.502–1.510と1.706–1.722である。後者は、1.706–1.710(10粒子)、1.714–1.717(18粒子)、1.719–1.722(4粒子)の trimodal 組成となっている。

試料2(27号陥し穴状遺構・1層)に含まれる火山ガラス(31粒子)と斜方輝石(30粒子)の屈折率( $n$ ,  $\gamma$ )は、1.499–1.514と1.703–1.726である。前者は1.499–1.500(2粒子)と1.509–1.514(29粒子)の bimodal 組成、後者は1.703–1.708(4粒子)、1.714–1.727(25粒子)、1.726(1粒子)の trimodal 組成となっている。

試料3(31号陥し穴状遺構・1層)に含まれる火山ガラス(30粒子)と斜方輝石(30粒子)の屈折率( $n$ ,  $\gamma$ )は、1.506–1.514と1.708–1.726である。前者は1.506(1粒子)と1.509–1.514(29粒子)の bimodal 組成、後者は1.708–1.709(2粒子)、1.714–1.719(27粒子)、1.726(1粒子)の trimodal 組成となっている。

試料4(26号陥し穴状遺構・1層)に含まれる火山ガラス(34粒子)と斜方輝石(31粒子)の屈折率( $n$ ,  $\gamma$ )は、1.510–1.514と1.707–1.727である。このうち、後者は1.707–1.709(2粒子)、1.714–1.723(28粒子)、1.727(1粒子)の trimodal 組成となっている。

## 5. 考察

4試料のうち、試料1(6号堅穴建物・3層)に多く含まれる火山ガラスの形態や色調と、火山ガラスの屈折率特性( $n$ : 1.502–1.510)と、一部の斜方輝石の屈折率特性( $\gamma$ : 1.706–1.710)を合わせると、この試料には、915年に十和田火山から噴出した十和田a火山灰(To-a, 大池, 1972, 町田ほか, 1981, 町田・新井, 2011など)が多く含まれ可能性が非常に高い。試料に同封された採取地の写真をみると白色系の色調をもつ砂質細粒火山灰層があるように見えることも考慮すると、この火山灰層はTo-aと考えられる。ただし、屈折率がやや高い斜方輝石( $\gamma$ : 1.714–1.722)の存在は、この試料に鳴子形沼上原テフラ(Nr-KU, 早田, 1989, 町田・新井, 2011)など、他のテフラ粒子が試料に混在していることを示している。

試料2(27号陥し穴状遺構・1層)、試料3(31号陥し穴状遺構・1層)、試料4(26号陥し穴状遺構・1層)においても、基本的には多くの火山ガラスの屈折率( $n$ )が1.509–1.514で、斜方輝石の一部の屈折率が1.703–1.709のテフラの混入が認められるものの、試料2(27号陥し穴状遺構・1層)と試料3(31号陥し穴状遺構・1層)で火山ガラスの屈折率が bimodal 組成、いずれの試料にも含まれる斜方輝石の屈折率が trimodal 組成を示すことから、複数のテフラの混在が指摘される。

これらのうち、火山ガラスの屈折率( $n$ )が1.509–1.514で、斜方輝石の一部の屈折率が1.703–1.709のテフラは、試料に含まれる火山ガラスの形態や色調、さらに現地では橙色細粒火山灰層のブロックが認められたらしいことから、約6,000–6,200年前の十和田中振テフラ(To-Cu, 大池ほか, 1966, 早川, 1983, 町田・新井, 1992, 2003, 2011, 工藤・佐々木, 2007)と考えられる。

また、試料2(27号陥し穴状遺構・1層)に含まれる邸屈折率の火山ガラスは、大崎平野～胆沢扇状地周辺にも降灰している北原火山灰(Kth, 約9–10万年前, 早田, 1989, 町田・新井, 2011)、Nr-KU、約1.1–1.2万年前<sup>\*1</sup>の肘折尾花沢テフラ(Hj-O, 米地・菊地, 1966, 早田, 1989, 町田・

新井, 2011) に由来する可能性がある。さらに、この試料では、無色透明のバブル型ガラスが検出されたことから、約3万年前の始良Tn火山灰 (AT, 町田・新井, 1976, 2011, Albertetal.,2019) かも知れない。

試料2 (27号陥し穴状遺構・1層)、試料3 (31号陥し穴状遺構・1層)、試料4 (26号陥し穴状遺構・1層) に多く含まれる屈折率 ( $\gamma$ ) が 1.714 – 1.727 の斜方輝石の多くは、その特性から、土坑の基盤の赤土 (いわゆるローム層) 中に層位がある焼石村崎野軽石 (Yk – M, 5 ~ 6万年前, 大上・吉田, 1984, 小岩, 1996, 町田・新井, 2011など) の可能性が高い。さほど高屈折率の斜方輝石は認められなかったものの、前述の試料1 (6号堅穴建物・3層) に含まれるやや屈折率特性が高い斜方輝石の中にも、Yk – M 由来のものがあるのかも知れない。

いずれにしても、現地で撮影された土層断面写真からわかるテフラ層の産状と、テフラ分析の結果を照合させると、分析試料の純度の低さを指摘せざるを得ない。火山灰編年学の基本はテフラの一次堆積層の利用で、今回の発掘調査区でのテフラ層の検出状況も良かったらしい。テフラ試料の採取の際には、量よりも純度にこだわることが重要である。何より、テフラの一次堆積層の認定には、現地での火山灰編年学の専門家によるテフラの堆積構造を含めた特徴観察を要することから (早田, 1999, 2003, 2022など)、室内でのテフラ分析に先だって、テフラの産状に関する現地調査を行う必要がある。

## 6. まとめ

北上市広表遺跡において採取送付された4試料を対象に、テフラ分析 (テフラ検出分析・テフラ組成分析・火山ガラスおよび鉱物の屈折率測定) を実施した。その結果、十和田中振テフラ (To – Cu, 約6,000 ~ 6,200年前) および十和田a火山灰 (To – a, 915年) のほか、複数のテフラに由来する可能性が高いテフラ粒子が検出された。現地で撮影された写真からのテフラ層の産状に関する情報を合わせると、6号堅穴建物覆土中に挟在されるテフラ層は To – a、また、26・27・31号の3基の陥し穴状遺構覆土中に挟在されるテフラ層は To – Cu の可能性が高い。

\*1 放射性炭素 (14C) 年代。

## 文献

- Albert,P.G.,Smith,V.C.,Suzuki,T.,McLean,D.,Tomlinson,E.L.,Miyabuchi,Y.,Kitaba,I.,Mark,D.F.,  
Moriwaki,,H.,SG06ProjectMembersandNakagawa,T. (2019) GeochemicalcharacterizationoftheLateQuaternarywidespreadJapanesetephrostratigraphicmarkersandcorrelationstotheLakeSuigetsusedimentaryarchive(SG06core). QuaternaryGeochronology,52,p.103 – 131.
- 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定 – テフロクロノロジーの基礎的研究. 第四紀研究, 11, p.254 – 269.
- 新井房夫 (1993) 温度一定型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2」, 東京大学出版会, p.138 – 149.
- 壇原 徹 (1993) 温度変化型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀研究試料分析法2」, p.149 – 158.
- 早川由紀夫 (1983) 十和田中振テフラ層の分布・粒度・組成・年代. 火山, 28, p.263 – 273.
- 小岩直人 (1996) 岩手県夏油川扇状地における後期更新世の河谷埋積期に関する新知見. 第四紀研究, 35, p.35 – 39.
- 工藤 崇・佐々木 寿 (2007) 十和田火山後カルデラ期噴出物の高精度噴火史編年. 地学雑誌, 116, p.653 – 663.
- 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰 – 始良Tn火山灰の発見とその意義. 科学, 46, p.339 – 347.

- 町田 洋・新井房夫 (1992) 「火山灰アトラス－日本列島とその周辺」. 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫 (2011) 「新編火山灰アトラス－日本列島とその周辺 (第2刷)」. 東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広 (1981) 日本海を渡ってきたテフラ. 科学, 51, p.562 – 569.
- 大池昭二 (1972) 十和田火山東麓における完新世テフラの編年. 第四紀研究, 11, p.232 – 233.
- 大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之 (1966) 馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰. 第四紀研究, 5, p.29 – 35.
- 大上和良・吉田 充 (1884) 北上川中流域, 胆沢扇状地における火山灰層序. 岩手大学工学部研究報告, 37, p.69 – 81.
- 早田 勉 (1989) テフロクロノロジーによる前期旧石器時代遺物包含層の検討. 第四紀研究, 28, p.269 – 282.
- 早田 勉 (1999) テフロクロノロジー－火山灰で過去の時間と空間をさぐる方法－. 長友恒人編「考古学のための年代測定学入門」, 古今書院, p.113 – 134.
- 早田 勉 (2003) テフラ (火山灰) のみかた. 松井 章編「環境考古学マニュアル」, 同成社, p.54 – 60.
- 早田 勉 (2022) 火山灰編年学をもとにした自然災害史調査法. 日本文化財保護協会紀要, no.6, p.48 – 52. 米地文夫・菊地強一 (1966) 尾花沢軽石について. 東北地理, 18, p.23 – 27.

表1 テフラ検出分析結果

試料	地点	層位	軽石・スコリア			火山ガラス			重鉱物	
			量	色調	最大径	量	形態	色調	(不透明鉱物以外)	
1	6号竪穴建物	3層			***	pm(sp, fb), md	白, 無色透明, 淡褐		(opx, cpx)	
2	27号陥し穴状遺構	1層		*		pm(fb)	無色透明		opx, cpx	
3	31号陥し穴状遺構	1層		*		pm(fb, sp)	無色透明, 淡褐, 白		opx, cpx	
4	26号陥し穴状遺構	1層		**		pm(fb)	無色透明, 淡褐		opx, cpx	

\*\*\*\*:とくに多い, \*\*\*:多い, \*\*:中程度, \*:少ない, bw:バブル型, md:中間型, pm:軽石型, sp:スponジ状, fb:繊維束状, opx:斜方輝石, cpx:单斜輝石. 重鉱物の():量が少ないことを示す.

表2 火山ガラス比分析結果

試料	地点	層位	bw(cl)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	軽鉱物	重鉱物	その他	合計
1	6号竪穴建物	3層	0	0	0	12	21	46	69	39	63	250
2	27号陥し穴状遺構	1層	1	0	0	28	16	20	84	49	52	250
3	31号陥し穴状遺構	1層	0	0	0	8	7	4	94	100	37	250
4	26号陥し穴状遺構	1層	2	0	0	14	19	17	119	33	46	250

bw:バブル型, md:中間型, pm:軽石型, sc:スコリア型, cl:無色透明, pb:淡褐色, br:褐色, sp:スponジ状, fb:繊維束状. 数字は粒子数.

表3 重鉱物組成分析結果

試料	地点	層位	ol	opx	cpx	am	bi	opq	その他	合計
1	6号竪穴建物	3層	0	101	20	0	0	114	15	250
2	27号陥し穴状遺構	1層	0	126	25	1	0	90	8	250
3	31号陥し穴状遺構	1層	0	138	32	2	0	71	7	250
4	26号陥し穴状遺構	1層	0	132	22	1	0	88	7	250

ol:カンラン石, opx:斜方輝石, cpx:单斜輝石, am:角閃石, bi:黒雲母, opq:不透明鉱物. 数字は粒子数.

表4 香坂山遺跡テフラ試料と指標テフラの屈折率特性

地点・試料・テフラ	火山ガラス		斜方輝石		文献
	屈折率(n)	粒子数	屈折率(γ)	粒子数	
広表遺跡試料1(6号竪穴建物・3層)	1.502–1.510	30	1.706–1.722	32	本報告
			(1.706–1.710)	(10)	
			(1.714–1.717)	(18)	
			(1.719–1.722)	(4)	
広表遺跡試料2(27号陥し穴状遺構・1層)	1.499–1.514	31	1.703–1.726	30	本報告
	(1.499–1.500)	(2)	(1.703–1.708)	(4)	
	(1.509–1.514)	(29)	(1.714–1.721)	(25)	
			(1.726)	(1)	
広表遺跡試料3(31号陥し穴状遺構・1層)	1.506–1.514	30	1.708–1.726	30	本報告
	(1.506)	(1)	(1.708–1.709)	(2)	
	(1.509–1.514)	(29)	(1.714–1.719)	(27)	
			(1.726)	(1)	
広表遺跡試料4(26号陥し穴状遺構・1層)	1.510–1.514	34	1.707–1.727	31	本報告
			(1.707–1.709)	(2)	
			(1.714–1.723)	(28)	
			(1.727)	(1)	

## 本遺跡周辺の代表的指標テフラ(後期更新世後半以降)

十和田a(To-a, 10世紀)	1.500–1.508	1.706–1.708	1)
十和田中振(To-Cu, 約6,000年前)	1.508–1.512	1.703–1.709	1)
鬼界アカホヤ(K-Ah, 約7,300年前)	1.508–1.516		1)
肘折尾花沢(Hj-O, 約1.1~1.2万年前*)	1.499–1.504	1.712–1.715	1)
十和田八戸(To-H, 約1.5万年前)	1.505–1.509	1.706–1.708	1)
浅間草津(As-K, 約1.65~1.5万年前)	1.501–1.503		1)
浅間板鼻黄色(As-YP, 約1.65~1.5万年前)	1.501–1.505		1)
鳴子潟沼上原(Nr-KU)	1.492–1.500	1.711–1.715	1)
姶良Tn(AT, 約3万年前)	1.499–1.501		1)
十和田大不動(To-Of, >約3.2万年前)	1.506–1.510	1.707–1.710	1)
鳴子柳沢(Nr-Y, 約4.1~6.3万年前)	1.500–1.503	1.717–1.722	1)
焼石山形(Yk-Y, 約5~6万年前)	1.501–1.503	1.720–1.725	1)
焼石村崎野(Yk-M, 約5~6万年前)	1.503–1.508	1.717–1.732	1)
阿蘇4(Aso-4, 8.9~9万年前)	1.509–1.512		1)
鳴子荷坂(Nr-N, 9万年前)	1.500–1.502	1.724–1.733	1)
北原(Kth, 約9~10万年前)	1.499–1.502	1.728–1.733	1)

1)町田・新井(2011):温度一定型屈折率測定法(新井, 1972, 1993). \*:放射性炭素( $^{14}\text{C}$ )年代.

本報告:温度変化型屈折率法(壇原, 1993).

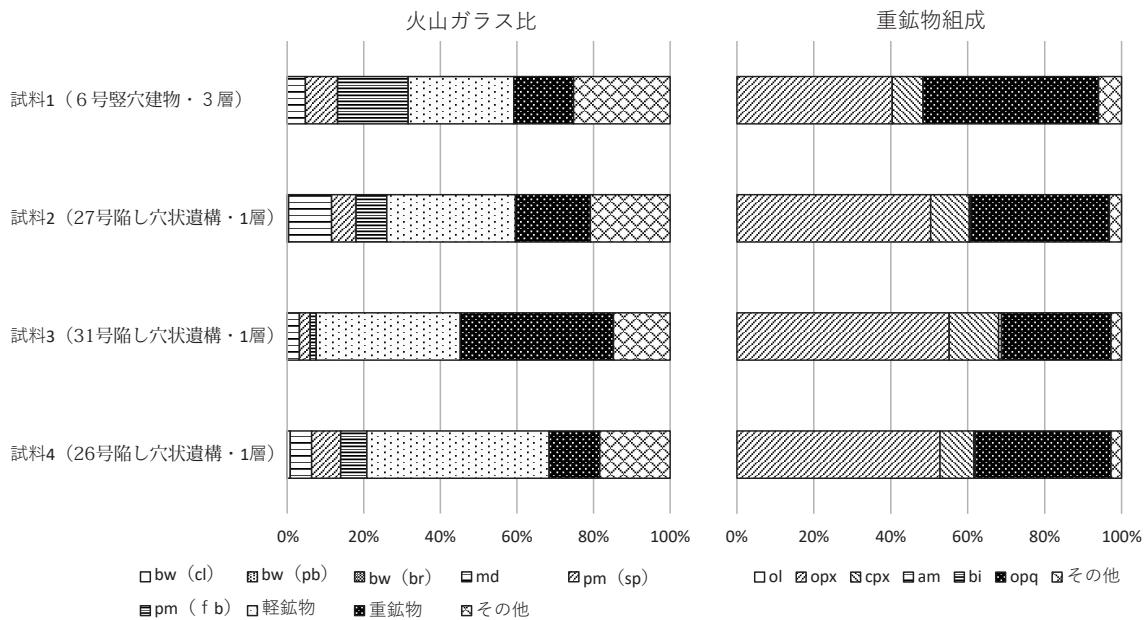


図1 広表遺跡テフラ試料の火山ガラス比ダイヤグラム

付表1 テフラ試料に含まれる火山ガラスの屈折率(n)

屈折率(n)	試料1	試料2	試料3	試料4
	6号竪穴建物・3層	27号陥し穴状遺構・1層	31号陥し穴状遺構・1層	26号陥し穴状遺構・1層
1.495 < n ≤ 1.496	0	0	0	0
1.496 < n ≤ 1.497	0	0	0	0
1.497 < n ≤ 1.498	0	0	0	0
1.498 < n ≤ 1.499	0	1	0	0
1.499 < n ≤ 1.500	0	1	0	0
1.500 < n ≤ 1.501	0	0	0	0
1.501 < n ≤ 1.502	0	0	0	0
1.502 < n ≤ 1.503	2	0	0	0
1.503 < n ≤ 1.504	7	0	0	0
1.504 < n ≤ 1.505	4	0	0	0
1.505 < n ≤ 1.506	9	0	1	0
1.506 < n ≤ 1.507	5	0	0	0
1.507 < n ≤ 1.508	2	0	0	0
1.508 < n ≤ 1.509	0	2	1	0
1.509 < n ≤ 1.510	1	7	4	2
1.510 < n ≤ 1.511	0	4	8	6
1.511 < n ≤ 1.512	0	6	8	11
1.512 < n ≤ 1.513	0	5	5	9
1.513 < n ≤ 1.514	0	5	3	6
1.514 < n ≤ 1.515	0	0	0	0
1.515 < n ≤ 1.516	0	0	0	0
1.516 < n ≤ 1.517	0	0	0	0
1.517 < n ≤ 1.518	0	0	0	0
1.518 < n ≤ 1.519	0	0	0	0
1.519 < n ≤ 1.520	0	0	0	0
合計	30	31	30	34

数字は粒子数.

付表2 テフラ試料に含まれる斜方輝石の屈折率( $\gamma$ )

屈折率( $\gamma$ )	試料1 6号竪穴建物・3層	試料2 27号陥し穴状遺構・1層	試料3 31号陥し穴状遺構・1層	試料4 26号陥し穴状遺構・1層
1.700 < $\gamma$ $\leqq$ 1.701	0	0	0	0
1.701 < $\gamma$ $\leqq$ 1.702	0	0	0	0
1.702 < $\gamma$ $\leqq$ 1.703	0	0	0	0
1.703 < $\gamma$ $\leqq$ 1.704	0	1	0	0
1.704 < $\gamma$ $\leqq$ 1.705	0	0	0	0
1.705 < $\gamma$ $\leqq$ 1.706	0	1	0	0
1.706 < $\gamma$ $\leqq$ 1.707	2	0	0	0
1.707 < $\gamma$ $\leqq$ 1.708	3	1	0	1
1.708 < $\gamma$ $\leqq$ 1.709	3	1	2	1
1.709 < $\gamma$ $\leqq$ 1.710	2	0	0	0
1.710 < $\gamma$ $\leqq$ 1.711	0	0	0	0
1.711 < $\gamma$ $\leqq$ 1.712	0	0	0	0
1.712 < $\gamma$ $\leqq$ 1.713	0	0	0	0
1.713 < $\gamma$ $\leqq$ 1.714	1	0	0	1
1.714 < $\gamma$ $\leqq$ 1.715	10	7	4	2
1.715 < $\gamma$ $\leqq$ 1.716	6	7	10	5
1.716 < $\gamma$ $\leqq$ 1.717	1	5	10	8
1.717 < $\gamma$ $\leqq$ 1.718	0	3	1	4
1.718 < $\gamma$ $\leqq$ 1.719	1	0	2	2
1.719 < $\gamma$ $\leqq$ 1.720	0	1	0	2
1.720 < $\gamma$ $\leqq$ 1.721	2	1	0	1
1.721 < $\gamma$ $\leqq$ 1.722	1	1	0	2
1.722 < $\gamma$ $\leqq$ 1.723	0	0	0	1
1.723 < $\gamma$ $\leqq$ 1.724	0	0	0	0
1.724 < $\gamma$ $\leqq$ 1.725	0	0	0	0
1.725 < $\gamma$ $\leqq$ 1.726	0	0	0	0
1.726 < $\gamma$ $\leqq$ 1.727	0	1	1	1
1.727 < $\gamma$ $\leqq$ 1.728	0	0	0	0
1.728 < $\gamma$ $\leqq$ 1.729	0	0	0	0
1.729 < $\gamma$ $\leqq$ 1.730	0	0	0	0
合計	32	30	30	31

数字は粒子数。

広表遺跡火山灰分析写真図版



写真1 試料1 (6号堅穴建物・3層: To-a 混在)

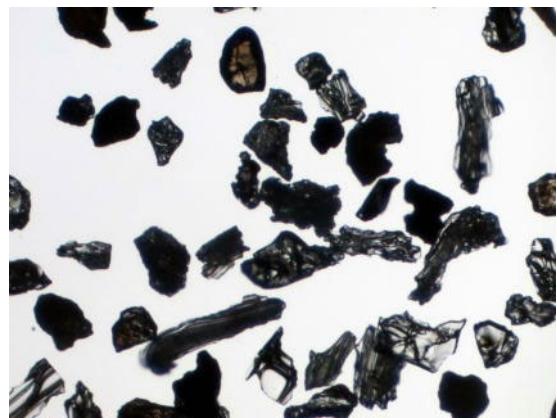


写真2 試料1 (6号堅穴建物・3層: To-a 混在)

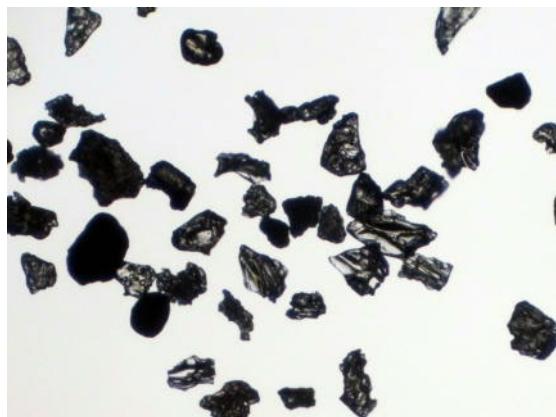


写真3 試料2 (27号陥し穴状遺構・1層: To-Cu 混在)



写真4 試料3 (31号陥し穴状遺構・1層: To-Cu 混在)

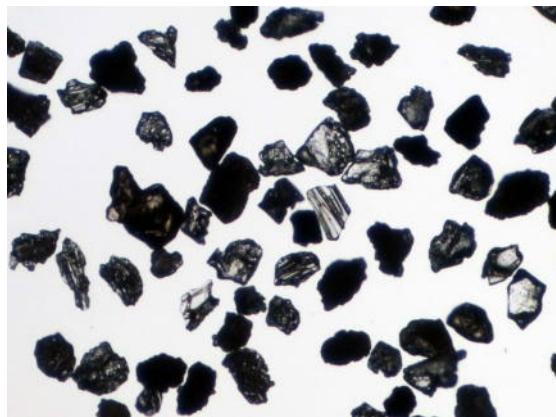


写真5 試料4 (26号陥し穴状遺構・1層: To-Cu 混在)

スケール (0.2mm)

## V 総括

### 1 縄文～弥生時代

今回の調査で竪穴建物 5 棟、焼土遺構 3 基、土坑 27 基、陥し穴状遺構 61 基を検出した。ただし、土坑・陥し穴状遺構については時期の特定ができないものも含まれる。竪穴建物の時期は出土遺物および検出した炭化物の年代測定結果から前期前葉 1 棟、前期後葉 2 棟、晩期中後～末葉各 1 棟である。竪穴建物はいずれも調査区東側の平坦地から斜面地に構築されている。

1～4 号土坑はいずれも調査区北西部の斜面地において近接して検出され、いずれも底部中央に窪み状の副穴を 1 基伴う。出土遺物はないが規模や形状・構造的要素から貯蔵穴と推定される。時期は遺物が出土していないため詳細は不明であるが、1 号土坑の堆積土 2 層より採取した炭化物を放射性年代測定による分析を行った結果、縄文時代後期以前の時期であることが明らかとなった。20 号土坑は縄文時代前期後葉の竪穴建物と同じ時期のもので構造から何らかの施設と推定されるが、出土した土器については、底面よりやや上部で多く出土したことから施設利用後に捨て場として二次的に利用されたと推測される。24・25 号土坑はいずれも調査区東側の斜面縁部で検出したもので、堆積土の上位を中心に大木 5 式の土器が出土している。

陥し穴状遺構は 26・27・31 号陥し穴状遺構の堆積土 1 層中より採取した試料を分析依頼し、十和田中振テフラ (To - Cu) の可能性が高いとする分析結果を得ていることから、これらの時期は縄文時代前期中葉以前と推定される。同様の構造をする底面施設を有する 20～22・24・25・28～30・32～37 号陥し穴状遺構もこれに近い時期が想定される。

遺物では橢円形で扁平な形をし、漁労に使用した石錘が多く出土している。前期後半の縄文集落の生業の一部を垣間見ることができる。また、該期の遺構は確認できなかったが、縄文時代早期および弥生時代の土器も出土しており、生活圏の一部としての利用があったことが明らかとなった。

### 2 古代

古代の遺構と判断できたのは土坑 1 基、竪穴建物 1 棟である。7 号土坑は出土遺物および検出した炭化物の年代測定結果と遺物の年代観から 6 世紀後半～7 世紀前半と判断できる。遺構の性格については不明であるが、堆積状況から祭祀的な要素を含む可能性も考えられる。

竪穴建物は堆積土下部に含まれていた十和田 a テフラから 10 世紀前半である。平安時代の竪穴建物はこの 1 棟のみであったが、遺跡全体に該期の遺物が散布している状況を踏まえると、後世の土地改変の影響で削平され、消失した可能性や調査区近接地に竪穴建物が存在する可能性が考えられる。また、広域でみると、遺跡のある飯豊川流域では 9 世紀後半～10 世紀代にかけて向遺跡・森下遺跡・唐戸崎遺跡・成田岩田堂館遺跡などで古代の集落が形成され、展開するが、本遺跡もその一部であったと考えられる。

### 引用・参考文献

(公財) 岩文埋 2021 『二子城跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 539 集

北上市教育委員会 2018 『唐戸崎遺跡』 北上市埋蔵文化財調査報告第 133 集

# 写 真 図 版





調査区全景・S→



調査区全景・N→

#### 写真図版1 航空写真1



調査区全景・上が北

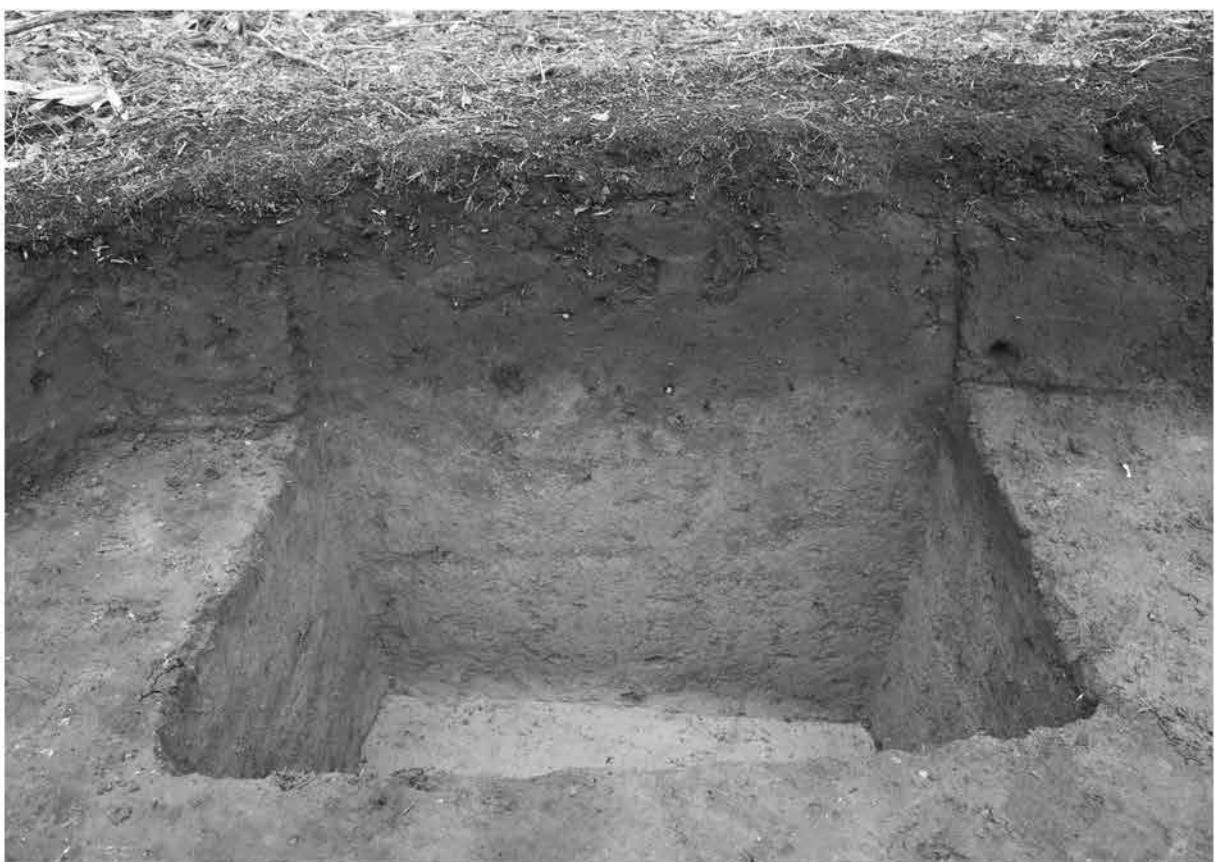


調査区現況近景・N→

## 写真図版2 航空写真2、調査区



基本層序 A-A' (II B17m) • N→



基本層序 B-B' (II C11c) • N→

写真図版3 基本層序



全景・E→



完掘・E→



断面・E→

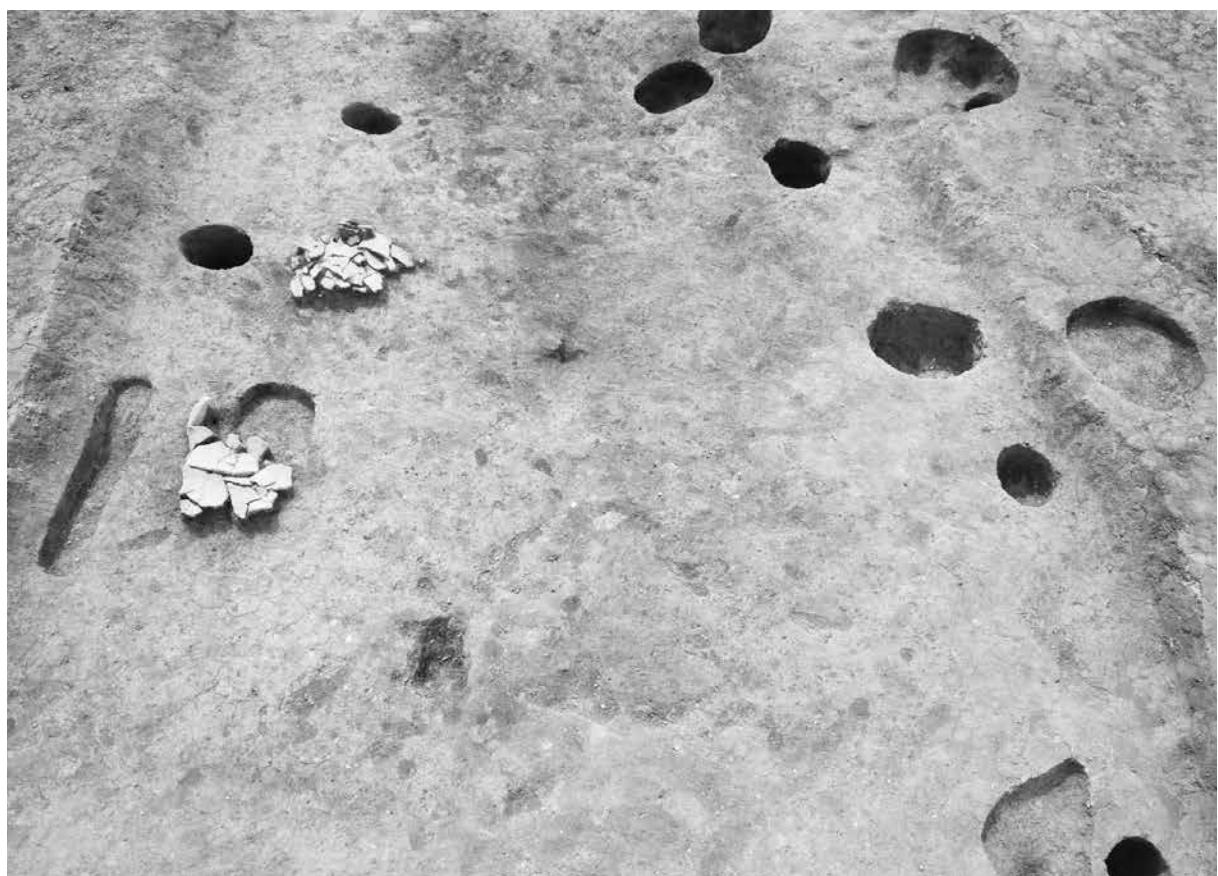


床下土坑全景・E→

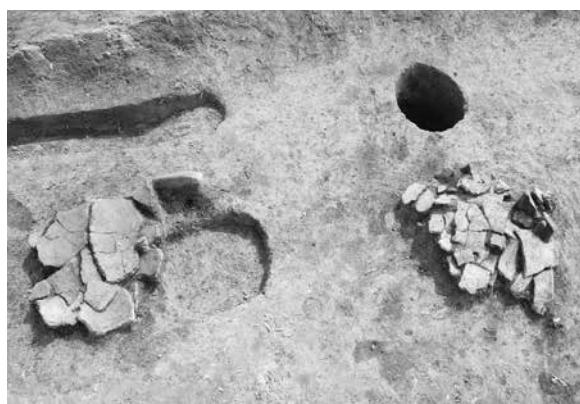


床下土坑断面・N→

#### 写真図版 4 1号竪穴建物 1



炉 1～3 検出状況・E→



土器出土状況・N→



炉 1 断面・E→



炉 2 断面・N→



炉 3 断面・W→



全景・E→



断面・W→



断面・S→



焼土塊検出状況・N→



炉3検出状況・N→

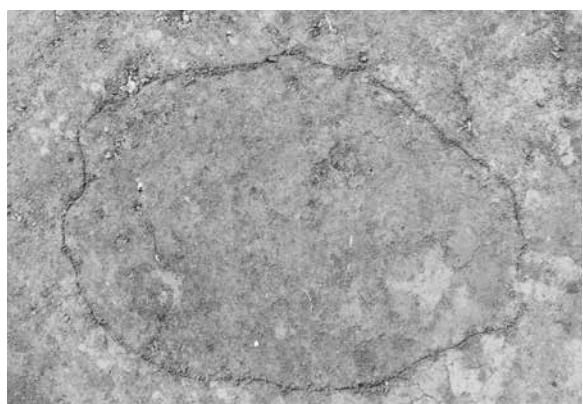
#### 写真図版6 2号竪穴建物



全景・NW→



断面・E→



炉1検出状況・N→



炉2検出状況・N→



炉3検出状況・N→

写真図版7 3号竪穴建物



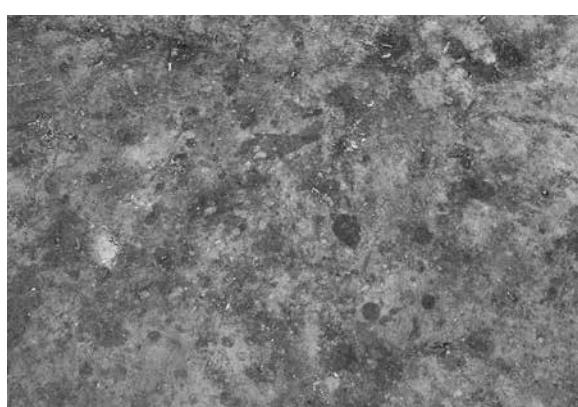
全景・SW→



断面・S→



断面・W→

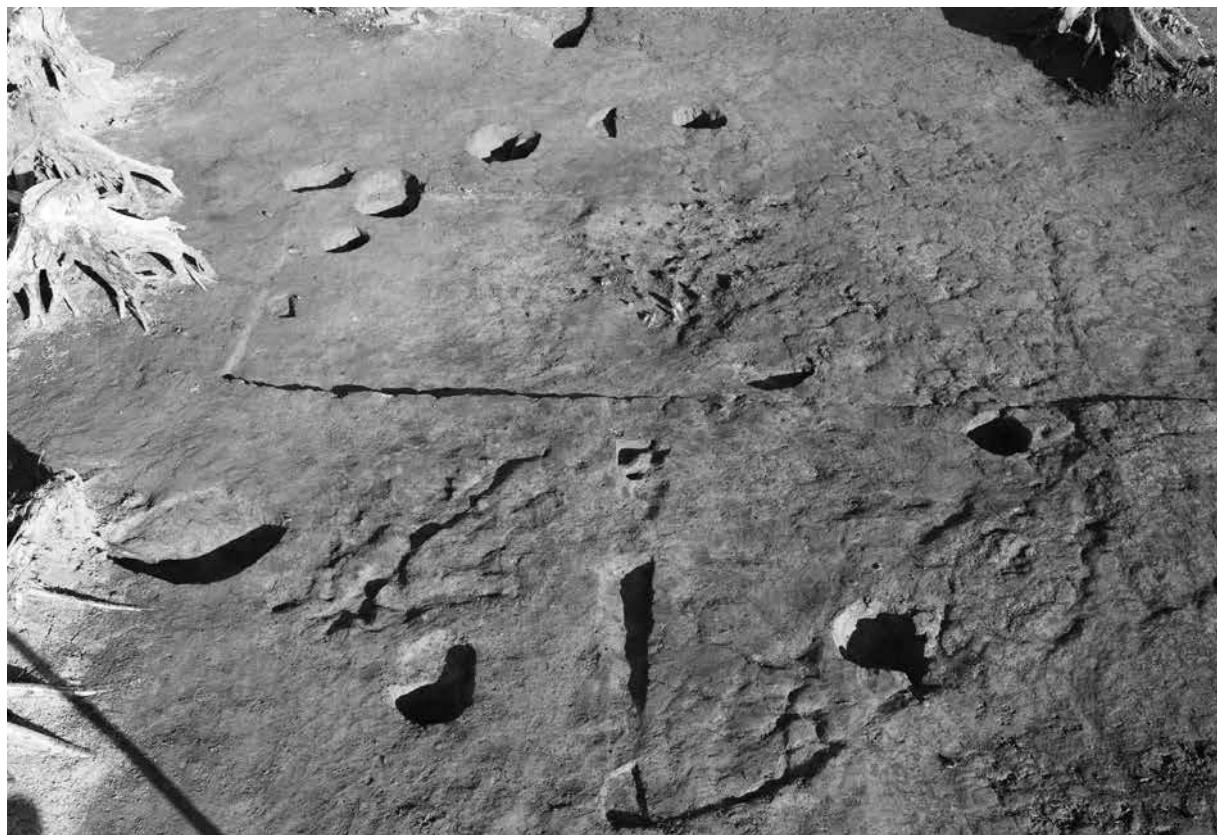


炉全景・SW→



炉断面・SE→

写真図版8 4号竪穴建物



全景・W→



断面・W→



遺物出土状況・E→



炉2検出状況・W→



炉2断面・SW→

写真図版9 5号竪穴建物



全景・NW→



断面・N→



炉1断面・E→



カマド全景・NW→



土坑2遺物出土状況・W→

#### 写真図版 10 6号竖穴建物



1号焼土遺構検出・S E→



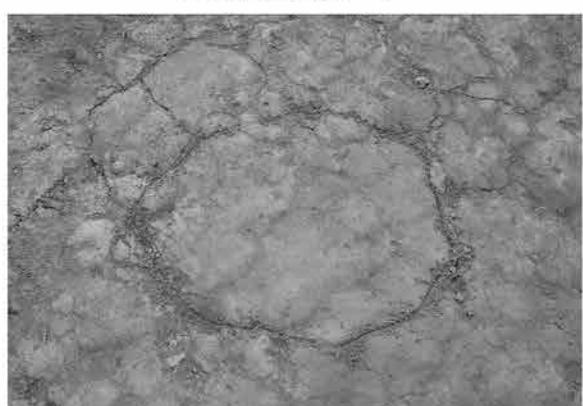
1号焼土遺構断面・S E→



2号焼土遺構検出・S→



2号焼土遺構断面・S→



3号焼土遺構検出・S→



3号焼土遺構断面・S→



1号土坑完掘・N E→



1号土坑断面・N E→

写真図版 11 1～3号焼土遺構、1号土坑



1号土坑 -P1 断面・N E→



2号土坑完掘・N E→



2号土坑断面・N E→



2号土坑 -P1 断面・N E→



3号土坑完掘・N E→



3号土坑断面・N E→



3号土坑 -P1 検出・N→



3号土坑 -P1 断面・S E→

#### 写真図版 12 1～3号土坑



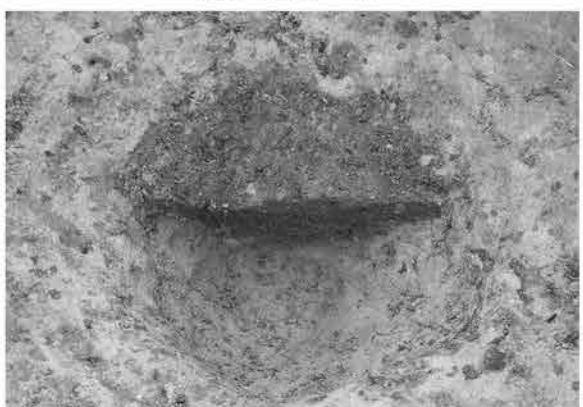
4号土坑完掘・N E→



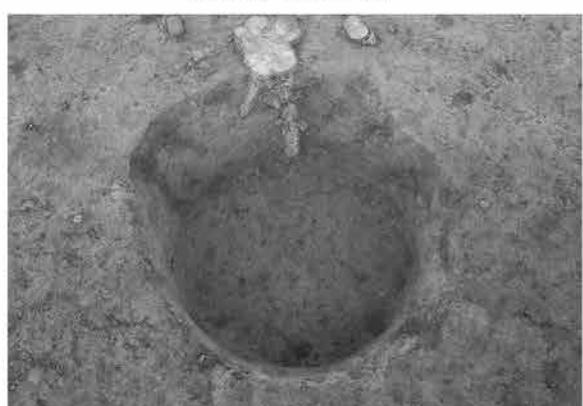
4号土坑断面・N E→



4号土坑-P1検出・N E→



4号土坑-P1断面・N E→



5号土坑完掘・S W→



5号土坑断面・S W→

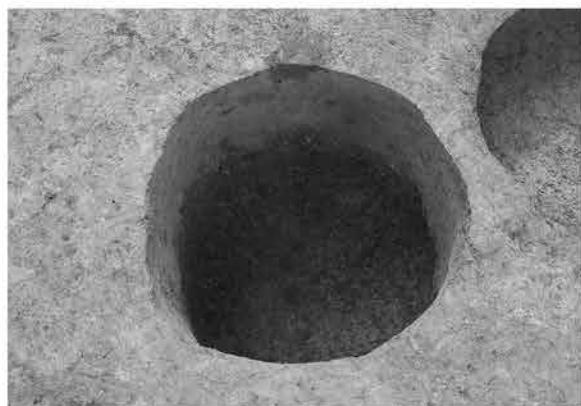


6号土坑完掘・N E→



6号土坑断面・N E→

写真図版 13 4～6号土坑



7号土坑完掘・N E→



7号土坑断面・N E→



8号土坑完掘・N E→



8号土坑断面・N E→



9号土坑完掘・S E→



9号土坑断面・S E→



10号土坑完掘・S→



10号土坑断面・S→

写真図版 14 7～10号土坑



11号土坑完掘・E→



11号土坑断面・E→



12号土坑完掘・N E→



12号土坑断面・N E→



13号土坑完掘・E→



13号土坑断面・N E→



14号土坑完掘・S W→



14号土坑断面・S W→

写真図版 15 11～14号土坑



15号土坑完掘・SW→



15号土坑断面・SW→



16号土坑完掘・NE→



16号土坑断面・NW→



17号土坑完掘・SE→



17号土坑断面・SE→

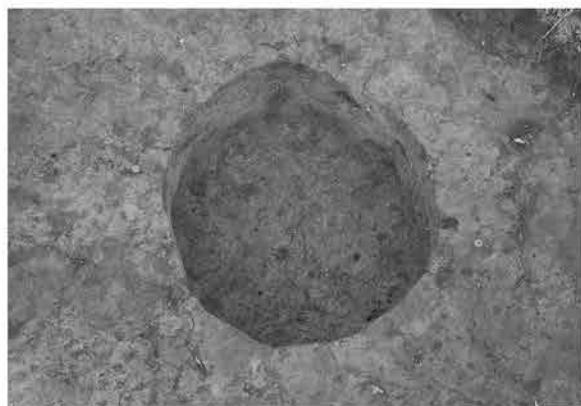


18号土坑完掘・E→

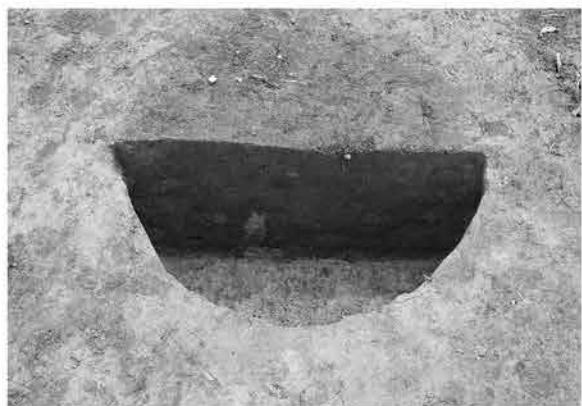


18号土坑断面・E→

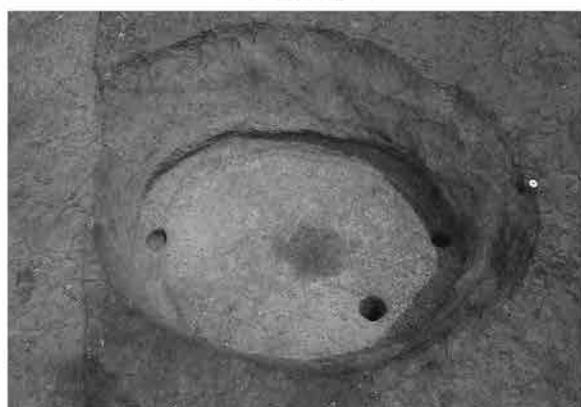
写真図版 16 15～18号土坑



19号土坑完掘・W→



19号土坑断面・W→



20号土坑全景・S→



20号土坑断面・S→



20号土坑遺物出土状況・S→



20号土坑底面検出状況・S→



20号土坑周溝西側断面・S→

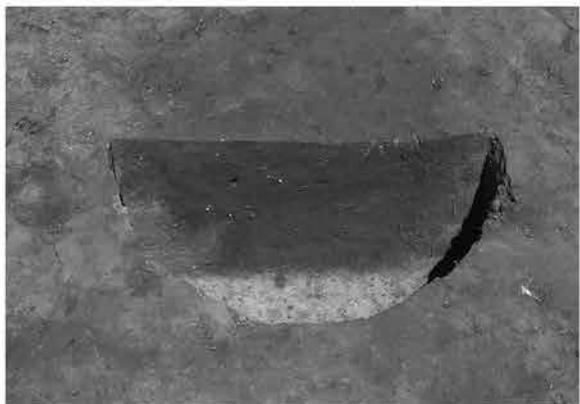


20号土坑炭化物断面・S→

#### 写真図版 17 19・20号土坑



21号土坑完掘・S→



21号土坑断面・S→



22号土坑完掘・N E→



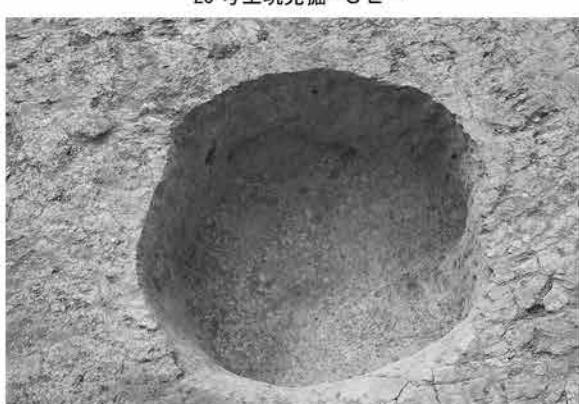
22号土坑断面・NW→



23号土坑完掘・S E→



23号土坑断面・S E→



24号土坑完掘・S E→

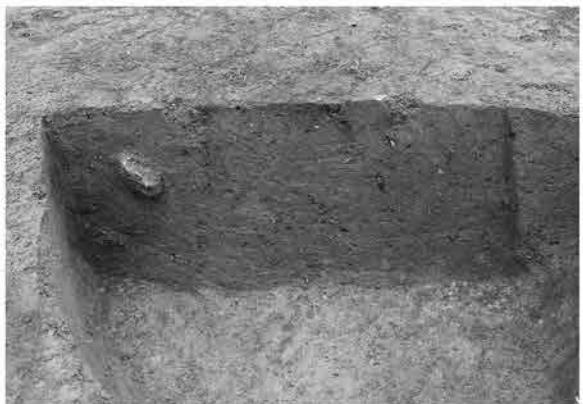


24号土坑断面・S E→

写真図版 18 21～24号土坑



25号土坑完掘・S→



25号土坑断面・S→



26号土坑完掘・E→



26号土坑断面・E→



27号土坑完掘・N→



27号土坑断面・N→

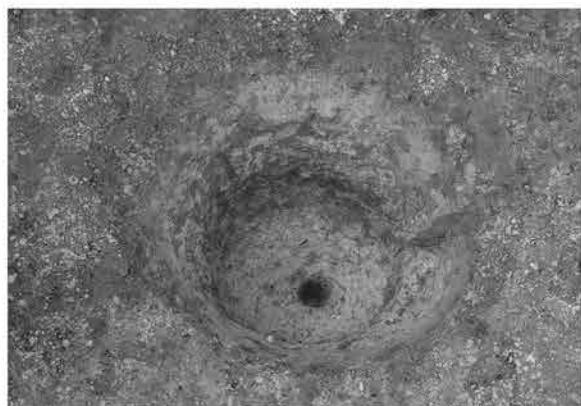


28号土坑完掘・E→



28号土坑断面・E→

写真図版 19 25～28号土坑



1号陷し穴状遺構完掘・E→



1号陷し穴状遺構断面・E→



2号陷し穴状遺構完掘・E→



2号陷し穴状遺構断面・E→



3号陷し穴状遺構完掘・N E→



3号陷し穴状遺構断面・N E→



3号陷し穴状遺構杭穴検出・N E→



3号陷し穴状遺構杭穴断面・NW→

写真図版 20 1～3号陷し穴状遺構



4号陥し穴状遺構完掘・N E→



4号陥し穴状遺構断面・N E→



4号陥し穴状遺構杭穴断面・N E→



6号陥し穴状遺構完掘・S→



6号陥し穴状遺構断面・S→



6号陥し穴状遺構杭穴断面・E→



5号陥し穴状遺構完掘・S→



5号陥し穴状遺構断面・S→

写真図版 21 4～6号陥し穴状遺構



7号陥し穴状遺構完掘・W→



7号陥し穴状遺構断面・SW→



7号陥し穴状遺構杭穴断面・W→



9号陥し穴状遺構完掘・E→



9号陥し穴状遺構断面・NE→



9号陥し穴状遺構・P1・P2断面・NE→



8号陥し穴状遺構完掘・S→



8号陥し穴状遺構断面・S→

写真図版 22 7～9号陥し穴状遺構



10号陥し穴状遺構完掘・S→



10号陥し穴状遺構断面・S→



10号陥し穴状遺構杭穴完掘・S→



12号陥し穴状遺構完掘・W→



12号陥し穴状遺構断面・W→



12号陥し穴状遺構杭穴断面・W→



11号陥し穴状遺構完掘・N→



11号陥し穴状遺構断面・N→

写真図版 23 10～12号陥し穴状遺構



13号陷し穴状遺構完掘・N→



13号陷し穴状遺構断面・N→



13号陷し穴状遺構杭穴断面・N→



14号陷し穴状遺構完掘・W→



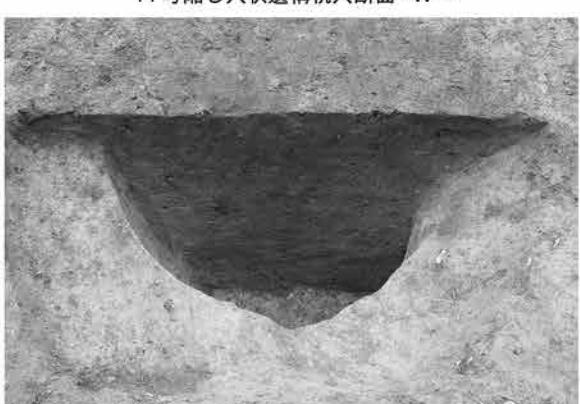
14号陷し穴状遺構杭穴断面・W→



14号陷し穴状遺構完掘・W→

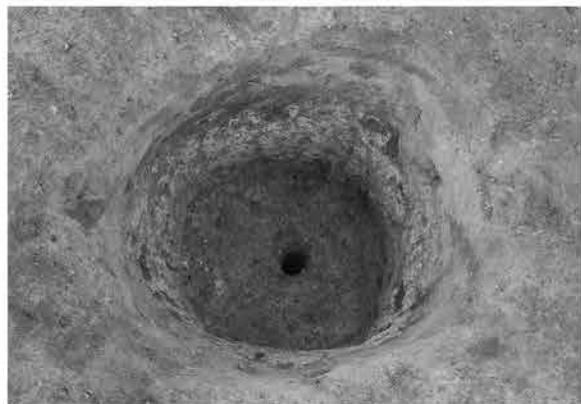


15号陷し穴状遺構完掘・S→



15号陷し穴状遺構断面・S→

#### 写真図版 24 13～15号陷し穴状遺構



16号陥し穴状遺構完掘・S→



16号陥し穴状遺構断面・S→



17号陥し穴状遺構完掘・S E→



17号陥し穴状遺構断面・S E→



17号陥し穴状遺構杭穴断面・S W→



18号陥し穴状遺構完掘・W→



18号陥し穴状遺構断面・E→



18号陥し穴状遺構杭穴断面・S→



19号陥し穴状遺構完掘・NW→



19号陥し穴状遺構断面・NW→



19号陥し穴状遺構杭穴断面・NW→



20号陥し穴状遺構完掘・NE→



20号陥し穴状遺構断面・NE→



20号陥し穴状遺構杭穴検出・E→



20号陥し穴状遺構杭穴断面・E→



21号陥し穴状遺構完掘・E→

写真図版 26 19～21号陥し穴状遺構



21号陷し穴状遺構断面・S→



21号陷し穴状遺構杭穴断面・E→



22号陷し穴状遺構完掘・N E→



22号陷し穴状遺構断面・N→



22号陷し穴状遺構杭穴断面・S E→



23号陷し穴状遺構完掘・NW→



23号陷し穴状遺構断面・N→



23号陷し穴状遺構杭穴断面・NW→



24号陷し穴状遺構杭穴検出・E→



24号陷し穴状遺構断面・N→



24号陷し穴状遺構杭穴断面・N→



24号陷し穴状遺構-P4・P2断面断ち割り・N→



25号陷し穴状遺構完掘・SW→



25号陷し穴状遺構断面・S→



25号陷し穴状遺構杭穴検出・NE→



25号陷し穴状遺構杭穴断面・NE→

写真図版 28 24・25号陷し穴状遺構



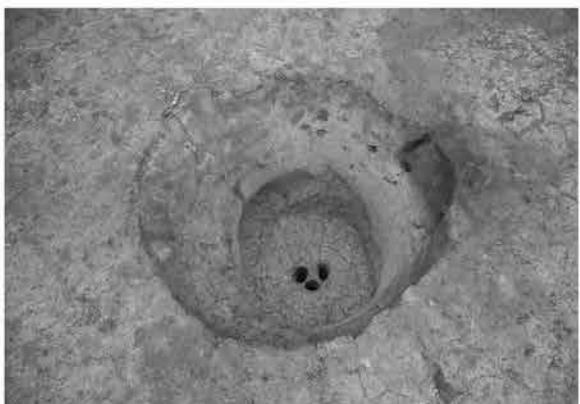
26号陥し穴状遺構完掘・N→



26号陥し穴状遺構断面・N→



26号陥し穴状遺構杭穴断面・N→



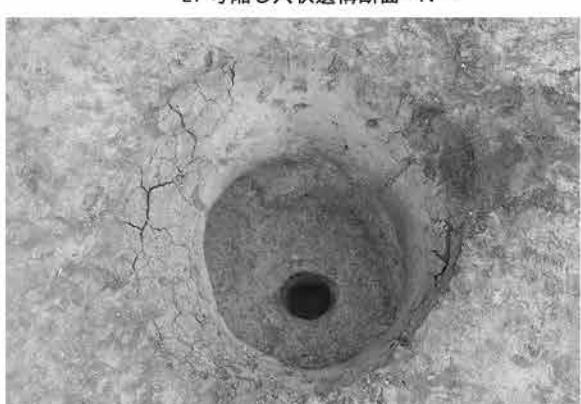
27号陥し穴状遺構全景・N→



27号陥し穴状遺構断面・N→



27号陥し穴状遺構杭穴断面・N→



27号陥し穴状遺構完掘・N→



28号陥し穴状遺構完掘・S E→

写真図版 29 26～28号陥し穴状遺構



28号陥し穴状遺構断面・N E→



28号陥し穴状遺構杭穴断面・S E→



29号陥し穴状遺構全景・N E→



29号陥し穴状遺構断面・N E→



29号陥し穴状遺構杭穴完掘・N E→



30号陥し穴状遺構完掘・N E→



30号陥し穴状遺構断面・N E→



30号陥し穴状遺構杭穴断面・N E→

### 写真図版 30 28～30号陥し穴状遺構



31号陷し穴状遺構全景・NW→



31号陷し穴状遺構断面・SW→



31号陷し穴状遺構 -P1断面・SW→



31号陷し穴状遺構 -P2・P3断面・SE→



31号陷し穴状遺構完掘・SW→



31号陷し穴状遺構杭穴完掘・NE→



32号陷し穴状遺構完掘・NW→



32号陷し穴状遺構断面・N→

写真図版 31 31・32号陷し穴状遺構



33号陥し穴状遺構全景・NW→



33号陥し穴状遺構断面・N→



33号陥し穴状遺構杭穴断面・W→



33号陥し穴状遺構杭穴完掘・NW→



34号陥し穴状遺構全景・N→



34号陥し穴状遺構断面・N→



34号陥し穴状遺構杭穴完掘・N→



34号陥し穴状遺構完掘・N→

#### 写真図版 32 33・34号陥し穴状遺構



35号陥し穴状遺構全景・E→



35号陥し穴状遺構断面・E→



35号陥し穴状遺構杭穴断面・E→



35号陥し穴状遺構完掘・N E→



36号陥し穴状遺構全景・SW→



36号陥し穴状遺構断面・W→



36号陥し穴状遺構杭穴断面・W→

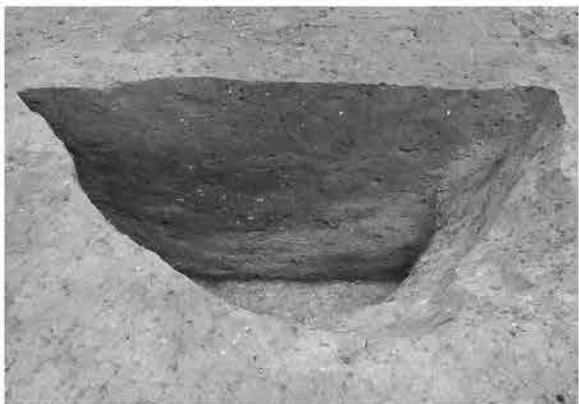


36号陥し穴状遺構完掘・SW→

写真図版 33 35・36号陥し穴状遺構



37号陷し穴状遺構全景・E→



37号陷し穴状遺構断面・S E→



37号陷し穴状遺構・P1・P2断面・E→



37号陷し穴状遺構杭穴断面・N→



37号陷し穴状遺構完掘・E→



38号陷し穴状遺構完掘・N→



38号陷し穴状遺構断面・N→



38号陷し穴状遺構-P1～4断面・N→

写真図版 34 37・38号陷し穴状遺構



39号陥し穴状遺構完掘・N→



39号陥し穴状遺構断面・N→



39号陥し穴状遺構-P2断面・E→



39号陥し穴状遺構-P1・P3断面・N→



40号陥し穴状遺構完掘・N→



40号陥し穴状遺構断面・N E→



40号陥し穴状遺構-P4・P2断面・E→



40号陥し穴状遺構-P1・P3断面・N→

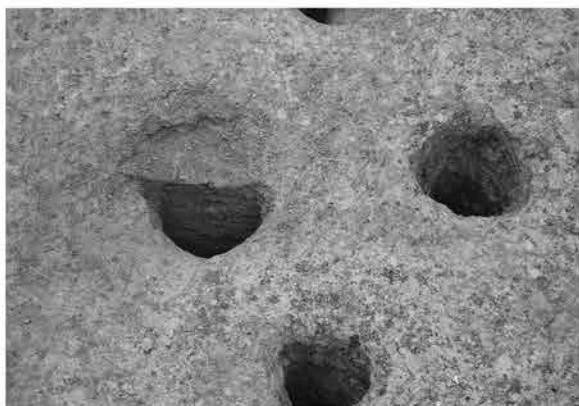
写真図版 35 39・40号陥し穴状遺構



41号陥し穴状遺構完掘・N E→



41号陥し穴状遺構断面・E→



41号陥し穴状遺構-P4断面・S E→



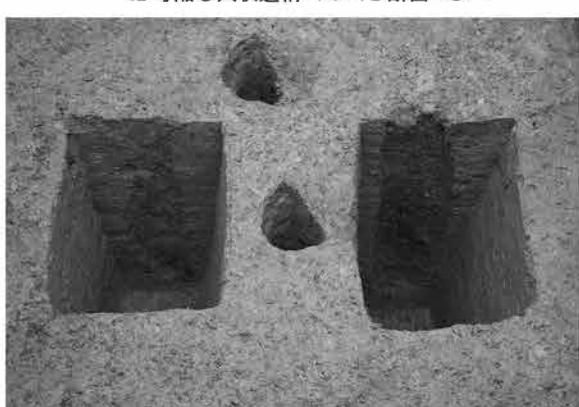
41号陥し穴状遺構-P3断面・S W→



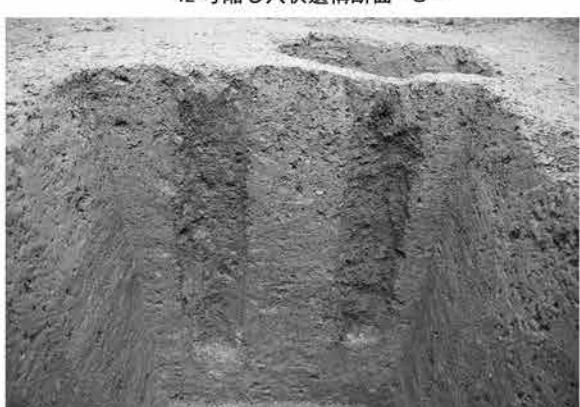
42号陥し穴状遺構-P4・P2断面・S→



42号陥し穴状遺構断面・S→



42号陥し穴状遺構-P4・P2断面断ち割り・S→



42号陥し穴状遺構-P1・P3断面断ち割り・W→

写真図版 36 41・42号陥し穴状遺構



43号陥し穴状遺構完掘・N→



43号陥し穴状遺構断面・N→



43号陥し穴状遺構-P3・P4断面・E→



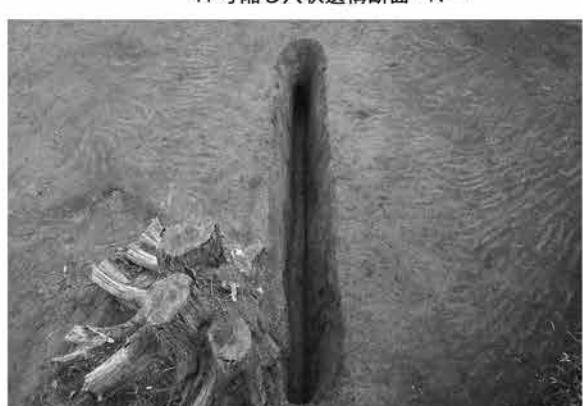
44号陥し穴状遺構完掘・N→



44号陥し穴状遺構断面・N→



44号陥し穴状遺構-P3・P4断面・N→

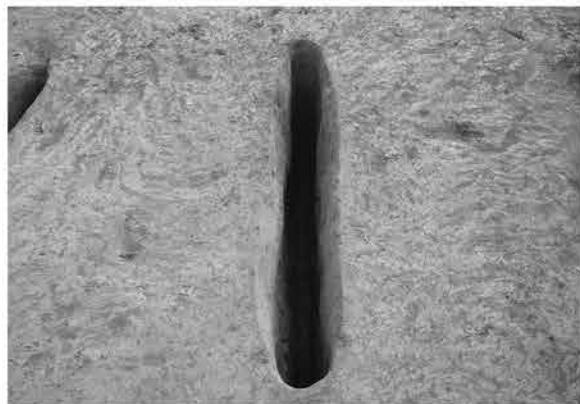


45号陥し穴状遺構完掘・NW→



45号陥し穴状遺構断面・NW→

写真図版 37 43～45号陥し穴状遺構



46号陷し穴状遺構完掘・N→



46号陷し穴状遺構断面・N→



47号陷し穴状遺構完掘・N E→



47号陷し穴状遺構断面・N E→



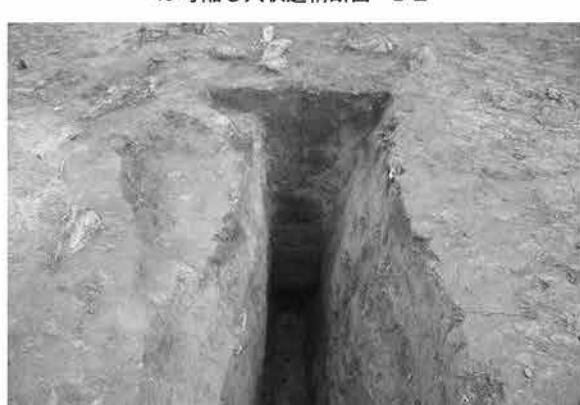
48号陷し穴状遺構完掘・S E→



48号陷し穴状遺構断面・S E→



49号陷し穴状遺構完掘・N→



49号陷し穴状遺構断面・N→

#### 写真図版 38 46～49号陷し穴状遺構



50号陷し穴状遺構完掘・N E→



50号陷し穴状遺構断面・N E→



51号陷し穴状遺構完掘・N→



51号陷し穴状遺構断面・N→



52号陷し穴状遺構完掘・S W→



52号陷し穴状遺構断面・S W→



53号陷し穴状遺構完掘・S E→



53号陷し穴状遺構断面・S E→

写真図版 39 50～53号陷し穴状遺構



54号陥し穴状遺構完掘・NW→



54号陥し穴状遺構断面・NW→



55号陥し穴状遺構完掘・NW→



55号陥し穴状遺構断面・NW→



56号陥し穴状遺構完掘・N→



56号陥し穴状遺構断面・N→



57号陥し穴状遺構完掘・SE→



57号陥し穴状遺構断面・SE→

#### 写真図版 40 54～57号陥し穴状遺構



58号陥し穴状遺構完掘・S E→



58号陥し穴状遺構断面・E→



59号陥し穴状遺構完掘・S W→



59号陥し穴状遺構断面・S W→



60号陥し穴状遺構完掘・N W→



60号陥し穴状遺構断面・N W→

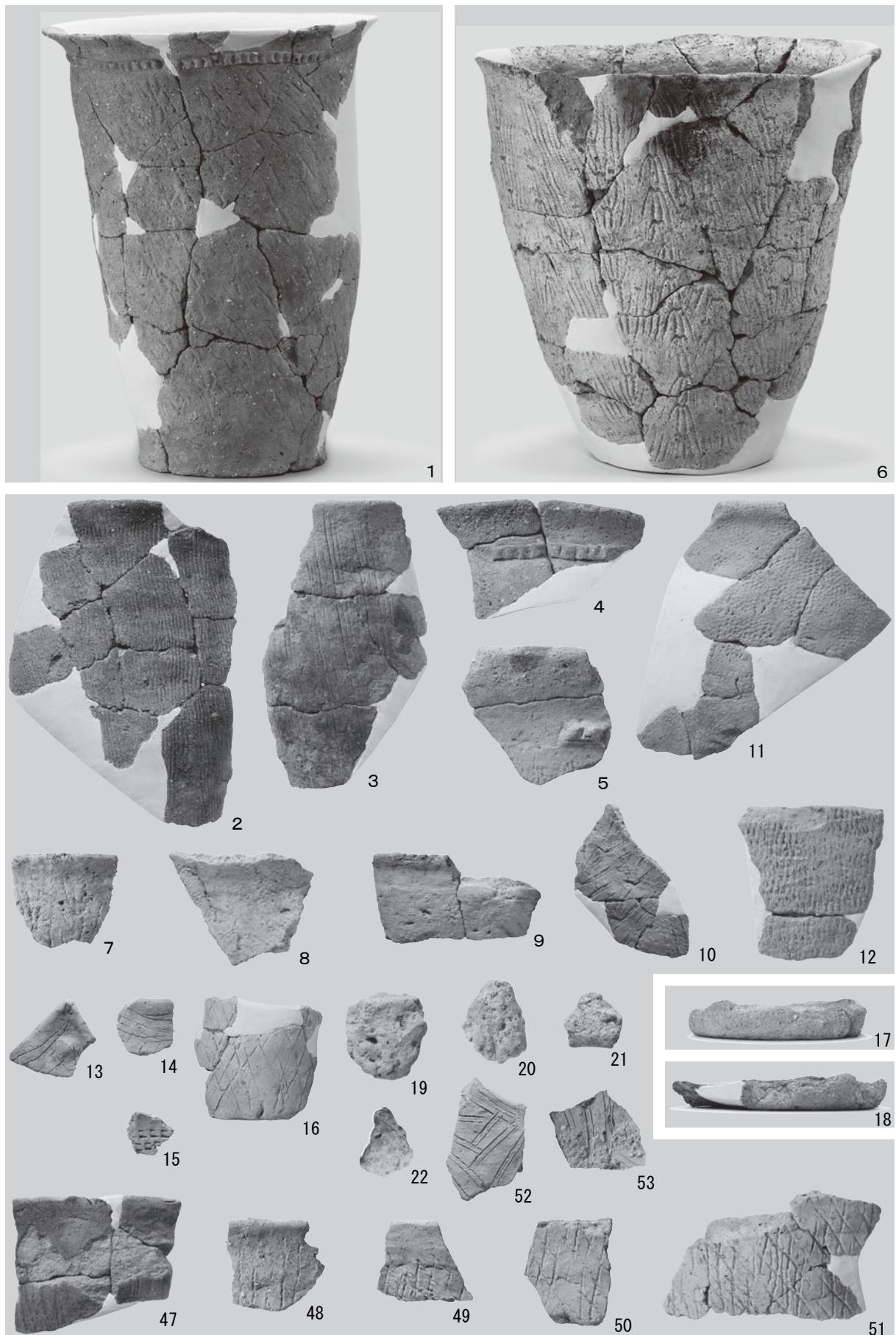


61号陥し穴状遺構完掘・S E→

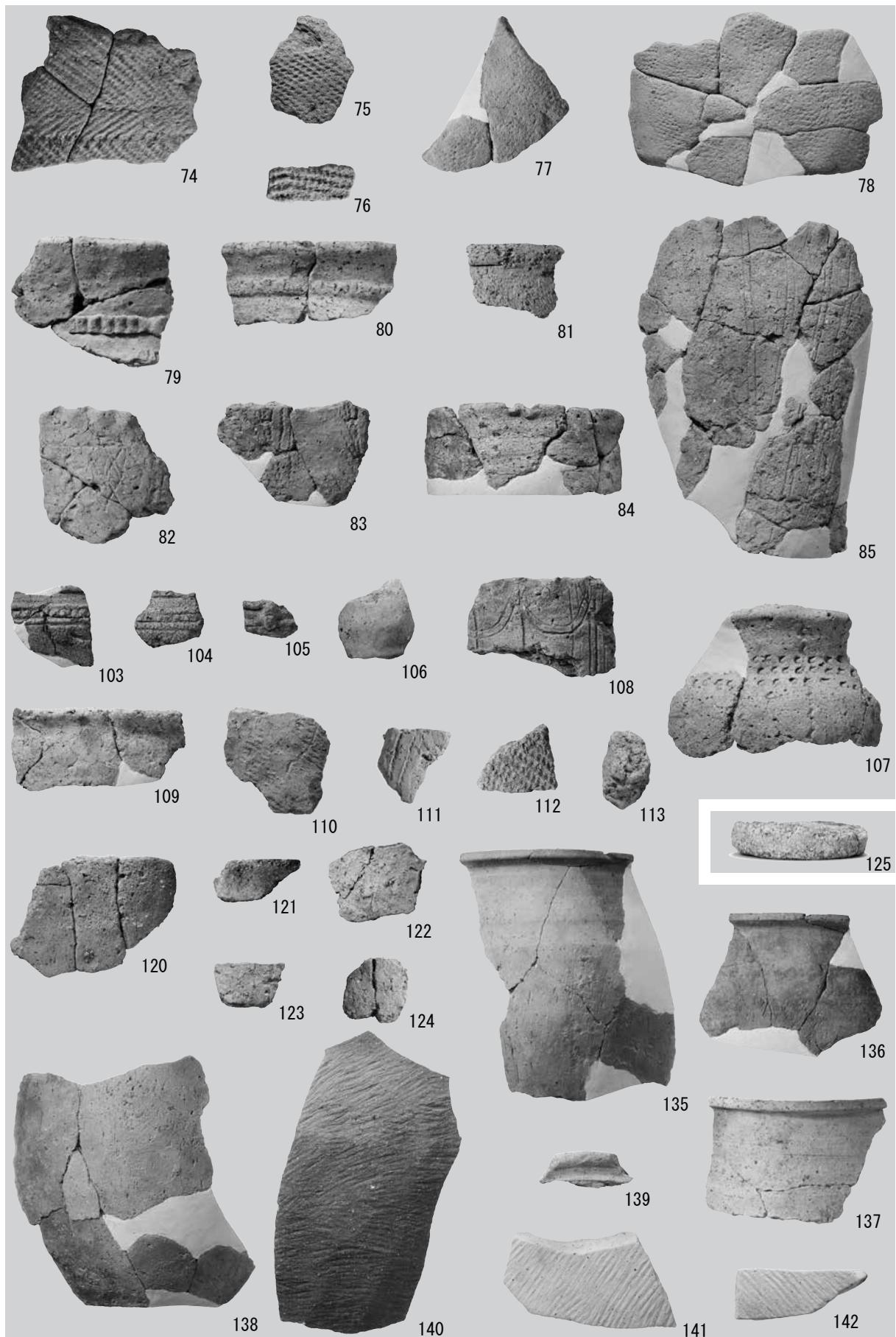


61号陥し穴状遺構断面・S W→

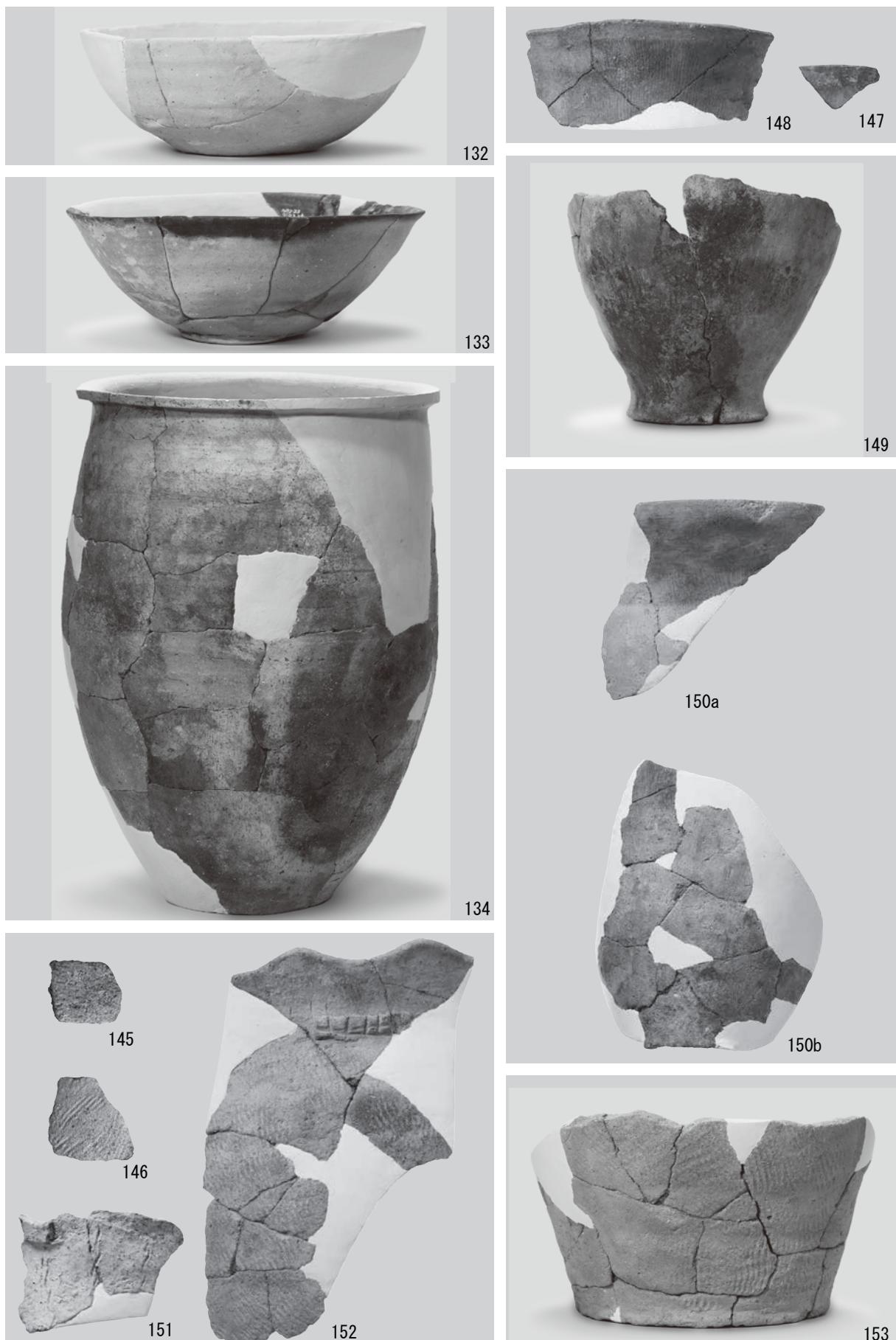
写真図版 41 58～61号陥し穴状遺構



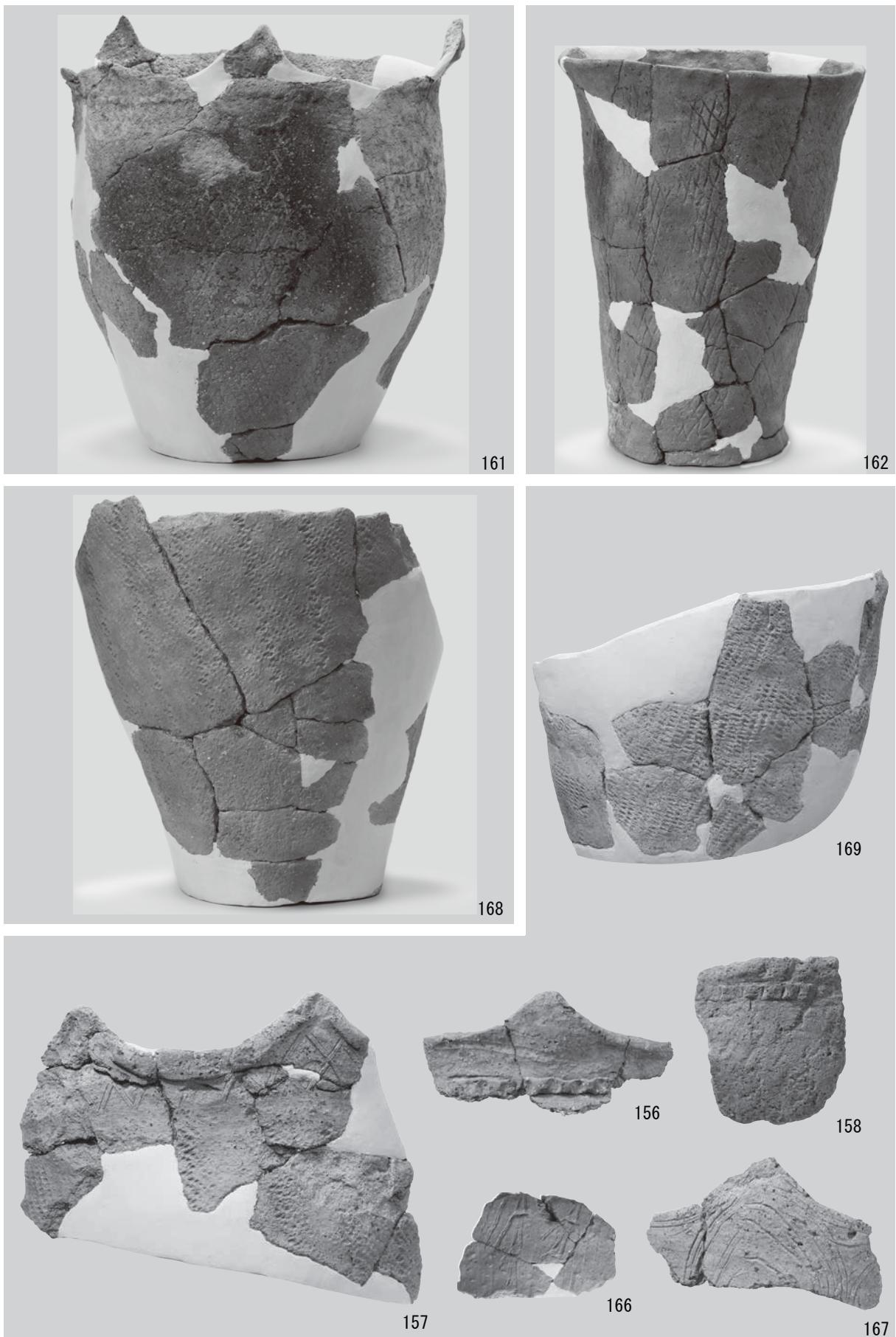
写真図版 42 出土遺物 1



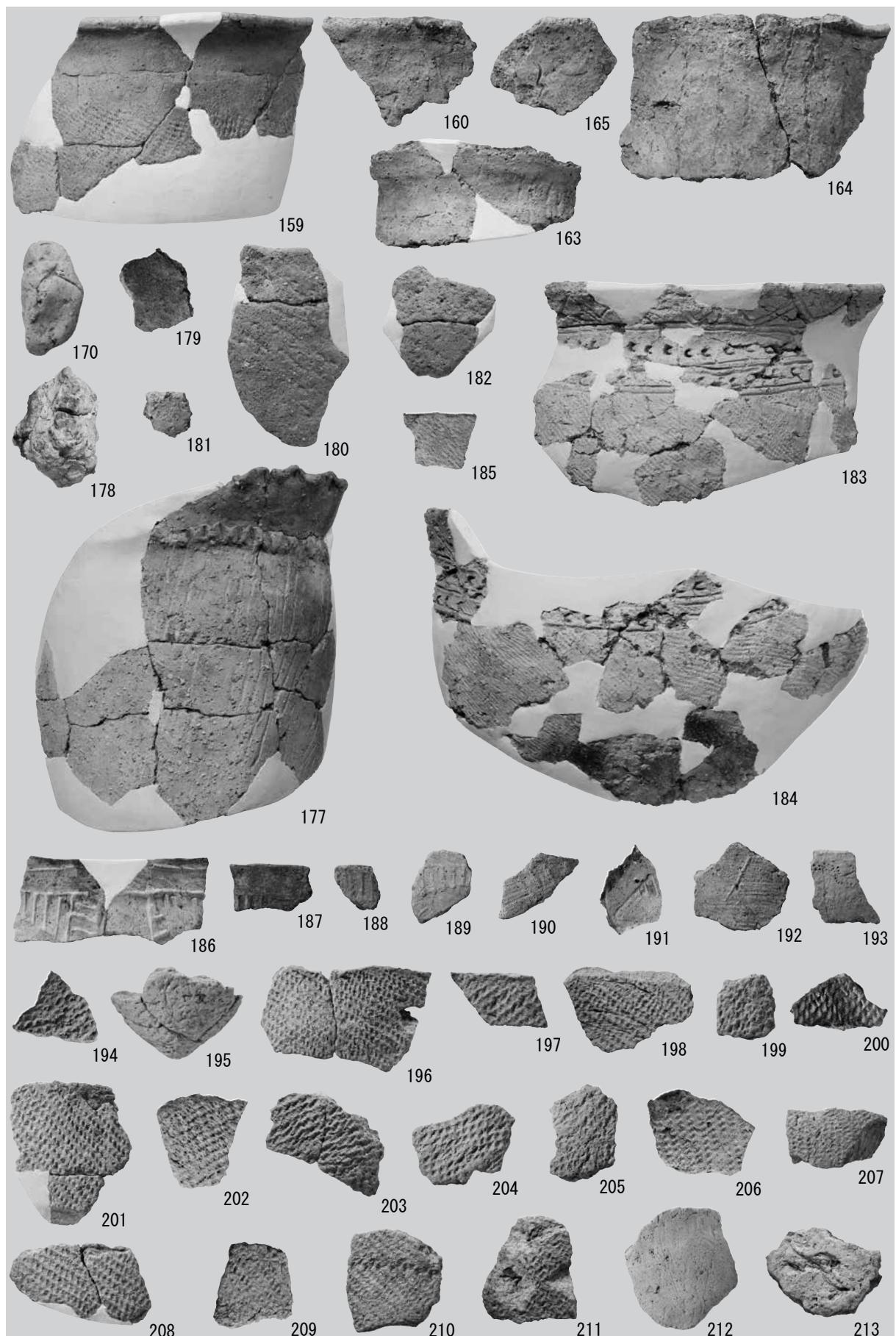
写真図版 43 出土遺物 2



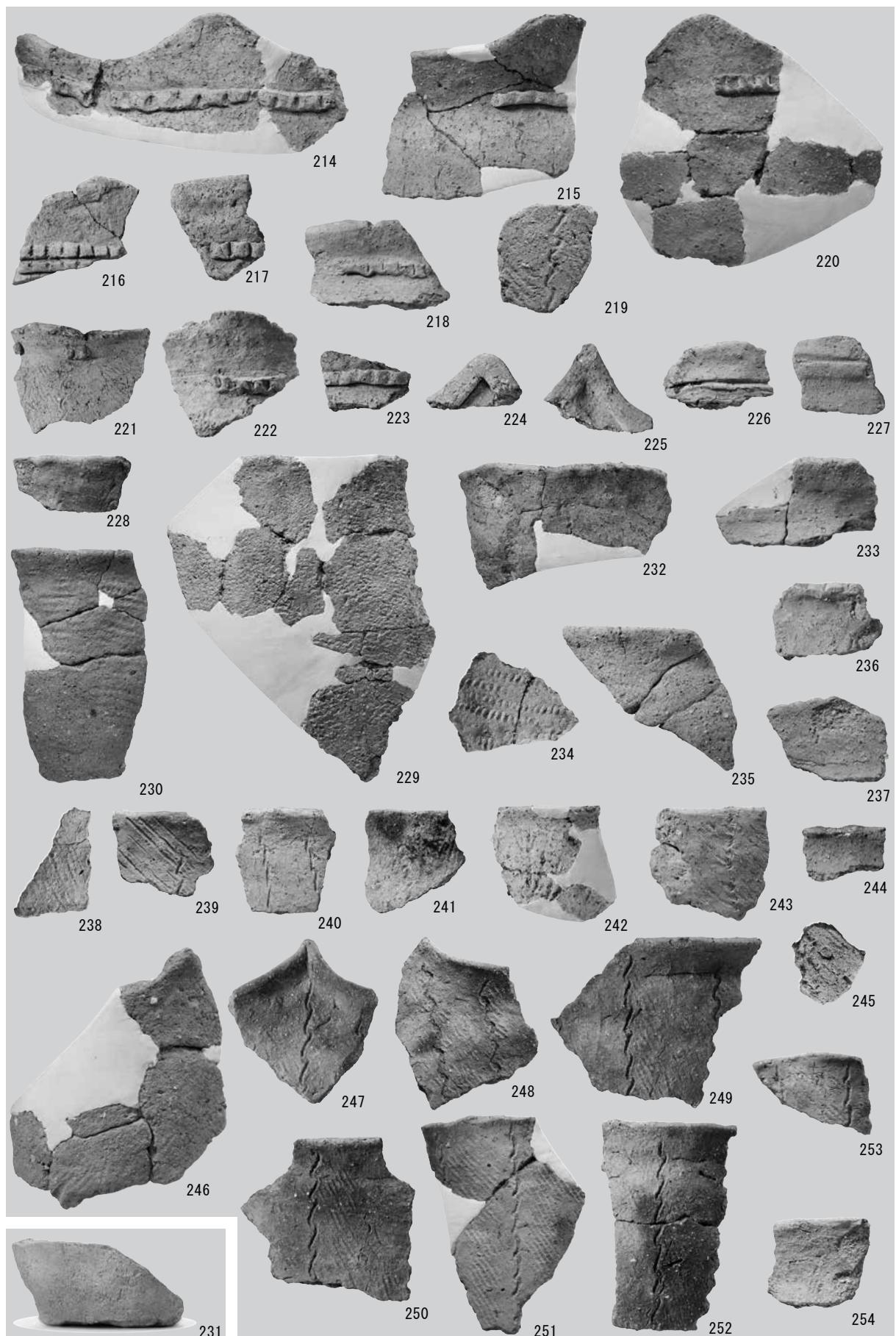
写真図版 44 出土遺物 3



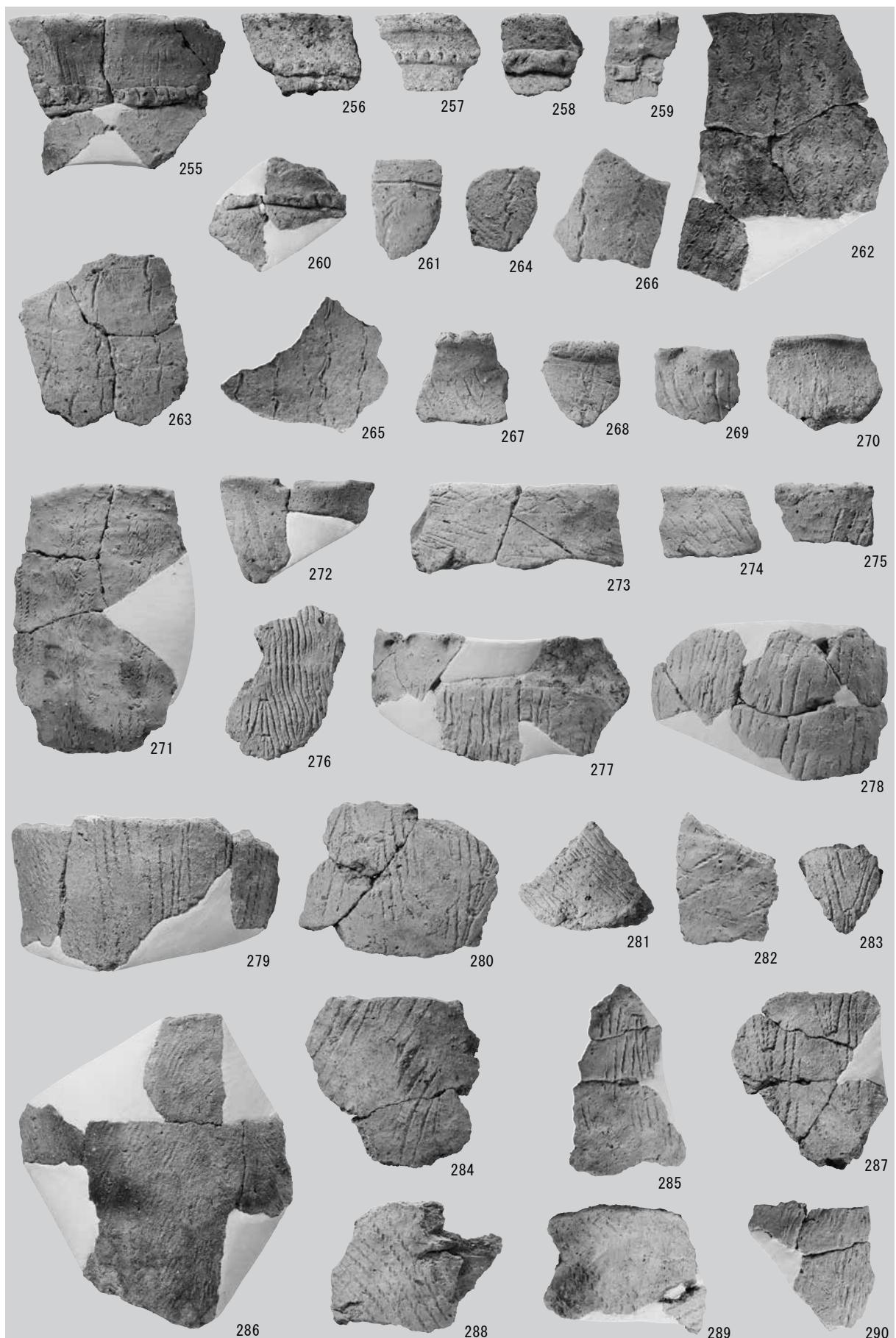
写真図版 45 出土遺物 4



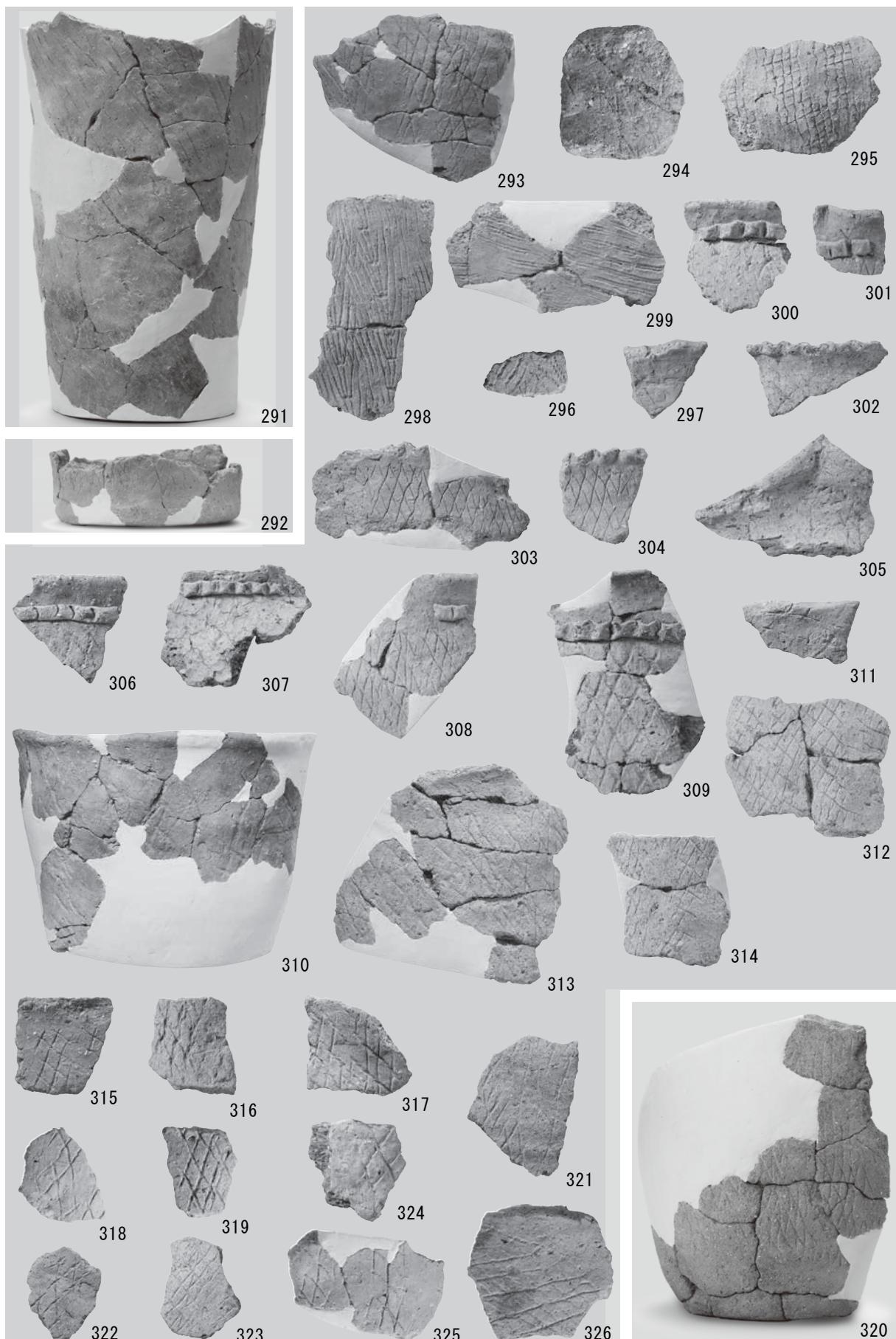
写真図版 46 出土遺物 5



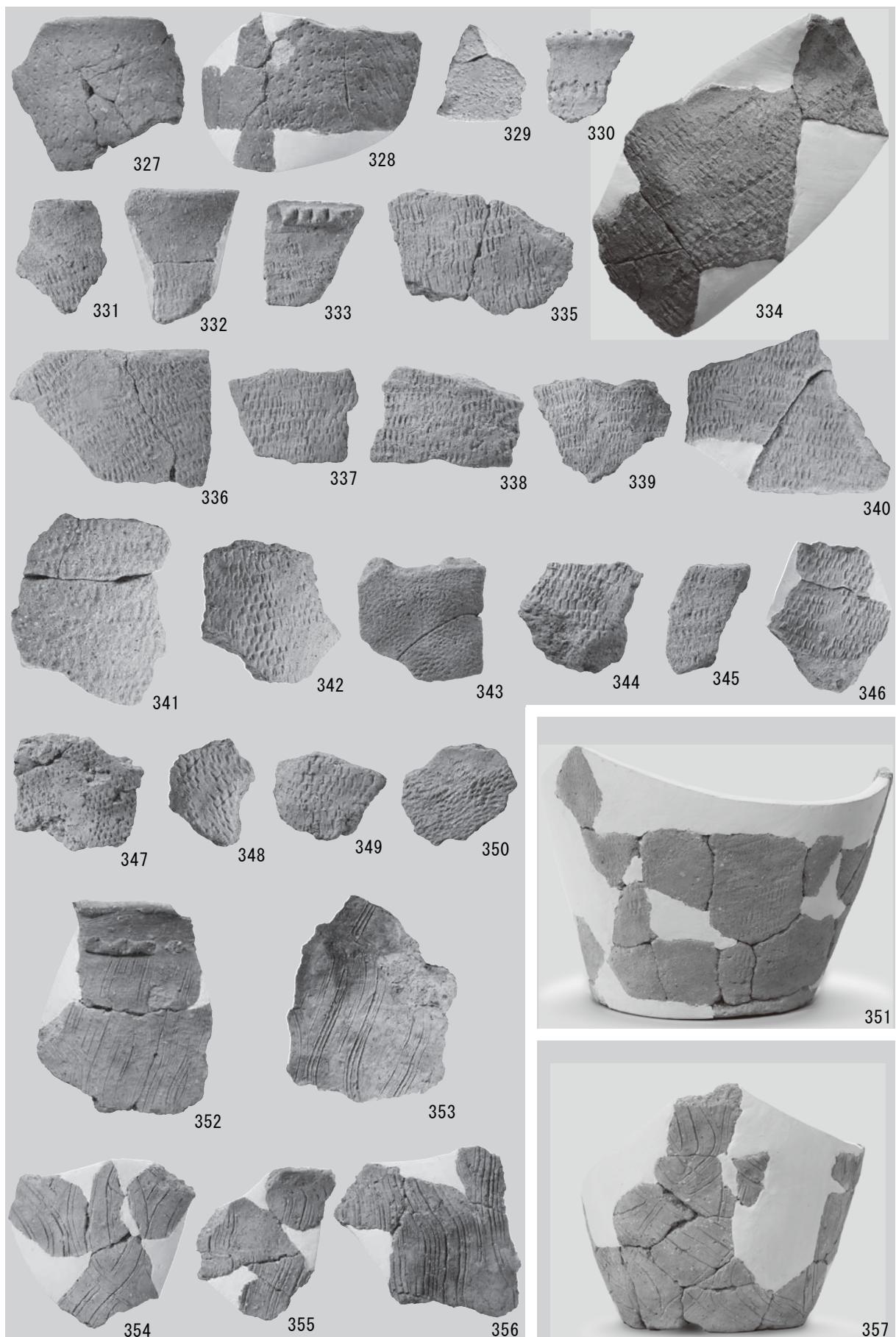
写真図版 47 出土遺物 6



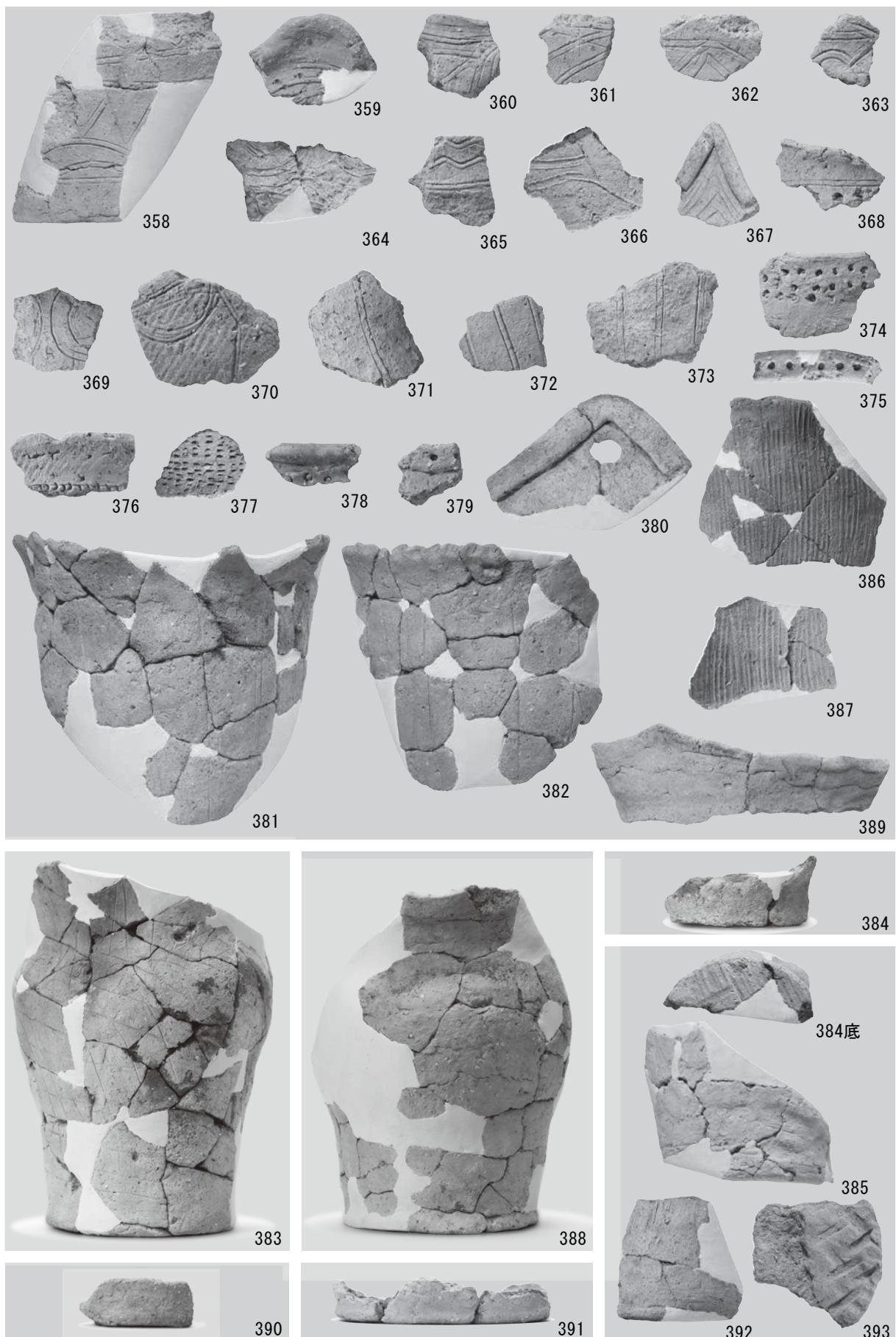
写真図版 48 出土遺物 7



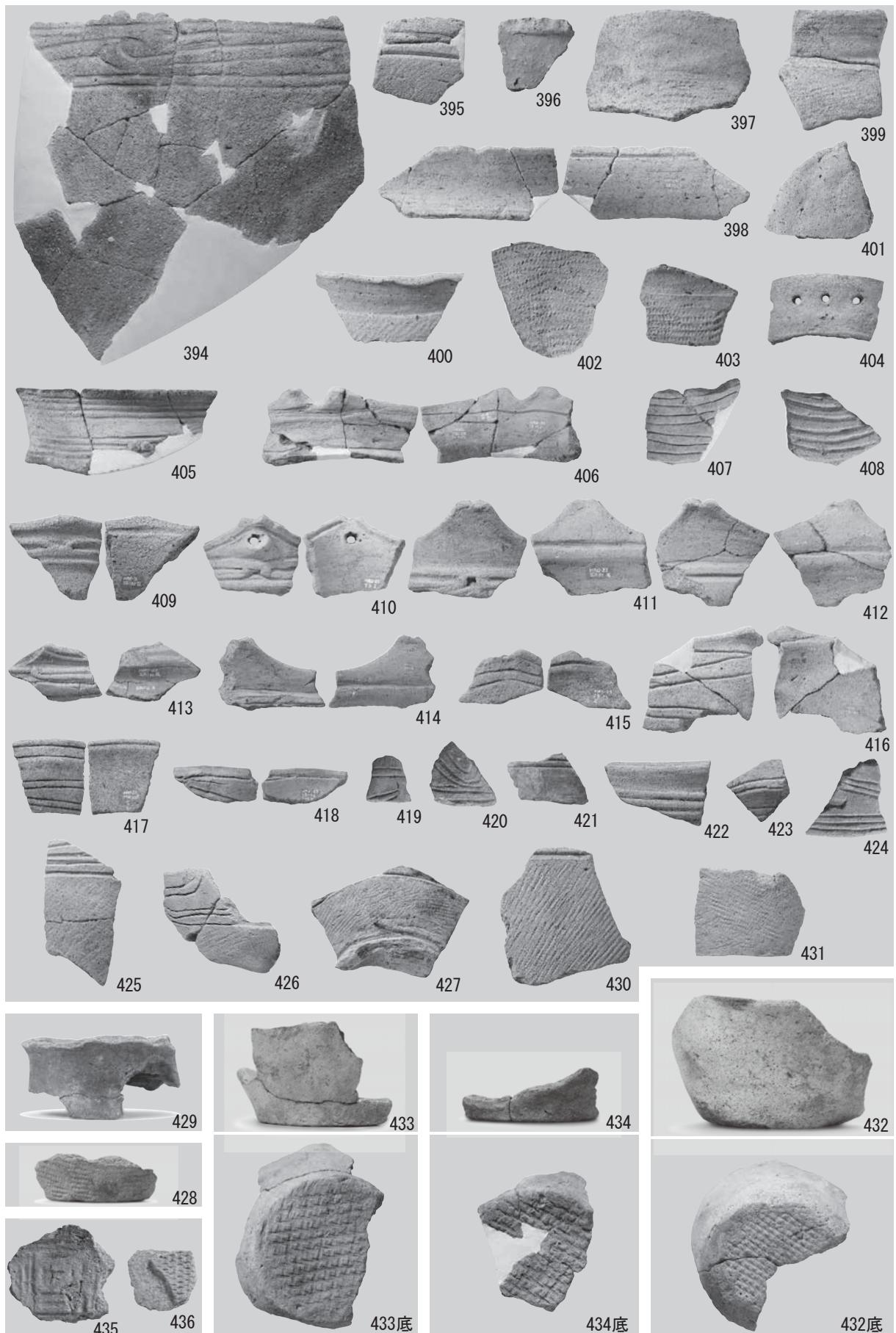
写真図版 49 出土遺物 8



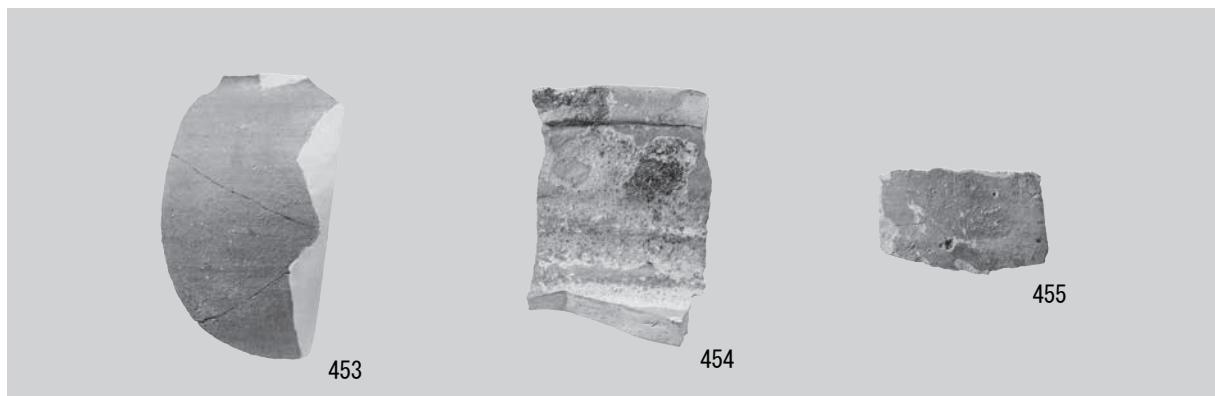
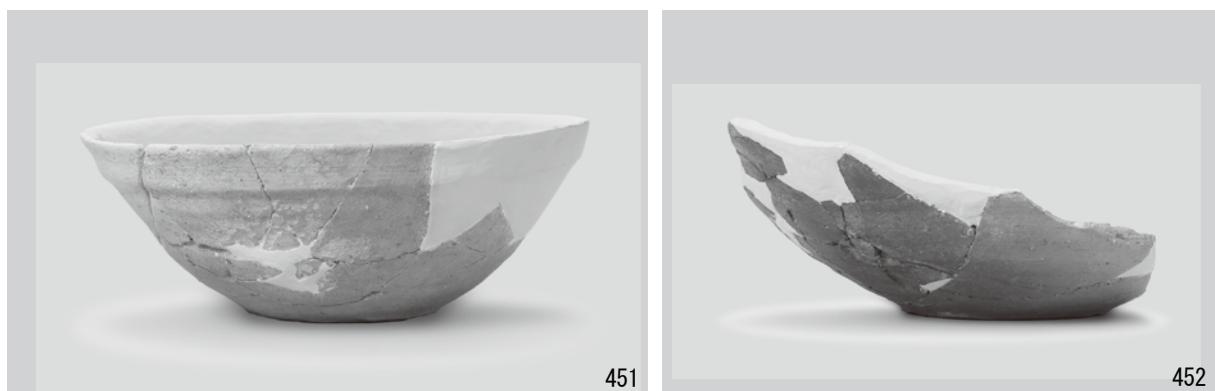
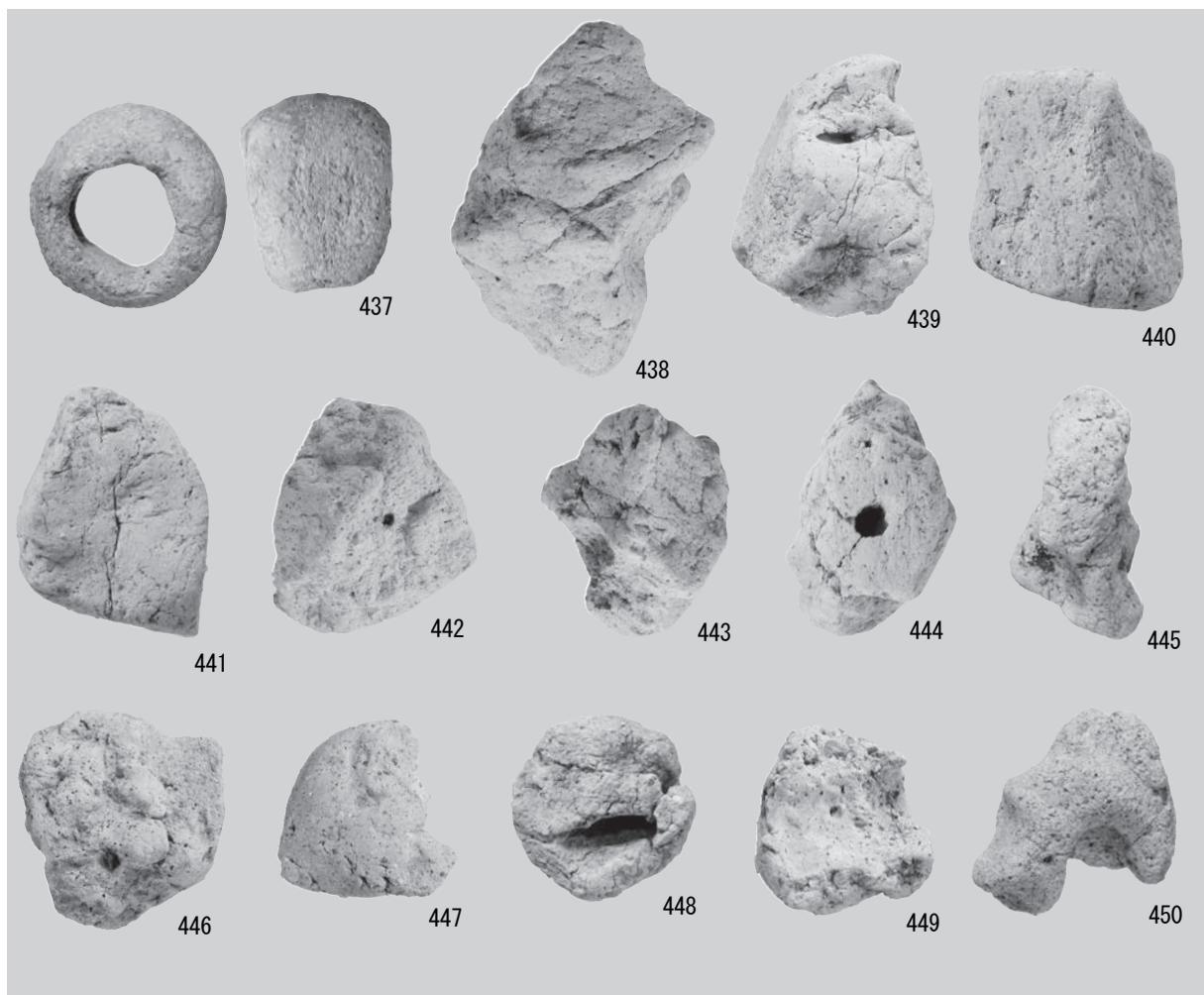
写真図版 50 出土遺物 9



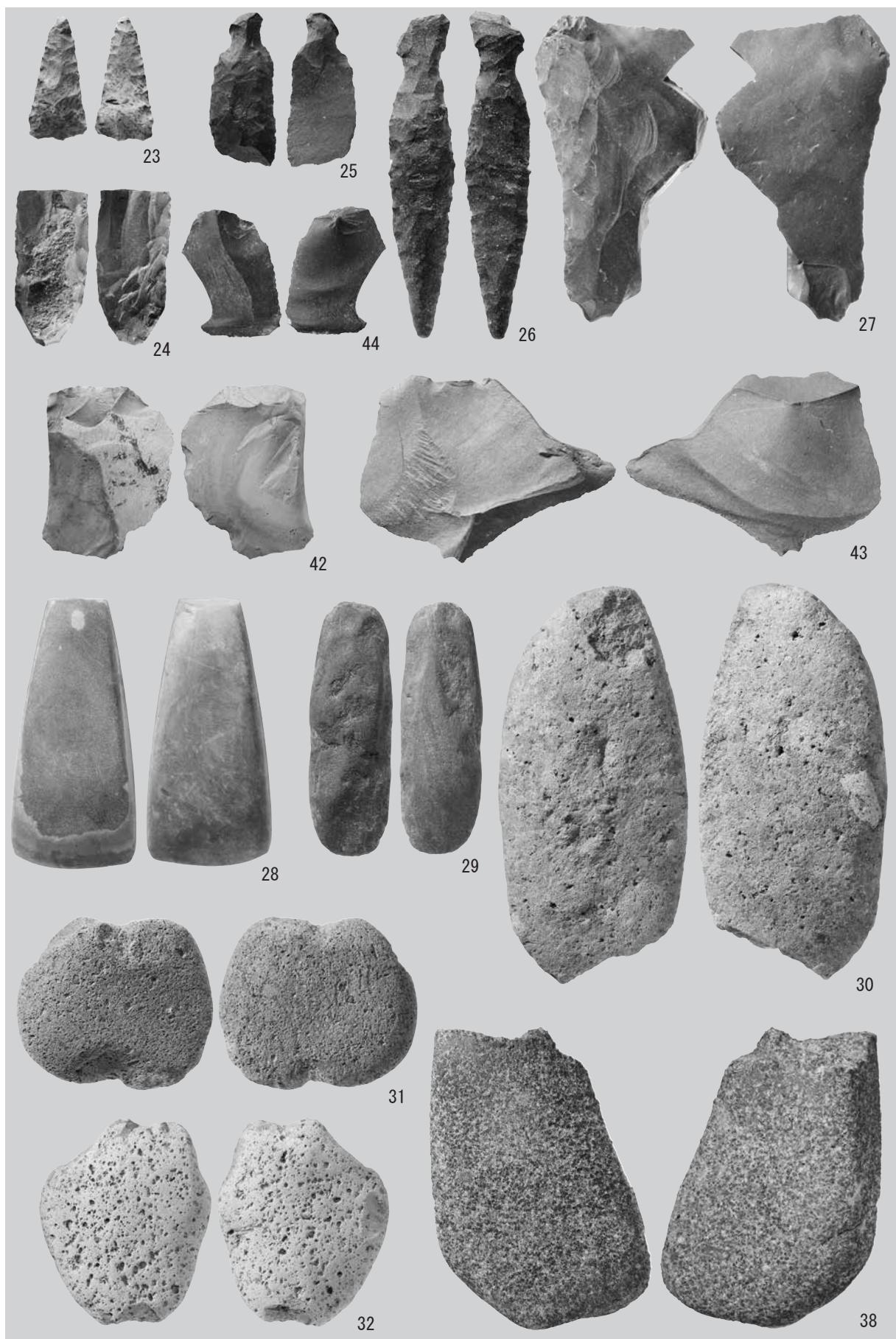
写真図版 51 出土遺物 10



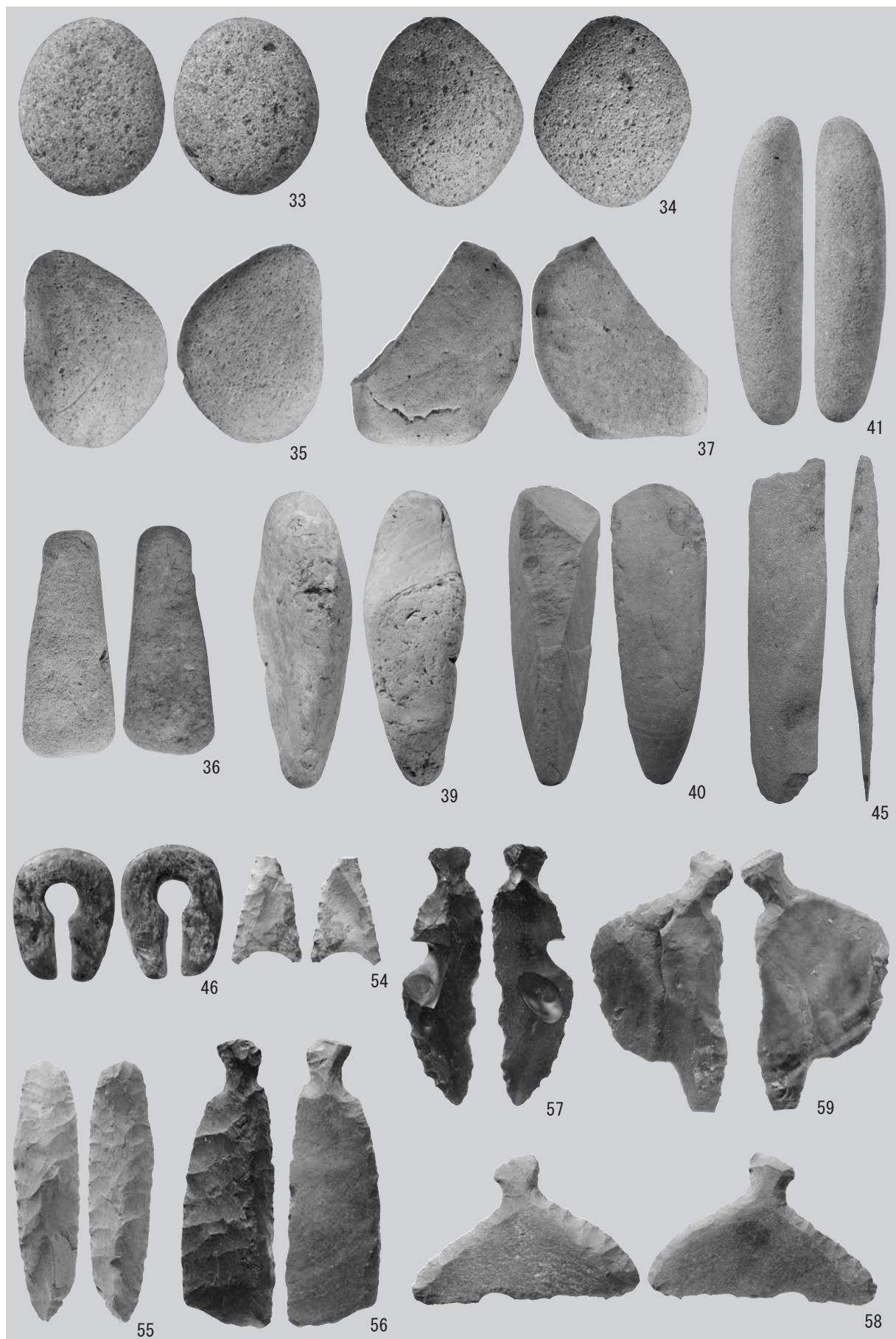
写真図版 52 出土遺物 11



写真図版 53 出土遺物 12



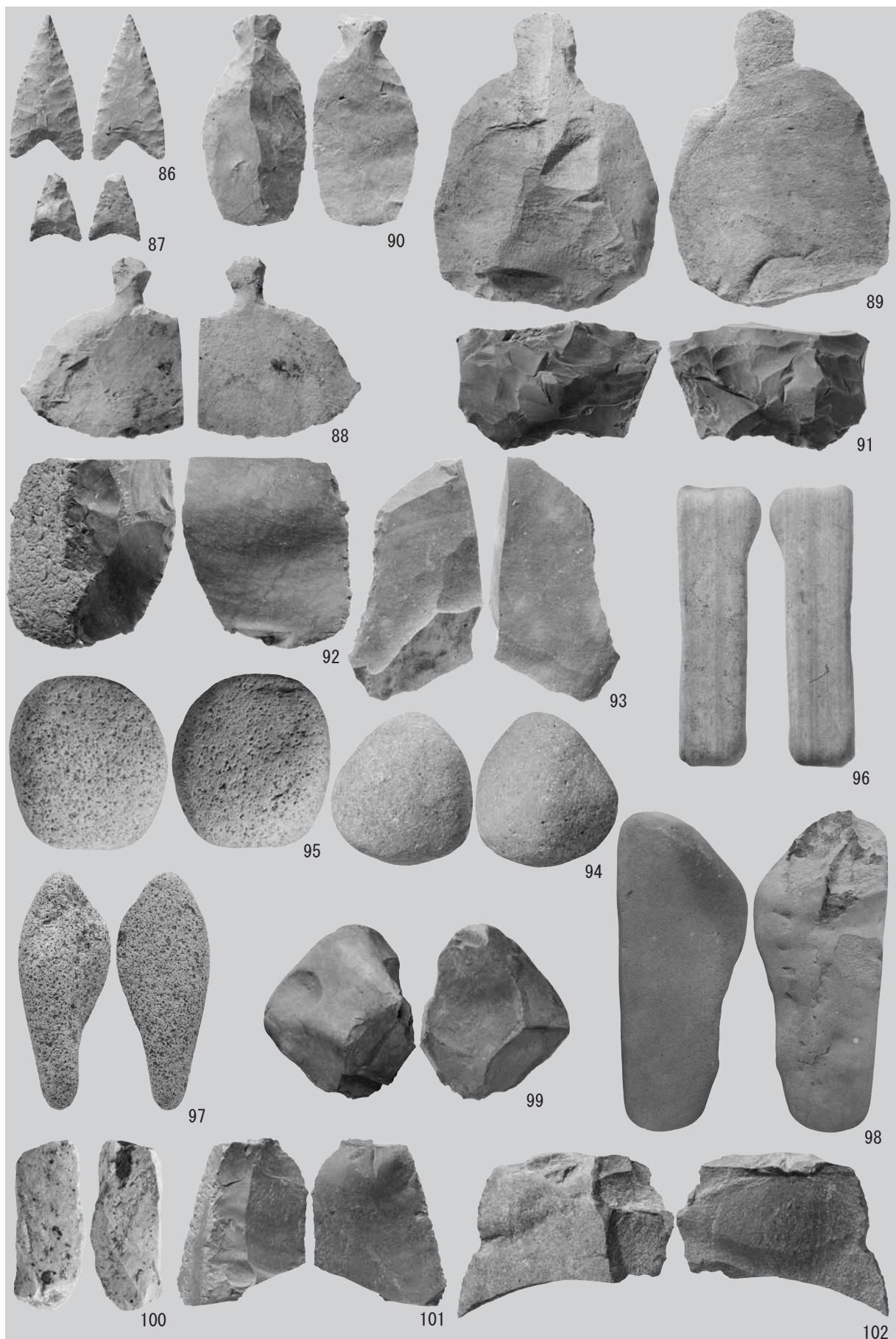
写真図版 54 出土遺物 13



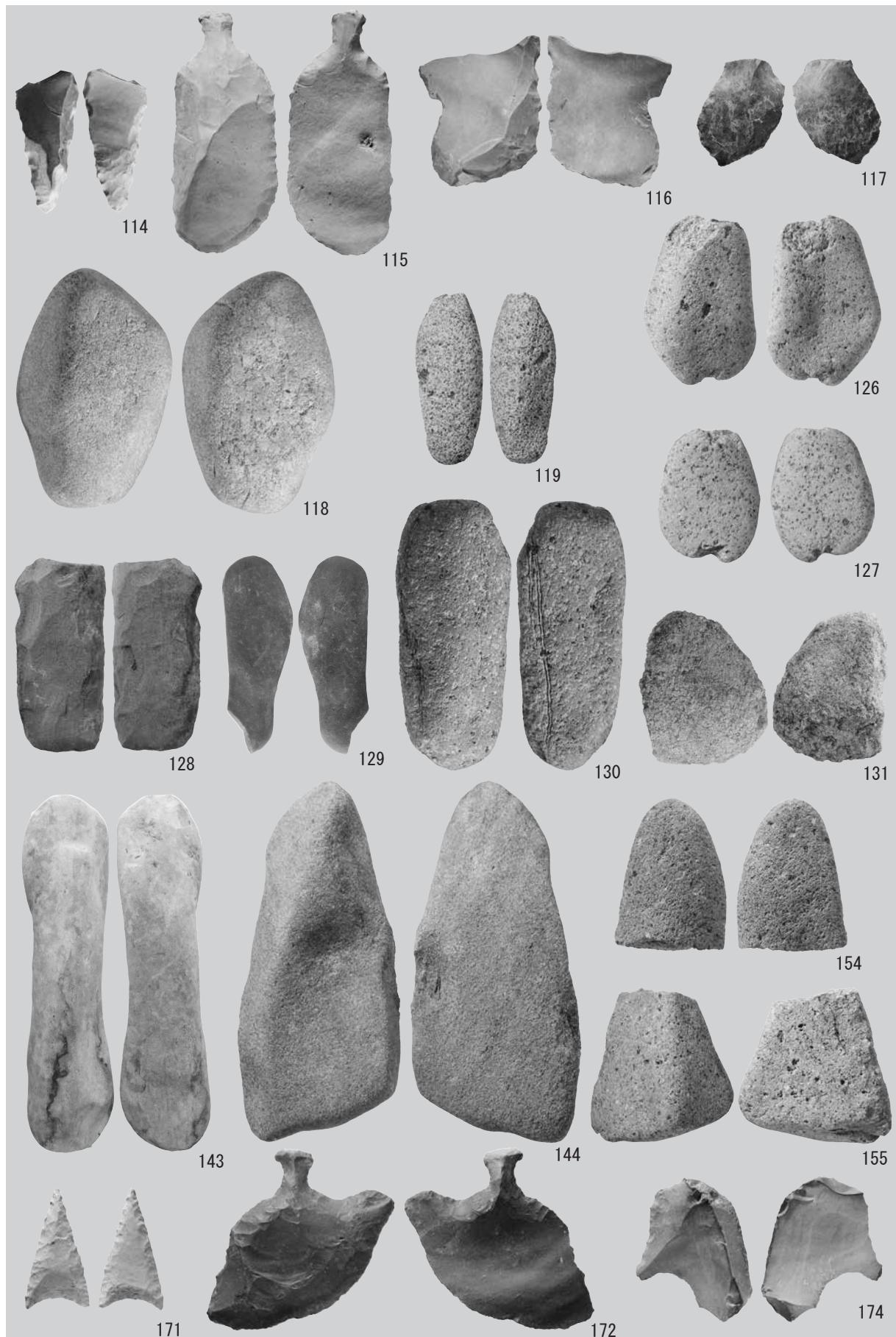
写真図版 55 出土遺物 14



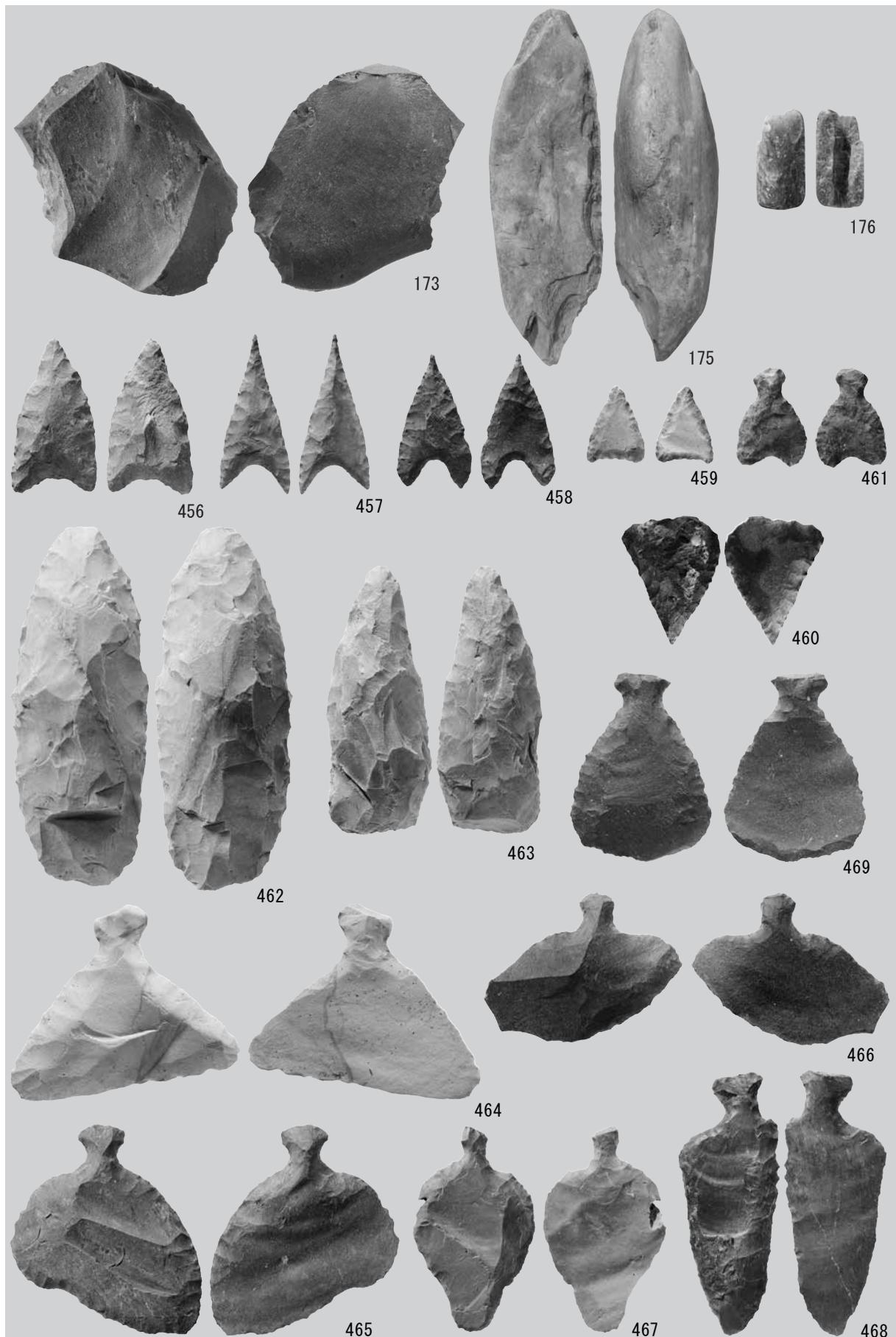
写真図版 56 出土遺物 15



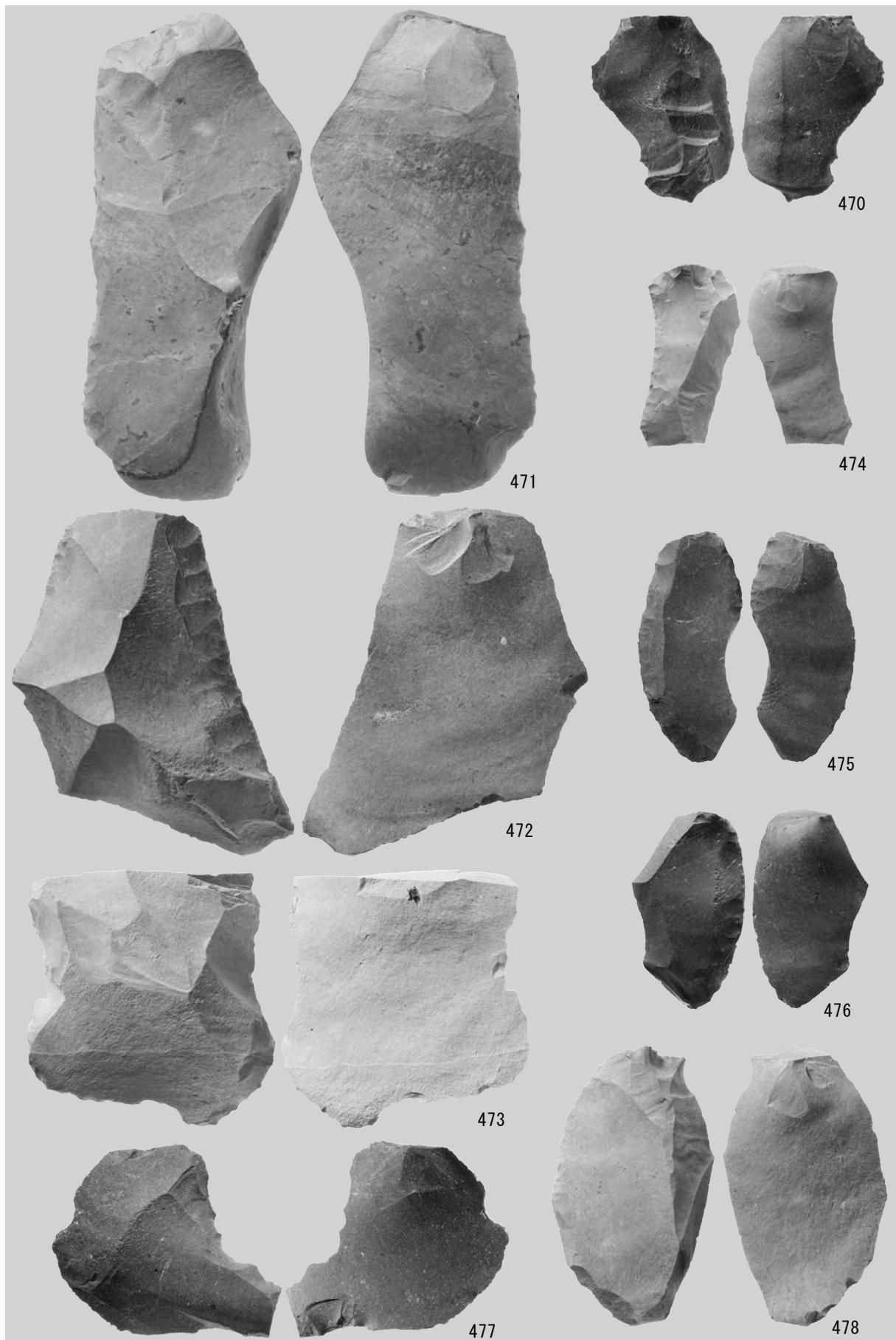
写真図版 57 出土遺物 16



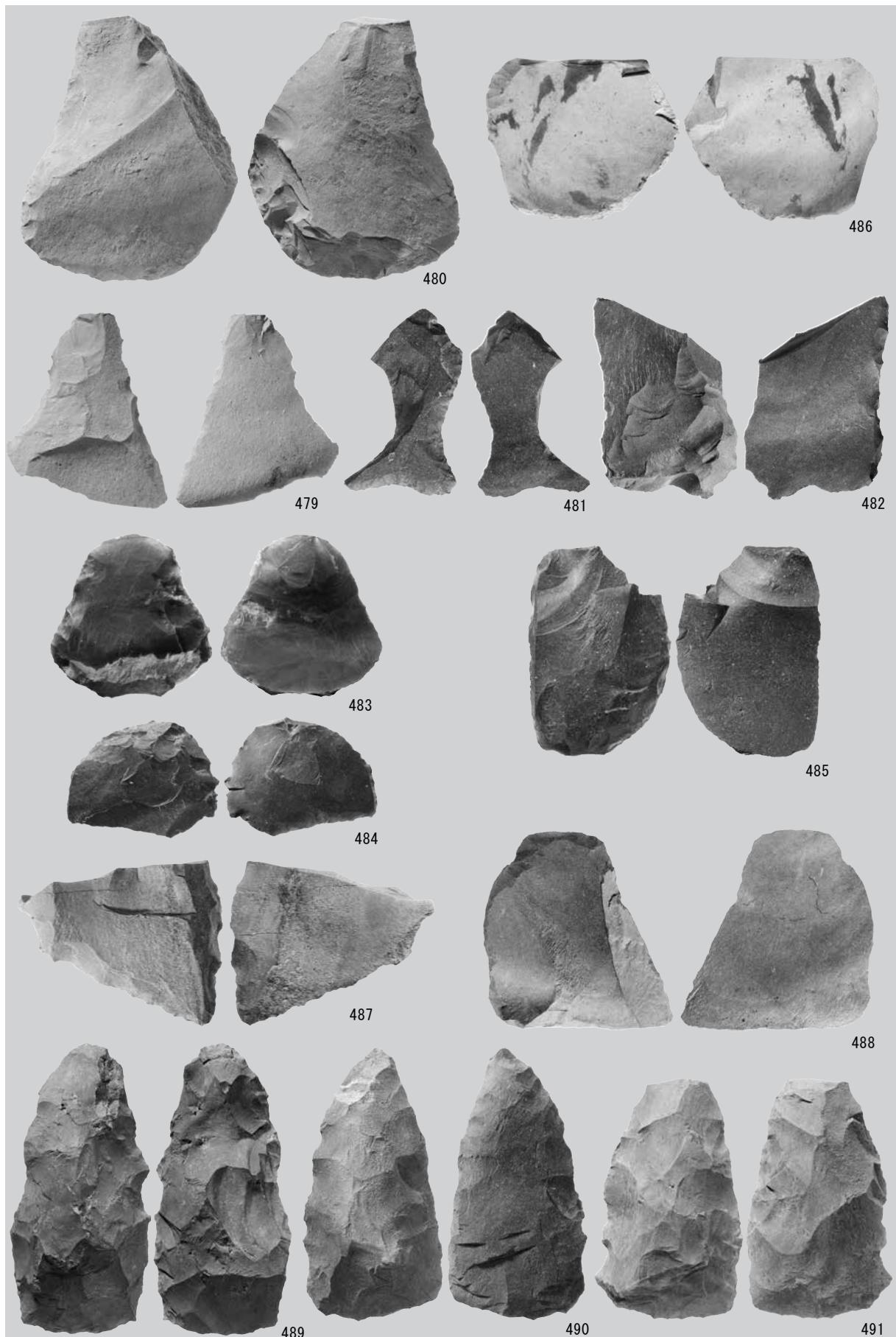
写真図版 58 出土遺物 17



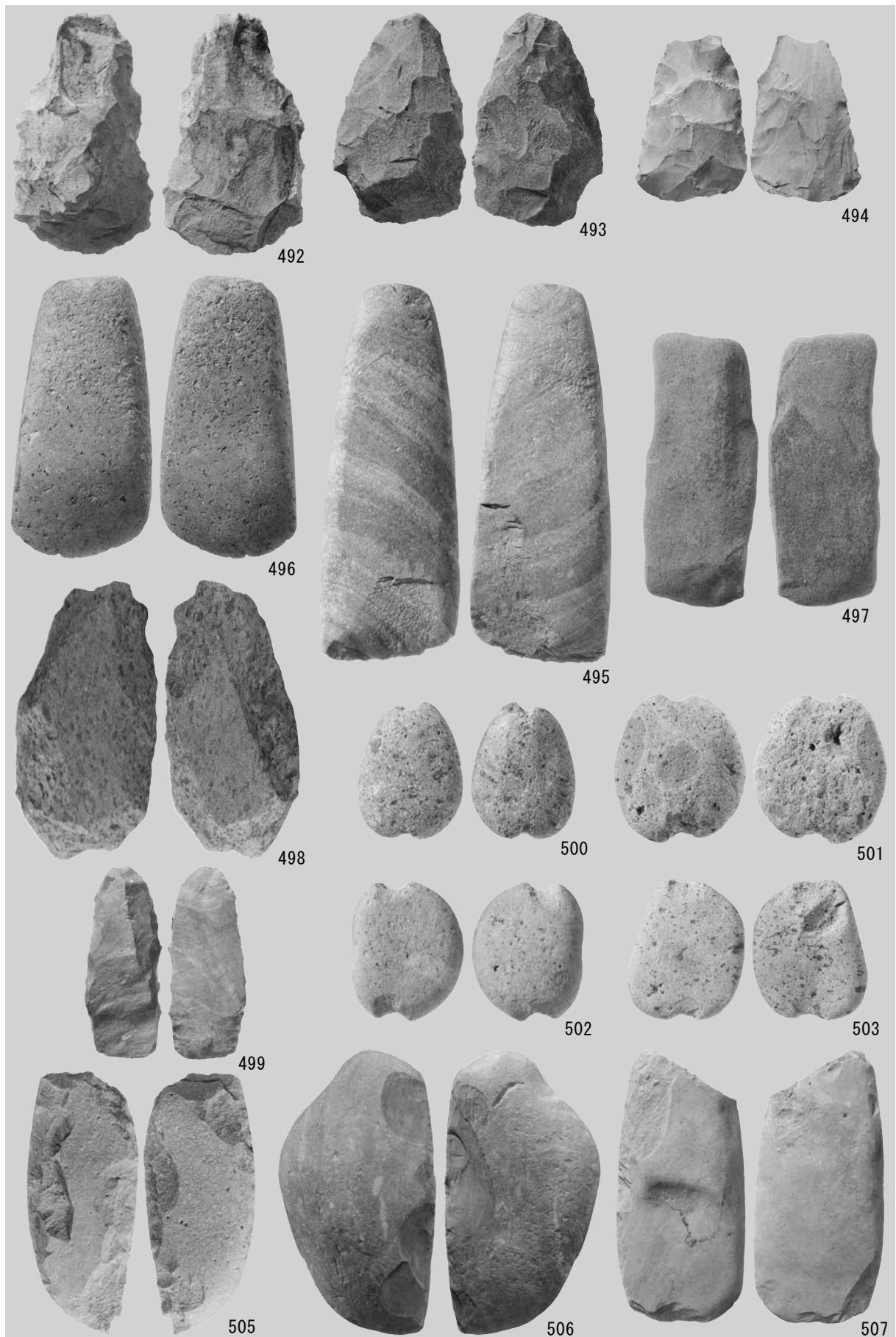
写真図版 59 出土遺物 18



写真図版 60 出土遺物 19



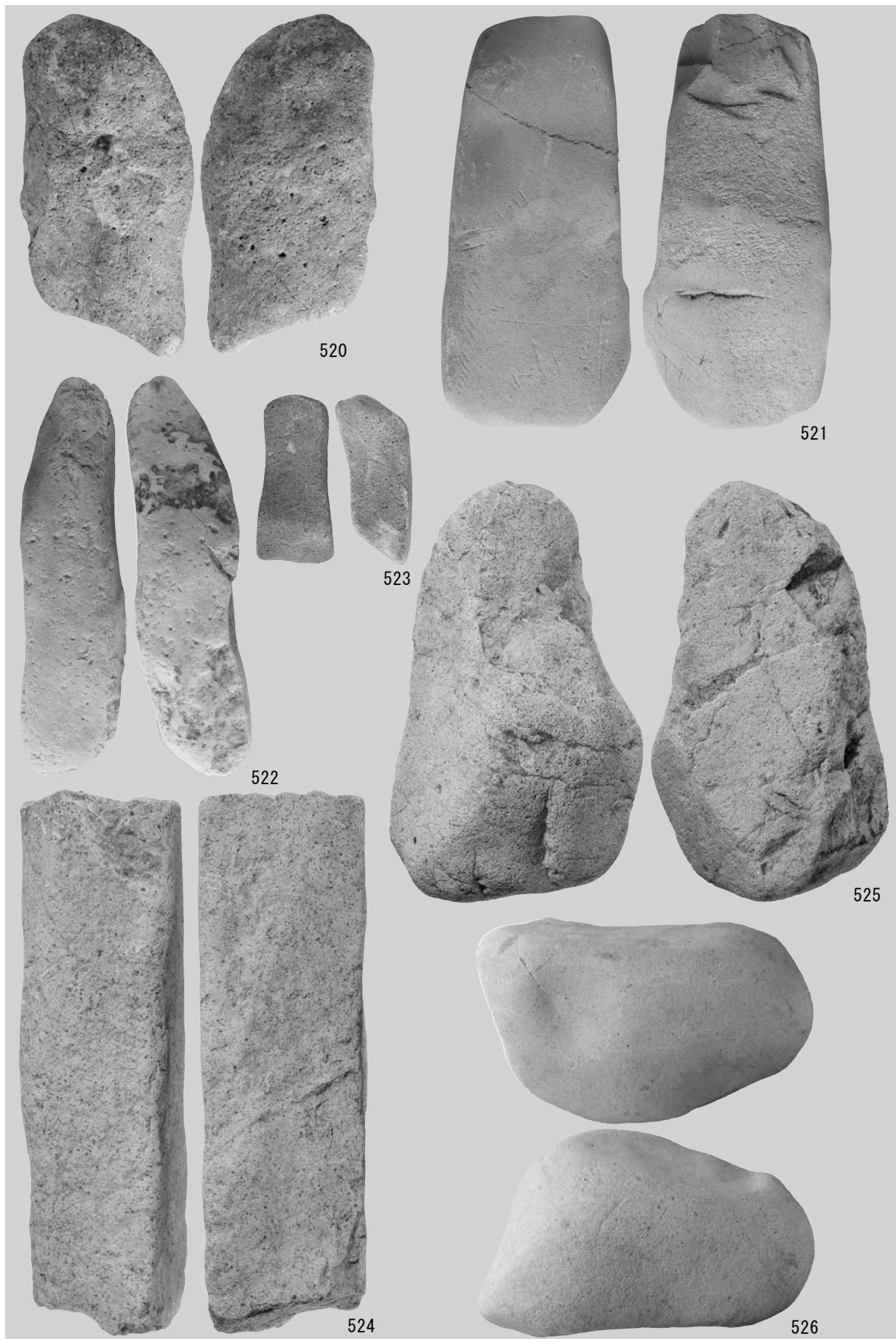
写真図版 61 出土遺物 20



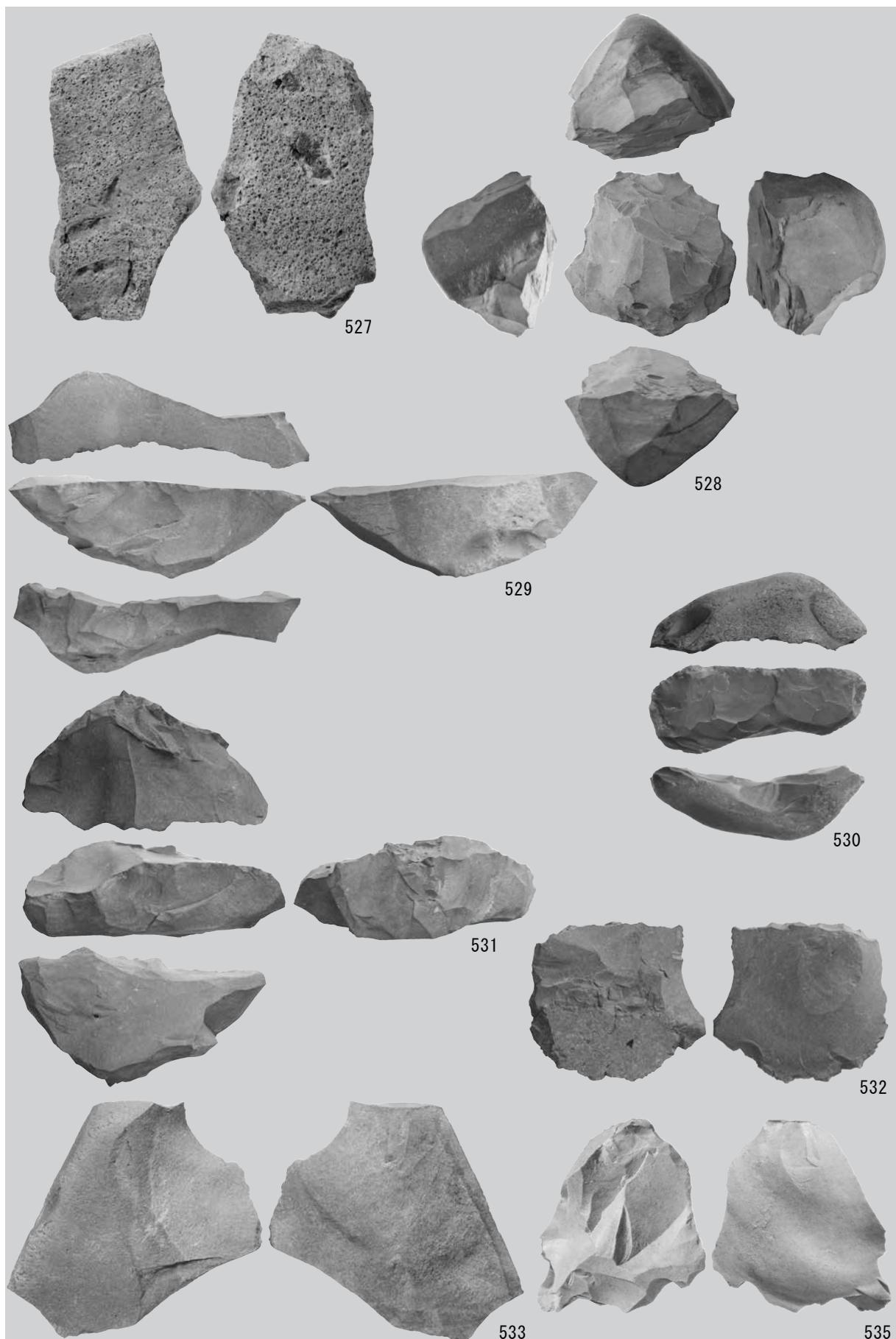
写真図版 62 出土遺物 21



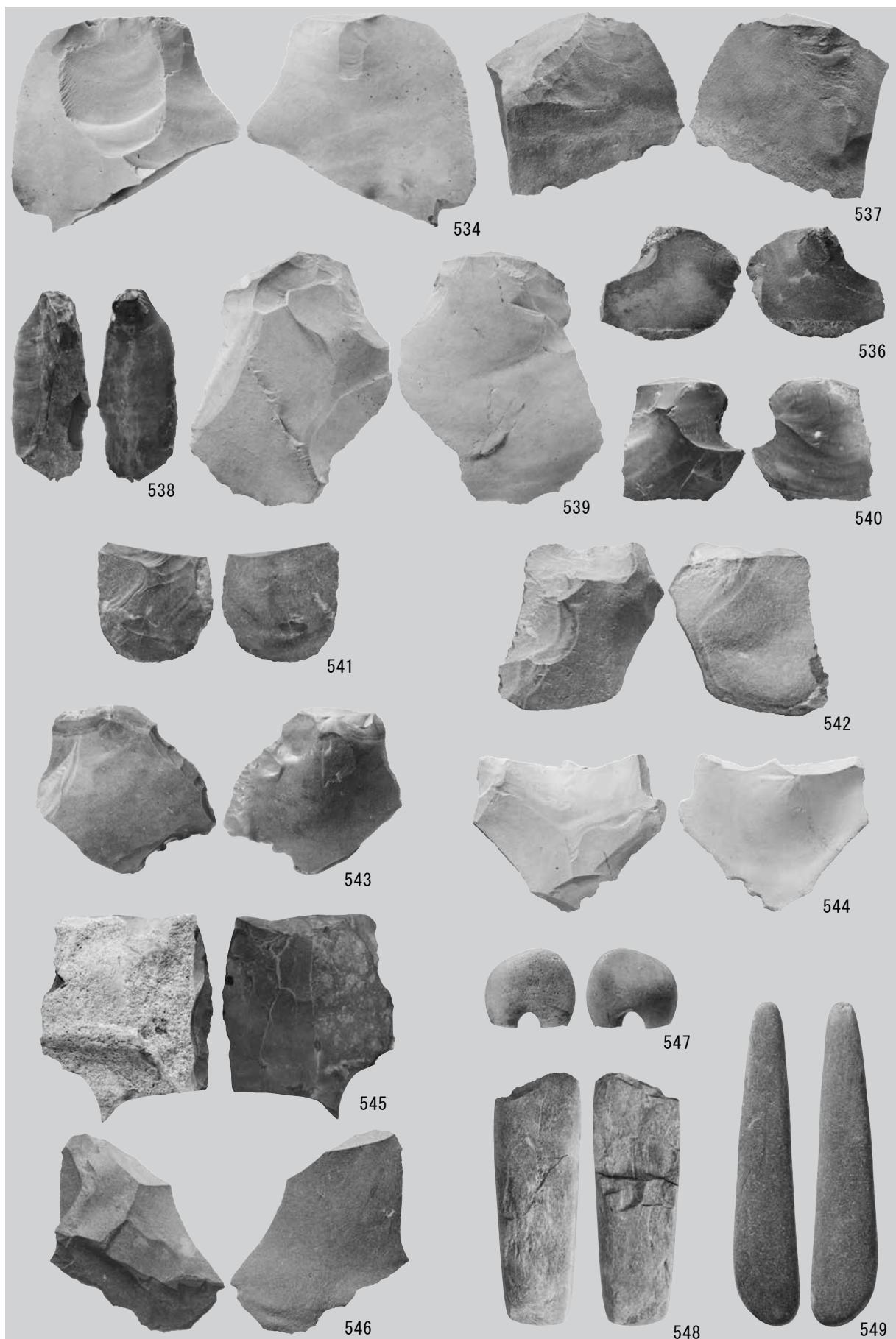
写真図版 63 出土遺物 22



写真図版 64 出土遺物 23



写真図版 65 出土遺物 24



写真図版 66 出土遺物 25

## 報告書抄録

ふりがな	ひろおもていせき						
書名	広表遺跡						
副書名	北上工業団地整備事業関連遺跡発掘調査						
卷次							
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第748集						
編著者名	溜 浩二郎、須原 拓						
編集機関	公益財団法人 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター						
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡第11地割185番地 TEL (019) 638-9001						
発行年月日	2025年3月11日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 。、”	東経 。、”	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
ひろおもていせき 広表遺跡	いわてけん きたかみし むら 岩手県北上市村 さきの ちわり ない 崎野21地割内	03206	ME46-1130	39度 20分 32秒	141度 07分 11秒	2023.04.10 ～ 2023.10.31	北上工業 団地整備 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
広表遺跡	集落	縄文時代	堅穴建物	5	土器、石器、土製品、石 製品		縄文時代前期後葉 の集落跡と縄文時代 の狩猟場
			土坑	27			
	散布地	弥生時代	焼土遺構	3			
			陥し穴状遺構	61			
要約	集落	古代	堅穴建物	1	土師器、須恵器		
				1			
	時期不明		柱穴状土坑	21			

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第748集

## 広表遺跡発掘調査報告書

北上工業団地整備事業関連遺跡発掘調査

印 刷 令和7年3月4日

発 行 令和7年3月11日

編 集 (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地  
電話 (019) 638-9001

発 行 北上市商工部  
〒024-8501 岩手県北上市芳町1番1号  
電話 (0197) 72-8245

(公財) 岩手県文化振興事業団  
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号  
電話 (019) 654-2235

印 刷 (有) ジロー印刷企画  
〒020-0066 岩手県盛岡市上田2丁目17番4号  
電話 (019) 651-6644

---